第4章 自然科学的分析の成果

第1節 営水中筋遺跡出土鍛冶関連遺物の分析調査

日鉄住金テクノロジー (株)

1. いきさつ

營水中筋遺跡は東かがわ市中筋に所在する。中世の溝跡や柱穴から複数の鉄滓が出土している。本遺跡での鉄器生産の実態を検討する目的から、調査を実施する運びとなった。

2. 調査方法

2-1. 供試材

第1表に示す。出土鍛冶関連遺物11点の調査を行った。

2-2. 調査項目

(1) 肉眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

(2) マクロ組織

本稿では顕微鏡埋込み試料の断面を、低倍率で撮影したものを指す。当調査は顕微鏡組織よりも、広範囲で組織の分布状態、形状、大きさなどが観察できる利点がある。

(3) 顕微鏡組織

鉱滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の #150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の 3 μ m と 1 μ m で鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

(4) ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester)を用いて硬さの測定を行い、文献硬度値に照ら して、鉱滓中の晶出物の判定を行った。

試験は鏡面研磨した試料に 136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は $10\sim50$ gfで測定した。

(5) EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) 調査

日本電子(㈱製 JXA-8800RL 波長分散型 5 チャンネル)にて含有元素の定性・定量分析を実施した。 定量分析は試料電流 $2.0 \times 10 - 8$ アンペア、ビーム径 3 μ m、補正法は ZAF に従った。

反射電子像(COMP)は、調査面の組成の違いを明度で表示するものである。重い元素で構成される 個所ほど明るく、軽い元素で構成される個所ほど暗い色調で示される。これを利用して、各相の組成の 違いを確認後、定量分析を実施している。

また元素の分布状態を把握するため、反射電子像に加え、特性 X 線像の撮影も適宜行った。

(6) 化学組成分析

出土遺物の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO):容量法。

炭素(C)、硫黄(S):燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素 (SiO2)、酸化アルミニウム (Al2O3)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K2O)、酸化ナトリウム (Na2O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO2)、酸化クロム (Cr2O3)、五酸化燐 (P2O5)、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム (ZrO2)、砒素 (As): ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法:誘導結合プラズマ発光分光分析。

3. 調査結果

No.1: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察: 椀形鍛冶滓(188.9g)の破片である。上面は木炭痕が散在するが比較的平坦で、下面側は木炭痕による細かい凹凸が目立つ。滓の地の色調は黒灰色で、弱い着磁性がある。側面1面は直線状の破面で、気孔は少なく緻密である。
- (2)マクロ組織:図版1①に示す。上側の暗灰色部はガラス質滓である。羽口先端の溶融物と推定される。また素地部分は鍛冶滓である。
- (3) 顕微鏡組織:図版 1 ②③に示す。②はガラス質滓部分の拡大である。内部には石英などの砂粒が点在する。羽口粘土中に混和されたものと考えられる。③は滓部の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。またウスタイト粒内に点在する微細暗色結晶はヘルシナイトである。
- (4) ビッカース断面硬度: 図版1③の白色樹枝状結晶の硬度値は339Hv、445Hv、淡灰色柱状結晶の硬度値は546Hvであった。白色樹枝状結晶はウスタイト、淡灰色柱状結晶はファヤライトの文献硬度値よりも軟質であった。しかし結晶の色調と形状、後述のEPMA調査結果などから、前者はウスタイト、後者はファヤライトと推定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 1 ④にガラス質滓部分の反射電子像 (COMP) を示す。内部に混在する砂粒 (無色鉱物) の定量分析値は 101.1%SiO2 (分析点 40) であった。石英 (Quartz:SiO2) に同定される。また素地部分の定量分析値は 59.2%SiO2 32.5%Al2O3 0.3%MgO 4.0%K2O 1.4%Na2O (分析点 41) であった。非晶質硅酸塩である。
- もう1視野、滓部の調査を実施した。図版1⑤に反射電子像(COMP)を示す。白色粒状結晶の定量分析値は98.6%FeO(分析点42)で、ウスタイト(Wustite: FeO)と推定される。微細暗色結晶の定量分析値は48.6%FeO 53.0%Al2O3であった(分析点43)。ヘルシナイト(Hercynite: FeO・Al2O3)に同定される。また淡灰色柱状結晶の定量分析値は69.9%FeO 31.4%SiO2(分析点44)、52.9%FeO 14.6%CaO 31.3%SiO2(分析点46)である。前者はファヤライト(Fayalite: 2FeO・SiO2)に近い組成、後者はよりライム(CaO)の割合の高い組成であった。また黒色微結晶の定量分析値は14.8%K2O 55.7%SiO2 27.0%Al2O3であった(分析点45)。オルソクレース(Orthoclase: KAlSi3O8)と推測される。

(6) 化学組成分析:第2表に示す。全鉄分 (Total Fe) 51.47% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.08%、酸化第1鉄 (FeO) 47.28%、酸化第2鉄 (Fe2O3) 20.94% の割合であった。造滓成分 (SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O) 26.43% で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) の割合は 1.22% であった。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン (TiO2) は 0.12%、バナジウム (V) <0.01% と低値である。また酸化マンガン (MnO) は 0.07%、銅 (Cu) <0.01%、砒素 (As) も<0.01% と低値であった。

当鉄滓は製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が著しい。鉄素材を熱間で鍛打加工した時に生じる鍛錬 鍛冶滓と推定される。

No.2: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察:平面が楕円に近い形状で偏平な椀形鍛冶滓(278.6g)である。長辺側面片側が抉れるように窪んでいる。羽口からの送風の影響を受けた可能性が考えられる。また表面には薄く茶褐色の銹化物が付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は暗灰色で、弱い着磁性がある。
- (2) マクロ組織: 図版2①に示す。 滓の表面や内部の気孔に沿って、青灰色の銹化鉄部が確認される。 素地は鍛冶滓である。
- (3) 顕微鏡組織:図版2②③に示す。②の青灰色部は銹化鉄である。金属組織痕跡は不明瞭で、炭素含有率を推定することは困難な状態であった。③は滓部の拡大である。白色粒状・樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。
- (4) ビッカース断面硬度:図版 2 ③の白色樹枝状の硬度を測定した。硬度値は 467Hv とウスタイトの文献硬度値の範囲内であり、ウスタイトに同定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は 600Hv であった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内で、ファヤライトに同定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 2 ④に滓部の反射電子像 (COMP) を示す。白色樹枝状結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、酸素 (O) に反応がある。定量分析値は 95.9%FeO (分析点 47) であった。ウスタイト (Wustite: FeO) に同定される。暗色微結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、アルミニウム (Al) に反応がある。定量分析値は 50.4%FeO 49.6%Al2O3 1.6%TiO2 (分析点 48) であった。ヘルシナイト (Hercynite:FeO·Al2O3) で、微量チタン (TiO2) を固溶する。また淡灰色柱状結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、珪素 (Si)、酸素 (O) に反応がある。定量分析値は 65.7%FeO 30.8%SiO2 (分析点 49) であった。ファヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO2) に同定される。黒色微結晶の定量分析値は 8.9%K2O 65.4%SiO2 26.1%Al2O3 であった (分析点 50)。オルソクレース (Orthoclase: KAlSi3O8) と推測される。
- (6) 化学組成分析:第2表に示す。全鉄分 (Total Fe) 46.45% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.09%、酸化第1鉄 (FeO) 38.66%、酸化第2鉄 (Fe2O3) 23.33% の割合であった。造滓成分 (SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O) 31.72% で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は 2.15% である。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン (TiO2) は 0.09%、バナジウム (V) が < 0.01% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.08%、銅 (Cu) < 0.01%、砒素 (As) も < 0.01% 低値である。

当鉄滓は製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が著しい。鉄素材を熱間で鍛打加工した時に生じる鍛錬 鍛冶滓と推定される。

No.3: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察: ごく小形で偏平な椀形鍛冶滓(32.4g) である。表面には薄く茶褐色の銹化物が付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は灰褐色で、やや風化気味である。弱い着磁性がある。上面には細かい木炭痕による凹凸があり、下面は比較的平滑である。鍛冶炉床土上で生じた滓と推測される。
 - (2)マクロ組織: 図版3①に示す。素地部分は鍛冶滓である。表層側に微細な銹化鉄部が若干点在する。
- (3) 顕微鏡組織:図版3②③に示す。滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また③の微細な不定形青灰色部は銹化鉄である。内部にはかすかにパーライト組織の痕跡が残存する。
- (4)ビッカース断面硬度: 図版3②の白色樹枝状の硬度を測定した。硬度値は446Hv、490Hvであった。 ウスタイトの文献硬度値の範囲内で、ウスタイトに同定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は718Hv であった。ファヤライトの文献硬度値よりも若干硬質であるが、結晶の色調と形状、後述のEPMA調 査結果などから、ファヤライトと推定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 3 ④に白色樹枝状結晶の反射電子像 (COMP) を示す。白色樹枝状結晶は特性 X 線像では、鉄 (Fe)、酸素 (O) に強い反応がある。定量分析値は 97.5%FeO (分析点 52) であった。ウスタイト (Wustite: FeO) に同定される。暗色微結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、アルミニウム (Al) に反応がある。定量分析値は 47.4%FeO 53.2%Al2O3 (分析点 53) であった。ヘルシナイト (Hercynite:FeO・Al2O3) である。また淡灰色柱状結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、珪素 (Si)、酸素 (O) に反応がある。定量分析値は 68.0%FeO 2.7%CaO 31.5%SiO2 (分析点 54) であった。ファヤライト (Fayalite: 2FeO・SiO2) に同定される。黒色微結晶の定量分析値は 25.9%K2O 42.2%SiO2 32.1%Al2O3 であった (分析点 55)。オルソクレース (Orthoclase: KAlSi3O8) と推測される。
- (6) 化学組成分析:第2表に示す。全鉄分(Total Fe)は57.70% と高値傾向を示す。このうち金属鉄(Metallic Fe)は0.05%、酸化第1鉄(FeO)59.78%、酸化第2鉄(Fe2O3)16.00%の割合であった。造滓成分(SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O)19.84% とやや低めで、塩基性成分(CaO + MgO)は1.82%であった。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO2)は0.09%、バナジウム(V) < 0.01% と低値である。また酸化マンガン(MnO)は0.03%、銅(Cu) < 0.01%、砒素(As) < 0.01% と低値であった。

当鉄滓も製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が顕著であり、鍛錬鍛冶滓に分類される。また鉄酸化物の割合が高く、鉄素材を熱間加工した際の吹き減り(酸化に伴う損失)に伴う滓と判断される。

No.4: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察:やや小形の椀形鍛冶滓の破片(97.4g)である。滓の地の色調は黒灰色で、着磁性はきわめて弱い。上面は比較的平滑で、下面は細かい木炭痕による凹凸が目立つ。側面3面は破面で、気孔は少なく緻密である。
 - (2)マクロ組織: 図版 4 ①に示す。上側の明灰色部は鍛冶滓である。また下側の暗灰色部(ガラス質滓) は炉材粘土溶融物と推定される。
- (3) 顕微鏡組織:図版4②③に示す。②は鍛冶滓部分の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また③はガラス質滓部分の拡大である。
 - (4)ビッカース断面硬度:図版4②の白色樹枝状の硬度を測定した。硬度値は 454Hv であった。ウ

スタイトの文献硬度値の範囲内で、ウスタイトに同定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は576Hvであった。ファヤライトの文献硬度値よりも若干軟質であるが、結晶の色調と形状、後述のEPMA調査結果などから、ファヤライトと推定される。

- (5) EPMA 調査: 図版 4 ④に滓部の反射電子像(COMP)を示す。白色粒状結晶の定量分析値は 97.0%FeO 1.9%TiO2(分析点 57)であった。ウスタイト(Wustite: FeO)と推定される。淡灰色結晶の定量分析値は 65.7%FeO 2.5%CaO 29.7%SiO2(分析点 58)であった。ファヤライト(Fayalite: 2FeO·SiO2)に同定される。また中央の微小明白色粒の定量分析値は 101.3%Fe(分析点 60)であった。金属鉄(Fe)である。
- もう1視野、ガラス質滓部分の調査を実施した。図版4⑤に反射電子像(COMP)を示す。内部に混在する砂粒(無色鉱物)の定量分析値は101.1%SiO2(分析点61)であった。石英(Quartz:SiO2)に同定される。また素地部分の定量分析値は56.3%SiO2 13.2%Al2O3 2.6%CaO 4.8%K2O 1.7%Na2O 19.3%FeO 2.5%TiO2(分析点62)であった。非晶質硅酸塩である。
- (6) 化学組成分析:第2表に示す。全鉄分 (Total Fe) 52.48% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.03%、酸化第1鉄 (FeO) 56.62%、酸化第2鉄 (Fe2O3) 12.07% の割合であった。造滓成分 (SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O) 27.04% で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は 2.73% である。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン (TiO2) は 0.79%、バナジウム (V) 0.10% と若干高め傾向を示した。酸化マンガン (MnO) は 0.31%、銅 (Cu) < 0.01%、砒素 (As) は< 0.01% と低値である。

当鉄滓も鉄酸化物と炉材粘土の溶融物(SiO2主成分)主体で、鍛錬鍛冶滓に分類される。ただし鍛錬鍛冶滓としては、チタン(TiO2)、バナジウム(V)が高め傾向を示しており、始発原料は砂鉄であった可能性が高いと考えられる。

No.5: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察:平面不整楕円状の椀形鍛冶滓(155.2g)である。上面端部には瘤状の黒色ガラス質滓が付着する。羽口先端の溶融物と推定される。滓の地の色調は黒灰色で、着磁性はごく弱い。上面側は1cm前後の木炭痕が点在する。側面1面は直線状の破面で、気孔は少なく緻密である。下面には砂粒を多量に混和した炉焼土が部分的に付着する。
- (2)マクロ組織:図版5①に示す。素地部分は鍛冶滓で、下面側に沿ってガラス質滓(暗灰色部) が点在する。鍛冶炉床土と推定される。
- (3) 顕微鏡組織:図版5②③に示す。②は鍛冶滓部分の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。③はガラス質滓部分の拡大である。内部には熱影響を受けた砂粒(無色鉱物)が点在する。また滓中の微細な明白色部は金属鉄である。
- (4) ビッカース断面硬度: 図版5②の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は437Hvであった。ウスタイトの文献硬度値よりも僅かに軟質であるが、結晶の色調と形状、後述のEPMA調査結果などからウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は677Hvであった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファヤライトに同定される。
- (5) EPMA 調査: 図版5④に滓部の反射電子像 (COMP) を示す。白色樹枝状結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、酸素 (O) に強い反応がある。定量分析値は 97.2%FeO (分析点 63) であった。ウスタイト (Wustite: FeO) に同定される。暗色微結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、アルミニウム (Al) に

反応がある。定量分析値は 49.2%FeO - 49.1%Al2O3 - 2.7TiO2 (分析点 64) であった。ヘルシナイト (Hercynite:FeO·Al2O3) で、微量チタン (TiO2) を固溶する。また淡灰色柱状結晶は特性 X 線像では 鉄 (Fe)、珪素 (Si)、酸素 (O) に反応がある。定量分析値は 65.3%FeO - 1.5%MgO - 30.8%SiO2 (分析点 65) であった。ファヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO2) に同定される。素地部分の定量分析値は 47.0%SiO2 - 22.6%Al2O3 - 7.3%CaO - 7.5%K2O - 2.3%Na2O - 13.2%FeO - 2.4%TiO2 (分析点 66) であった。非晶質硅酸塩である。

(6) 化学組成分析: 第2表に示す。全鉄分 (Total Fe) 39.16% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.06%、酸化第1鉄 (FeO) 41.65%、酸化第2鉄 (Fe2O3) 9.62% の割合であった。造滓成分 (SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O) は 43.97% と高値であるが、塩基性成分 (CaO + MgO) の割合は 2.70% と低めである。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン (TiO2) は 0.18%、バナジウム (V) が < 0.01% 低値であった。酸化マンガン (MnO) は 0.30%、また銅 (Cu) は < 0.01%、砒素 (As) < 0.01% と低 値である。

当鉄滓も製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が顕著であり、鍛錬鍛冶滓に分類される。

No.6: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察:ごく小形で偏平な椀形鍛冶滓の破片(13.6g)である。滓の地は暗灰色で、比較的強い着磁性がある。上下面にはごく細かい気孔が散在する。また側面2面は破面で、気孔は少なく緻密な滓である。
- (2)マクロ組織:図版6①に示す。素地部分は全体に発達したウスタイト結晶が晶出する鍛冶滓である。表層部に微細な青灰色の銹化鉄部が点在する。
- (3)顕微鏡組織:図版6②③に示す。白色粒状・樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。
- (4) ビッカース断面硬度: 図版 6 ②の白色樹枝状の硬度を測定した。硬度値は 447Hv、464Hv であった。前者はウスタイトの文献硬度値よりも僅かに軟質であるが、結晶の色調と形状、後述の EPMA 調査結果などから、ともにウスタイトと推定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 6 ④⑤に滓部の反射電子像(COMP)を示す。白色粒状結晶の定量分析値は97.1%FeO 2.5%Al2O3(分析点 68)、96.4%FeO(分析点 72)であった。ウスタイト(Wustite:FeO)と推定される。また微細な暗色結晶の定量分析値は49.2%FeO 52.9%Al2O3(分析点 69)であった。ヘルシナイト(Hercynite:FeO·Al2O3)に同定される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は69.0%FeO 30.9%SiO2(分析点 70)、66.0%FeO 2.9%CaO 1.3%MgO 31.2%SiO2(分析点 73)であった。ファヤライト(Fayalite:2FeO·SiO2)に同定される。黒色微結晶の定量分析値は11.7%K2O 63.2%SiO2 26.1%Al2O3であった(分析点 71)。オルソクレース(Orthoclase:KAlSi3O8)と推測される。また滓中の微細な明白色部の定量分析値は105.7%Fe(分析点 75)であった。金属鉄(Fe)である。
- (6) 化学組成分析:第2表に示す。全鉄分(Total Fe)は60.96%と高い割合を示す。このうち金属鉄(Metallic Fe)は0.05%、酸化第1鉄(FeO)62.80%、酸化第2鉄(Fe2O3)17.29%であった。造滓成分(SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O)は16.91%と低めで、塩基性成分(CaO + MgO)の割合も1.92%である。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO2)は0.08%、バナジウム(V)が<0.01%と低値であった。また酸化マンガン(MnO)は0.11%、銅(Cu)は<0.01%、砒素(As)<0.01%

と低値である。

当鉄滓も製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が顕著であり、鍛錬鍛冶滓に分類される。また鉄酸化物の割合が高く、鉄素材を熱間加工した際の吹き減り(酸化に伴う損失)に伴う滓と判断される。

No.7: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察:やや小形で完形の椀形鍛冶滓(35.0g)である。全体に木炭痕による凹凸が著しい。 滓の地の色調は黒灰色で、着磁性はごく弱い。表面に茶褐色の銹化物が薄く付着するがまとまった鉄部 はみられない。
- (2) マクロ組織: 図版 7 ①に示す。素地部分は全体に発達したウスタイト結晶が晶出する鍛冶滓である。表層部にごく薄く青灰色の銹化鉄部が点在する。
- (3) 顕微鏡組織:図版7②③に示す。白色粒状・樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。
- (4) ビッカース断面硬度: 図版7③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は446Hvであった。 ウスタイトの文献硬度値の範囲内で、ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は674Hv であった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファヤライトと推定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 7 ④に滓部の反射電子像(COMP)を示す。白色粒状結晶は特性 X 線像では 鉄 (Fe)、酸素 (O) に強い反応がある。定量分析値は 100.3%FeO (分析点 76) で、ウスタイト(Wustite: FeO)と推定される。淡灰色柱状結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、珪素 (Si)、酸素 (O) に反応がある。 定量分析値は 71.9%FeO 30.3%SiO2 (分析点 77) であった。ファヤライト(Fayalite: 2FeO·SiO2)に同定される。素地部分の定量分析値は 43.3%SiO2 18.3%Al2O3 5.6%CaO 6.1%K2O 4.5%Na2O 24.8%FeO (分析点 78) であった。非晶質硅酸塩である。また中央の微小明白色粒の定量分析値は 103.5%Fe (分析点 79) であった。金属鉄 (Fe) である。
- (6) 化学組成分析: 第2表に示す。全鉄分 (Total Fe) 57.92% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は 0.08%、酸化第1鉄 (FeO) 58.91%、酸化第2鉄 (Fe2O3) 17.23% の割合であった。造滓成分 (SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O) は 19.95% と低めで、塩基性成分 (CaO + MgO) の割合も 0.77% と低い。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン (TiO2) は 0.04%、バナジウム (V) が < 0.01% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.03%、銅 (Cu) は < 0.01%、砒素 (As) < 0.01% と低値であった。

当鉄滓も製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が顕著であり、鍛錬鍛冶滓に分類される。また鉄酸化物の割合が高めで、主に鉄素材を熱間加工した際の吹き減り(酸化に伴う損失)に伴う滓と判断される。

No.8: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察:平面不整楕円状の椀形鍛冶滓(90.7g)である。表面には広い範囲で茶褐色の銹化物が付着するが、緑青も僅かに点在しており、銅滓の可能性も考える必要がある。滓の地の色調は黒灰色で、着磁性はごく弱い。上下面とも細かい木炭痕による凹凸があり、特に下面側で著しい。長軸側の側面2面は破面で、気孔は少なく緻密である。
- (2) マクロ組織: 図版 8 ①に示す。素地部分は鍛冶滓で、青灰色の微細な銹化鉄部が表層部に若干 点在する。
 - (3)顕微鏡組織:図版8②③に示す。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶

出する。また滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。

- (4) ビッカース断面硬度: 図版8②の白色樹枝状の硬度を測定した。硬度値は445Hv、451Hvであった。前者はウスタイトの文献硬度値よりも僅かに軟質であるが、結晶の色調と形状、後述のEPMA調査結果などから、ともにウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は681Hvであった。ファヤライトの文献硬度値の範囲内であり、ファヤライトと推定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 8 ④に滓部の反射電子像 (COMP) を示す。白色粒状結晶は特性 X 線像では 鉄 (Fe)、酸素 (O) に強い反応がある。定量分析値は 98.9%FeO (分析点 80) で、ウスタイト (Wustite: FeO) と推定される。淡灰色柱状結晶は特性 X 線像では鉄 (Fe)、珪素 (Si)、酸素 (O) に反応がある。 定量分析値は 68.3%FeO 29.4%SiO2 (分析点 81) であった。ファヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO2) に同定される。素地部分の定量分析値は 47.2%SiO2 20.0%Al2O3 5.4%CaO 6.9%K2O 3.4%Na2O 16.2%FeO (分析点 82) であった。非晶質硅酸塩である。また中央の微小明白色粒の定量分析値は 96.9%Fe (分析点 83) であった。金属鉄 (Fe) である。
- (6) 化学組成分析:第2表に示す。全鉄分(Total Fe) 56.99% に対して、金属鉄(Metallic Fe) 0.09%、酸化第1鉄(FeO) 62.05%、酸化第2鉄(Fe2O3) 12.38% の割合であった。造滓成分(SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O)21.44%で、このうち塩基性成分(CaO + MgO)は1.55%と低値であった。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO2)は0.07%、バナジウム(V)も<0.01%と非常に低値である。さらに酸化マンガン(MnO)も0.07%、銅(Cu)<0.01%、砒素(As)<0.01%と低値であった。当鉄滓も製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が顕著で、鍛錬鍛冶滓に分類される。

No.9: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察:小形で完形の椀形鍛冶滓(21.5g)である。全体に木炭痕による凹凸が著しい。滓の地の色調は黒灰色で、比較的強い着磁性がある。表面に茶褐色の銹化物が薄く付着するがまとまった鉄部はみられない。
- (2)マクロ組織:図版9①に示す。素地部分は鍛冶滓で、断面(観察面)では銹化鉄部はほとんど みられない。
- (3) 顕微鏡組織:図版 9 ②③に示す。②の青灰色部は滓表面に付着した木炭破片である。また②の左下および③は滓部の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。さらにウスタイト粒内には非常に微細なヘルシナイト結晶が点在する。
- (4)ビッカース断面硬度: 図版 9 ③の白色樹枝状の硬度を測定した。硬度値は 463Hv、472Hv であった。ウスタイトの文献硬度値の範囲内で、ウスタイトに同定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は 759Hv であった。ファヤライトの文献硬度値よりも若干軟質であるが、結晶の色調と形状、後述の EPMA 調査結果などから、ファヤライトと推定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 9 ④に滓部の反射電子像 (COMP) を示す。白色樹枝状結晶の定量分析値は 98.6%FeO (分析点 84) であった。ウスタイト (Wustite: FeO) と推定される。また微細暗色結晶は、特性 X 線像では鉄 (Fe)、アルミニウム (Al)、酸素 (O) に反応がある。定量分析値は 49.3%FeO 50.2%Al2O3 (分析点 85) であった。ヘルシナイト (Hercynite: FeO·Al2O3) に同定される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は 69.9%FeO 30.5%SiO2 (分析点 86) であった。ファヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO2) に同定される。素地部分の定量分析値は 45.6%SiO2 23.3%Al2O3 6.7%CaO 7.2%K2O

- 2.8%Na2O 13.8%FeO 3.5%TiO2 (分析点 87) であった。非晶質硅酸塩である。
- (6) 化学組成分析:第2表に示す。全鉄分(Total Fe)55.28% に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.05%、酸化第1鉄(FeO)58.34%、酸化第2鉄(Fe2O3)14.13% の割合であった。造滓成分(SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O)は24.15% である。このうち塩基性成分(CaO + MgO)の割合は1.05%であった。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO2)は0.16%、バナジウム(V)が0.03%と低値であった。また酸化マンガン(MnO)は0.08%、銅(Cu) < 0.01%、砒素(As)も < 0.01%と低値である。

当鉄滓も製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が顕著であり、鍛錬鍛冶滓に分類される。

No. 10: 椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察:平面は楕円に近い形状で偏平な椀形鍛冶滓(216.0g)である。表面に茶褐色の銹化物が薄く付着するがまとまった鉄部はみられない。滓の地は暗灰色で弱い着磁性がある。上面は木炭痕が散在するが比較的平滑で、下面には細かい木炭痕による凹凸のある部分と、下面には砂粒を多量に混和した灰褐色の炉焼土が付着する部分とが確認される。
- (2) マクロ組織: 図版 10 ①に示す。上面側に微細な銹化鉄(青灰色部)が点在するが、素地部分は 鍛冶滓である。またウスタイトの晶出は部分的で、全体はファヤライト組成の滓であった。
- (3) 顕微鏡組織: 図版 10②③に示す。微細な白色粒状結晶ウスタイト、発達した淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。
- (4) ビッカース断面硬度: 図版 10 ③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は 457Hv であった。 ウスタイトの文献硬度値の範囲内であり、ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は 647Hv とファヤライトの文献硬度値の範囲内であった。ファヤライトと推定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 10 ④に滓部の反射電子像(COMP)を示す。白色粒状結晶は特性 X 線像では鉄(Fe)、酸素(O)に反応がある。定量分析値は 99.6%FeO 1.9%TiO2(分析点 88)であった。ウスタイト(Wustite: FeO)と推定される。また微細暗色結晶は、特性 X 線像では鉄(Fe)、アルミニウム(Al)、酸素(O)に反応がある。定量分析値は 60.0%FeO 38.3%Al2O3 1.3%TiO2(分析点 89)であった。ヘルシナイト(Hercynite: FeO·Al2O3)に近い組成で、微量チタン(TiO2)を固溶する。淡灰色柱状結晶は特性 X 線像では、鉄(Fe)、珪素(Si)、酸素(O)に反応がある。定量分析値は 68.9%FeO 31.0%SiO2(分析点 90)であった。ファヤライト(Fayalite: 2FeO·SiO2)に同定される。また微小明白色粒の定量分析値は 100.7%Fe(分析点 91)であった。金属鉄(Fe)に同定される。
- (6) 化学組成分析: 第2表に示す。全鉄分(Total Fe) 45.81% に対して、金属鉄(Metallic Fe) 0.04%、酸化第1鉄(FeO) 45.98%、酸化第2鉄(Fe2O3) 14.33%の割合であった。造滓成分(SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O) 34.51%で、このうち塩基性成分(CaO + MgO) の割合 1.90% とであった。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO2) は 0.12%、バナジウム(V) が < 0.01% と低値であった。酸化マンガン(MnO) は 0.25%、また銅(Cu) は < 0.01%、砒素(As) も < 0.01%と低値である。当鉄滓も製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が顕著であり、鍛錬鍛冶滓に分類される。

No. 11: 椀形鍛冶滓

(1) 肉眼観察:ほぼ完形の椀形鍛冶滓(130.7g)と推定される。上面側に熱影響を受けた白色礫が

多数確認される。滓の地も粘土溶融物 (黒色ガラス質滓) が主体と考えられる。滓の着磁性はごく弱い。

- (2)マクロ組織:図版 11 ①に示す。ほぼ全体がガラス質滓で、内部には熱影響を受けた砂粒が多数 点在する。炉材粘土の溶融物と推定される。
- (3) 顕微鏡組織: 図版 11 ②③に示す。青白色部は上面表層の微細な銹化鉄粒の拡大である。部分的 に層状のパーライト組織の痕跡が残存する。また銹化鉄部と接する部分に淡灰色柱状結晶ファヤライト が晶出する。
- (4) ビッカース断面硬度: 図版 11 ③の淡灰色柱状結晶の硬度を測定した。硬度値は 210Hv であった。 測定時の割れの影響から非常に軟質の値となったが、結晶の色調と形状、後述の EPMA 調査結果など から、ファヤライトと推定される。
- (5) EPMA 調査: 図版 11 ④に銹化鉄および滓部の反射電子像(COMP)を示す。左上の青灰色部は、 特性 X 線像では鉄(Fe)、酸素(O)に反応がある。定量分析値は85.1%FeO(分析点92)であった。 金属鉄の銹化物である。また淡灰色柱状結晶は特性 X 線像では鉄(Fe)、珪素(Si)、酸素(O)に反応 がある。定量分析値は66.6%FeO - 1.2%MgO - 31.0%SiO2(分析点93)であった。ファヤライト(Fayalite: 2FeO·SiO2) に同定される。
- (6) 化学組成分析:第2表に示す。全鉄分(Total Fe)の割合は9.53%と低値であった。このうち 金属鉄 (Metallic Fe) は 0.09%、酸化第 1 鉄 (FeO) 8.19%、酸化第 2 鉄 (Fe2O3) 4.40% の割合であった。 造滓成分(SiO2 + Al2O3 + CaO + MgO + K2O + Na2O)は 85.34% 高値であるが、塩基性成分(CaO + MgO) の割合は 2.29% と低い。主に製鉄原料の砂鉄起源の二酸化チタン(TiO2) は 0.26%、バナジ ウム (V) が < 0.01% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.06%、銅 (Cu) < 0.01%、砒素 (As) < 0.01% と低値である。

当滓は炉材粘土溶融物主体の滓であった。また内部に銹化鉄が確認されたことから、鍛造鉄器製作に 伴うものと判断される。鉄材の吹き減り(酸化に伴う損失)のほとんどない、仕上げに近い段階での反 応副生物と考えられる。

小結

營水中筋遺跡から出土した11点(№1~11)はすべて鍛錬鍛冶滓に分類される。いずれも製鉄原料 起源の脈石成分は低減傾向が顕著であった。この特徴から、当遺跡では定形化した鉄素材または廃鉄器 をもとにして鍛造鉄器製作が行われたものと判断される。

なかには鍛錬鍛冶滓としては、ややチタン(TiO2)、バナジウム(V)が若干高め傾向を示す滓(№ 4) もあり、始発原料は砂鉄であったと推定される。古代(7世紀後半)と推定される高松市太田原高洲遺 跡出土滓のような高銅(Cu)、砒素(As)はなく、同一遺構または近接地点で銅(青銅)小物の製作は 行われていないと考えられる。

(大澤正己・鈴木瑞穂)

(注)

- (1) 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968 ウスタイトは450~500Hv、マグネタイトは500~600Hv、ファイヤライトは600~700Hvの範囲が提示されている。
 (2) 黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と造岩鉱物 [第2版]』共立出版株式会社 1983 第5章 鉱物各論 D. 尖晶石類・スピネル類 (Spinel Group) の記載に加筆 尖晶石類の化学組成の一般式は XY204 と表記できる。X は 2 価の金属イオン、Y は 3 価の金属イオンである。その組み合わせでいる。
- わせでいろいろの種類のものがある。(略) (3) 久野雄一郎「東大寺大仏の銅原材料についての考察」『橿原考古学研究所紀要 考古学論致』第14 冊 1990

	事 多											
	-(ı04											
	化学分析 耐火度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頁目	EPMA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調査項目	X線回折											
	レ [*] ッカース 断面硬度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	顕微鏡 組織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マクロ 組織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量(g)メタル度	188.9	278.6	32.4	97.4	155.2	13.6	35.0	2:06	21.5	216.0	130.7
計測值	大きさ(mm)	$79.3 \times 59.6 \times 37.9$	$104.8 \times 75.1 \times 25.1$	$48.3 \times 39.2 \times 20.8$	$57.8 \times 48.0 \times 29.9$	$92.8 \times 58.0 \times 35.8$	$32.2 \times 20.6 \times 15.5$	$49.1 \times 44.4 \times 26.4$	$77.7 \times 47.0 \times 31.4$	$47.1 \times 37.3 \times 24.2$	$99.9 \times 73.6 \times 25.7$	$89.4 \times 65.3 \times 49.9$
	推定年代						単					
	遺物名称	椀形鍛冶 滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓	椀形鍛冶滓
	管理番号	NYN1-D0081	NYN1-D0093	NYN1-D0121	NYN1-P0280	691 9 \(\overline{8}\) SD14 NYN1-D0208	NYN1-P0238		NYN2-P0333	NYN2-P0338	NYN2-D0076	
	田上遺構	1008 3 K SD39	1049 3 🗵 SD42	880 3 K SD38	294 10 🗵 SP248	9 ⊠ SD14	179 10 🗵 SP302	293 10 K SP248 NYN1-P0280	295 8 🗵 SP544	292 8 🗵 SP490	760 8 ⊠ SD32	$296 11 \times SP391 NYN2-P0333$
	遺物番号	1008	1049	068	294	169	179	293	295	292	092	296
	4	1	2	3	4	2	9	7	_∞	6	10	11

第1表 供試材の履歴と調査項目

		全鉄分	金属鉄	酸化 第1餘	酸化 第2餘	二酸化	酸化加	酸化加	酸化砂。	酸化 再	酸化扑膏	酸化ツニ	二酸化二	酸化加	硫黄 五	酸化烯	炭素 n°	47.44	角	二酸化	张		语速成分	TiO2
遺物名称	推定年代	(Total	(Metallic		(Fe2O3)	(SiO2)	(A12O3)	(CaO)	(MgO)	(K2O) ((Na2O)	(MnO)	(TiO2)	(Cr203)	(S)	(P205)		<u> </u>	(Cu) (Z	(ZrO2)	织 (As)	造降成分		
		Fe)	Fe)										_									T	Total Fe	Total Fe
椀形鍛冶滓	中中	51.47	80:0 2	47.28	20.94	19.07	4.80	82.0	0.44	0.87	0.47	0.07	0.12	0.03	0.029	0.23	0.22	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	26.43	0.514	0.002
椀形鍛冶淬		46.45	2 0.09	38.66	23.33	22.70	5.14	1.69	0.46	1.18	0.55	80.0	60'0	0.03	0.026	0.37	0.27	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	31.72	0.683	0.002
椀形鍛冶滓		57.70	0.05	59.78	16.00	12.67	4.38	1.49	0.33	0.63	0.34	0.03	60.0	0.03	0.012	0.38	0.17	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	19.84	0.344	0.002
椀形鍛冶滓		52.48	8 0.03	56.62	12.07	18.53	3.97	2.05	99.0	1.39	0.42	0.31	62'0	0.05	0.020	0.36	0.17	0.10	<0.01	0.15	<0.01	27.04	0.515	0.015
椀形鍛冶滓		39.16	90:00	41.65	9.62	31.34	6.97	1.99	0.71	1.90	1.06	030	0.18	0.03	0.017	0.43	0.17	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	43.97	1.123	0.005
椀形鍛冶滓		96'09	3 0.05	62.80	17.29	10.76	320	1.40	0.52	0.73	0:30	0.11	80.0	0.03	0.015	0.34	0.18	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	16.91	0.277	0.001
椀形鍛冶滓		57.92	2 0.08	58.91	17.23	14.96	3.08	0.58	0.19	0.71	0.43	0.03	0.04	0.03	0.015	0.16	0.19	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	19.95	0.344	0.001
椀形鍛冶滓		56.99	60'0 6	62.05	12.38	15.67	3.01	1.22	0.33	0.81	0.40	20:0	0.07	0.03	710.0	0.21	0.19	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	21.44	0.376	0.001
椀形鍛冶滓		55.28	3 0.05	58.34	14.13	18.15	3.51	0.75	0:30	0.95	0.49	80.0	0.16	0.04	0.013	0.17	0.18	0.03	<0.01	0.03	<0.01	24.15	0.437	0.003
椀形鍛冶滓		45.81	1 0.04	45.98	14.33	25.55	5.08	1.39	0.51	1.24	0.74	0.25	0.12	0.03	0.030	0.28	0.28	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	34.51	0.753	0.003
椀形鍛冶滓		9.53	3 0.09	8.19	4.40	63.54	12.69	1.75	0.54	4.17	2.65	90.0	0.26	90'0	2000	0.16	0.12	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	85.34	8.955	0.027

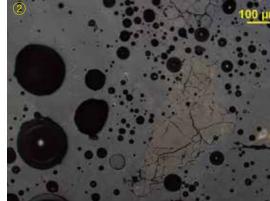
第2表 供試材の化学組成

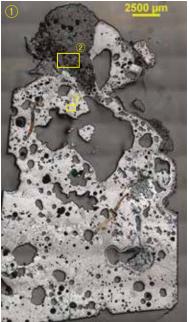
図版 1 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

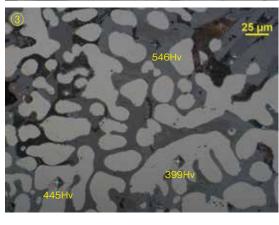
No. 1: 椀形鍛冶滓

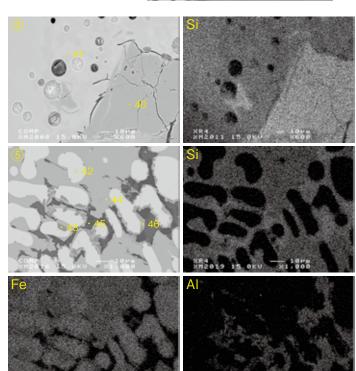
①マクロ組織 ②ガラス質滓(被熱砂粒混在) ③滓部、硬度:399Hv、 445Hv、ウスタイト、(微 細ヘルシナイト)、硬度: 546Hv、ファヤライト(50gf)











滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

XR4 XH2022 15.0KU

定量分析值

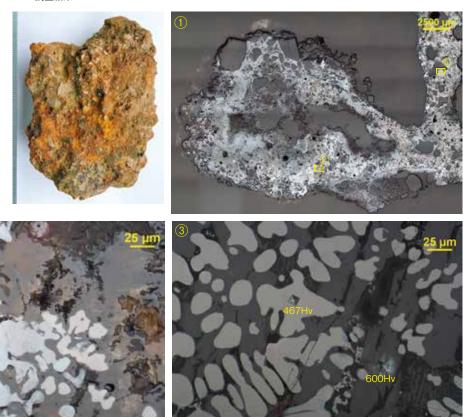
Element	40	41
Na2O	-	1.413
MgO	0.024	0.295
Al2O3	-	32.541
SiO2	101.117	59.218
P2O5	-	0.133
S	0.007	0.013
K2O	0.005	3.975
CaO	0.001	0.219
TiO2	1.841	0.716
Cr2O3	0.075	0.006
MnO	-	-
FeO	0.053	3.955
CuO	-	-
Total	103.123	102.484

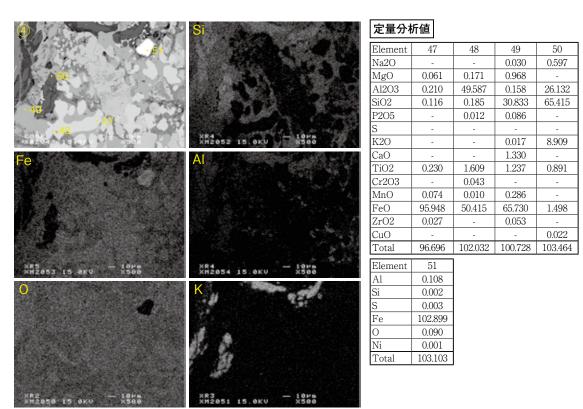
Element	42	43	44	45	46
Na2O	-	-	-	1.900	0.145
MgO	0.107	0.098	0.506	-	0.099
Al2O3	0.227	53.006	0.119	26.958	0.058
SiO2	0.151	0.090	31.387	55.728	31.252
P2O5	-	-	0.086	0.006	0.279
S	0.001	-	-	-	-
K2O	-	0.009	0.005	14.810	0.046
CaO	-	-	0.591	1.135	14.611
TiO2	-	-	0.738	3.235	-
Cr2O3	-	-	0.005	0.046	-
MnO	0.051	0.132	0.174	-	0.158
FeO	98.561	48.648	69.949	1.960	52.900
ZrO2	-	-	0.013	-	-
CuO	0.048	-	0.081	0.029	0.057
Total	99.146	101.983	103.654	105.807	99.605

図版2 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

No. 2:椀形鍛冶滓

①マクロ組織 ②青灰色部:銹化鉄、 ③滓部、硬度:467Hv、ウス タイト 600Hv ファヤライト (50gf)





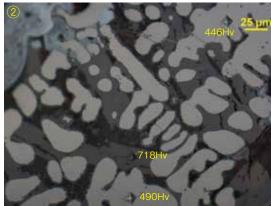
滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

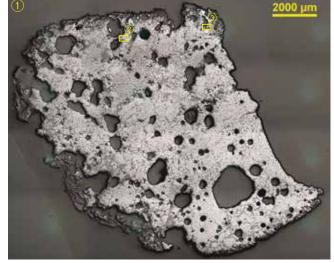
図版3 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

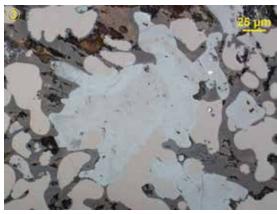
No. 3:椀形鍛冶滓

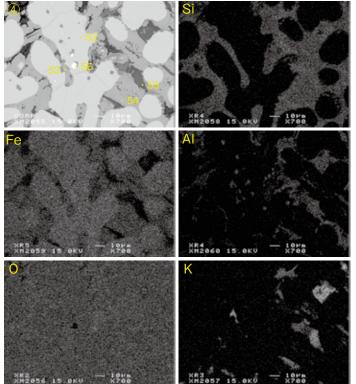
①マクロ組織 ②滓部、硬度:446Hv、 490Hv、ウスタイト(粒内 微細ヘルシナイト)、極度: 718Hv ファヤライト(50gf) ③青灰色部:銹化鉄、亜 共析組織痕跡











定量分析值

Element	52	53	54	55
Na2O	0.106	=	-	1.953
MgO	0.024	0.203	0.370	-
Al2O3	0.300	53.196	0.110	32.117
SiO2	0.162	0.149	31.257	42.247
P2O5	0.006	=	0.110	-
S	-	0.008	-	-
K2O	-	-	-	25.854
CaO	-	-	2.711	0.009
TiO2	0.092	-	-	0.673
Cr2O3	0.053	0.058	-	-
MnO	0.032	0.005	0.048	-
FeO	97.457	47.426	67.959	2.136
ZrO2	-	0.019	-	0.054
CuO	-	-	-	-
Total	98.232	101.064	102.565	105.043

Element	56
Ti	0.004
Cr	0.018
Fe	98.545
Cu	0.478
Ni	0.034
Total	99.079

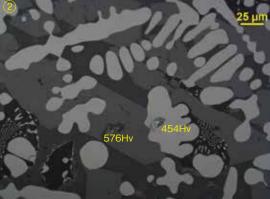
滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

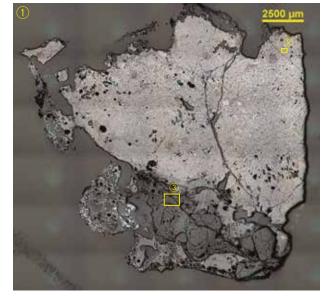
図版4 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

No. 4:椀形鍛冶滓

①マクロ組織 ②滓部、硬度:454Hv、ウス タイト、硬度:576Hv、ファ ヤライト、 ③ガラス質滓(被熱砂粒混在)

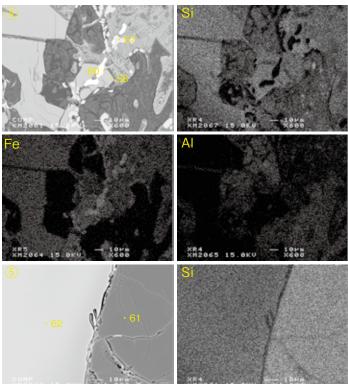








定量分析值



0 15.0KU 81.000	XM2071 15 0KU	X1 000
滓部の反射電子像 (CO	MP) および特性	X 線像

足里 ガイ	71 112	
Element	57	58
Na2O	0.035	0.025
MgO	0.077	0.940
Al2O3	0.235	0.050
SiO2	0.167	29.762
P2O5	0.052	0.031
S	-	0.010
K2O	0.006	0.006
CaO	0.047	2.497
TiO2	1.944	0.793
MnO	0.103	0.645
FeO	97.021	65.695
ZrO2	0.143	0.038
CuO	-	-
Total	99.830	100.492
Element	61	62

Total	99.830	100.492
Element	61	62
Na2O	=	1.690
MgO	0.005	0.753
Al2O3	0.002	13.188
SiO2	100.074	56.264
P2O5	0.014	0.167
S	0.006	0.013
K2O	0.009	4.807
CaO	0.009	2.584
TiO2	-	2.534
Cr2O3	-	0.011
MnO	-	0.214
FeO	0.094	19.345
ZrO2	0.039	-
CuO	-	-
Total	100.252	101.570

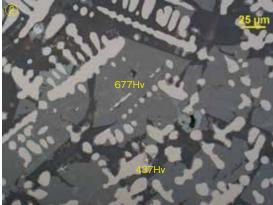
Element	60
Na	0.279
Al	0.031
P	0.003
S	0.003
Ti	0.021
Cr	0.030
Fe	101.292
Cu	0.182
Ni	0.007
As	0.184
Sb	0.021
Total	102.053

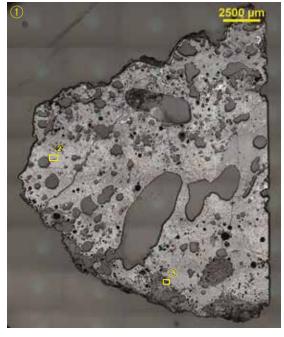
図版 5 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

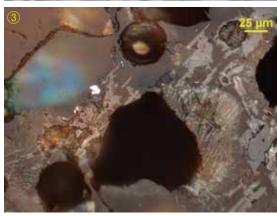
No. 5: 椀形鍛冶滓

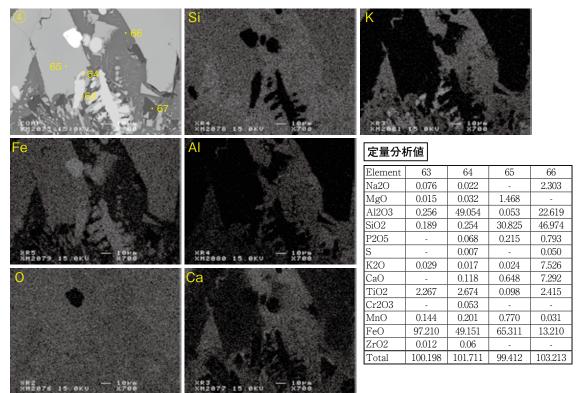
①マクロ組織 ②滓部、硬度:437Hv、ウス タイト、硬度677Hv、ファヤ ライト(50gf) ③暗色部:ガラス質滓(被熱 砂粒混在)











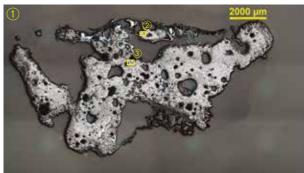
滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

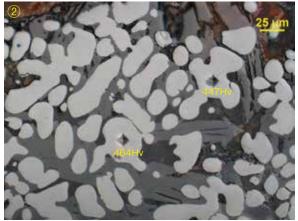
図版 6 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

No. 6:椀形鍛冶滓

①マクロ組織 ②③滓部、ウスタイト・ファ ヤライト、硬度:447Hv、 464Hv、ウスタイト(50gf)、 ③微小明白色粒:金属鉄

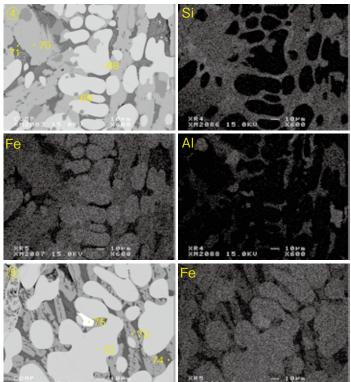








定量分析值



/ /	NOTICE:	TO CONTRACT THE CONTRACT OF PERSONS AND ADDRESS OF THE CONTRACT OF THE CONTRAC
滓部の反射電子像	(COMP)	および特性 X 線像

Element	68	69	70	71
Na2O	0.079	0.15	0.531	0.352
MgO	0.040	0.185	0.689	1
Al2O3	2.503	52.876	0.079	26.114
SiO2	0.144	0.047	30.870	63.206
P2O5	-	0.006	0.061	0.026
S	0.021	-	0.005	0.006
K2O	-	0.001	0.010	11.707
CaO	-	-	0.623	0.013
TiO2	-	-	-	1.947
Cr2O3	-	-	0.032	0.017
MnO	0.025	-	0.232	0.026
FeO	97.052	49.184	68.958	2.023
ZrO2	-	0.032	-	-
CuO	-	-	-	0.007
Total	99.864	102.481	102.090	105.444

Element	72	73	74
Na2O	-	-	4.131
MgO	0.112	1.304	0.068
Al2O3	0.373	0.074	21.614
SiO2	0.129	31.227	41.451
P2O5	0.012	0.074	1.342
S	0.003	-	0.072
K2O	0.002	0.040	8.738
CaO	-	2.925	7.663
TiO2	0.553	-	-
Cr2O3	0.004	-	-
MnO	0.093	0.551	0.122
FeO	96.422	66.014	16.928
ZrO2	0.015	-	-
CuO	-	-	0.004
Total	97.718	102.209	102.133

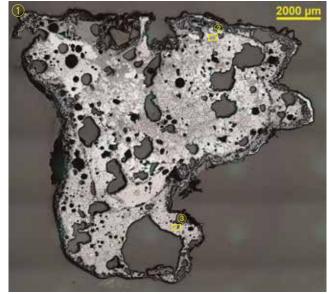
Element	75
Na	0.010
Si	0.002
Ti	0.015
Cr	0.046
Fe	105.739
Ni	0.002
As	0.039
Total	105.853

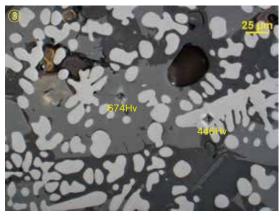
No. 7: 椀形鍛冶滓

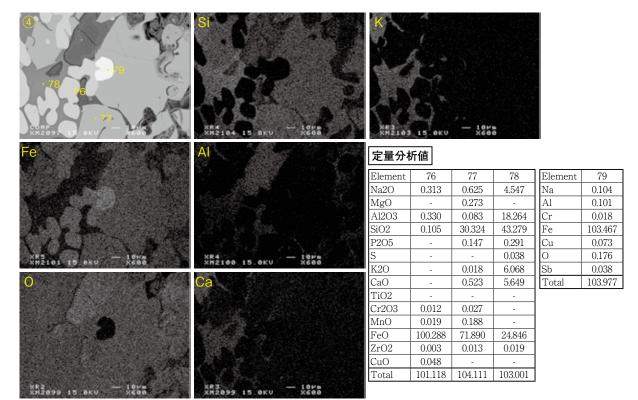
①マクロ組織 ②微小明白色粒:金属鉄、滓 部:ウスタイト・ファヤライト、 ③硬度:446Hv、ウスタイト、 硬度 674Hv、ファヤライト (50gf)











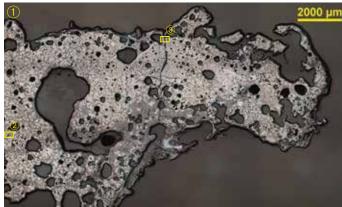
滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

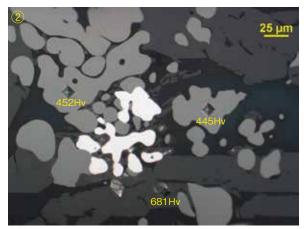
図版8 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

No. 8: 椀形鍛冶滓

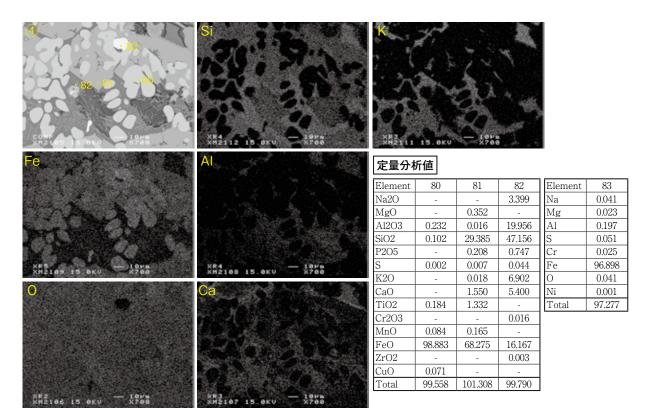
①マクロ組織 ②滓部、硬度:445Hv、 451Hv、ウスタイト、硬度 681Hv、ファヤライト (50gf) ②③微小明白色粒:金属鉄











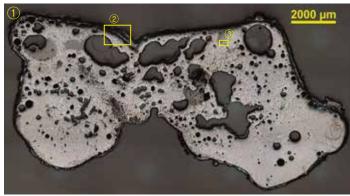
滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

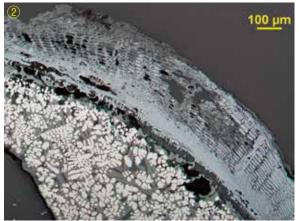
図版 9 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

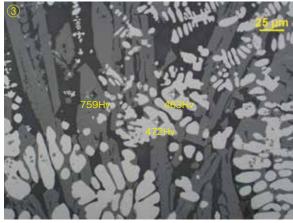
No. 9: 椀形鍛冶滓

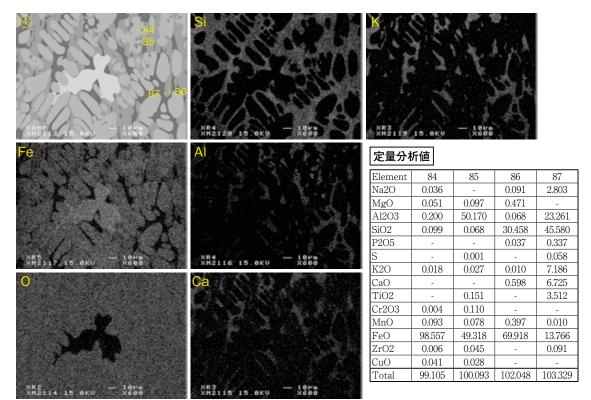
①マクロ組織 ②青灰色部: 木炭破片、滓部: ウスタイト・ファヤライト ③滓部、硬度: 463Hv、 472Hv、ウスタイト、硬度 759Hv、ファヤライト (50gf)



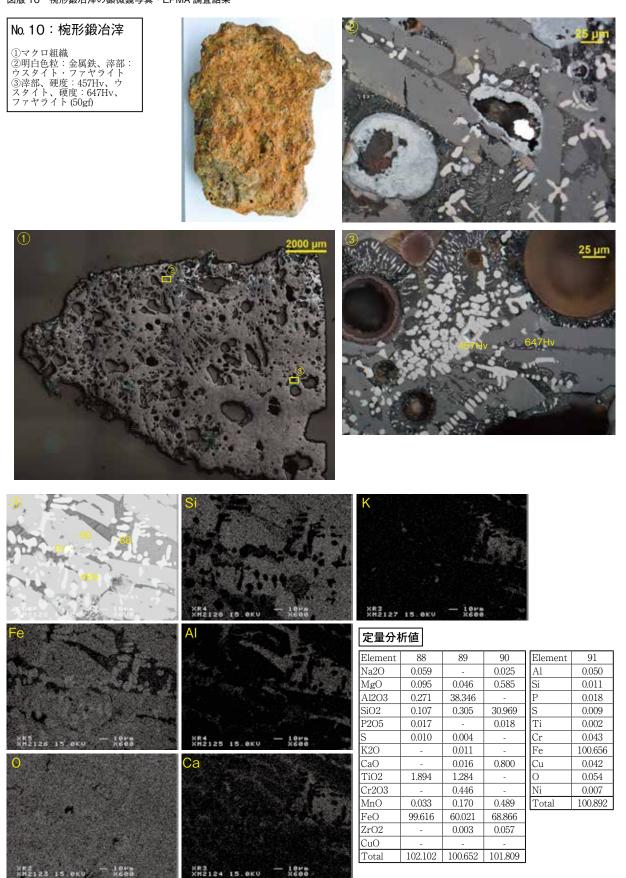








滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像



滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

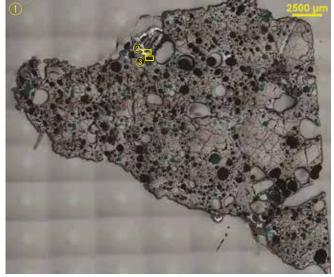
図版 11 椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA 調査結果

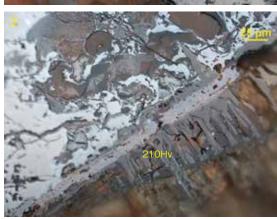
No. 11:椀形鍛冶滓

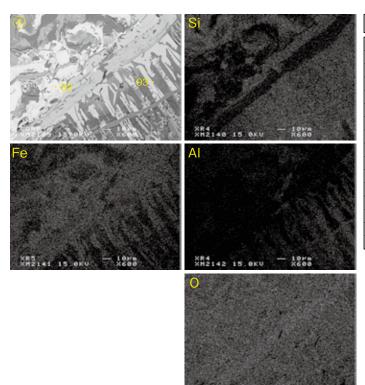
①マクロ組織、ガラス 質滓(被熱砂粒混在) ②③青灰色部:銹化鉄、 パーライト組織痕跡、 ③滓部、硬度:210Hv、 ファヤライト(10gf)











滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

定量分析值

Element	92	93
Na2O	0.518	0.966
MgO	-	1.191
Al2O3	-	0.079
SiO2	0.708	30.975
P2O5	0.093	0.086
S	0.123	-
K2O	-	0.003
CaO	-	0.380
TiO2	-	-
Cr2O3	-	-
MnO	0.009	0.180
FeO	85.127	66.575
ZrO2	0.057	-
CuO	0.126	-
Total	86.761	100.435
•		

第2節 営水中筋遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

誉水中筋遺跡(東かがわ市中筋所在)は、丘陵裾の低地に所在する鎌倉時代から室町時代を中心とする遺跡で、現状は水田及び畑地である。今回は、堆積物の時代観や当時の古植生、遺物に関する情報を得る目的で、放射性炭素年代測定、珪藻分析、花粉分析、種実分析、樹種同定 X 線回折分析、鉛同位体比分析を実施する。以下に分析別に調査結果について報告する。

1. 放射性炭素年代測定

1-1. 試料

試料は、放射性炭素 4:8 区 SF01 南西 4-5 層(第93 図)、放射性炭素 -5:8 区 SF02 南西 5 層(第94 図)、放射性炭素 -6:11 区 SK62 西半(第77 図) の出土試料 3 点である。いずれも脆弱な炭化材である。

1-2. 分析方法

植物遺体は、メス・ピンセットなどにより、根や土壌など後代の付着物を、物理的に除去する。塩酸 (HCl) により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。通常では、塩酸、水酸化ナトリウムともに 1 mol/L を用いるが、試料が脆弱な場合は水酸化ナトリウムの濃度を $0.001 \sim 1 \text{mol/L}$ の範囲内で徐々に濃くしていき、反応をみながら処理を行う。1 mol/L の水酸化ナトリウムを用いると分析に必要な炭素量が得られない可能性がある場合は、濃度の低い水溶液の時点で処理を終える (AaA と表記する)。

これらの試料を燃焼させて二酸化炭素を発生させ、真空ラインで精製する。その後鉄を触媒として還元し、グラファイトを得る。得られたグラファイトをカソードにプレスしてターゲットを作成する。タンデム加速器のイオン源に装着し、14Cの計数、13Cの濃度 (13C/12C)、14Cの濃度 (14C/12C) の測定を行う。測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸 (HOX- II) とバックグラウンド試料の測定も行う。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした 年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。

暦年較正に用いるソフトウエアは CALIB var.7.1 である。また、このソフトウエアで用いられる較正 曲線の最新のものは 2013 年に発表された Intcall3(Reimer et ai.,2013) である。なお、年代測定値は、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるが (Stuiver and Polach 1977)、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う再計算ができるようにするため、丸めない値 (1 年単位) を記す。

1-3. 結果

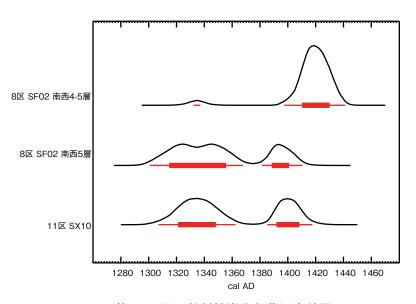
結果を、第3表、第149回に示す。8区 SF01出土の炭化材は、520 ± 20yrBP、8区 SF02出土の炭化材は 570 ± 30yrBP、11区 SK62出土の炭化材は 590 ± 30yrBPである。暦年較正とは、大気中の

14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変 動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い(14Cの半減期5730 ± 40年)を較正することによっ て、暦年代に近づける手法である。測定誤差2σの暦年代は、8区SF01出土試料は cal AD 1330~ 1440、8 区 SF02 出土試料は cal AD 1310 ~ 1420、11 区 SK62 出土試料は cal AD 1300 ~ 1410、である。 図をみてもわかるように、各遺構の年代測定値はほぼ近似する値、すなわち14世紀~15世紀初頭を示 している。

- ballet de	##. FM	分析	補正年代 vrBP	δ 13 C	測定年代		曆年較正年代								Code				
試料名	種別	方法	(暦年較正用)	(%)	yrBP						4	三代値					相対比	中央値	No.
8区						σ	cal	AD	1,410	- cal	AD	1,430	cal	BP	540	- 520	1.000	cal	
SF01	炭化材	AaA	520 ± 20 (516 ± 24)	-28.30 ± 0.48	570 ± 20	2 σ	cal	AD	1,332	- cal	AD	1,337	cal	BP	618	- 613	0.016	AD	IAAA- 151681
4-5 層			(010 21)				cal	AD	1,397	- cal	AD	1,441	cal	BP	553	- 509	0.984	1418	101001
				σ	cal	AD	1,321	- cal	AD	1,348	cal	BP	629	- 602	0.616				
8 ⊠ SF02	炭化材	AaA	570 ± 30	-27.82 ± 0.47	620 ± 20		cal	AD	1,392	- cal	AD	1,408	cal	BP	558	- 542	0.384	cal BC	IAAA-
5層	DK1141	AaA	(573 ± 25)	-21.02 ± 0.41	020 ± 20	2 σ	cal	AD	1,307	- cal	AD	1,362	cal	BP	643	- 588	0.627	1346	151682
0,6							cal	AD	1,385	- cal	AD	1,418	cal	BP	565	- 532	0.373		
						σ	cal	AD	1,315	- cal	AD	1,356	cal	BP	635	- 594	0.778		
11 区 SX10	炭化材	AAA	590 ± 30	-27.51 ± 0.52	630 ± 20		cal	AD	1,388	- cal	AD	1,401	cal	BP	562	- 549	0.222	cal BC	IAAA-
西半	201011		(591 ± 25)			2 σ	cal	AD	1,301	- cal	AD	1,368	cal	BP	649	- 582	0.727	1345	151683
							cal	AD	1,381	- cal	AD	1,410	cal	BP	569	- 540	0.273		

5) 尚午前昇には次に示した凡のる削の値を使用している。 6)1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。 7 統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2 σは 95% である 8) 相対比は、σ、2 σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。 9) 中央値は、確率分布図の面積が二分される値を年代値に換算したもの。

第3表 放射性炭素年代測定結果



第 149 図 放射性炭素年代測定結果

2. 珪藻分析

2-1. 試料

試料は、8 区 SK67 中層 (第7図19層)、SK67下層 (同図25層)、8 区 SR01下層 (同図45層)の3 点である。試料の層相は、8 区 SK67 中層が暗灰〜灰色を呈する極粗粒砂〜中粒砂混じりシルト、SK67 下層が細礫・粗粒砂・中粒砂混じり細粒砂質シルト、8 区 SR01 下層試料は細礫・中礫混じり腐植質細 粒砂質シルトからなる。遺構の構築年代は、SK67が中世、SR01が弥生~古墳時代と推定されている。

2-2. 分析方法

湿重約 3g をビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を $4\sim5$ 回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸 600 倍または 1000 倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が 200 個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、 誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200 個体が検出できた後は、示準種等の重要な種類の見落 としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努めた。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot(2000)、Hustedt(1930-1966)、Krammer & Lange-Bertalot(1985 ~ 1991)、Desikachiary(1987) などを参考にする。

群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水~汽水生、 汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の3適応性につい ても生態分類する。結果は、生態分類も含め、同定・計数結果の一覧表、及び主要珪藻化石群集の分布 図として表示する。

2-3. 結果と考察

結果は、第4・5表、第150図に示す。以下、分析結果について、試料毎に述べる。

8区 SK67 中層には、比較的多くの珪藻化石が含まれており、200 個体以上が検出された。化石の保存状態は、半壊した殻が多いだけでなく、一部には溶解の痕跡も認められるため、状態としては不良~極不良である。検出された分類群は、淡水生種を主体に極低率に淡水~汽水生種を伴う種群で構成される。

産出した種群の特徴は、淡水生種が最優占種群 (100 個体以上検出)であることから、淡水生の群集の生態学的特徴 (3 適応性:塩分・p H・流水)について整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。まず、塩分に対する適応性は、淡水中の塩類濃度の違いにより区分したもので、ある程度の塩分が含まれたほうがよく生育する種類は好塩性種とし、少量の塩分が含まれていても生育できるものを不定性種、塩分が存在する水中では生育できないものを嫌塩性種として区分している。これは、主に水域の化学的な特性を知る手がかりとなるが、単に塩類濃度が高いあるいは低いといったことが分かるだけでなく、塩類濃度が高い水域というのは概して閉鎖水域である場合が多いことから、景観を推定する上でも重要な要素である。

結果は、貧塩-不定性種が優占しており、全体の約90%を占めている。その他は、貧塩-不明種が約8%、貧塩-嫌塩性種が2%程度の産出率を示している。

次にpHに対する適応性とは、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも、単に水の酸性・アルカリ性のいずれかがわかるだけでなく、酸性の場合は湿地であることが多いなど、間接的には水域の状況を考察する上で必要不可欠である。

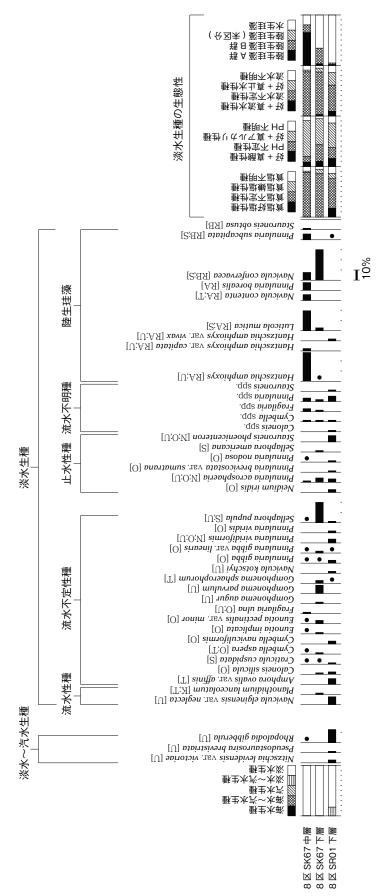
結果は、アルカリ性種が優占し、70%程度を占めており、酸性種と不定性種がそれぞれ8%、12%、

その他は不明種が約 10 %の産出率を示し ている。

流水に対する適応性 は、流れのある水域の 基物(岩石・大型の藻 類・水生植物など)に 付着生育する種群であ り、特に常時流れのあ るような水域でなけれ ば生育出来ない種群を 好流水性種、逆に流れ のない水域に生育する 種群を好止水性種とし て区分している。流水 不定は、どちらにでも 生育できる可能性もあ るが、それらの大半は 止水域に多い種群であ る。なお、好流水性種 と流水不定性種の多く は付着性種であるが、 好止水性種には水塊中 を浮遊生活する浮遊性 種も存在する。浮遊性 種は、池沼あるいは湖 沼の環境を指標する。

結果は、流水不定性 種が最も優占してお り、全体の約85%を 占めている。その他は、 流水性種が約1%、止 水性種が約5%、不明 種が14%程度産出し ている。

水生珪藻と陸生珪藻 の比率は、本試料では 陸生珪藻が78 %を占



海水~汽水~淡水生種産出率・各種産出率・另形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。 いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。 環境指標種 K:中~下流性河川指標種 N:湖沼沼沢湿地指標種 O:沼沢湿地付着生種(以上は安藤 1990) S:好汚濁性種 T:好清水性種 U:広適応性種(以上はAsal & Watanabe,1995) R:陸生珪藻 (RA.A群,RB:B群;伊藤・堀内,1991)

第150 図 珪藻化石群集

種類類		生態性		環境	S	SR01	
世 炽	塩分	рН	流水	上 塚 · // 指標種	中層	下層	下層
Actinocyclus normanii (Greg. ex Greu.) Hustedt	Meh	p.11	Diaza	E1	-	1	-
Vitzschia levidensis var. victoriae (Grun.) Cholnoky	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	6
Pseudostaurosira brevistriata (Grun.) Williams & Round	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	-	-	3
Rhopalodia gibberula (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	-	27
Achnanthes rostrata Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	Т	-	-	12
Aulacoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	_		2
A <i>ulacoseira</i> spp.	Ogh-unk	unk	l-ph	U	_		1
Caloneis bacillum (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	_	2	
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	_	-	2
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	0	_	3	5
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk	_	_	-	3
Craticula cuspidata (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	1	1	3
Cymbella aspera (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	О.Т	1	3	-
Cymbella heteropleura (Eheenbrg) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	0,1	1 1	-	2
Cymbella heteropleura var. minor Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph				2
	_	ind	ind	0	_	-	6
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	al-il	ind	T	1		-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind			1		-	
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	3	3
Diploneis finnica (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph		_	-	1
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	2
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind	0	-	-	2
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	2
Eunotia formica Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-bi	0	-	-	1
Eunotia implicata Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	О	1	3	-
Eunotia pectinalis (Dillwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	-	1	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	0	1	7	-
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	-	-	2
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	2
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	3	-	-
<i>Fragilaria ulna</i> var. <i>arcus</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	-	-
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	-	-
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		6	3	-
Frustulia vulgaris (Thwaites) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	_	1	-
Gomphonema acuminatu E hrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	0	1	1	
Gomphonema angustatuntKuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	_	_	2
Gomphonema angustufo.Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	U	_	_	1
Gomphonema augustais i i i i i i i i i i i i i i i i i i	Ogh-ind	ind	ind	U	_	3	
Gomphonema augusmenserg Gomphonema gracileEhrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O.U	_	-	1
Gomphonema parvulunKuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U		17	-
Gomphonema sphaerophoruEthrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	T		6	2
	_			1	-	-	1
Gomphonemapp.	Ogh-unk	unk	unk	DAII			
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	59	1	-
Hantzschia amphioxys var. capitata Muller	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	5	-	-
Hantzschia amphioxys var. vivax (Hantz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	-	4
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann		al-il	ind	RA,S	41	6	-
Vavicula confervacea (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	16	63	-
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	12	-	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	16
<i>Navicula kotschyi</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	4
<i>Navicula laterostrata</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-bi	O,U	-	1	-
Vavicula viridula (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	-	1
<i>Veidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	2	-	-
Neidium iridis (Ehr.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	О	-	-	6
<i>Neidium</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	2
Vitzschia bremensis Hustedt	Ogh-ind	al-il	unk	O,U	2	-	-
Vitzschia debilis (Arn.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	1	-
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	N,O,U	3	9	7
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	16	-	-
Pinnularia brebissonii (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	1
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	0	_	1	1
Pinnularia brevicostata var. sumatrana Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	0	-	-	3
Pinnularia previcostata var. sumatrana Husteut Pinnularia gibba Ehrenberg			1 -	0	1	2	6
	Ogh-ind	ac-il	ind				
Pinnularia gibba var. dissimilis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind	0	-	- 4	1
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	0	1	4	2
Pinnularia lundii Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	0	-	-	2
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	0	1	-	3
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	О	1	1	1
Pinnularia stomatophora (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,P	-	1	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	12	-	2
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	N,O,U	-	1	1

第4表 珪藻分析結果(1)

						8区	
種類		生態性		環境	SI	ζ67	SR01
	塩分	pН	流水	指標種	中層	下層	下層
Pinnularia sudetica (Hilse) M.Peragallo	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O,P	-	-	1
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind	N,O,U	-	-	8
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	0	-	-	4
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		7	4	11
Placoneis elginensis (Greg.) Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	1	-
Planothidium lanceolatum (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	3	-
Rhopalodia gibba (Ehr.) Mueller	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	2	-
Sellaphora americana (Ehr.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	3	-
Sellaphora bacillum (Ehr.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1
Sellaphora laevissima (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	U	-	2	-
Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S,U	2	42	3
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	1	-
Stauroneis nobilis Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-
Stauroneis obtusa Lagerst	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	-	-
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	N,O,U	-	-	13
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	Ogh-ind	ind	l-ph	0	1	-	1
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	2
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	3
Surirella robusta Ehrenberg	Ogh-hob	ind	l-bi		-	-	1
Surirella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1
海水生種					0	0	0
海水~汽水生種					0	0	0
汽水生種					0	1	0
淡水~汽水生種					1	0	36
淡水生種					206	207	172
珪藻化石総数					207	208	208

月.例

塩分・pH・流水に対する適応性

H.R.:塩分濃度に対する適応性 pH:水素イトン濃度に対する適応性 C.R:流水に対する適応性

al-bi:真アルカリ性種 l-bi:真止水性種 :海水生種 Euh Euh-Meh:海水生種-汽水生種 al-il:好アルカリ性種 l-ph:好止水性種 Meh :汽水生種 ind :pH不定性種 ind:流水不定性種 Ogh-hil:貧塩好塩性種 ac-il:好酸性種 r-ph:好流水性種 Ogh-ind:貧塩不定性種 ac-bi:真酸性種 r-bi:真流水性種 Ogh-hob:貧塩嫌塩性種 unk :pH不明種 unk:流水不明種

Ogh-unk:貧塩不明種

環境指標種

A:外洋指標種 B:内湾指標種 C1:海水藻場指標種 C2:汽水藻場指標種

D1:海水砂質干潟指標種 D2:汽水砂質干潟指標種

E1:海水泥質干潟指標種 E2:汽水泥質干潟指標種 F:淡水底生種群 (以上は小杉, 1988)

G:淡水浮遊生種群 H:河口浮遊性種群 J:上流性河川指標種 K:中~下流性河川指標種

L:最下流性河川指標種群 M:湖沼浮遊性種 N:湖沼沼沢湿地指標種 O:沼沢湿地付着生種

P:高層湿原指標種群 Q:陸域指標種群 (以上は安藤, 1990)

S:好汚濁性種 T:好清水性種 U:広適応性種 (以上はAsai,K. & Watanabe,T.1995)

RI:陸生珪藻 (RA:A群,RB:B群、伊藤・堀内, 1991)

第5表 珪藻分析結果(2)

めており、水生珪藻は12%しか認められない。

特徴的に認められた種は、Hantzschia amphioxys、Luticora mutica、Navicula contenta、Navicula confervacea、Pinnularia borealis、Pinnularia subcapitata 等 で あ る。流水不定性種のNitzschia amphibia は、淡水域でも水の出入りが少なく淀んだ水域に生育していることが多く、Asai & Watanabe (1995) は、好汚濁性種としている。他方、陸生珪藻のHantzschia amphioxys、Luticora mutica、Pinnularia borealis、Pinnularia subcapitata は、水中や水底以外の大気に接触した環境(例えばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など)に生活する一群(小杉、1986)であり、特に離水した場所の中で乾燥に耐えうることのできる種群とされる(伊藤・堀内、1989;1991)。よって、本試料の堆積時は、基本的には地下水位が低く、好気的環境下にあった可能性が高い。好気的な環境とは、水の影響が少なく、通常は大気に曝された環境である。

8区 SK67 下層も比較的多くの珪藻化石が含まれており、200 個体以上が検出された。認められた化石殻の保存状態は、半壊した殻は多いものの、溶解の痕跡が認められる殻は少ないことから、状態とし

ては不良である。認められた群集は、淡水生種を主体として、極低率に汽水生種を伴う種群で構成される。本試料も淡水生種が優占種群であるため、生態学的特徴 (3 適応性) について整理すると、以下のような傾向が認められる。

塩分に対する適応性は、貧塩 - 不定性種が優占しており、約85%を占めている。他は、貧塩 - 嫌塩性種が10%、貧塩 - 不明種が約5%の産出率を示している。pHに対する適応性は、アルカリ性種が全体の約70%を占めており、その他は、酸性種、不定性種および不明種がそれぞれ10%程度産出している。流水に対する適応性は、流水不定性種が約80%を占めているほかは、止水性種が約10%、流水性種と不明種がそれぞれ5%前後の産出率を示している。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、水生珪藻が約70%、陸生珪藻は30%程度の産出率を示している。

特徴的に認められた種は、淡水生種で流水性種の Planothidium lanceolatum、流水不定性種の Gomphonema parvulum、Sellaphora pupula、陸生珪藻の Navicula confervacea 等である。これらの生 態性を概説(前述していない種)すると、まず、流水性種の Planothidium lanceolatum は、安藤(1990) によれば、河川の中~下流部、すなわち、河川沿いに河成段丘、扇状地、自然堤防および後背湿地といっ た地形がみられる部分に集中して出現する可能性が大きい種群とされ、中~下流河川指標種群とされて いる。次に、流水不定性種の Gomphonema parvulum は、流水に対して不定なだけでなく、塩分濃度 やpHに対しても不定であり、極めて高い適応能力を持つ種であり、さまざまな水域に認められる。そ のため、Asai and Watanabe(1995)は、広域適応種としている。ただし、経験的には、流水域に多産す ることが多い。同じく、流水不定性種の Sellaphora pupula は、塩分に対する適応性、p H に対する適 応性、流水に対する適応性はいずれも不定性であり、かなり広範な水域に認められることから広域頒布 種と呼ばれるが、汚濁した水域に特徴的に認められることから好汚濁性種にも位置付けられている (Asai and Watanabe,1995)。さらに、陸生珪藻とした Navicula confervacea は、前述のように好気的環境に特 徴的に認められる場合が多いが、塩類を豊富に含んだ水田等に爆発的に出現することが知られている。 本種は、経験的には陸生珪藻の側面より、閉鎖的で高塩類の水域に優占種として認められることが多い 種である。また、本種は、現在だけでなく、過去から現在までを通して、水田において豊産することが 多い種である。淡水~汽水生種の Rhopalodia gibberula と共に、水田の主要な構成種になる種である。 以上の特徴種の生態性と群集全体の産状を考慮すると、本試料の堆積時の環境は、湿地性種を主体に流 水性種も認められたことから、概ね低地などに存在する沼沢湿地の環境下にあったものと推定される。

8区 SR01 下層も比較的多くの珪藻化石が含まれており、200 個体以上が検出された。認められた化石の保存状態は、半壊した殻は多いものの、溶解の痕跡が認められる殻は少ないことから、状態としては平均してみると不良である。認められた群集は、淡水生種を主体として、低率に淡水~汽水生種を伴う種群で構成される。本試料も淡水生種が優占種群であるため、生態学的特徴(3 適応性)について整理すると、以下のような傾向が認められる。塩分に対する適応性は、貧塩 – 不定性種が優占しており、約50%を占めている。その他は、貧塩 - 好塩性種が約20%、貧塩 - 嫌塩性種が10%、貧塩 – 不明種が約10%の産出率を示している。p Hに対する適応性は、アルカリ性種が全体の約50%を占めており、その他は、p H 不定性種が約20%、酸性種および不明種がそれぞれ15%程度産出している。流水に対する適応性は、流水不定性種が約50%を占めている。その他は、止水性種が約20%、流水性種が約10%、不明種が約15%の産出率を示している。水生珪藻と陸生珪藻の比率は、水生珪藻が約95%、陸生珪藻は5%程度の産出率を示している。

特徴的に認められた種は、淡水~汽水生種の Rhopalodia gibberula、淡水生種で流水性種の Navicula elginensis var.neglecta、流水不定性種の Rhopalodia gibba、Pinnularia viridiformis、止水性種の Pinnularia acrosphaeria、Stauroneis phoenicenteron 等である。

以上の特徴種の生態性または生育環境を概説(前述していない種)すると、まず、淡水~汽水生種のRopalodia gibberula は、好塩性種であり、Amphora ovalis var.affinis とともに海成層から検出された例も多く認められる(安藤・南雲、1983; etc.)。また、田中(1987)によると、群馬県で発掘された古代水田からも本種が多産しており、当時の水田土壌に、多量に出現したことは、水田の水が塩類を豊富に含んでいたことを示しているとしている。さらに、奥平温泉(田中・中島、1985)など塩類を多く含んだ温泉からの報告も多い。一方、流水性種のNavicula elginensis var.neglecta は、河川や溝等の定常的な水の流れがある水域の基物(礫、水草、大型の藻類)に付着生育する種である。次に、流水不定性種のPinnularia gibba は、好酸性(最適pH6付近)、富栄養から貧栄養種、湧泉・小川等にみられる着生種とされる(中島他、1978)。同じく流水不定性種のPinnularia viridiformis は、好湿地性種とも呼ばれ泥炭性の湿源・沼に特徴的に認められるほか、比較的広範に生育し、他の種群に比較して殻が大きく、生産力の高い種である。さらに、止水性種のPinnularia acrosphaeria は、湿地や池沼、湖の沿岸部に見られるとされる(Patrick and Reimer,1966)が、通常、湿地に爆発的に発生することが多い種である。止水性種のStauroneis phoenicenteron は、比較的、広範に止水域に認められる種であるが、湿地や池沼・湖沼の縁辺等の止水域に安定的に生育する種である。

以上の特徴種の生態性と群集全体の産状を考慮すると、本試料の堆積時の環境は、湿地性種を主体に流水性種も認められたことから、概ね低地などに存在する沼沢湿地の環境下にあったものと推定される。なお、淡水生の種群は、種数が多く、いずれの種も産出率は低い傾向にある。生態性についてみても産出率がばらついていることから、混合群集と考えられる。これらの結果から、本試料の堆積時の環境は、湿地性の種群を主として流水性種あるいは止水性種などを伴う群集が認められたことから、概ね沼沢湿地の環境下にあったものと推定される。また、本試料は、好塩性種が卓越したことから、堆積時は若干、排水が悪く水が停滞気味なために、水中の塩類濃度が高まった可能性が示唆される。

3. 花粉分析

3-1. 分析試料

試料は、8 区 SK67 中層 (第 7 図 19 層)、SK67 下層 (同図 25 層)、8 区 SR01 下層 (同図 45 層)の3 点である。試料の層相については珪藻分析の稿に記載してあるので参照されたい。

3-2. 分析方法

花粉分析は、試料約 10g を秤量し、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mm の篩による篩別、重液(臭化亜鉛, 比重 2.2)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸 9:濃硫酸 1 の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdtman (1952,1957)、Faegri and Iversen (1989)などの花粉形態に関する文献や、島倉 (1973)、中村 (1980)、藤木・小澤 (2007)、三好ほか (2011) 等の邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

		8区	
種 類	SF	K67	SR01
L+-#-#r	中層	下層	下層
木本花粉 マキ属			1
モミ属	- -	-	19
ツガ属	-	5	26
マツ属複維管束亜属	-	121	98
マツ属(不明)	-	30	24
スギ属	-	6	10
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	1
クルミ属 クマシデ属 – アサダ属	-	1 6	2 6
カバノキ属	-	2	-
ハンノキ属	-	-	34
ブナ属	-	2	2
コナラ属コナラ亜属	-	11	19
コナラ属アカガシ亜属	-	11	21
クリ属	-	1	1
シイ属	-	3	1
ニレ属ーケヤキ属	-	-	2
エノキ属 – ムクノキ属 ブドウ属	-	2 21	-
ウコギ科	-	1	-
ツツジ科	- -	1	_
カキノキ属	-	1	_
イボタノキ属	-	-	1
スイカズラ属	-	1	-
草本花粉			
ミクリ属	-	-	1
オモダカ属 ミズオオバコ属	-	2	7
イネ属	-	14	31
他のイネ科	- -	74	82
カヤツリグサ科	-	4	20
イボクサ属	-	1	-
ミズアオイ属	-	1	2
クワ科	-	2	-
サナエタデ節‐ウナギツカミ節	-	5	1
ソバ属	2	3	-
アカザ科 ナデシコ科	-	5 8	-
カラマツソウ属	-	-	1
キンポウゲ科	_	2	-
バラ科	-	4	-
カタバミ属	-	3	-
セリ科	-	1	-
ミツガシワ属	-	1	-
スズメウリ属	-	1	-
ヨモギ属 キク亜科	-	38 1	3 1
タンポポ亜科	1	8	1
不明花粉	1	0	
不明花粉	-	4	1
シダ類胞子			
他のシダ類胞子	72	31	23
合 計			
木本花粉	0	226	268
草本花粉	3	178	149
不明花粉 シダ類胞子	0 72	4 31	1 23
ング類胞子 合計(不明を除く)	72 75	435	23 440
ロロ[(人), (A)] で by フ]	10	400	440

第6表 花粉分析結果

検出されるイネ科花粉の表面 微細構造、発芽孔の肥厚状況、粒 径などの特徴から中村 (1974) を参 考にしてイネ属同定を実施する。 同定にはノマルスキー微分干渉 装置等を用いて、イネ属と他のイ ネ科に分類する。結果は同定・計 数結果の一覧表、及び花粉化石群 集の層位分布図として表示する。 図表中で複数の種類をハイフォ ンで結んだものは、種類間の区別 が困難なものを示す。図中の木本 花粉は木本花粉総数を、草本花 粉・シダ類胞子は総数から不明花 粉を除いた数をそれぞれ基数と して、百分率で出現率を算出し図 示する。

3-3. 結果

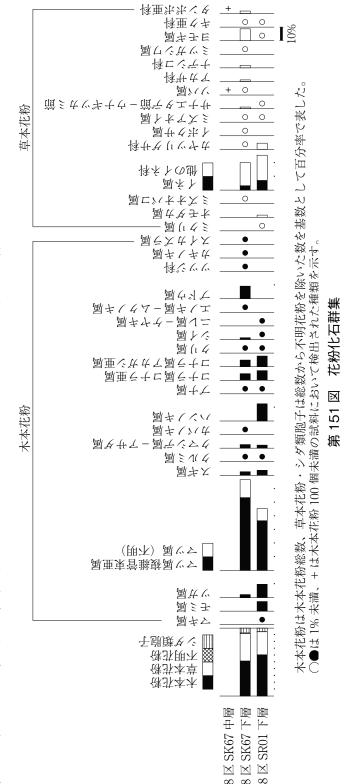
結果を第6表、第151図に示 す。營水中筋遺跡の分析残渣は少 なく、8区 SK67 中層出土試料は 痕跡程度、SK67下層、8区SR01 下層出土試料は50 μ1以下であ る。そのため、8 区 SK67 中層出 土試料は全ての残渣を検鏡する。 8区 SK67 中層はシダ類が比較的 多くみられるものの、花粉化石は ほとんど検出されない。保存状態 は全体的に悪い。8区 SK67 下層、 8区 SR01 下層の 2 点からはシダ 類胞子がほとんどみられず、花粉 化石が多数検出される。木本花粉 と草本花粉の比率は、木本花粉の 方がやや多い。保存状態は、堆積 物の推定時代相応である。木本花 粉は、マツ属(特に複維管束亜属) が多く、木本花粉全体の約半分を

占める。その他、モミ属、ツガ属、ハンノキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ブドウ属などを伴う。草本花粉はイネ科の割合が高く、その中に20~30%程度イネ属を含む。その他、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科などの草本花粉を伴う。その他栽培種として、ソバ属の花粉化石を含む。

3-4. 考察

分析の結果、花粉化石が豊富に産出したのは、8区 SK67下層、8区 SR01下層2点であり、8区 SK67中層では、花粉化石がほとんどみられない。花粉化石は好気的環境下による酸化に弱いことから(中村,1967)、これらの堆積物は、当時の地面が地下水位より低い湿地的環境下におかれていたわけでは無く、氾濫の際には水により堆積物がもたらされたものの、氾濫の間には乾燥していた時期もあったと考えられる。このような乾湿を繰り返す環境であったため、花粉化石が残りにくかったと思われる。

弥生~古墳時代の8区SR01下層および中世の8区SK67下層の花粉化石群集は、マツ属が多産と増加が特徴である。マツ属は痩地に強く、成長が早い陽樹であることから、土壌が発達しにくい尾根沿いや谷頭、崩壊地などに先駆的に侵入し二次林を較正する。本来、遺跡周辺の自然植生はシイやカシ類などの常緑広葉樹林である。このことは、讃岐地方の花粉分析結果をみてもこれらの花粉化石が多産していることからもわかる(松居ほか、2012)。一方、遺跡中心の山地は領家花崗岩類や瀬戸内火山岩類など火成岩を中心とした地層である。これらは風化すると脆く崩れやすいため(花崗岩の場合はマサ土と呼



ばれる)、一度表土流出が起こると土壌が発達しにくい。また、四国山地と中国山地にはさまれたこの地域は、日本でも雨量が少ない。このような地理的、地質学的背景から、開発によって山地が切り開かれた結果、マツ二次林が増加したが、遷移が進みにくいため、周辺の山地を中心にマツ林が維持された

と考えられる。マツ二次林は、現在でも遺跡周辺に普通にみられる森林である。その他、モミ属、ツガ属、ハンノキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ブドウ属などを伴う。これらの多くは、林縁や河川沿いなどに、明るい林地を作る種類である。マツ属同様、周囲が切り開かれたことによって増加したと考えられる。層位的には中世の層準でアカガシ亜属が減少し、マツ属が増加することから、弥生~古墳時代に比較して、人為的植生撹乱の影響は強まっていたことが推定される。草本花粉はイネ科の割合が高く、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科などを伴う。これらも開けた場所を好む種類であることから、開発によって裸地化した場所に先駆的に侵入し、草地(いわゆる雑草)を形成していたと思われる。また、栽培種であるイネ属が弥生~古墳時代・中世の層準から、ソバ属が中世の層準から産出することから、当該期に周辺において栽培されていた可能性がある。なお、8区 SR01 下層は弥生~古墳時代とされるが、組成が中世の花粉組成に類似しており、上位層からの花粉化石の混入などがないとすれば、弥生~古墳時代には既に二次林が拡がっていたことになる。この点については調査区の堆積層の累重状況や、発掘調査成果に基づく人間活動の動態を踏まえ、慎重に検討する必要がある。

4. 樹種同定

4-1. 試料

營水中筋遺跡の試料は、SF01、SF02、SK62 から出土した炭化材 3 点 (樹種 -7 ~ 9) である。これらは年代測定を実施する 3 点 (放射性炭素 -4 ~ 6) と同一個体である。

4-2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、 実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。 なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)や Richter 他(2006)を参考にする。

4-3. 結果

樹種同定結果を第7表に示す。炭化材は、全て針葉樹のマツ属複維管東亜属に同定された。解剖学的 特徴等を記す。

・マツ属複維管東亜属(Pinus subgen. Diploxylon) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急~やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成されるが、水平樹枝道とエピセリウム細胞は破損し、痕跡が空隙として残るのみ。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1~10細胞高。

試料番号	管理番号	地区	遺構	位置	層位	状態	種類
樹種-7	NYN2-F0010	8区	SF01	南西	4-5層	炭化材	マツ属複維管束亜属
樹種-8	NYN2-F0029	8区	SF02	北西	5層	炭化材	マツ属複維管束亜属
樹種-9	NYN2-X0145	11区	SK62	西半		炭化材	マツ属複維管束亜属

第7表 樹種同定結果

4-4. 考察

炭化材 3 点は、遺構内から出土し、炭化していることから、燃料材としての利用など、火を伴う用途に利用された可能性がある。年代測定の結果では、3 点の補正年代は 520 ± 20BP ~ 590 ± 20BP であり、近い時期に利用されたことが推定される。これらの炭化材は、全てマツ属複維管東亜属に同定された。マツ属複維管東亜属は、いわゆるニョウマツ類であり、四国ではアカマツとクロマツの 2 種が分布する。二次林や海岸砂丘等に生育する常緑高木で、木材は針葉樹としては重硬な部類に入り、強度と保存性が高い。また、松脂を多く含み、燃焼性が高い。材質を考慮すれば、燃料材として優良な複維管東亜属を意図的に利用している可能性もある。

5. 赤色顔料分析

5-1. 試料

分析対象は、土器に付着する赤色顔料である。赤色顔料-1~4が誉水中筋遺跡出土土器で、時期は赤色顔料-3が弥生時代中期で残りは古代とみられている。

5-2. 分析方法

実体顕微鏡下で、セロハンテープに赤色部分を極少量採取して分析試料とする。分析装置はエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type II を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50k $V\cdot 1$ mA のロジウムターゲット、X 線ビーム径が $100~\mu$ m または $10~\mu$ m、検出器は高純度 Si 検出器 (Xerophy) である。検出可能元素はナトリウム~ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、 $0.82\sim1.00mA$ (自動設定による)、ビーム径 $100~\mu$ m、測定時間 500s に設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP 法)による 半定量分析を装置付属ソフトで行う。さらに、蛍光 X 線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認する。

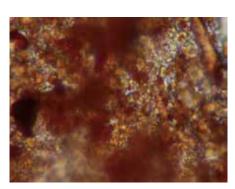
5-3. 結果

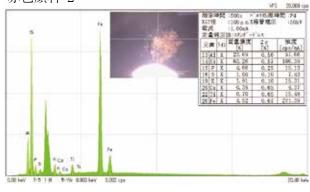
分析により得られたスペクトルおよび FP 法による半定量分析結果を第8表、第152 図に示す。赤色 顔料 $-1 \sim 4$ からは、ケイ素(Si)、アルミニウム(AI)等が主に検出され、他にリン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、鉄(Fe)等が検出された。また、生物顕微鏡観察により得られた画像も図に示したが、いずれの試料においても、赤色パイプ状の粒子は観察されなかった。

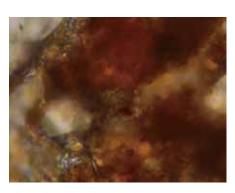
6-4. 考察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe2O3、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(III)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬,2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約 $1~\mu~m$ のパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており(岡田,1997)、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬,2004)。鉄バクテリア起源のパイプ

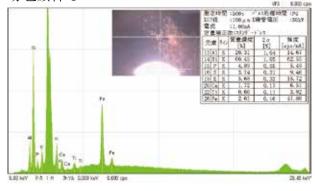
營水中筋遺跡(香川県教育委員会 2017年) 赤色顔料 -1 赤色顔料 -2

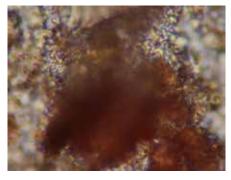




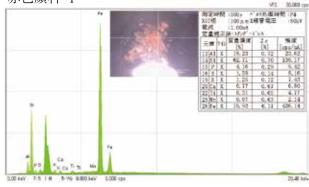


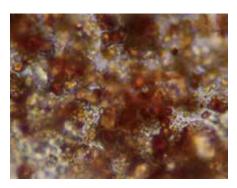
赤色顔料 -3





赤色顔料-4





----- 顕微鏡写真のスケール (10 μ m)

第 152 図 蛍光 X 線分析結果

試料番号	出土遺構	報文番号	器種	顔料付着位置	時期	顔料採取位置	主な検出元素	顔料種類
1	3 ⊠ SD44	1115	土師器・杯	内面	古代	口縁部内面	Si, Al, Fe	ベンガラ
2	3 ⊠ SD39	998	土師器・杯	内外面	古代	外面	Si, Al (Fe)	ベンガラ
3	4 区包含層	1194	弥生土器・甕	口縁部外面	弥生時代中期	口縁部外面	Si, Al (Fe)	ベンガラ
4	8 ⊠ SK55	401	土師器・皿	内外面	古代	内面	Si, Al, Fe	ベンガラ

第8表 蛍光X線分析結果

状粒子は、湿地などで採集できる。赤色顔料1~4は、いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が検出されており、赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。なお、いずれも鉄の含有量がそれほど多くなく、鉄化合物以外の不純物を多く含んでいるといえる。いずれも色調が褐色で、赤みはそれほど強くない。

引用文献

Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10,35 - 47.

安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理,42,73 ~ 88.

安藤一男・南雲 保, 1983, 埼玉県, 荒川低地沖積層のケイソウ. 日本歯科大学紀要, 241-249.

Cholnoky, B. J., 1968, Die Okolgie der Diatomeen in Binnen-Gewassern. Lehre. Desikachiary, T. V., (1987A) Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, Madras, Printed at TT. Maps & Publications Private Limited, 328, G. S. T. Road, Chromepet, Madras-600044. 1-10, Plates: 22-400A.

Desikachiary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, Madras, Printed at TT. Maps & Publications Private Limited, 328, G. S. T. Road, Chromepet, Madras-600044. 1-13, Plates: 401-621.

Erdtman G.,1952, Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I). Almqvist & Wiksells, 539p.

Erdtman G.,1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteriodophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II),147p.

藤木利之・小澤智生,2007,琉球列島産植物花粉図鑑.アクアコーラル企画,155p.

福島 博, 1950, 四万温泉の藻類植生. 植物誌, 25(8), 173-178.

Horst Lange-Bertalot., 2000, ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA: Annotated diatom micrographs. Witkowski, A., Horst Lange-Bertalot, Dittmer Metzeltin: Diatom Flora of Marine Coasts Volume 1. 219 plts. 4504 figs, 925 pgs.

Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.

Hustedt, F., 1937-1938, Systematische unt okologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I $\sim \mathbb{II}$. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.

Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 8450.

Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz, under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3. 816p.

伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 日本珪藻学誌, 6, 23-44.

小杉正人, 1986, 陸生珪藻による古環境の解析とその意義 - わが国への導入とその展望 - . 植生史研究, 1, 9-44.

Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1985, Naviculaceae. Bibliothyca Diatomologica, vol. 9, p. 250. Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1): 876p.

Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(2): 596p.

Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1990, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(3): 576p.

Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1991, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(4): 437p.

Lowe, R. L., 1974, Environmental requirements and pollution tolerance of fresh-water daitoms. In Environmental Monitaing Ser. EPA-670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center office of Res. Develop. U. S. Environ. Protect. Agency. cincinati. 1-344.

松居俊典・石塚正秀・此松昌彦 2012, 香川県綾川町ボーリングコアの花粉分析による最終氷期以降の古植生. 第四紀研究 5135-43.

三好教夫・藤木利之・木村裕子 ,2011, 日本産花粉図鑑 . 北海道大学出版会 ,824p.

中村 純,1974,イネ科花粉について,とくにイネ (Oryza sativa) を中心として.第四紀研究,13,187-193.

中村 純,1980,日本産花粉の標徴 I I(図版).大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13 集,91p.

成瀬正和,2004,正倉院宝物に用いられた無機顔料.正倉院紀要,26,宮内庁正倉院事務所,13-61.

岡田文男,1997,パイプ状ベンガラ粒子の復元. 日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集,38-39.

Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Haflidason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J. ,2013,IntCall3and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon ,55,1869–1887.

島倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態.大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p.

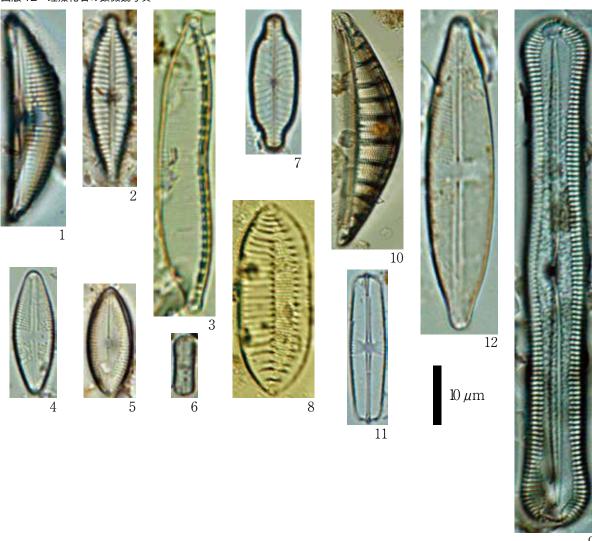
島地 謙·伊東隆夫,1982, 図説木材組織. 地球社,176p.

Stuiver Minze and Polach A Henry,1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon , 19, 355-363.

田中宏之・中島啓治,1985, 群馬県老神・奥平・梨木・嶺・赤久縄温泉及び福島県元温泉小屋温泉のケイソウ. 群馬県立博物館紀要, 1985(6), 1-22. 田中宏之,1987, 群馬県高崎市北部から発掘された古代水田の珪藻. 群馬県立歴史博物館紀要,8, 1-20.

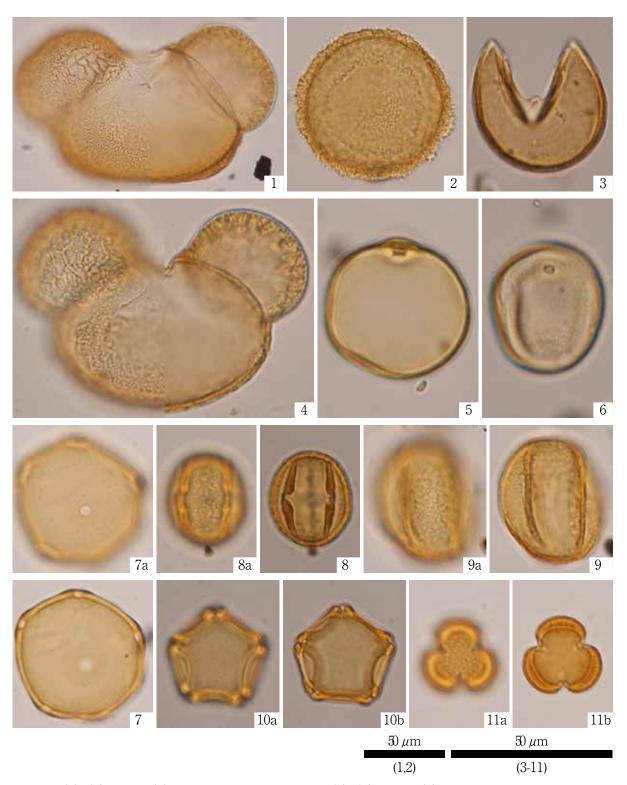
Van Landingham, S.L., 1970, Origin of an early non-Marine Diatomaceae Deposit in Broad water County, Montana, U. S. A.Diatomaceae II Nova Hedwigia Heft 31, p. 449-473.

図版 12 珪藻化石の顕微鏡写真



- 1. Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.) Van Heurck(8区,SR01,d層)
- 2. Gomphonema parvulun(Kuetz.) Kuetzing(8区,SK67,南壁22層)
- 3. Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow(8区,SK67,南壁16層)
- 4. Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann(8区,SK67,南壁16層)
- 5. Navicula confervacea (Kuetz.) Grunow(8区,SK67,南壁16層)
- 6. Navicula contenta Grunow(8区,SK67,南壁16層)
- 7. Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick(8区,SR01,d層)
- 8. Nitzschia levidensis var. victoriae (Grun.) Cholnoky(8区,SR01,d層)
- 9. Pinnularia acrosphaeria W.Smith(8区,SK67,南壁22層)
- 10. Rhopalodia gibberula (Ehr.) Mueller(8区,SR01,d層)
- 11. Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky(8区,SK67,南壁22層)
- 12. Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg(8区,SR01,d層)

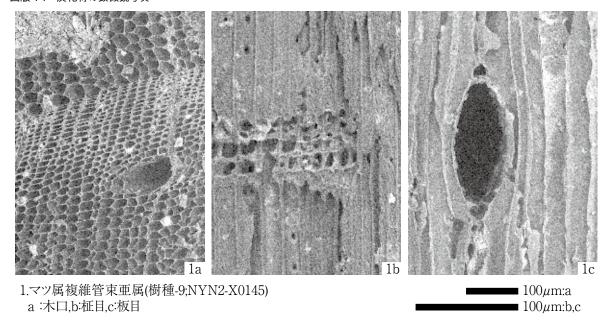
図版 13 花粉化石の顕微鏡写真



- 1. モミ属(8区 SR01 d層) 3. スギ属(8区 SR01 d層)
- 5. イネ属(8区 SR01 d層)
- 7. クルミ属(8区 SR01 d層) 9. コナラ亜属(8区 SR01 d層)
- 11. ヨモギ属(8区 SR01 d層)

- 2. ツガ属(8区 SR01 d層) 4. マツ属複維管束亜属(8区 SR01 d層)
- 6. 他のイネ科(8区 SR01 d層)
- 8. アカガシ亜属(8区 SR01 d層)
- 10. ハンノキ属(8区 SR01 d層)

図版 14 炭化材の顕微鏡写真



Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編) ,1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社 ,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

第3節 香川県東かがわ市の営水中筋遺跡から出土した銅鏡の鉛同位体比

別府大学文化財研究所 客員教授 平尾 良光

1. はじめに

香川県誉水中筋遺跡より出土した銅鏡に関して自然科学的な調査の依頼を受けた。本銅鏡に関して蛍光X線法で化学組成を測定し、鉛同位体比法を用いた材料の産地推定を行い、本資料の意義を自然科学的な側面から推定する。



写真3 銅鏡の写真

2. 資料

本銅鏡は香川県東かがわ市

中筋にある誉水中筋遺跡(よみずなかすじいせき)から出土した直径約11.5cmの和鏡(桜花双鳥鏡)である。 營水中筋遺跡からは弥生時代後期の河川跡や古代~中世の集落筋や土坑墓などが検出されている。本銅鏡は中世の遺構の中で、中国産青磁碗、白磁小壺などと共に、土壙墓ST01から出土している(図版37・38)。本銅鏡の写真は写真3で、X線写真は写真4で示される。

3. 化学組成の測定

資料に含まれる元素の検出と定量の方法には各種あるが、最近では蛍光 X 線分析法が簡便であり、文化財試料の測定に多用される(望月,1998)。

蛍光 X 線分析法とは測定したい試料に外部から X 線 (1次)を照射する。そうすると、試料に含まれる元素から蛍光 X 線 (2次)が発生する。この 2次 X 線の強度 (1本の X 線が持っているエネルギー)は元素毎に決まっているので、放出される蛍光 X 線の強度と数を測定することで、試料に含まれる元素の種類と濃度を判別できる。この場合、試料表面から測定するので、表面の元素組成(銹や偏析)に大いに影響される。しかし、文化財資料の一部を採取せずに、また比較的短い時間で元素の有無や大まかな割合を調査できるので、文化財試料の化学組

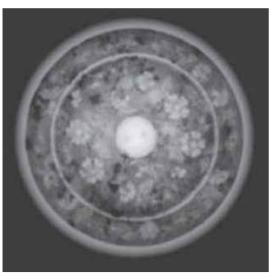
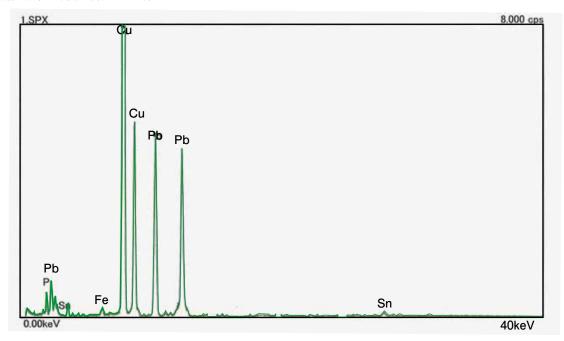


写真4 銅鏡のX線写真



写真5 蛍光 X 線測定点



第153図 銅鏡の蛍光 X線スペクトル

成の測定には有用である。今回、本研究で用いた蛍光X線分析装置の測定諸条件は次の通りである。

分析装置:堀場製作所 X G T -5000、測定時間:300 秒、励起電圧:50kV、測定電流:580 μ A、測定面積直径: ϕ 10 μ m である。本装置の検出元素は、 $Na \sim U$ であるが、 $Na \sim Ca$ 程度まであまり感度は良くない。

本資料に関する蛍光 X線の測定箇所を写真 5 で示し(白線の交点)、得られた蛍光 X線スペクトルを第 153 図で示す。この図から算出された元素濃度を第 9 表で示す。元素濃度は、FPM(スタンダードレス) (注1) により算出する。本法は、検量線法 (注2) による定量ではないので、正確な値とは異なると思われる。

FPM による化学組成は銅が51%、鉛が38%程度であり、スズが5%程度である。この測定では鉛が非常に多く見受けられるが、これは表面が錆に覆われており、金属部分ではなかったため鉛が多く測定されたと思われる。金属部分を測定した場合、鉛濃度は1/10位まで下がる可能性がある。しかし主成分は銅、スズ、鉛と見受けられる。

- 注1) FPM定量: Fundamental Parameter Method の略で、基礎パラメータ法のことをいう。
- 注2) 検量線法:目的元素の既知濃度の標準試料を用いて、濃度と測定強度との関係線を作成し、未知試料の測定強度から未知の濃度を求める方法のことである。

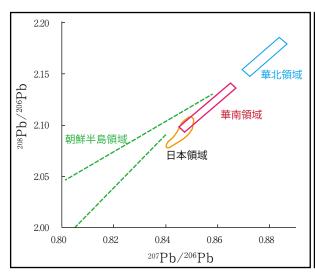
4. 鉛同位体測定

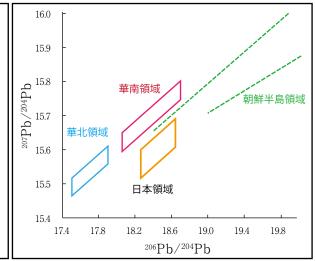
(1) 鉛同位体比の測定

鉛の同位体比から、含まれている鉛の産地を推定できる。産地の情報を得られることは資料の特徴を明らかにする上で、有用な情報である。

(2) 鉛同位体比法の原理

今までの研究(平山,2008a) で、鉛には重さが異なる同位体(204Pb,206Pb,207Pb,208Pb) が4種混在 していると示されている。その中で206Pb は238 U (238-ウラン)から、207Pb は235 U (235-ウラン)





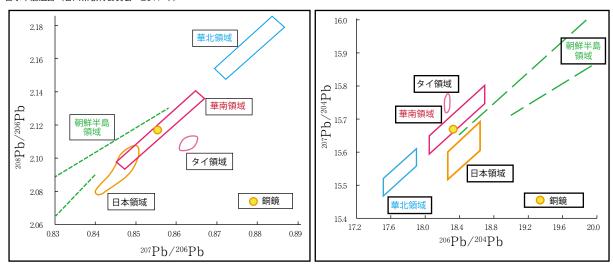
第 154 図 鉛同位体比を用いた産地推定の概念図 第 155 図 鉛同位体比を用いた産地推定の概念図 (B 式図)

から、208Pb は232Th(232トリウム)から生成される。ウラン・トリウム・鉛が共存していれば鉛の同位体はウラン・トリウムからの自然放射壊変で生成され、既にあった鉛に付加される。それ故地球が生まれて以来、岩石の中で鉛がウラン・トリウムと共存していると、これらウラン・トリウムが自然に原子核壊変して年々減少し、鉛の 206Pb,207Pb,208Pb の同位体が増加する。地球の歴史のあるときに、地殻変動などでこれら岩石から鉛が抽出されて鉛鉱物を生成すると、鉛同位体の量と比が定まる。この時点で鉛はウラン・トリウムから切り離されるので、鉛同位体の量と比はもう変化しない。各地域の鉛同位体比は鉛鉱物を作った岩石中の鉛、ウラン、トリウムの量比および地殻変動の時期が異なるので、鉛同位体比は各鉛鉱床でそれぞれ異なった値となる。東アジア地方では第154図(A式図:207Pb/206Pb-208Pb/206Pb、)と第155図(B式図:206Pb/204Pb - 207Pb/204Pb)で示されるような地域毎の領域に鉛が分布すると判っている。図にはそれぞれの地域が日本、朝鮮半島、中国華北、華南などとして示されている。未知資料の鉛同位体比を測定し、これらの図に載せた場合、両方の図で設定された同じ領域に含まれれば、その地域で生産された材料で作られている可能性が高いと示される。もちろん例外はある。また鉛同位体比の表現方法として各種あるが、第156図と第157図の方式で示されることが多いので、本報告でもこの方式で表現する。この原理を用いて鉛の同位体比から銅や鉛の生産地を推定する方法を鉛同位体比法と称している。

銅製品中には鉛が少量残存する場合がある。これは昔の銅精錬法では鉛を取り除きされなかったためと考えられる。また、銅製品を作る時に金属の性質(鋳造温度、硬さ)を変えるために、鉛とスズが主成分の一つとして人為的に加えられることがある。銅鏡の場合には意図的に鉛が加えられることが多い。鉛は各地域に割合に普遍的に存在しているため、銅鉱床の近くで採掘されることが多く、後から加えら

	²⁰⁶ Pb/ ²⁰⁴ Pb	²⁰⁷ Pb/ ²⁰⁴ Pb	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	²⁰⁸ Pb/ ²⁰⁶ Pb
同位体比	18.317	15.666	38.778	0.8553	2.1170
誤差範囲 (1σ)	± 0.010	± 0.010	± 0.030	± 0.0003	± 0.0006

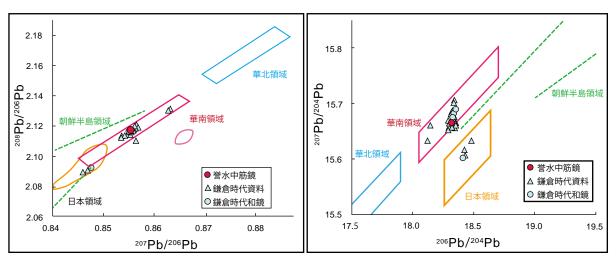
第9表 銅鏡の鉛同位体比値



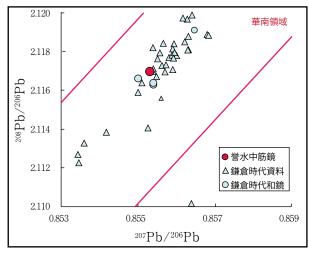
れた鉛でもその鉛同位体比は銅鉱床の生産地を示唆すると考えることができる。

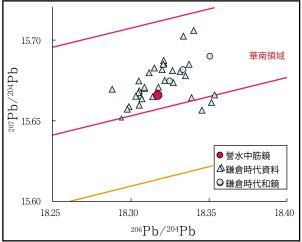
(3)調査方法

銅鏡製作に利用された金属材料の産地を推定するために鉛同位体比法を利用する。鉛同位体比測定のための試料は銅鏡本体の写真5で示される部分から採取する。本銅鏡の主成分は銅とスズと鉛なので、鉛同位体比を測定するために鉛を単離する必要がある。測定用に採取した微少量(10mg)の試料に次のような化学分離操作を行う。試料を石英製ビーカーに入れ、硝酸で溶解する。この溶液を蒸留水で希釈し、直流電圧2Vで電気分解する。鉛は二酸化鉛として陽極の白金電極上に析出するので、この電極を取り出して硝酸と過酸化水素水で表面の鉛を溶解する。この溶液の鉛濃度をICP法で測定し、0.2μgの鉛を分取する。この鉛にリン酸とシリカゲルを加えてレニウムフィラメント上に載せる。以上のように準備したフィラメントを日鉄住金テクノロジー社に設置されている質量分析計(Finnigan MAT262)の中にセットし、測定諸条件を整え、1200℃で鉛同位体比を測定する。測定値は同一条件で測定した標準鉛



第 158 図 菅水中筋遺跡から出土した銅鏡と鎌倉 第 159 図 菅水中筋遺跡から出土した銅鏡と鎌倉 時代資料が示す鉛同位体比(A 式図) 時代資料が示す鉛同位体比(B 式図)





第 160 図 第 158 図の拡大図(A 式図)

第 161 図 第 159 図の拡大図 (B 式図)

試料 NBS-SRM-981 で規格化する (平尾,1998;平尾・榎本,1999;平尾・馬淵,1989)。

(4) 結果と考察

測定された誉水中筋遺跡から出土した銅鏡の鉛同位体比値を第9表で示し、第156図と第157図で図示する。図から本資料はA式図で華南領域のほぼ中央に位置し、B式図で華南領域のほぼ中央に位置している。それ故、本資料には華南産材料が利用されていると推定される。

4. 考察

本資料はX線写真から判断して紋様がしっかりできていること、形態も良くできていること、化学組成が銅-スズ-鉛の合金であることなどからきちんとした製造過程で作られた和鏡と判断される。鉛同位体比から材料が華南産であることは鎌倉時代の典型的な資料と判断される。

鎌倉時代の資料として今までに40点ほどの鉛同位体比が測定されているので、それら資料と本銅鏡とを比較してみる。鎌倉時代の資料とは鎌倉大仏、大仏周辺発掘銅滓、鋳造遺跡からの銅滓、雲版、小仏像、架け仏、水瓶、脛当、銅鏡などである。それらとの比較図を第158図:第159図で示す(平尾,2013)。

第160 図と第161 図から、鎌倉時代資料の大部分は華南領域のかなり狭い領域に集中している。幾つかの資料は日本産材料領域に分布しているが、全体的に見ると日本産材料は少ない。平安時代には日本産材料が主流であったけれど、平安時代末期の1150年頃から華南産材料が急に増加していると今までの研究で示されている(平尾,2008b)。

鎌倉時代には日本における銅の生産が激減している故、日本における銅製品はそれまでに輸入された中国銭を鋳潰して作られていると考えられる。鎌倉大仏を初めとする各種資料がかなり類似した鉛同位体比を示していることは多数の中国銭を混合して鋳潰していると考えることができる。誉水中筋遺跡出土の本銅鏡は鉛同位体比からみると、これら銅製品の中心にあるため、この時代の典型的な試料の一つと考えることができる。

銅鏡だけで考えると、この時代の和鏡は今までに4面が測定されている。4面は1面が日本産材料領域に、後の3面が華南領域の本資料の近くに分布はしている。第158図と第159図ではわかりにくいので、第160図と第161図に拡大してみる。これらの図で示されるように3面は誉水中筋銅鏡の近傍に分布しており、鉛同位体比値は相互に極めて良く似た値を示している。

營水中筋遺跡(香川県教育委員会 2017年)

中国の銅銭を鋳潰して銅鏡を製作したと推測すると、鉛同位体比は銅銭の平均的な値となるので、銅鏡に限らずこの時代の資料はかなりよく似た鉛同位体比値を示すと推測される。

これら類似した値を示す4面(既知の3面と本資料)が同一場所で製作されたのか、異なる場所で製作されたのかは次の問題点であるが、銅銭を鋳潰したことを考えると、どちらの可能性もありえる。

今までに測定された銅鏡で華南領域に位置する資料は福井県深山寺経塚から2面(清永,2001)、茨木県前田村遺跡から出土した1面である(平尾ほか、1999)。これら銅鏡と今回の誉水中筋遺跡とはその出土地が地理的にかなり離れているので、関連性があるのかどうかはよくわからない。鏡裏の紋様や大きさ、形態などを比較することで見えてくるかもしれないが、今後の問題点であろう。

なお、日本産材料領域に位置している1面は茨木県下高井向原遺跡出土の銅鏡であり、年代は11世紀末—12世紀前と推定されている(平尾・木村,1998)。それ故、平安時代後期の製作とはいっても日本産材料がまだ残っていたのかもしれない。

引用・参考文献

香川県埋蔵文化財センター,2009,香川県埋蔵文化財センター年報 平成20年度

望月明彦,1998, 黒耀石の原産地を推定する蛍光X線分析法, 「石器・土器・装飾品を探る」『文化財を 探る科学の眼 -2』, 平尾良光・山岸良二編、国土社 (東京), p15-20

平尾良光,1998,鉛同位体比法,「青銅鏡・銅鐸・鉄剣を探る」『文化財を探る科学の眼 - 3』,平尾良光・ 山岸良二編,国土社(東京),p13-19

平尾良光,2008a, 鉛同位体比法の応用-歴史資料の産地推定-, RADIOISOTOPES 57, p709-721.

平尾良光,2008b, 材料が語る中世ー鉛同位体比測定からみた経筒-,「経筒が語る中世の世界」,文化財 研究所企画シリーズ - 1,共編: 小田富士雄,平尾良光,飯沼賢司,p 21-33

平尾良光,2013,「鉛」から見える世界,『文化財学へのいざない(平尾良光先生古稀記念論集)』,

p25-108

平尾良光, 榎本淳子,1999,古代日本青銅器の鉛同位体比, 『古代青銅の流通と鋳造』, 平尾良光編, 鶴山 堂(東京), p29-41

平尾良光, 馬淵久夫,1989, 表面電離型固体質量分析計 VG-Sector の規格化について, 保存科学 28, 17.24

平尾良光,早川泰弘,榎本淳子,1999,前田村遺跡から出土した和鏡の自然科学的研究,「伊奈・谷和原 丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4,前田村遺跡 G・H・I 区 (下巻)」,『茨城 県・茨城県教育財団編,茨城県教育財団文化財調査報告書,第146集』,p883-896

平尾良光, 木村直子,1998,三反田下高井遺跡出土の金属環の蛍光 X線分析,『一般国道 6 号東水戸道路 改築工事地内埋蔵文化財調 查報告書 IV 三反田下高井遺跡』, 茨城県教育財団文化財調査報告書第

128 集, 建設省·茨城県教育財団編, p788-790

清水梨代,2001, 奈良大学文学部文化財学科修士論文

第4節 樹種同定

株式会社イビソク

1 試料と方法

試料は、ST01 和鏡の下より出土した、板材(**632**)である。分析に際しては、切片採取前に木取りの確認を行った。生材の樹種同定では、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柾目)について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて $40 \sim 1000$ 倍で検鏡および写真撮影を行った。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

2 結果

表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

・モミ属 Abies マツ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。 放射柔細胞の分野壁孔は、小型のスギ型で1分野に1~4個存在する。放射柔細胞の壁が厚く、じゅず 状末端壁を有する。放射組織は単列の同性放射組織型を示す。

以上の特徴より、モミ属に同定される。日本に自生するモミ属は5種であり、温帯性のモミ以外に亜 寒帯性のウラジロモミ、トドマツ、シラビソ、オオシラビソがある。常緑高木で高さ45m、径1.5mに 達する。材は保存性が低く軽軟であるが、現在では多用される。

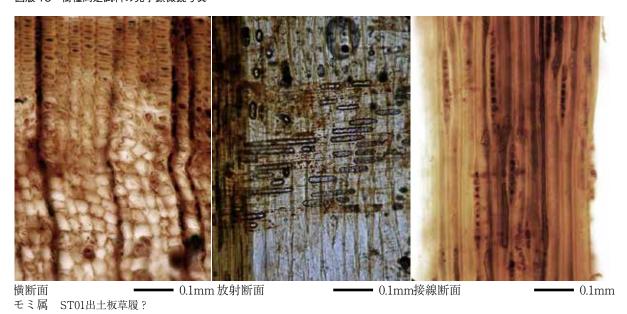
3 所見

同定の結果、本試料はモミ属であった。器種は曲物底板とされているが、材の表面に藁が残存していることや形状などから板草履の一部である可能性が考えられる。板草履には台部が1枚板からなるものと、2枚の半楕円形の板からなるものがある。後者は紐で板同士を合わせるための孔があり、本試料にも器体の先端部には類似した小さな孔が見られた。なお、板草履の用材にはスギやヒノキ科などの針葉樹が多用される。モミ属の板草履は宮城県の下飯田遺跡 (鎌倉時代~江戸時代初期) や中在家南遺跡 (平安時代) で出土例がある。モミ属は耐朽性・保存性が低いが、軽軟で加工が容易な材である。また、割裂しやすく板状の材を得やすいため、板草履の用材としてモミ属が用いられたと考えられる。なお、モミ属には温帯性と亜寒帯性の樹種があるが、本試料は温帯性のモミと考えられ、地域的な用材または流通によってもたらされたと考えられる。

技術協力:(社団) 文化財科学研究センター

營水中筋遺跡(香川県教育委員会 2017年)

図版 15 樹種同定試料の光学顕微鏡写真



第5章 まとめ

第1節 遺構の変遷

1 弥生時代~古墳時代

中世第3遺構面のベースとなる SR01 が、当該期に埋没する。 ほぼ調査地全域において、流路堆積が確認される。突帯文期~ 弥生時代前期中葉、弥生時代中期中葉、弥生時代後期後半~古 墳時代前期前葉、古墳時代中期前葉~中葉、6世紀末~7世紀 前半といった複数時期の資料が出土しているが、層位的に取り 上げにやや課題があり、流路堆積の詳細は不明である。しかし、 弥生時代後期後半~古墳時代前期前葉の資料が主体を占め、当 該期に埋積の中心があったと考えられる。また、出土した遺物 の状態より、周辺に当該期の集落等が所在した可能性は高いと 考えられる。

その後、流路堆積上面の比較的浅い位置で、滑石製有孔円盤や臼玉といった祭祀具が出土していることからすると、埋没の進行した流路に残された浅い低地部分で、そうした祭祀行為が実践されたのであろう。出土遺物より、7世紀中葉には概ね埋没は完了し、遺跡周辺は平準化していた可能性が考えられる。

また、下層の土壌について、花粉分析を実施した。分析の詳細は前章に譲るが、マツ属が多く検出され、周辺山野の林産資源の開発により、常緑広葉樹林が伐採され、マツの二次林が形成されたと考えられる。こうした植生の変化は、仲戸東遺跡や仲戸遺跡での分析の成果と一致し(香川県教育委員会 2016)、湊川・与田川流域の里山が、弥生時代後期以降に大きく開発され、利用されたことを示していよう。一方草本花粉ではイネ属が多産し、SR01では確認されなかったが、遺跡周辺で水田が広く展開していた可能性が考えられる。

2 中世

由世丁期

第3遺構面で検出した、SD29 とSD32を当該期の遺構と考える。両溝以外にも、流路方向が後述する中世 II 期の建物主軸と大きく異なる SD02 \cdot 03 \cdot 23 等、当該期の遺構である可能性が想定されるが、遺物が乏しいことと、遺構面を区別して調査が行われていないため、断定することはできない。

出土遺物より、SD32 は11世紀代に遡り、SD29 は12世紀後半~末の時期を想定する。当該期と考えられる遺構は溝に限られ、また遺物も少量しか出土しておらず、周辺に屋敷地等の居住空間が所在した可能性は乏しいと考えられる。各溝は用・排水路としての機能が想定され、おそらくSD32が埋没過程にある11世紀代には、周辺が耕地として開発されていた可能性を示唆するものと考える。

当該期は、本地域の平野部で河床変動による土地利用に大き

な変化がみられる時期であり (高橋 1992)、こうした新たな耕地の開発は、新規の灌漑システムの成立を背景としている可能性が考えられる。

中世Ⅱ期

本遺跡で最も多くの遺構が残された時期で、第2遺構面の遺構を当該期の遺構とする。出土遺物より、12世紀末~14世紀後半を当該期の遺構の時期とし、建物の変遷を基準に、後述するように大きく4段階の変遷を想定する。中世 I 期の SD29 を埋め戻し、遺跡周辺を盛土等により広く整地して、屋敷地が整備されたと考えられる。

当該期は、第2章に既述したように、与田寺の堂宇の整備期 に近く、本屋敷地の成立に与田寺との関係が強く想定されるが、 この点は今後の課題としたい。

中世 I - 1期

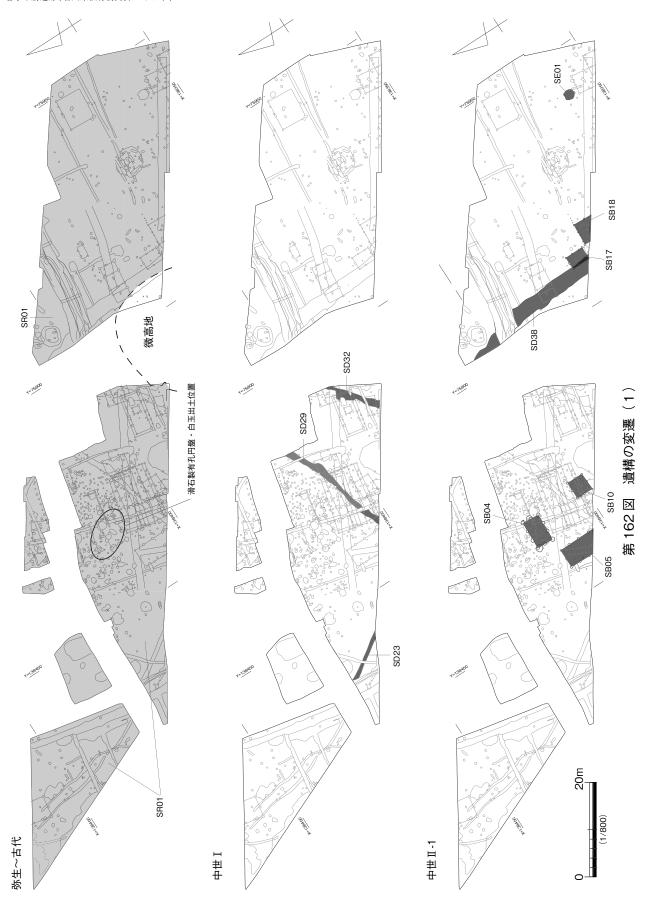
概ね正方位に配された建物を指標とする。SB04・05・10・17・18 があり、8・10 区周辺のSB04・05・10 と、1 区のSB17・18 の大きく2つの建物群に分かれる。両建物群の間には、概ね同時期に開削・埋没したと考えられる南北区画溝 SD38 が配されており、屋敷地が東西に2分されていた可能性が考えられる。後述するII-3期に明確化する屋敷地の配置より、東側屋敷地をA区、西側屋敷地をB区とする。出土遺物より、12世紀末~13世紀前葉を中心とする時期を想定する。

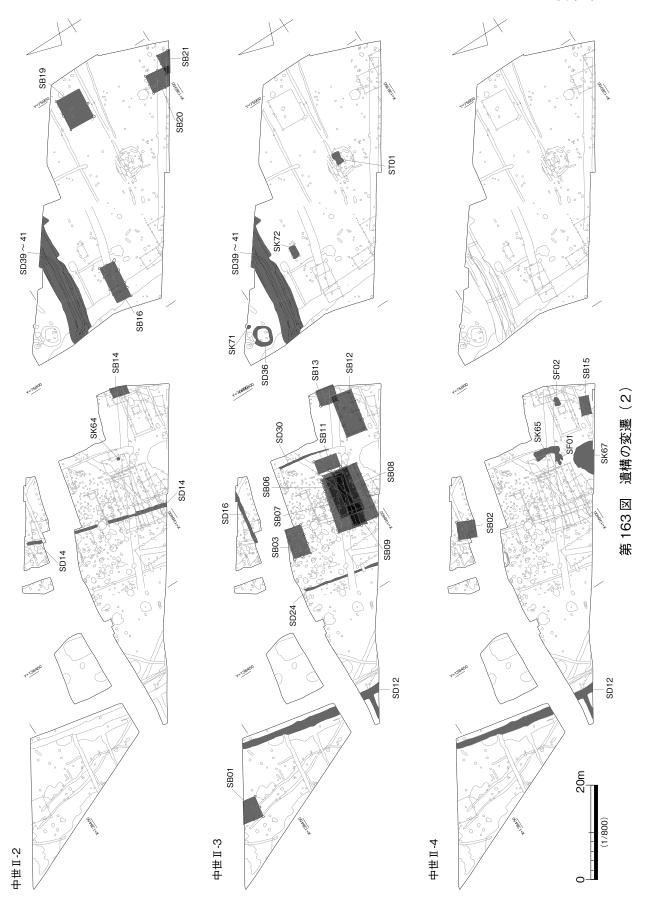
A区屋敷地には、B区屋敷地にはない井戸SE01が伴う。検 出された建物遺構は乏しいが、日常生活を営む空間として機能 した可能性が高い。

中世Ⅱ-2期

北より6~8°東偏する建物 SB14·16·19~21 を基準とする。遺跡周辺の条里型地割の方向と概ね合致するが、それを意識して屋敷地割が決定されたかどうかは不詳である。後述するように、まもなく $10\sim15$ °東偏する建物群により屋敷地割が改変されていることからすると、周辺地割を意識した可能性に乏しいといえよう。出土遺物より、13世紀前半の時期を想定する。

建物は、11 区東端から 1 ~ 4 区の遺跡東半部に偏在し、SD38 は当該期には埋め戻される。一方で、SD38 に後出する 3 区 SD39 ~ 44 の東西溝群は、その西延長部が 8 ~ 11 区で確認されず、11 区と 1 · 3 区との間の未調査部(市道部分)に、東西溝群が取り付く南北溝(SD38 の後継溝の可能性が想定される)が、開削されていた可能性が高い。つまり、A区とB区を隔てる区画溝は、位置をやや西へ移動させて、当該期にも継続していた可能性が想定される。また、建物群からはやや距離があるが、SD14 がB区屋敷地西限の区画溝と考えられ、B区屋敷地がさらに東西に分割された可能性が考えられる。SD14 以西の土地利用については不明ながら、時期を特定できていない





營水中筋遺跡(香川県教育委員会 2017年)

遺構も多く、用途は明らかにはできないものの、当該期には屋 敷地に取り込まれていた可能性は高いと判断する。

なお、SD38 をはじめ、後出する SD39 や SD42 からは、多量の鉄滓や砥石、鉄器片が出土した。鉄滓については、前章での分析の結果、いずれも鍛錬鍛冶滓であることが明らかとなった。これら溝付近で、鉄鍛冶作業がなされていた可能性が高く、A区は鍛冶工房として利用されていたと考えられる。

中世 I - 3期

概ね北より $10\sim15^\circ$ 東偏する建物 $SB01\cdot03\cdot06\sim09\cdot11\sim13$ を基準とする。出土遺物より、13 世紀中葉~14 世紀前葉に位置付けられる。当該期には、屋敷地主屋と考える 3 棟の大型建物 $SB06\sim08$ を含み、さらにこれら 3 棟の建物に重複する SB09 を含め、 $SB07\to SB08\to SB09$ の変遷が想定され、当該期は 4 小期 ($\mathbb{I}-3$ a $\sim\mathbb{I}-3$ d 期) に細分されると考える。 $SB01\cdot11\cdot12$ が $\mathbb{I}-3$ a \sim b 期に、 $SB03\cdot13$ が $\mathbb{I}-3$ c \sim d 期にそれぞれ位置付けられると考えるが、その他の遺構を含め、細かな変遷は留保したい。

 $SD39 \sim 44$ の東西溝群は本期にも継続し、A区とB区を隔てる区画溝も維持されたと考えられる。また、検出された建物は、 $5 \sim 11$ 区の調査区東半に展開し、B区屋敷地西端の区画溝SD14 は廃され、より西に新たに南北溝SD12 が開削され、B区屋敷地は再編される。つまり、SD12 の西に SB01 が配され、新たにC区屋敷地が造成される。本期において、もっとも集約化された屋敷地の利用が伺える。

なお、A区屋敷地東西溝 SD39~44 は、位置を踏襲してほぼ 同規模とみられる数条の溝が開削され、各溝は流水堆積で埋没していること、出土遺物より本期にかけての継続的な利用が想 定されることから、区画溝として重要な位置を占めていたと考えられる。また、堆積物の内容からは、谷川等の自然水路に直接つながっていた可能性があり、用水路としての機能も想定される。

各区画溝の規模は、検出面幅 $1.5 \sim 3.2 \,\mathrm{m}$ 、残存深 $0.3 \sim 1.6 \,\mathrm{m}$ を測り、溝により差異は大きいものの、屋敷地内部の区画といった性格もあり、遮蔽や防御的な機能をそこに見出すには至らない。今回の調査では検出に至らなかったが、仮に屋敷地全体を囲繞する区画溝が存在するのであれば、これらよりは規模の大きな溝の可能性が想定され、屋敷地に居館的な性格も与えられよう。今後の課題としておきたい。

屋敷地の主要な区画は、主屋と考えられる SB06 ~ 08 の所在する B 区で、東西約 80 m (3/4 町)、南北 30 m以上のやや広大な敷地を占有する。後節で、屋敷地の居住者を有力名主層と推定するが、屋敷地面積や建物規模はそれと矛盾しないだろう。 A 区には建物遺構は認められず、屋敷墓 ST01 や、後節で火化遺構と推定する SK71、それに伴う火葬塚と考えられる SD36 があり、葬送空間として利用されていたと考えられる。東西区画

溝 $SD39 \sim 44$ により南北の区画に細分され、北には火葬関連施設が、南には土葬墓がそれぞれ所在し、葬制により敷地の利用が、さらに区分されていたようだ。 C 区は調査された面積が狭小だが、建物を構成する柱穴は少なく、現状で SB01 が 1 棟配されるにすぎない。区画により、明確な機能差が想定される。

さらに、居住エリアであるB区は、南北に走向する小溝 SD24・30により少なくとも東西長約27 m (1/4 町) を単位とする3小区画に等分されていたと考えられ、東より順にB1~B3区と呼称しよう。B1区には、仏堂の可能性を想定した四面庇建物 SB12 があり、宗教空間として利用されていた可能性が考えられる。B2区は、主屋を含む数棟の建物が検出され、屋敷地居住者の生活空間と考えられる。B3区にも建物遺構は認められず、いくつかの土坑が掘られているのみで、区画の用途は断定できないが、屋敷畑等に利用されていた可能性が想定される。

遺物の面では、C区からは在地産の土師質土器類を中心に少量の白磁や青磁の碗が伴うのに対して、A・Bでは、多彩な輸入磁器や国産陶器が出土しており、量的にも多い。調査面積の点から一概には比較できないが、C区に対してA・B区の優位は認めてよいだろう。

中世Ⅱ-4期

北より22~25°東偏する建物SB02・15を指標とする。建物数は大きく減少し、大型建物もみられず、調査区周辺は屋敷地の主要な機能を喪失したとみられる。出土遺物より、14世紀中葉~後半を想定する。大型土坑SK65は、本時期に埋め戻され、水溜状遺構としたSK67や区画溝SD12は、当該期には機能を喪失して埋没の途上にある。II - 3期に主屋が設けられたB2区には、燃焼遺構の可能性が想定されるSF01・02や、炭化材等の廃棄土坑SK62等が設置され、SK67からはフイゴの羽口や鉄器片、砥石が多数出土するなど、B2区が鍛冶関連等の作業スペースとして利用された可能性が考えられる。主屋等の移動に伴う居住エリアの変更は、敷地の機能の変更に起因するものと考えられる

なお、本期を最後に調査区内で遺構・遺物は認められなくなり、屋敷地そのものが移動した可能性が考えられる。その具体的な背景は不詳ながら、当該期は第2章に既述したように、与田寺中興と考えられる増吽の活動期とも合致しており、その成立の当初より与田寺の動向と密接な関係をもって、本屋敷地が経営されてきた可能性が考えられる。

3 近世

当該期の遺構は、SD19・27の2条の溝を確認したにとどまる。遺構出土遺物からは、詳細な時期を特定するまでには至ら

なかったが、検出層位より近世後半期の可能性が想定される。 検出面幅 $0.2 \sim 0.4 \, \mathrm{m}$ の小規模な溝であり、耕地の筆界に伴う溝 と考えられ、当該期には調査地は広く耕地として利用されてい たと考えられる。

第2節 東四国地域における古代~中世墓の検討

1 はじめに

第3章で既述したように、本遺跡において中世の木棺墓1基(ST01)と火葬塚と考えられる方形周溝状遺構1基(SD36)、火化遺構の可能性のある礫敷の焼土坑1基(SK71)を確認した。同一遺跡内において、こうした多彩な埋葬に関わる遺構が検出された例は本地域では稀有であり、木棺墓からは和鏡が出土するなど、副葬品にも注目されるものがあった。小稿では、まず東四国地域を中心に古代から中世の埋葬遺構について集成し、本遺跡で検出された上記中世墓との比較検討をおこない、その史的位置付けを明らかにすることを目的とする。

2 資料と方法

小稿で扱う資料は、主に四国北東部地域(讃岐・阿波)で検出された8世紀から16世紀の埋葬遺構を中心とする。また分析資料は、発掘調査により検出された資料を中心とし、正式の調査に依らない資料についても、比較的内容の明らかなものについては積極的に採用する。

小稿で扱う葬法(埋葬遺構)は、考古学的調査によって実証的に説明可能な遺体処理方法(施設)に限定し、水葬や林(風)葬(井之口1979)、本地域では検出例はないが遺棄葬はとりあえず検討から外しておきたい (誰1)。また、土葬墓については、①火葬に付されていない人骨が埋葬状態を伴って出土したもの、②人骨の遺存は認められないが、棺等の存在により、土葬による埋葬施設と判断されるもの、③人骨・埋葬施設は不明ながら、帰納的に副葬品と考えられる遺物が出土しているもののうち、いずれかに該当するものを土葬墓と判断する。したがって、墓壙とされる土坑掘り方の形状のみから、しばしば土壙墓として報告されているものは除外する (誰2)。おそらく、その中には埋葬施設であるものが相当数含まれているかもしれないが、より厳密に遺構の性格を選別することで、不要なノイズの紛れ込みを抑えることとしたい。

また、火葬については、「遺骸を火に付し(荼毘)、骨化し、その骨を集約して(拾骨)、遺骨を種々の形態でまつる葬法」(小林 2009)を指す。したがって、明確な拾骨を伴わない火葬骨が出土した遺構は、火葬墓としては扱わない。これらはしばしば、本遺跡 SK71 にみられるように、床面等に被熱痕が認められ、埋土に炭や焼土が多量に含まれている。これらの遺構について

は、火化遺構の可能性を想定し(高野 1997)、後に検討を加えることとしたい。

小稿においては、まず火葬と土葬に大別する。その上で、各々の墳墓遺構を、その有する諸属性により分類し、各属性の時期的推移、各属性間の比較検討を行う。火葬墓の属性分類については、小田裕樹の古代火葬墓の分類案(小田 2011)を用い、中世の火葬墓について、小田の分類案に該当しないものについては、煩雑だが文中で記述する。土葬墓についても、新たに検討を加える。その後、両葬制をまとめて、本地域における当該期の埋葬遺構の特徴について整理を行い、さらに先学の諸研究を参照して、他地域との比較や、各時期における造営主体の階層性や地域性など、特質についても明らかにし、本遺跡で検出された中世墓について、地域史のなかに位置付けていくこととする

3 古代の火葬墓

香川県下の古代の火葬墓については、佐藤竜馬により集成的研究が既に公表されており(佐藤 1993)、以後の調査例を追加しても、全体的な傾向に大きな変更を認める必要はない。第10表に示したように、現在までに香川県で42例、徳島県で11例が報告されている^(議3)。

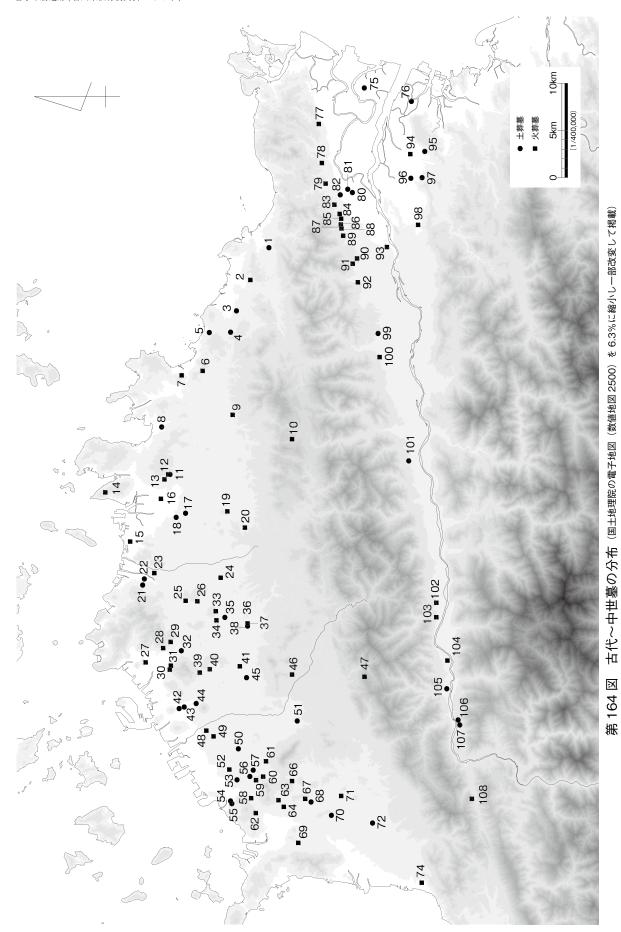
また、後期古墳の横穴式石室周辺より、古代~中世の完形若しくはそれに近く復元される壺等の遺物がしばしば出土する(例えば、香川県安造田東3号墳(満濃町教委1991)や同久本古墳(高松市教育委員会2004)、同神越5号墳(東かがわ市教育委員会2006)、北山八坂古墳2号石室(長尾町教育委員会1997)など)。これらは石室再利用時の遺物と考えられ、骨蔵器である可能性も考えられる。しかし、仮に骨蔵器であっても、埋葬時の原位置のまま出土した例に乏しく、骨蔵器と報告されている資料は皆無に近い。今回の検討からは外したが、類例を調査して再評価する必要があり、今後の課題としたい。

さて、古代の火葬墓は、概ね8世紀初頭~中葉の猫坂古墓を嚆矢として、8世紀後半にピークを迎え、9世紀には早くも減少に転じ、「10世紀には顕著な衰退期」に入る(佐藤 1993)。以後、中世を通じて火葬墓の築造は継続するが、その築造数は14世紀頃までは低調なまま推移するようである。

4 古代の火葬墓の具体像

本地域の古代の火葬墓は、基本的に居住地から隔絶した丘陵上に単独で立地するものが多く、香川県善通寺市の筆の山南麓古墓群や、三豊市高瀬町の火上山南麓古墓群、徳島県板野郡周辺の讃岐山脈南麓の古墓群等 (註4) のように、一定エリアに複数の火葬墓が営まれていても、尾根を共有して近接して造墓するものはない。平地に立地するものを含めても、単独築造であることは変わりがない。

この点は、本地域での6世紀後半以降の径20mクラス以上の首長墓墳の立地と、極めてよく似た状況を呈している。石



-196-

番号	遺跡名	遺構名	所在地	立地	外表施設	内部構造	蔵骨器	副葬品	時期	備考	文献
-	山ノ神	X2 117-12	さぬき市大川町富田中	丘陵上	7130,000	1 1001117/05	C- ii	муэгин	8世紀中葉	VIN S	佐藤 1993
7	岩崎山火葬墓		さぬき市津田町津田	丘陵上	なし	土器被覆	C- iii	なし	10世紀		さぬき市教委 2009
10	小蓑		木田郡三木町小蓑	ILIX.I.			C- iv	C	8世紀後半	詳細な出土地は不明。	佐藤 1993
	伝前田付近		高松市前田西町				C- ii		9世紀前半	詳細な出土地は不明。	佐藤 1993
13	久米池南		高松市新田町	丘陵上	なし	素掘土坑	C- iv	なし	10世紀前半	墓壙上面は板石で蓋をしていた。	高松市教委 1989
19	上佐山		高松市池田町	111100-11	8 0	3K 9M-15-76	C- ii		9世紀後半	詳細な出土地は不明。	佐藤 1993
20	神内		高松市西植田町神内				C- ii	なし	8世紀中葉	H1794 00 14111200100-1 750	佐藤 1993
24	上新開塚		高松市岡本町上新開	台地上	なし	石組	C- ii	なし	8世紀中葉		香川県教委 2014
		石組遺構	高松市国分寺町福家	丘陵上	なし	石組	C- iv	なし	8世紀中葉		香川県教委 1997
26	北谷		高松市国分寺町福家	丘陵上	なし	素掘土坑?	C- iv	金 属 製 鑷子? 1 · 貝設2		口縁部は土師質土器皿?で蓋をし、 墓壙底に敷かれた板石の上に、口縁 部を下にして埋置されていた。	寺田 1941・蔵本 2005
27	塩口茶山		坂出市高屋町塩口	丘陵上	なし	素掘土坑	C- iv	なし	11 世紀後半	口縁部は灰土状のもので、蓋をされ ていたようだが、詳細は不明。	
28	神谷川北		坂出市神谷町川北	丘陵上		素掘土坑	C- iv	なし	11 世紀後葉	五花鏡もしくは六花鏡で蓋をしてい たとされるが、鏡は現存しない。	
30	金山三ツ松		坂出市江尻町	丘陵上		素掘土坑	C- iv	なし	12世紀前葉	墓壙底に板石を敷き、口縁部を下に 埋められていたとされる。	(
	西福寺		坂出市府中町西福寺	r- 69- 1		4-10 t tr	0	A.1	8世紀後半?	鋼銭 (万年通寶・神功開寶等)	佐藤 1993
33	日原		綾歌郡綾川町陶 	丘陵上		素掘土坑	C- ii	なし	8世紀後半	**************************************	同志社大学 1971 · 佐藤 1993
34	陶付近 悪土田 紫は	OW CI	綾歌郡綾川町陶 徐歌郡綾川町山田丁	777 14		4-10 t tr	C- ii	A.1	9世紀後半	詳細な出土地は不明。	佐藤 1993
38	西末則遺跡	STa01	綾歌郡綾川町山田下 + 4 + 4 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 - 5 -	平地		素掘土坑	C- ii	なし	8世紀中葉		香川県教委 2005
39	額		丸亀市飯山町東坂元	丘陵上	<i>a</i> .1	素掘土坑	C- iv	なし	10世紀前半		大山 1988・佐藤 1993
40	快天山古墳	火葬墓	丸亀市綾歌町富熊 丸亀市綾歌町栗熊	丘陵上	なしなし	土器被覆	C- iii C- iv	なし 八稜鏡1・ 土師器杯4	8世紀後半 10世紀後半~ 11世紀前半	八稜鏡は火葬墓から遊離して出土し ており、確実に副葬品とは断定でき	佐藤 1993 綾歌町教委 2004
								工加州4477、4		ない	
46	炭所		仲多度郡まんのう町炭所				C- iii		8世紀	詳細な出土地は不明。	佐藤 1993
49	郡家田代遺跡	ST01	丸亀市郡家町大林上	平地	なし	素掘土坑	C- ii	なし	9世紀前半		香川県教委 1996
52	金蔵寺		善通寺市金蔵寺町金蔵寺	平地			C- iv		8世紀中葉	詳細な出土地は不明。	佐藤 · 19891993
58	三反畑		善通寺市吉原町西碑殿	丘陵上			C- iv		8世紀?		佐藤 1993
59	筆岡		善通寺市弘田町筆山	丘陵上			C- ii	なし?	9世紀前半		寺田 1938·佐藤 1993
60	平谷		善通寺市善通寺町平谷	丘陵上			C- ii		8~9世紀?		寺田 1938·佐藤 1993
60	カンチンバエ		善通寺市善通寺町平谷	丘陵上		素掘土坑?	A	なし?	8世紀後半		寺田 1938・藤森 1941・佐藤 1993
60	鴨坂		善通寺市善通寺町	丘陵上			C- ii		8世紀中葉		佐藤 1989・1993
60	兼谷		善通寺市善通寺町兼谷	丘陵上		石組	C- ii	なし	8世紀後半		寺田 1938·佐藤 1993
	鶴ヶ峰		善通寺市生野町八丁原	丘陵上			C- ii		9世紀前半	詳細な出土地は不明。	佐藤 1989・1993
61	磨臼山		善通寺市生野町小原	丘陵上			C- ii		8~9世紀?	詳細な出土地は不明。	寺田 1939 · 佐藤 1989 · 1993
62	深尾		三豊市三野町大見	丘陵上		石組	C- ii ?	なし	8~9世紀?		寺田 1938·佐藤 1993
63	大荒		三豊市高瀬町音田平見	丘陵上		素掘土坑	C- ii	隆平永寶 40	9世紀初頭		寺田 1938·佐藤 1993
63	しゃしゃぶ谷		三豊市高瀬町上高瀬	丘陵上					8~9世紀?		寺田 1938·佐藤 1993
64	猫坂		三豊市高瀬町上高瀬	丘陵上		土器被覆	A	銅板	8世紀初頭~ 前半	火葬骨は布に包まれていたとされる。	寺田 1938·佐藤 1993
64	-		三豊市高瀬町上高瀬	丘陵上					不明	The second secon	佐藤 1993
65	麻		三豊市高瀬町麻	丘陵上		1 007: 300	C- ii	* 1	8世紀後半	詳細な出土地は不明。	佐藤 1993
	西ノ脇		三豊市高瀬町上勝間	丘陵上		土器被覆?	C- ii	なし	8世紀後半		岩橋 1985 · 佐藤 1993
67	-t- strto1		三豊市高瀬町上勝間	丘陵上					不明		佐藤 1993
69	東光寺山		三豊市高瀬町比地	丘陵上			0 "		不明	ZMARIA (IL I III)	佐藤 1993
_	羽方		三豊市高瀬町羽方				C- ii		8世紀後半	詳細な出土地は不明。	佐藤 1993
73	伝観音寺市内 勝明寺池東		観音寺市 鳴門市大麻町池谷	丘陵上	盛土?	素掘土坑?	C- ii		9世紀後半	詳細な出土地は不明。 墓壙底に小円礫が敷かれていたよう だが、詳細は不明。また径1m、高	佐藤 1993
78	極楽寺境内		鳴門市大麻町桧							さ40cm程度の盛土があったとされる。	鳴門市 1976
79	蓮華谷古墳群 (I)		板野郡板野町犬伏	丘陵上			C- ii		9世紀	試掘調査時に須恵器短頭壺片が表採されている。火葬墓の可能性はある ものの、断定は困難。	徳島県教委 1995 b
83	高尾山		板野郡板野町吹田字高尾山	丘陵上			C- ii			出土状况等詳細不明	
84	磯尾		板野郡板野町羅漢字磯尾	丘陵上		素掘土坑?	C- ii			墓壙底に小円礫が敷かれていたよう だが、詳細は不明	
85	東山		板野郡上板町神宅字東山	丘陵上						出土後蔵骨器の所在不明	
86	山田古墳 B		板野郡上板町神宅字山田	丘陵上		石組	C- ii	なし	9世紀中葉		徳島県教委 1995 b
88	菖蒲谷西山B遺跡		板野郡上板町神宅字菖蒲谷	丘陵上		素掘土坑	C- ii	なし	8世紀後半	同一丘陵上に7世紀前葉の古墳群が 所在	徳島県教委 1994 a
	西谷		阿波市土成町高尾字西谷	丘陵上		素掘土坑?	C- ii	なし		蔵骨器の周囲は石塊を混ぜた赤土で しっかりつき固めてあったらしい	土成町 1975
91	山王子古墓		阿波市土成町高尾	丘陵上	なし	石組	C- ii	なし		旧土成町教育委員会により発掘調査。	
92	吹越神社		阿波市土成町土成	丘陵上			C- ii			吹越神社境内から出土という以外、 詳細は不明。	土成町 1975

第 10表 古代火葬墓一覧 (番号は第 164 図の数字と一致)

番号	遺跡名	所在地	遺構名	立地 (比高m)	外表施設	埋葬施設	墓壙規模(長 軸×短軸、m)	墓壙平 面形	副葬品	被葬者	埋葬姿勢	時期	備考	文献
44	川津一ノ又	香川県坂出市川津町一ノマ	ST05	平地 (0 m)	なし	土 壙・土器 棺(土師器 甕)	0.51 × 0.35	不整方形	なし	小児?	不明	7世紀後半	胞衣壺の可能性も 説かれるが土器棺 墓と考える	香川県教委1997 b
	退奶	年町一ノス	ST06	平地 (0 m)	なし	土壙	1.65 × 0.68	隅丸長方 形	須恵器皿1・ 土師器杯2	不明	西枕	9世紀後半~ 10世紀前半	墓壙長より伸展葬 の可能性がある	
57	生野本町遺 跡	香川県善通寺市 生野本町	ST81		なし	土壙	1.94 × 0.5 ~ 0.78	不 整 隅 丸 長方形	須恵器蓋杯 各1	不明	西?	8世紀前葉	出土した須恵器は ほぼ完形で、副葬 品の可能性が考え られる	香川県教委 1993
72	十回週跡研	香川県観音寺市 大野原町丸井	5101	丘陵上	不明	土壙	2.7 × 0.5 ~ 0.7	隅丸長方 形	土師器杯2· 刀子1·不 明鉄器1	不明	不明	11世紀前半	墓壙長より伸展葬 の可能性がある。	大野原町教委 1992
97	観音寺遺跡	徳島県徳島市国 府町観音寺	ST1004		なし	土壙	2.3 × 0.8	隅丸長方 形	八 稜 鏡 1 · 土師器杯 4	不明	西頭位仰 臥伸展葬			徳島県教委 2010

第 11 表 古代土葬墓一覧 (番号は第 164 図の数字と一致)

第12表 中世土葬墓一覧1 (番号は第164図の数字と-致)

報告書	香川県教委2002 a	本書	香川県教委 2004d	香川県教委2004 b	志度町教委 2002	香川県教委1995 b	香川県教委 2000b	高松市教委 2000	直於古粉悉 2001	1014 11 47 × 2001		香川県教委2002	0		坂出市教委2000		香川県教委 1981		香川県教委 1982	香川県教委1976	香川県教委2014	q		香川県教委 2015						香川県教委1990 b				
畲秀			調査で当該時期の建物遺構は検出されていないが、溝や時期不詳の柱穴は多く、屋敷纂の可能性を想定する。	包合層出土の五輪塔から15世紀中葉~16世紀代の遺構と報告されるが、五輪塔が土壙墓に供判する根拠が不明であり、支持できない。		開葬品とされる黒色土器・須恵器碗より12世紀代と報告されるが、 小午であり副葬品と断定はできない。周辺の建物遺構の時期を簒奪 造時期と判断したい。	埋葬施設の主軸方向より東西頭位と考えられる。	人骨出土。 詳細 は不明。	溝内への埋葬として報告されているが、人骨は埋葬時の状態をよく 保っており、溝埋没後に墓壙が掘られ埋葬された可能性が高い。											同一墳丘内にさらに1基の埋葬施設が所在した可能性がある。	同一屋敷地内に2基(STc002)の墳墓が築造されている。													
時期	13 世紀後半	14世紀前葉?	13 世紀後半?	(13世紀後半)	13 世紀前半	(13世紀後半)	13 世紀後半	(14世紀末~ 15 世 紀前業)	13 世紀後半以降	13 世紀後半以降	13 世紀後半				13 世紀前半		12 世紀中葉	12 世紀後半	不明	13 世紀?	13 世紀後半	13 世紀後半?	13 世紀前半	13 世紀前半	13 世紀前半	13 世紀前葉	the form of the second	12 世紀三十	H MCHI +	13 世紀前半		排列 15-111-01	12 世紀 以則	12 世紀前半?
埋葬姿勢	不明	東西頭位	東西頭位	北枕西向横臥屈葬	東枕仰臥屈葬	北枕東向横臥屈葬	不明	南北頭位	北枕西向仰臥屈葬	横臥屈葬	南北頭位	角化製型 北枕西向仰臥屈葬	北枕屈葬	北枕仰臥屈弊	北枕西向横臥屈葬	北枕屈葬	南枕西向糠臥屈葬 12 世紀中薬	北枕西向伸展葬	不明	南北頭位	北枕西向横臥屈葬	東西頭位	北枕西向横臥屈葬	北枕西向屈葬	西枕	南北頭位		東杭北向伸展拳?	北北米の加井西林北向伸展葬	北枕屈葬	東枕	北枕西向屈葬	阿林	東枕屈拳
被鄰者	不明	不明	不明	不明	不明	青年期後半~壮年 期前半男性	不明	不明	壮年男性	成人女性	不明	FAX	不明	不明	予選	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	成人男性	不明	不明	不明	40 代後半女性	30代女件	30代男性	成人				
田藤圃	短刀1·土師質土 器皿1	和鏡1・青白磁小 壺1・青磁碗3・ 土師質土器杯	土師質土器杯 6	なし	短刀1・鉄鏃5・ 毛抜き形鉄製品1	刀子1.銅銭1	短刀2・土師質土 器杯2・同杯2	なし	不明	不明	上師質土器皿3	なし 刀子?1	なし	なし	短刀 1. 青磁碗 1. 土師質土器碗 1. 同杯 2. 同皿 5	つな	刀子1.鉄製紡錘 車1.鉄路1.由 磁碗1.用色土器 碗2.土師質土器 画1.木製桶1	土師質土器杯	短刀1・漆器椀? 1	なし	短刀 1	なし	短刀・日極皿1・ 土 師 質 土器 皿 5・ ガラス玉 18	なし	短刀1·不明鉄器 1·土師質土器皿 5	瓦器碗1	なし		Limitate &	同安業系青級皿 1,土師質土器皿 3,同杯1	和鏡1.刀子1	短刀1・刀子1 た1	なし 飯蛸帯1	上言語灣
墓壙平面形	不整楕円形	歪な隅丸長方形	隅丸長方形	不整楕円形	不整隅丸長方形	隅丸方形	不整隅丸長方形	長方形	1	_	隅丸長方形四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	開九 長 方 形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	不整長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	不整長方形	力形	長楕円形 不鞍耳棒田形	小並女借口が 長方形	不整隅丸長方形	不整方形	不整方形	内 大 大 カ ボ 長 格 円 形	隅丸長方形
嘉漿規模(長軸 ×短軸、m)	12 × 0.85	2.7×1.65	2.0 × 1.08	1.1 × 0.7	1.98 × 0.80	128 × 1.12	$2.68 \times 0.76 \sim 0.9$	1.75×0.55	不明	不明	1.70 × 1.0	1.20 × 0.63 1.14 × 0.68	0.92 × 0.60	0.96×0.70	154×0.8以上	1.00×0.65	1.30 × 0.85	1.73×0.61	1.12 × 0.88	2.1 × 1.1		2.25×0.95	1.55×0.96	1.62×0.95	1.52×0.98	1.1×0.7	12 × 0.9	1.7 × 0.5	1.7 × 0.6	1.0 × 0.5	9.0 × 8.0	1.5 × 1.0	0.8 × 0.7 1.6 × 0.8	1.0 × 0.4
埋葬施設	土壙	土壙・木棺	土壙	土壙	土壙	土壙	土壙	土壙	(土壙)	()		 			土壙・礫床	土壙	土壙・土器核覆	土壙	土壙	土壙・木棺	土壙・木棺		土壙・木棺	土壙·木棺	上類・木柏	土壙			上級 上mt 8x tg 土據	土壙・木棺	土壙		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	·土器被覆
外表施設	なし	不明	なし	なし	なし	7 \$2	なし	なし	なし	なし	なし	7 7	なし	なし	なし	なし	ئە 1	なし	なし	方形墳丘+石組 墓?		なし	なし	なし	なし	なし	なし	7 4 7		なし			7 4 7	
遺構名	ST01	ST01	ST02	SK01	ST01	A 地 区 ST03	ST f 02	ST01	SD-A5-01 (1号人骨)	5-01(2 F)	ST01	ST07	ST11	ST12	ST01	N2-ST01	S31-ST01	N17 - ST01	S15-SK201	中世墳墓第 2主体	П	ST c 002	ST j 01	ST j 02		ST II 01	\Box	ST II 11		ST III 14	ST II 15		ST II 18	
所在地	香川県東かがわ市 引田	香川県東かがわ市 中筋	香川県東かがわ市 三殿	香川県さぬき市津 田町鶴羽	香川県さぬき市志 度町花池尻	香川県高松市前田 東町	香川県高松市林町 8	香川県高松市林町	各川県高松市鬼無 (可藤井		各川県高松市 本門	TEE TEE		香川県坂出市府中 町		香川県綾歌郡綾川 g 町陶	1-7	,	香川県綾歌郡綾川 p			各川県綾歌郡綾川 町山田下・中					- 10	13,	香川県坂出市川津 町	, = -			1
遺跡名	<u> </u>	警水中筋遺跡	三殿出口遺跡	大山遺跡	花池尻中遺跡	前田東・中村遺跡	空港跡地遺跡	宮西・一角遺跡	母年機士・時間			西打遺跡			讃岐国府跡	西村遺跡(西村北 地区)	西村遺跡 (川北地)区)	西村遺跡	西村遺跡	末則古墳			西末則遺跡					•		下川洋遺跡				
各舉		65	4	ro	∞	=	17	18	- 5			22			32	35				37			88							42				

第13表 中世土葬墓一覧2 (番号は第164図の数字と-致)

番	遺跡名	所在地	遺構名	外表施設	埋葬施設	墓壙規模(長軸 ×紅軸 m)	墓壙平面形	田秦個	被奉者	埋葬姿勢	時期	翻	報告書
43	川津中塚遺跡	香川県坂出市川津 町中塚	ST01	7 % C	土壙・木棺	0.83	隔丸長方形	短刀1·土師質土 器皿4	不明	東西頭位	13 世紀前半		香川県教委1994 b
45	地下過數	香川県丸亀市綾歌 町栗能東	Ⅲ⊠ ST01	\dag{4}	土壙・木棺	1.24 × 0.49	隅丸長方形	第1・同皿1・ 質上器 皿5・ 器第1・網銭	17 歲前後男性	北枕西向仰臥屈葬	13 世紀前半	集告では木格塞の可能性を否定するが、理土が中央部が建んだレン ズ状に堆積しており、木格塞の可能性は高い。	香川県教委2008 b
		A ASSESSED TO THE SECOND PROPERTY OF THE SECO	Ⅲ⊠ ST02	なし	土壙・礫床・木棺	1.23 × 0.91	隅丸長方形	超刀1·土師質土 器三4·同杯1	不明	北枕屈葬	13 世紀前半		2
20	龍川四条遺跡	香川県善通寺市原 田町	SK35	なし	土壙・木棺	126 × 0.88	隔丸長方形		不明	南北頭位	13 世紀前半以降	募嫌内の集石は、棺上面か盛土中のものが陥没した可能性が高い。	香川県教委1995 a
51	買田岡下遺跡	香川県仲多度郡ま んのう町十郷	SK45	7 4	土漿	1.56 × 1.0	隅丸長方形	短刀1	不明	南北頭位	14 世紀前半	屋敷地出土遺物より年代を推定。	香川県教委2004 a
23	永井北遺跡	香川県善通寺市中 村町	ST4001	なし	土壙	1.5×0.6	不整隅丸長方形	白磁碗1·瓦質土 - 器小杯1	不明	東西頭位	12 世紀後半		香川県教委2008 a
54	中東遺跡	香川県仲多度郡多 度津町奥白方	ST01	石組纂?	石椰·木棺	無墓壙 (石槨内法 1.6 × 0.6)	1	刀子?1	不明	不明	13 世紀後葉	屋敷墓の可能性がある。	香川県教委 2003b
22	奥白方南原遺跡	香川県仲多度郡多 度津町奥白方	B⊠ ST01	不明	土壙・木棺	1.99 × 0.95	隔丸長方形		不明	西枕南向屈葬	12 世紀末~13 世紀前半	顕骨と墓壙西壁との間に不自然な空隙があり、塞嫌規模は少し小さ くなる可能性が高い。	香川県教委2008 c
26	旧練兵場遺跡	香川県善通寺市仙 遊町	ST01	74	土壙	1.90 × 1.28	隔丸長方形	超刀1・刀子2・ 火打金1・不明鉄 7 器1・砥石1	不明	北枕東向横臥伸展 葬?	12 世紀末~	大腿骨の出土状況より伸展器の可能性を想定するが、確実ではない。	香川県教委1994 a
89	須ノ又塚	香川県三豊市高瀬 町下勝間		石組墓	土壙	1.40 × 0.60	隔丸長方形	7 4	不明	南北頭位	不明	円形の石列と報告されるが、基底石となる大型の石材は、矩形に配された可能性が高い。盛土中より14世紀以降の遺物が出土しているが、遺構の時期を特定するものではない。	香川県教委1990 a
É	古典公司	香川県三豊市豊中	森3号塚	積石?	土壙・礫床・木棺	1.3 以上× 0.74	隔丸長方形	N7-1	不明	南北頭位	不明	積石は後世のものだが、当初より積石墳丘を有していた可能性は高い。時期は森5号塚と同時期と考える。	香川県教委1990
₹	海山河	町八反地	森5号塚	積石	土壙・礫床・木棺	1.68 × 0.95	隔丸長方形	刀子1·龍泉窯系 ; 青磁碗1	不明	東西頭位	13 世紀中葉~後半	積石は後世のものだが、当初より積石墳丘を有していた可能性は高い。	S
			SK1012	なし	土壙	0.75×0.72	隅丸方形		小児	北頭位屈葬?	中世後半?	時期は近世まで下る可能性もある。	
		计三件电影三电影	SK2028	なし	土壙	0.92×0.72	不整隅丸方形	なし	成人男性	北頭位西向横臥屈 葬	13 世紀以降		
75	大松遺跡	高高米 同大松 三大松	SK2059	なし	土壙	1.65 × 1.08	隅丸長方形?	刀子1.青磁號1	成人男性	北頭位西向横臥屈 葬	13 世紀以降		徳島県教委 2015
			SK2060	なし	上蘋	1.37 × 0.83	不整隅丸長方形	基石1	成人男性	北頭位東向横臥屈 葬	13 世紀以降		
9/	德島城下町跡	德島県徳島市中徳 島町	SJ4001	なし	土壙	1.2 × 0.4	長方形	土師質土器皿1		北頭位仰臥屈莽	16 世紀		徳島市教委 2003
08	協無国中	德島県板野郡板野 町土圭雄・ナ	ST2001	7 %	土壙・木棺	1.20 × 0.62	不整隅丸方形	青磁號2·瓦器號 1·土節質土器杯 4 4·圓3等	初老期男性	北枕西向横臥屈莽	13 世紀末~ 14 世紀前葉	報告書では他に 2 基の埋葬遺構 (ST2002・ST2003) を報告するが、 報告内容からは根拠に乏しく支持しない。	(((((((((((((((((((
		□ 入 小 単 、 や	ST3001	なし	土壙・土器被覆	1.0×0.54	隅丸長方形	なし、	不明	不明	12 世紀前半	報告書では他に1基の埋葬遺構 (ST3002) を報告するが、報告内容からは根拠に乏しく支持しない。	
			ST1001	石組葉	土壙・木棺?	1.8×1.2	隅丸長方形	\Box	不明	北頭位横臥屈葬	13 世紀前半		
		细电回拓 野熊 按	ST1002	石組墓	土壙・木棺?	1.5×0.7	歪な隅丸長方形	土師質土器杯1・	不明		13 世紀前半	石材は大きく改変を蒙っているが、ST1001 と同様な構造と考えられる。	备可同梦於1904
81	古城遺跡	町古城	ST1003	なし	土壙・木棺?	1.5×0.8	隅丸長方形	刀子1.瓦器碗2	成人男性	北頭位西向横臥屈 葬	12 世紀末~ 13 世 紀前葉		a
			ST1004	なし	土壙・木棺	1.2×0.7	長方形	なし?	中年男性	北頭位仰臥屈葬	12 世紀末~ 13 世 紀前紫		
			ST1001	石組纂	石室・木棺	2.18 × 1.46	隅丸長方形	土節質土器 110 平 1 平 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	成人男性	北頭位横臥屈葬	12 世紀末~ 13 世 紀前葉	報告書に掲載された下部積石状況の写真より、石積基壇が上面に敷 設されていたと考えて大過ない。	
82	黒谷川宮ノ前遺跡	德島県板野郡板野 町 ナ伏		なし	架	0.88 × 0.88	不整方形		女性か若年者	座位屈葬	14 世紀中葉~後半		德島県教委1994 b
			SK1048	7 th	十振·木柏 十森·木柏	0.98 × 0.60	長方形四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	上部質土器目1 / カー 2	不明	西 本 国 を を を を を を を を を を を を を	15 世紀		2
93	婚損口宜	德島県阿波市吉野 町町口		石組基?		11		· 系施釉陶器皿 備前療植鉢1	不明		16 世紀末~17 世 治世帯	石積基連集石墓の可能性が高いが、調査報告書から詳細な埋葬施設 の構造や埋雑方法を露み取ることができない。	德島県教委2004
95	名東遺跡	德島県徳島市名東 町2丁目	SK209	なし	土壙・木棺	0.9 以上× 1.0	隅丸長方形?	쇞	不明	不男	13 世紀代	報告書では12世紀後半とするが、出土遺物より13世紀代に下る可能性が高いと思われる	德島県教委1990
96	敷地遺跡	德島県徳島市国府 町敷地	ST2015	なし?	土壙・木棺	1.37 × 0.8		龍泉窯系青磁碗1		北頭位西向横臥屈 葬			徳島県埋文セン ター 2002
		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ST1001	なし		1.0×0.4	隅丸長方形	_	成人	北頭位屈葬	16 世紀前半		H 44
66	日吉~金清遺跡	你妈来问谈巾巾筝 町尾開	ST1002	なし		010	開丸長方形		4	北頭位屈莽	16 由紀哲半		毎 局 果 教 安 1995 a
		海 島 田 羊 田 井 路 町	ST1003	標句:	n.,	\circ		十四旬 十四旬 十四旬 十四旬 十四旬 十四旬 十四旬 十四旬	灰 人	北頭位困拳	16 世紀 副 十	報告書では出土した土器の点数が多いことや、磨滅が進んでいるこ	1
101	田塔県十田	東西米 大郎 田田田 田田 田田 田田田 田田田 田田田 田田田田田田田田田田田田田	SK2033	7 %	土壙・木棺	1.7×1.0	金な隅丸長方形		不明	不明	16 世紀	とから土壙墓と断定はできないとするが、すべてが副葬品と考えなければ、土壙墓を否定する材料にはならない。	德島県教委1999

海部町教委 2006		13 世紀後半	不明	不明	短刀1・土師質土 器皿2・同杯1等	隅丸長方形	1.25×0.93	土壙・木棺?	なし	土坑 21362	德島県海部郡海陽 町野江	9 芝遺跡	105
德島県教委 2005b	詳細不明	不明	屈舞?	不明	なし	隅丸長方形	0.94×0.58	土壙	なし	ST4001	の 徳島県三好郡東み よし町昼間	5 大柿遺跡 馬のシャクリ地区	105
報告書	備考	時組	埋葬姿勢	被奉者	田藤僧	基壙平面形	塞擴規模 (長軸 ×短軸、m)	埋葬施設	外表施設	遺構名	所在地	号	毎

第14表 中世土葬墓一覧3 (番号は第164図の数字と-致)

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	Ė		4	47 1111 (1).	TILY dolls		外表施設	-	The first services	-	1	****	A+ 1887	+++	_
19 19 19 19 19 19 19 19	梅		外 在地		12.00		(m)	分類	担触品	聚仁物	温縣	143	a. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8.	又献	_
19 19 19 19 19 19 19 19	6		香川県さぬき市寒 川町養神	2	単独?					圕	4明	电紀以	より完形の白磁四耳壺1点が出土。	さぬき市教委2007	_
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	14		香川県高松市屋島 西町	集石遺 (火葬墓)		3重? 方形石積 基壇	× 4 ?	上			器幾·瓦器	市	(機乱を蒙っている。また、減骨器は出土しておらず、埋葬施設の構造も不明である	高松市教委2003	_
	15		香川県高松市浜/ 町・錦町	, SP0200	単独	不明			-Ш	福		第2	周辺	香川県教委2004e	_
1	23		香川県高松市鶴市 町	le le	兼		85×20以上	瀬	型 器 十田	質土器響・形蔵骨器・		15 世紀後半以 降		高松市教委 2015	
(1992) (2014)	29	加茂山ノ	香川県坂出市加茂 町山ノ神	262	単独	不明				i A	7明	市治司	現存		_
大学・電影	47		香川県仲多度郡ま んのう町七箇		1	方形石積基壇?	不明		石溪居	級四耳 · 士 恵器 · 士 質土器 · 士		市紀以	1	仲南町教委 1980	_
1995年 19	74		香川県観音寺市豊 浜町和田	mi-2	1	3 重方形石積基 壇	5.4 × 5.4	不明			■3·青磁端1· 土器■4·同杯3	14 世紀前	は石積中央に穿たれた土壙とされるが、蔵骨器や入骨の出土はなく、埋葬施設の可能性は	豊浜町教委 1985	_
1						1 重方形石積基 壇+五輪塔	3.03 以上×1.17		刊擾	質円筒形	,	市紀以降	追謝の例から、報告書で示された上輩ではなく、石積功の上部質素登器を理納する ぎえられる。また、ST2001とされる道稿には、3 基の石積基型が離校状に構築され 7月である。		_
1	87		衛島県板野郡上板 門袖外	ž ST2002	集田		30 MF?				5.9]	田紀以	く破壊されており、埋葬施設もまた不明であ	德島県教委 1994c	
STORO 1			P	ST2003							٠, ١,	世紀以	ST2001 同様、埋葬施設では		
National 1 元				ST2004		1 重方形石積基 壇 + 五輪塔	1.6 以上×1.7 以上					世紀以	ST2001 同樣、埋		
第1002 1 連子品報子 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20				ST1011							, r	甲紀以	と構築後に ST1012 を連接した石組墓であろう。大半が調査区外となるため、全形は不明		_
STIO13				ST1012			2.0 ?	不明			, r				_
1 元 5 元 5 元 5 元 5 元 5 元 5 元 5 元 5 元 5 元				ST1013			2.4×2.7				, r	世紀以	は一歩の石組墓である可能性が高い。この石組墓を核に、ST1017~ こいる可能性がある。いずれも、後世の改変のため、本来の形状は維非		
Time				ST1014		1 重方形石積基 壇+五輪塔?		不明							
1 重大が6 音				ST1015		1 重方形石積基 壇? +五輪塔?		不明							
報告機模學報告 STIORS 工業方格有機 20×16 不明 本心 本心<				ST1017			22 ×	不明			, r				
機局に成野部上板 11002 XEI 11002 XEI 11002 XEI 11002 ATH 11003 不明 不明 本日 本日 本日 11003 本の形状は不明である。 ST1003 11003 11003 11003 不明 不明 本日 本日 11003 本の形状は不明である。 ST1003 11003 11003 1003 不明 不明 本日 本日 11003 本日 11003 1003 不明 本日 11003 本日 11003 本日 11003 1003 不明 本日 11003				ST1018				上			ייר				
Tachyang Tachyan	8		德島県板野郡上板	ST1019	#	1 重方形石積基 壇+五輪塔?	1.4 以上	上						領司田黎米 10043	_
1 重力形式積器 不明 不明 企し 企し 1 重力形式積器 不明 不明 企し 本の 1 重力形式積器 25 × 25 不明 不明 企し 1 重力形式積器 25 × 25 不明 不明 企し 1 重力系式積器 23 × 1.0 ① 不明 本の 上級 1 重力系式積器 23 × 1.0 ① 不明 本の 16 世紀以降 造成された平地値があるが、後世の改変のため不明である。 7 形式積 建設 1 10 × 40 一 不明 本の 16 世紀以降 造成された平地質の不利量が変が立まれていて可能性が考えられる。 7 形式積 素別 1 1 10 × 40 一 不明 本の 16 世紀以降 造成された平地質の可能性が考えられるが、具体的な構造が立されていて可能性が考えられるずれていていて可能性が考えられるが、具体的な構造等については不明である。 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	Ö		三 本	ST1016	E K	1 重方形石積基 壇? + 五輪塔?	34,					16世紀以降	基以上の石組塞が連接したものと考えられるが、後世の改変のため、本来の形状は不明であ	高阿尔纳人安 130%	
1 重力を行務 基 2				ST1021		1 重方形石積基 壇+五輪塔?		不明							
1 重力形石積器 本の 本し 本の				ST1022		1 重方形石積基 壇+五輪塔?		上							
1 重力形子報報 2.5 × 2.5 不明 不明 上師質上器杯1 16 世紀以降 別の石組基が連接する可能性があるが、後世の改変のため不明である。 1 重力形石報報 2.3 × 1.0 ① 不明 不明 全し 16 世紀以降 造成された平垣面の形体上り、藤澤分類(3の石組基が造立されていた可能性が考えられる) 7 形石精素理? 1.0 × 7.0 ③か・③ 不明 本し 17 世紀以降 造成された平垣面の形体上り、藤澤分類(3の石組基が造立されていた可能性が考えられる) 7 形石精素理? 2.0 × 7.0 不明 不明 本し 17 世紀前業? 五輪塔の可能性が考えられるが、具体的な構造等については不明であまた。				ST1023		1 重方形石積基 壇+五輪塔?		不明			٠,				
1 販力を存棄 2 x 10 ① 不明 本し 16 世紀以降 別の石組載が通接する可能性があるが、後世の改変のため不明である。 7 形石積素増? 110 x 40 (26 graft) ③か③ 不明 本し 本し 16 世紀以降 造成された平坦面の形状より、藤澤分類⑤の石組築が造立されていた可能性が考えられる手工格等? 7 七五輪格? 5 以上 不同 不明 不明 衛前強指針・並 17 田紀前錄? 五輪格の日土から、石榴窓の可能性が考えられるが、具体的な構造やについては不明である。				ST1024			×	不明			紅土				
本名称名称表望 11.0 × 40 (造 ③か④) 不明 なし 16 無紀以降 造成された平坦而の形状より、藤澤分類(③の石組築が造立されていて可能性が考えられるする) 本名称名称 (2.5 以上、7.0 (③か?) 不明 不明 (4.5 元本の日本) (1.7 世紀前業) 五輪塔の出土から、石組織の可能性が考えられるが、具体的な構造等については不明である。				ST1030		1重方形石積基 壇+五輪塔?		不明				16 世紀以降	る可能性があるが、後世の改変のため不明であ		
方形石積基煌? 85以上×70 ③か? 不明 本明 権前機指鉢・遷 17世紀前葉? 五輪塔の出土から、石組纂の可能性が考えられるが、具体的な構造等については不明であ + 五輪塔? 以上				石塔群2		l -	捌				٠, ۲	16 世紀以降	藤澤分類④の石組墓が造立されていた可能性が考えられ		
				SU1005			85 ULX 7.0 35					世紀前業	石組墓の可能性が考えられるが、具体的な構造等については不明であ		

第15表 中世火葬墓一覧1 (番号は第164図の数字と-致)

	4	1	4	1000	~	外表施設		All der ten vil.	B #		14		4
単で 週	直跡石	別任地	自年在	影響	形態	規模 (m)	藤澤分類	という	殿軍部	国祭品 (四二週報)	14.18	加多	XIIX
灣田中田舞 86	無 巨	島県名西郡石井		集団?	多重方形石積基 壇? + 五 輪 塔· 板碑	3 × 40 ?	2 pr 3	なし?	土部質円筒型 2、須恵器歯 1	\$ رام د رام	13~16世紀?	核酵は2基が建立され、うち1基には文水七(1270)年三月九日の紀年鏡がある。また、五輪塔は鎌 倉時代も3のと考えられる。破骨器は3点が出土し、うち2点は大きく破損し、石積み中より出土し ており、石積みが後出組御された可能性を示している。したがって、板碑や五輪塔は2次的な移動の「石井町1991 可能性が考えられる。	991
			ST1001	集団	なしな		∂	小石室	不明	なし	15世紀後半以降	「石錦蔵はいずれる、後世の乱類により大きく改奏されており、俸祭当初の形状を維持していない。また五宝状の石組が後田された ST10M は、有機質の議告器に囲舞されていた可能性も考えられるが、 開鮮組な明である。	
			ST1002		なし		8	小石室	不明	なし	15 世紀後半以降		
			ST1003		なし			小石室	不明	なし			
100 上喜来遍路		德島県阿波市市場 町大俣	ST1004		1 重方形石積基 壇	14 以 上 × 14 以上) (i)	小石室	不明	なし	15 世紀後半以降	德島県教委 1995 5	(委 1995)
			ST1005		なし) (a)	小石室	不明	土師質土器皿	15 世紀後半以降		
			ST1006		なし		9	小石室	不明	なし	15 世紀後半以降		
			ST1007		なし) (i)	小石室	不明	なし	15 世紀後半以降		
104 円通寺道路	他ユ	.島県三好郡東み し町足代	ST1001	単独	1重方形石積基 4	4 × 4.3	Θ	石室状石組	海 全 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会	上師質土器杯1	14 世紀後半	中世居館屋敷地の北東開に構築されていた。 徳島県教委 2000a	t委 2000a
106 お塚古墳		徳島県三好市池田 町字トウゲ	ST1001	単独	3重方形石積基。	4.9 ? × 4.9 ?	<u>``</u> ⊝	不明	不明	青磁碗、土師質土器皿	14 世紀後半~ 15 世紀前半	報告では、とくに日立った配列や区画はないとされるが、写真から方形基質の可能性が推測され、また、 埋葬施設とされる3巻の日道橋は、他の道郷の及びやの橋道から、埋葬施設である可能性は低いと、他の原現が 判断する。なお、頼石中より多量のが出土器が出土に、 毎年間である。 は認み取れないが、大きく乱編された可能性が考えられる。	t委 2005a
類田口 201	加田遺跡(正) 配等	徳島県三好市池田 町字ヤマダ	ST1001	単独	2重方形石積基	4.4 × 4.4	Θ	不明	不明	白磁杯1、土師質土器皿1・杯2	13 世紀 中紫~ 14 世紀	埋葬施設は、小石室状の石組とされるが、具体的な構造は線み取れない。基連石籍の上端レベルと同 「応答に石積地があることから、石積結準上部の変化の可能と考えられた。酸青路は出土しておらず、 また石積単央部に上記した象石はなく、石の尾鹿もれていることから、接世の品類の可能性が考え、健島県教委 2005a されよう。なお、石積赤道甲央部に方移の土坑状の鍋り込みが認められ、出土位置は不明ながら、鉄 質が出土していることから、土葬墓の可能性も考えられるが、報告書から判断することはできない。	t委 2005a
108 馬路遺跡		三好市池田町字馬 路	ST1001	単独	2重方形石積基 壇	42 × 3.9	Θ	箱式石棺状 石組	不明	鉄刀、鉄釘	不明	線質が出土していることから、土郷森の可能性も考えられるが、出土位置が不明でもあり判断できな か、埋葬施設は乱廻されており、蔵骨器も出土していない。土葬墓の可能性は高いが、火葬墓として(徳島県教委 2005a 考察する。	t委 2005a

第16表 中世火葬墓一覧2 (番号は第164図の数字と一致)

報告書	香川県教委 2004c	本非	香川県教委 2004d	高松市教委 1999	香川県教委 2000b	香川県教委 2002c	香川県教委 2002b	香川県教委 1982	香川県教委 1995	豊浜町教委1985	德島県教委 1994c		領田田 装帐 10043	5.阿尔多人安 1994年		德島県教委 2003b		領田田孝保10057	5. 阿尔尔太 文 19900		第1日数 不 9000g	5 FED TYC # 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4
備考	報告に入骨の出土の記載はなく、火化遺構ではない可能性もある。	人骨の出土は不明だが、周辺の遺構より火化遺構と判断する。	Marie	報告書では火葬墓としている	報告に人骨の出土の記載はなく、火化遺構ではない可能性もある。	報告に入骨の出土の記載はなく、火化遺構ではない可能性もある。看	<u>Ku</u>	報告に人骨の出土の記載はなく、火化遺構ではない可能性もある。	Min	人骨の出土は不明だが、状況より火化遺構の可能性を考える。火 葬墓直下に構築。			3	ey.		報告に人骨の出土の記載はなく、火化遺構ではない可能性もある。 復		3	ey.		38	la la
性格	火化遺構	火化遺構	火化遺構	火化遺構	火化遺構か?	火化遺構	火化遺構	火化遺構か?	火化遺構	火化遺構	火化遺構	火葬灰埋納土壙か?	火葬灰埋納土壙か?	火葬灰埋納土壙か?	火葬灰埋納土壙か?	火化遺構	火化遺構	火葬灰埋納土壙か?	火葬灰埋納土壙か?	火葬灰埋納土壙か?	火葬灰埋納土壙か?	火葬灰埋納土壙か?
時期	不明	14 世紀前葉	不明	16~17世紀前葉	瓦 E 13 世紀前葉	13 世紀前葉	. 12 世紀後半?	. 13 世紀中葉		14 世紀前半	15 世紀後半以降	15 世紀後半~16 世紀初頭	15 世紀	16 世紀	16 世紀	(, 13 世紀	16 世紀?				16 世紀	16 世紀
出土遺物	なし	土師費土器皿・瓦器	土師質土器皿1	なし	上師質土器杯・同鍋・瓦 器碗・白盛碗・土製丸玉	土師質土器皿·桃	土師質土器杯1・焼土・ 炭	土師質土器皿3·同杯1 須恵器競1·同体1	土器小片	上師質土器皿7	なし	上師質土器皿1	上師質土器杯	刀子1	土師質土器皿1	土師質土器皿·須恵器鉢 土錘・鉄釘	なし	瓦器碗	上師質土器杯	なし	土師質土器皿1	なし
被熱狀況		礫上面	機上面	不明	不明・礫上面に炭 層	礫上面	底面被熱	不明・礫上面に炭 層	床面被熱	床面被熱	側壁面	不明	不明	不明	不明	礫上面	藤圃	なし	なし	なし	不明	不明
内部構造	碟敷	礫敷	礫敷	九大材を並べる	礫敷	礫敷	素種り	礫敷	素細り	素麺り	素掘り	素掘り	素掘り	素細り	素細り	礫敷	素掘り	素掘り	素細り	素細り	素細り	素掘り
平面形	タイプI	1 L V A	1 L V V	タイプI?	177 I	1 L L L	7 1 7 I ?	177 I	タイプエ?	10個	タイプエラ	タイプV	リイプリ	$\Lambda \mathcal{L} \mathcal{V} A$	ょイプI?	1 1 1 1 A	↑ イプⅡ	11213	11213		1 L L L	>イプI
規模(長軸× 短軸、m)	1.7 × 1.2	0.83 × 0.68 9 4 7	1.0 × 0.54 タイプ	1.05 × 0.60	1.21 × 0.91 タイプ	1.45 × 0.68 タイプ	0.75 U.L× 0.60 817 I	1.47 × 0.70 × 1.7° J	1.0 以上× 0.96 タイプ I	2.00 × 0.70 不明	$2.35 \times 0.97 \Rightarrow 47$ I	1.0 ?	1.5 × 1.5 9 1 TV	$1.14 \times 0.98 \mid 9 4 7^{\circ}V$	$0.80 \times 0.50 \Rightarrow 47$ I	$2.05 ? \times 0.72 $	1.34 × 0.46 タイプⅡ	0.70 × 0.46 タイプ I	0.58 × 0.36 9 1 7 I	89.0×22.0	1.2 × 0.55 9 1 7	$1.55 \times 0.75 \Rightarrow 47$
形態	土壙	土壙	上攤	土壙	土壙	土壙	土壙	上模	土壙	上横	上攤	土壙	土壙	土壙	土壙	上横	上攤	土壙	土壙	土壙	土壙	土壙
遺構名	W b SX01	SK71	ST01	ST01	STf01	STa08	ST08	S17-SK201	ST01	粘土塊	SK01	SK1001	ST1002	ST1003	SK1043	SK3011	SF1001	SF1002	SF1003	SF1004	ST1001	ST1002
所在地	香川県東かがわ市白鳥	営水中筋遺跡 香川県東かがわ市中筋	三殿出口遺跡 香川県東かがわ市三殿	香川県高松市春日町	会港跡地遺跡 香川県高松市林町		香川県高松市香西南町	香川県綾歌郡綾川町陶	香川県善通寺市原田町	香川県観音寺市豊浜町和田	德島県板野郡上板町神宅		· 一个年上 一年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年	15.50余仪时都上仪时作七		德島県徳島市中島田町		新中田阿沙井井镇町十四	高海茶西食 中口物型 人法		4年四十七十二四十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	16/49/11/14 - 11/4/2017
遺跡名	善門池西遺跡	誉水中筋遺跡	三殿出口遺跡	川南・西道跡			西打遺跡	西村遺跡	龍川四条遺跡	大木塚遺跡	山田古墳群A		古典计记录			中島田道路口		古典符集工	10000000000000000000000000000000000000		お歌り中	ALHABIM
番号	2	က	4	16	17		22	35	20	74	82		8	8		26		5	3		10.9	707

第17表 中世火葬関連遺構一覧1 (番号は第164図の数字と-致)

1 0a

報告書	徳島県教委2001	德島県教委2000a		_				
	總	親		48-47-237	報宣告	本書	香川県教委 2003a	香川県教委 2012
参				781-97	開布			
備考		火葬墓直下に構築		D\$+40	PEM	14 世紀前葉	10 世紀	12 世紀後半
性格	火葬灰埋納土壙か?	火化遺構)数字と一致)	2	四十岁	土器皿・碗、石塔	合付杯	患器碗、瓦器碗
時期	16 世紀	14 世紀後半	中世火葬関連遺構一覧2 (番号は第164図の数字と一致)		印工連約	須恵器、土師器甕、土師質土器皿・碗、石塔	土師質土器杯・平高台碗・台付杯	士師質土器皿・杯・碗、須恵器碗、瓦器碗
出土遺物	:器皿3		構一覧 2	1100000	座衛部力円			0.30 なし
	上師質土器皿2		関連遺	(m)	残存深	0.2 ~ 0.3 なし	0.3~0.6 不明	0.3
被熱状況	不明	周壁	中世火葬	周溝幅	問	$0.38 \sim 0.87$	$0.5 \sim 0.8$	$0.50 \sim 0.90$
内部構造	素細り	素掘り	18表	2	短軸	2.52	2.5	5.80
平面形	1.0 × 0.8+ タイプV	22×15 $\Rightarrow 47$ II	無	墳丘規模(m		3.0	3.2 以上	06'9
規模(長軸× 短軸、m)	$1.0 \times 0.8 +$	2.2×1.5		#4.	長軸			
形態	十万万	充 土壙		VIII.488 47	週冊名	SD36	SX01	T d 01
遺構名	ST1001	ST1001 下 # 土壙						田下
所在地	徳島県三好市三野町太刀野 ST1001	意島県三好郡東みよし町足 ST1001 下 焼 と		4	別仕地	香川県東かがわ市誉水	香川県綾歌郡綾川町山田下	香川県綾歌郡綾川町山田下 ST d 01
遺跡名	花園遺跡 徳	104 円通寺遺跡 (徒			週歇石	誉水中筋遺跡	北代西遺跡	西末則遺跡
無	103	104		Ą	単う	33	36	37

0.34

1.63

1.18

5.10

香川県丸亀市川西町北

原遺跡

92

畿内地域では、例えば 奈良県西山火葬墓群や大 阪府高井田古墓群、福岡 ☆ 県でも大迫遺跡の火葬墓 群など、同一丘陵上に近 接して墓群を形成する遺 跡は複数見つかってい 34 . 概 る。畿内でも単独で築造 された火葬墓も存在し、 必ずしもその占地の原理 は一様ではない。火葬墓 の立地には、被葬者集団 ジ が古墳時代後期以降築造 してきた墳墓の占地の原 の 理が、一定影響を及ぼし ー ている可能性も考えられ

> また、本地域の古代の 火葬墓で、外表施設が構 築当初の形状を残して調 査された例はない。基本 的に墓壙内部に納められ た骨蔵器の出土によって 火葬墓と認識され、墓塘 上面の工作物や周囲の区 画施設は検出されていな い。後世の削平や流出を 考慮しても、現状では墓 塘掘削土を盛り上げた小
 規模な墳丘程度が想定さ れるに過ぎない。後述す るように想定される被 葬者像からは、『養老令』

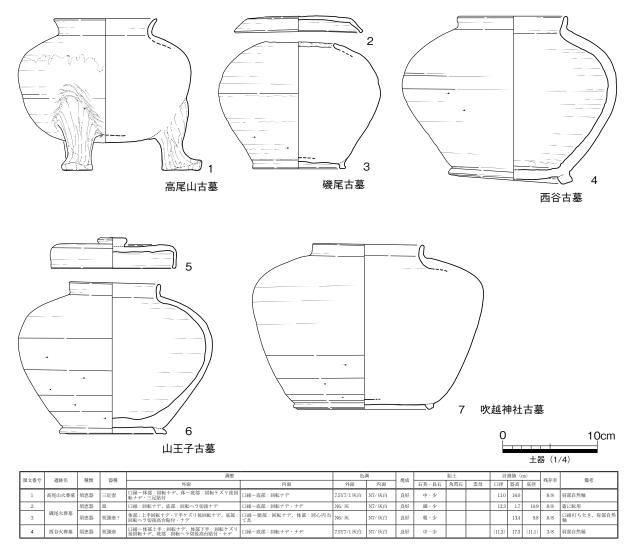
の「喪葬令」に規定された墓碑の建立の対象者とはならず、徳 島県阿波国造碑などは稀有の例と考えられる。

埋葬施設は、正式な調査に依らないものが多く、不明なものが多数を占め、資料上の制約が大きい。確認されたなかでは、b類の土器被覆と石組、c類の素掘土坑があり、素掘土坑が多数を占め、概して簡素な構造のものである。蔵骨器はA金属製と、C-ii 壺A、C-iv壺・甕形土器があり、壺Aが多数を占める。つまり、本地域の火葬墓は、総じてⅡ・Ⅲ型火葬墓に該当し、Ⅱ型火葬墓が多数を占めるようである。

本地域におけるⅡ・Ⅲ型火葬墓の構造については、畿内地域のそれと、多くの点で共通する。小田は、こうした畿内と地方の火葬墓の構造的共通性について、鈴木景二が古代の官大寺僧の頻繁な都鄙間往来を明らかにした(鈴木 1994)ことや、地方の集落内における仏教関係遺物の出土例の増加を根拠に、「火葬に関する共通の知識をもつ僧侶が介在した可能性」を想定する(小田 2011)。小田自身も、「奈良時代の僧侶が葬送の場面に立ち会っていたことを示す考古学的根拠が少ない点に問題を残す」と前置きしているように、当時の官大寺僧が死穢に直接触れるような行為に関与したとは考え難い。僧侶の埋葬への直接的な関与は、「鎌倉仏教(遁世僧教団)の成立と境内墓地の成立」(松尾 2011)を待たねばならなかったと考える。だとすれば、地方における火葬の導入は、畿内の僧侶が媒介したとしても、それを地方において実践したのは、後述するようにその被葬者であった郡司自身ではなかろうか。

Ⅱ・Ⅲ型火葬墓について小田は、Ⅲ型火葬墓が「Ⅲ型火葬墓よりやや低い階層」の被葬者の埋葬施設であり、地方へのⅡ・Ⅲ型火葬の展開において、地域色が顕在化することを説く(小田 2011)。本地域では、Ⅲ型火葬墓の多様性のなかに、複数の階層にまたがる人々の葬制や在地化した儀礼の内容が表現されていると考えられる。Ⅲ型火葬墓は、例えば香川県小蓑古墓や同金蔵寺古墓等、8世紀代には出現しており、火葬墓が導入されて後まもなく、各々の地域の郡司層を介して、多様な階層に受け入れられた可能性が考えられる。

また、佐藤も指摘する(佐藤 1993)ように、その入手に特殊な背景が想定される香川県猫坂古墓や同カンチンバエ古墓の金属製骨蔵器についても、埋葬施設はb類やc類と推定されており、畿内の同種骨蔵器がしばしば埋納されたa類ではない。埋葬施設 a 類は、「五位以上の上級官人の墓」に採用された埋葬施設(小田 2011)であり、「喪葬令」に規定された律令官人のみに許容されたものであったと考えられる。たとえ金属製骨蔵器を入手したとしても、「送葬の夫」の支給を伴う埋葬施設の構築には厳格な規制があったと考えられる。猫坂古墓やカンチンバエ古墓の被葬者が金銅製骨蔵器を入手した経緯については、その埋葬時期より、天平十九年(747)11月7日韶(『続日本紀』)にみる、国分寺造営に協力した郡司を対象とした優遇政策が、そこに関係している可能性が想定される。しかし、国分寺出土瓦(渡部 2005)や文献史料から、それを実証すること



第 165 図 古代火葬墓骨蔵器実測図

は現状では困難であり、今後の課題としておきたい。

本地域では、上述のように、使用した骨蔵器に格差を認めることができる。小林義孝は、大阪府土師の里古墓を中心とした分析から、副葬品や骨蔵器の差ではなく、「墓域の設定」に古代の墳墓の序列が表現されていた可能性を説く(小林 1999)。本地域の墳墓では、属する集団内部の紐帯を、一定の墓域の占有に表現することはあっても、明確な集団墓地の形成を欠き、墓域内部の各墳墓に顕著な格差は認められない。地域により、墳墓に表現されたその目的は異なっていたことが考えられる。

服藤早苗は、文献史料の検討より、「八、九世紀の営墓は、 集団の始祖とそれに準ずる観念を内包させていた三位以上の貴 族のみが許可されていたのであり、実際にも「氏の祖の墓」と して氏人子孫に祭祀されていたが、他の氏人は葬送ののち氏の 葬送地に埋葬されるのみであり、墳墓は造られなかった」こと を明らかにした(服藤 1989)。「墓」と「埋葬地」が具体的にど のように異なるのか、明確ではないが、「墓参」との関連で言 及されていることからすれば、両者の外表施設に差があった可 能性はある。また、上述した土師の里古墓での集団墓地の様相 からすれば、氏人の多様な階層の人々が、「氏の墓地」に共同 埋葬されたと考えられる。

延暦十八年(799) 三月十三日、正四位下菅野朝臣真道らの奏上(『日本後紀』)には、実際に有力氏族が占有した「氏の墓地」の存在が記される。それが、真道による山野資源の囲い込みを意図(丹生谷1974)した口実であったかどうかは不明だが、「氏の墓地」という観念が当時存した証左とはなろう。筆の山南麓古墓群や火上山南麓古墓群等は、そうした畿内の有力氏族の「氏の墓地」を、地方において再現した可能性も考えられよう。

5 9世紀後半~10世紀前半の画期

上述したように、本地域の火葬墓は9世紀を境に、10世紀には大きく衰退する。こうした動向は、本地域に限ったことではなく、火葬が導入された列島各地域において、半世紀程度の時間的な遅速は認められるものの、共通した現象だと指摘されている。

さて、古代の火葬墓の被葬者としては、郡司(佐藤 1993・狭 川 1998)や「中央から地方へ赴いた中央官人とその親族」(小

林 2009) などが想定されている。地方の火葬墓から墓誌が出土するなどして、被葬者名が判明した例は皆無に近く、実際の被葬者については明らかではない。しかし、先学の検討にもあるように、その大勢を占めるのは、やはり郡司層であったと考えられる。したがって、上述した火葬墓築造の動態を考えるには、地方における郡司制度の変遷をみることが、まず手掛かりとなる。

その郡司層であるが、8世紀以降には、国司の権限の強化とともに、郡司に対して高い官人的資質が追求されるようになったことが文献史から指摘されている。『続日本紀』延暦4年5月戌午条では、「官物の欠損や調庸の粗悪に対する郡司の責任が問われ、「断_譜第」」という厳しい措置がとられ」(磐下2013)、9世紀には徴税に関する責任が強化され、「徴税請負人」と化してしまう(平野1957)とされる。

その結果、9世紀後半には「郡司職の忌避現象が現れ、郡司や擬任郡司の諸司官人化」が進展し(駐5)、「中央諸司や院宮王臣家の地方社会への進出」が促進される。つまり、古代的な郡司層は大きく変質し、「解体」することが指摘(磐下 2013)されている。おそらくそうした郡司を取り巻く環境の変化が、9世紀後半から10世紀前半代における郡衙遺跡の消滅や火葬墓の衰退となって表出しているのであろう。既述したように、8~9世紀に主体を占めるⅡ型火葬墓が本地域の郡司層の墓制であり、10世紀に大きく衰退する理由を、上述のように説明したい。

列島国家の政治的支配者層の火葬の導入については、「律令体制…の一環として、天皇の身体を基軸とする喪葬の体系とそれによって王権を維持していくあり方を放棄」し、「従来の身体観や霊魂観を更新」することに目的を認め、そして「体制を担う上級官人層がやはり天皇の葬送に引きずられるように」採用した「政治的な」背景を想定する(小林 2009)。

地方における火葬の導入も、おそらくは「政治的な」ものであったと想像される。政権中枢部での火葬の採用を直接的な契機として、地方においても火葬が郡司層を中心に導入された。狭川真一は、火葬の受容は地方の郡司にとって、「中央との関係を象徴するきわめて重要な行為」であり、「火葬墓を各自の本貫地に造営することで後世にその証を残そうとした」と、その背景を説明する(狭川 1998)。中央の葬制を地方において模倣したことは事実ではあるが、火葬に対する強い執着はあるものの、墓地に対しては、明確な墓参や追善供養の痕跡はなく、墳墓地を顕彰する施設も認められない。また、「中央との関係を象徴する重要な行為」であるにもかかわらず、律令政府内部で火葬による埋葬が沈静化した後も、地方では火葬が依然として継続されている点からも、中央との関係のみで地方の火葬のあり方を規定することはできないように思える。

しかし、「職員令」や「選叙令」に定数や任用が規定されているものの、「公式令」等による郡司の特殊な地位を考慮すれば、 律令中央官人の生活や習俗を模倣することにより、自らのアイ デンティティーを確認しようとする郡司の姿に違和感はない。 その点で、地方において火葬は、未だ普遍化していない埋葬と いう行為を、郡司の墓制として郡司自身の手により導入し、郡 司の葬制として地方に根付いたものと捉えることができよう。

6 讃岐の地域性

上述したように、8世紀初頭~前葉に導入された本地域の火 葬墓は、以後中世にかけて築造が継続する。以下では、9世紀 以降の様相について時間軸に沿ってみていくことにより、本地 域での火葬墓の動態について考えてみることとする。

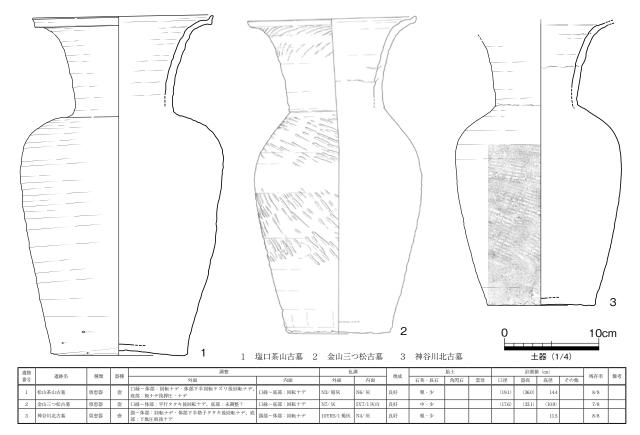
骨蔵器壺Aの使用は9世紀後半までで、10世紀には続かない。 この時期の埋葬施設の構造は不明だが、既述したように本地域 で a 類の埋葬施設は認められないことから、おそらくはb 類か c 類であろう。つまり、Ⅱ型火葬墓は9世紀後半で終焉する。

10~11世紀前半には、既述したように築造数は著しく減少し、4基が知られているに過ぎない。いずれも丘陵上に立地する。快天山古墓で、周辺出土遺物よりさらに、1~2基程度の築造の可能性が指摘されている以外は、基本的に単独築造である。埋葬施設はc類のみ、骨蔵器は須恵器壺や土師器甕・鉢と転用容器のみで、Ⅲ型火葬墓に統一される。当該期の火葬墓の具体的な被葬者像については、明らかではない。10世紀以降も郡司の任用は継続されるので、当該期の郡司が被葬者であった可能性はある。しかし、資料が限られ今後の課題としたい。

11世紀後半~12世紀前葉にかけて、旧阿野郡周辺で7基以上の火葬墓 (社6) が築造される。いずれも丘陵上に立地し、単独築造で、埋葬施設はc類、骨蔵器に十瓶山周辺窯産の須恵器広口壺を使用する、Ⅲ型火葬墓の造営が継続する。骨蔵器の埋置方法等、細部に相違は認められるが、限られたエリアの中での強い均質性が伺え、被葬者に氏族的なつながりを想定することができよう。天喜四年(1056)十二月五日の「善通寺田畠地子支配状案」(東寺百合文書)等、同時期の文書に「惣大国造綾」等と署名した、在庁官人である綾氏がその被葬者の候補として考えられる。11世紀には天皇の喪葬は、「火葬儀礼を中心とする仏教化された形態」に固定され(畠井2004)、それは浄土教への傾斜を背景(藤澤2007)に、皇族や貴族層にも広がりをみせたようである。上記した火葬墓の築造は、浄土教の地方への広がりや、中央での動向を機敏に反映した可能性も考えられる。

7 中世的火葬墓の成立

12世紀後半代の火葬墓には、尾ノ背寺跡墓ノ丸古墓群や屋嶋 北嶺山上古墓、蓑神神社古墓がある。尾ノ背寺跡墓ノ丸古墓群 は、丘陵上緩斜面部の約600㎡の範囲に、6基の火葬墓群が構 築され、骨蔵器として白磁四耳壺のほか、須恵器や土師質土器 壺が出土した。埋葬施設は調査前に破壊され不明だが、石積に よる墳丘を構築する。石積は約5mの方形に区画を意識した配 石が認められたとされるが、これも盗掘や撹乱により詳細は不 明である。



第 166 図 旧阿野郡の火葬墓骨蔵器実測図

尾ノ背寺跡墓ノ丸古墓群の石積と同様のものが、屋嶋北嶺古墓よりやや時代は下るが香川県大木塚遺跡にみられる。ここでは詳細が判明した大木塚遺跡を例に、石積の特徴についてみておきたい。

大木塚遺跡(豊浜町教育委員会 1985)では、辺約 5.4 mの矩形の外周石積基壇の内部に、玉砂利を敷き詰め、その上に辺約 3.6 mと辺約 2.6 mの2重の矩形の内周石積基壇を設ける。外周基壇と内周基壇の間は、玉砂利の上面に幼児頭大から人頭大程度の礫で充填する。また内周基壇の内側にも同様な礫で充填し、上面を平坦にして緑色片岩を敷き詰めていたとされる (註7)。基壇高は 0.6 ~ 0.7 mを測り、内周基壇の石積は 2~3段が確認できる。おそらく基壇中央には卒塔婆が建てられていた可能性もある (註8)。

埋葬施設は、墳丘中央に設けられた径約 1.6 m、残存深 0.32 mの土坑とされる。この土坑は、「石組み下に広がる黒褐色土を掘り込んでつくられて」おり、土坑内は「玉砂利・黒褐色砂質土が充満していた」とされること、また骨蔵器や人骨の出土はなく、棺痕跡も確認されていないこと、当該期の埋葬施設例と規模や形状が異なること、土坑上面より副葬品と考えられる白磁皿区 - 1 c 類が 1 点出土していること等から、埋葬施設ではない可能性があるが、詳細はわからない。副葬品としてはそのほかに、同皿 2 点と龍泉窯系青磁碗 II — b 類 1 点が土坑内より出土したとされるが、詳しい出土位置は不明である。また、石積基壇の南辺の直下で、土坑(粘土塊)が検出され、その底

面には被熱痕が認められ、焼土や被熱礫、炭化物片とともに、 土師質土器皿・杯片が出土したとされる。骨片の出土が認められず断定はできないが、土師質土器類と副葬品がほぼ同時期と みられることから、火化遺構の可能性が想定されている。

埋葬施設は、やや時期は前後するものの、香川県中東遺跡 ST01 や徳島県浦庄古墓等の調査例より、石積基壇中に設けられていた可能性が考えられる。そして、当該期の石積基壇墓は、基本的に単葬墓として構築されていたようだ。尾ノ背寺跡墓ノ丸古墓群や屋島北嶺古墓は、外表施設として同様な方形石積基壇が設けられた、単葬の火葬墓であったとみてよいであろう。また、それら墳墓の近接地に、尾ノ背寺や屋島寺といった山岳寺院が建立されていることは、その被葬者は各々の寺院の関係者であった可能性が高い。両者が単独墓ではなく、集団墓の様相を呈していることは、想像を逞しくすれば、これら寺院に二十五三昧会のような「葬送共同体」(松尾 2011)が形成されていたことも考えられる。

なお、こうした仏教関係者の火葬墓は、中世を通じていくつ か類例が認められる。徳島県阿波安国寺跡からは、3基の石組 墓が検出され、うち1基には古丹波壺を骨蔵器としていた(林 1999)。守護所に近接し、守護細川氏が建立した寺院であるこ とからすれば、寺院関係者の墳墓の可能性が高い。

こうした石積基壇を伴う墳墓については、藤澤典彦により石組墓 (註9) として、中世を通じての変遷が既に明らかにされている (藤澤 1990)。この点については後述するが、ここでは本

地域における方形石積基壇(石組墓)の成立が、12世紀後半段階にあることと、仏教関係者の墓として導入され、後に民衆墓に取り入れられていったことを確認しておこう。なお、周辺地域では、高知県具同中山遺跡 SX13等(14~15世紀)、愛媛県野間入鹿谷・清水山城遺跡第1集石(15~16世紀)等があり、中世後半期には四国の各地域で石組墓が導入されているようである。

次に、こうした外表施設の整備の成立要因について検討する。 平安時代中期に藤原氏の墓所であった木幡は、「古塚壘々。 幽隧寂々。佛儀不見。只見春花秋月。法音不聞。只聞渓鳥嶺猿。」 (『政事要略』巻廿九 寛弘二年(1005)十月十九日条)の地で あったが、道長は「御前若くおはしましける時に、故との、御 供などに | て詣でており(『栄花物語』巻十五)、またこれより先、 兼通(『親信卿記』天延二年(974)五月二十七日条)や伊周(『栄 花物語』巻五)も木幡墓参の記録がある。藤原氏以外にも、平 親信は如意寺に参拝した後、墓参をしている(『親信卿記』天 延二年六月十三日条)。これらの記録から、平安貴族が墓参を することは、決して皆無ではなかったことがわかる。服藤早苗 は、10世紀初頭には上級貴族の間で、官職継承に際して、父の 墓への墓参が萌芽したこと、こうした「官職の父子継承を主軸 として成立する私的所有主体としての家」と密接に関連して、 「氏墓」が成立し(服藤1989)、さらに「官職の家格が成立する」 11世紀後期には、墓の整備と墓参の定着をみると考える(服藤 1993)。

また、天台座主権少僧都良源は、天禄三年(972)五月三日、自身の没後のことを定めた中で、「是為遺弟等時々来礼之標示也」(『盧山寺文書』)のため、墓上に石製の卒塔婆を造立することを求めている(水藤 1991)。つまりは、墓標として卒塔婆が造立されており、しかも「時々」という表現や石製であることから、一定期間の墓参を想定していたことが想像される。

これは中世の例であるが、暦仁元年(1238)閏二月二十九日 に筑後善導寺で入寂した僧弁長(弁阿)の墓の上には、多宝塔 が造立された。その墓塔の地輪正面には、僧名や入寂年月日な どが線刻された(『聖光上人伝』)という(水藤 1991)。明らか に墓参を前提とした、石塔の造立とみてよいだろう。

後者の例は、いずれも被葬者は僧侶であり、弟子たちの礼拝の対象でもあったことで、これを僧籍以外の者に普遍化することはできないかもしれない。しかし、墓参という行為は10世紀から11世紀の間には、上層貴族層や僧侶を中心に定着し、やがて下位の階層へと拡大していくものと考えられる。そしてそれは、墓が単なる遺体の処理場ではなくなることを示していよう。

勝田至は、『日本後紀』延暦十八年(799)三月十三日条等の 記述より、「山に設定された氏の墓所の木に霊が宿っていると いう観念が古代からあった」こと、墓に樹を植える慣行は、さ らに古く『続日本紀』慶雲三年(706)三月十四日条に遡るこ とを明らかにした。そして、先の『日本後記』に、「而今樵夫 成、市、採二伐家樹」。 先祖幽魂、永失、所、帰。」とあることから、墓所に植えられた樹が、先祖の魂の依代であった可能性を指摘する。 それは中世史料にも「松墳」として散見され、「松が選ばれたのは常緑樹で寿命が長く、常に霊が宿る」と、その理由を説明する。 その後、「共同墓地の塚は次第に植樹にかわって卒塔婆や石塔を立てる方向」に変化した(勝田 1988)が、それ伴い霊の依代も石塔へと推移した。 それは『餓鬼草子』に、墓塔の建てられた塚墓に限り、樹が描かれていないことからも判断される。

伊周は、大宰府への配流を前に、父の墓前で「無御影」に直接自らの心情を吐露し、二度と墓参に来られぬことを嘆いている。わざわざ伊周がこのとき墓参したのは、亡父の墓に宿る霊に会うためであり、墓上には植樹がなされていたか、墓標が造立されていたと考えられる。

佐藤弘夫は、「平安後期から新しい葬送儀礼が始まる。聖地 = 霊場に対する納骨の信仰である。…しかし、納骨信仰の場合でも、ひとたび骨が霊場に納められてしまえば、それ以降、骨の行方に関心が払われることはなかった」ことを指摘した(佐藤 2008)。遺骨よりも、肉体より遊離した魂の行方に強い関心が寄せられたのであり、その依代としての樹木や墓標が重視された。

こうした墓に宿る相霊への恒常的な対応、つまり依代として の恒久的な施設である墓標及び外表施設としての石組墓の整備 を、中世的墓制と考えたい。水藤真は、「単に遺体を処理する 葬すという行為と、のちにそこを墓所として体裁を整える造墓・ 造塔という行為とは元々は別のものであった。…しかし十四世 紀頃からは、葬送すればその後塔を建てて供養するのが当然と、 造墓・造塔までを含めて葬送と認識されるようになった| 可能 性を説く。またそれは、「鎌倉新仏教の庶民への浸透、石塔造 立の隆盛という事実とも対応」しているという(水藤1991)。 その背景には、「死霊の残した思いを聴いて叶えてやることに よって、さまよえる死霊が邪霊とならないように、その思念を 鎮静させる…新たなタマシヅメの作法として、仏教的儀礼 | で ある「追善供養」(川村 2015) が、地方の有力階層へ浸透していっ た可能性を考える。あるいはまた一方で、先にみた「家」の成 立による父子間での家産継承の正当性を主張する根拠として、 墓地の整備が進められた現実的な問題への対応でもあった可能 性もあろう。

また、後述するように、土葬墓においても、12世紀末~13世紀代には、徳島県黒谷川宮ノ前遺跡 ST1001 や同古城遺跡 ST1001等において、石組墓が導入されている。土葬や火葬といった葬法の相違を越えて、墳墓外観の様式的統一が追求されている可能性を示すものと考えられる。

上述した理由より、本地域においては、12世紀後半を大きな 画期とし、水藤の想定よりもやや遡るが、石組墓の成立をもっ て、中世的墳墓として捉えることとしたい。

8 石組墓の展開

さて、既述したように石組墓については、藤澤典彦により詳細な検討がなされている(藤澤 1990)。藤澤は、石組墓を単独の方形墓から、先行墳丘に追葬の際に墳丘を継ぎ足して造墓する段階を経て、当初より一定の追葬を想定して長方形墓を築造する段階への変遷を、実例を挙げて想定され、①~⑤の5段階^(註)に区分された。その背景として、個人墓から夫婦墓や家族墓を経て、一族墓へと、段階的な被葬者像の変遷を説明する。

しかし、こうした変遷は継起的に展開したのではなく、①は基本単位で、「石組墓の展開過程のどの時点においても認められる」とされ、規模の縮小や石組の簡略化を伴うとされる。さらに、②は13世紀中頃から14世紀後半の例が示され、③は14世紀前半に、④は14世紀後半に、⑤は14世紀末~15世紀前半に、それぞれその始期があるとした。地域により、あるいは階層や集団によって、墓制に表現される紐帯の意識が異なっていたと考えられる。

藤澤の分類案は、本地域の石組墓では、第14~16表に示し たように各類が認められる。このうち②~④については、後世 の攪乱が著しく、また多くの石組墓で骨蔵器が出土せず、埋葬 施設の構造も不明瞭で、時期を特定できない例が多い。①は、 既述したように12世紀後半に本地域で導入される。導入期の ①の一つである尾ノ背寺墓ノ丸墓群は、7基の石組墓で構成さ れ、各墓は連接しない。本墓群については、おそらく寺院に付 属する、僧侶を中心とした寺院関係者の墓であることが、その 要因と考えられる。また①は、14世紀後半代の徳島県お塚古墳 ST1001 までは、辺5mクラスの大型墓が継続して築造されて いる。一方、13世紀後半の徳島県古城遺跡 ST1001・1002 では、 ほぼ同規模の石組墓が2基ほぼ接するように築造され、②の初 現的な様相を示す。規模は辺 1.5~2.0 mと小規模で、①の大型 墓との間に明瞭な階層差がみられる。15世紀以降は、こうした 小型墓が普遍的となり、大型墓の動向が不明瞭となる。おそら くは集団墓や石塔の普及により、外表施設の規模の格差表現が、 石塔のそれへと置き換わっていったものと考えられる。

②は、14・15世紀の動向が不明瞭だが、おそらくは継続して 築造されているとみられる。③は15世紀代には出現している とみられ、神宮寺遺跡 SU1005 例より17世紀前葉に継続する。 ④・⑤の出現は、現状では16世紀に下る可能性が高い。また、 16世紀段階での②・③の連接される各墓の規模は、基本的に同 時期の①とほぼ同規模であり、①を複数基連接させることによ り、②・③が成立する。その点で、本地域での①~③墓の相違は、 追葬がどの程度反復されたか、つまりは被葬者集団の時間的な 継続の差である可能性が考えられる。

上述したように、②以降の集団墓地化する石組墓において、 夫婦墓や家族墓、一族墓へと一つの墳墓に表示された関係は、 血縁関係を媒介として拡大していく。しかし、基本的に石塔の 造立は、近世前半期においても個別埋葬単位になされており(岩 田 2006)、それは既述したように、石塔が被葬者の霊の依代と して考えられていたことと深く結びついているといえよう。

こうした血縁関係による墓地の形成について水藤真は、後鳥羽天皇の乳母であった藤原兼子の没後に縁者が喪家に集まったことを受けて、「それは遺産の配分をするため」であり、「子の持つ権利の淵源が親にあれば、子はその権利継承の正当性を主張するに際して、親からの保障・正当な権利相続がなければならない。そして、その親を祀っているという実態、これも親からの権利の継承を主張する根拠と」なったのであり、「家の財産(家産)の確立こそが、「家の墓」を生む母体であった」ことを説く(水藤1991)。

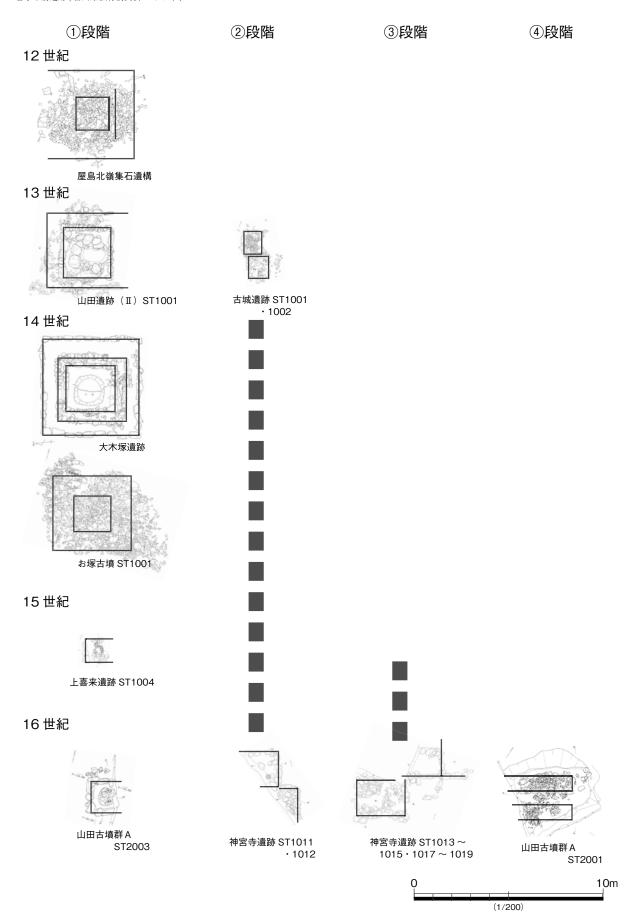
9 古代の土葬墓

既述したように、本地域での古代の葬制の中心をなすのは火葬墓である。しかしながら、火葬墓の築造が低調となるにつれ、少数ではあるが土葬墓も検出されている。12世紀以前に遡る土葬墓は、本地域で4例が検出されている。

うち、最も遡るのは、香川県生野本町遺跡 ST81 で、出土した須恵器より8世紀前葉の時期が提示される。本土壙墓の東には、溝により辺約80mの矩形に区画された、大型建物を伴う豪族居館もしくは官衙関連施設と考えられる遺構が検出されている。土壙墓は、西区画溝のわずか約10m西に位置し、被葬者は大型建物と関係する人物である可能性が考えられる。本遺構は、本地域において火葬導入初期の数少ない土葬墓の例であり、多度郡衙の可能性も想定されている大型建物群(佐藤2003)と土葬墓の関係は、火葬墓の立地を考える上で非常に興味深い内容を有している。

他の3例(香川県川津一ノ又遺跡ST06・同平岡遺跡群ST01・徳島県観音寺遺跡ST1004)は、9世紀後半~11世紀と、火葬墓が低調となった時期の埋葬例である。3例に共通する点は、a周辺に同時期の遺構が存在せず、土壙墓が単独で立地すること、b上部構造は削平のため不明だが、墓壙の残存深より判断して、周囲に周溝等の区画施設を有しない可能性が高いこと、c墓壙規模は、生野本町遺跡例を含めて、いずれも長軸1.65m以上と大きく、伸展葬での埋葬が想定できること、d頭位方向が不明の平岡遺跡群例を除いて、西頭位で埋葬されていることがあげられる。とくに、a単独立地やb簡素な埋葬施設は、同時期の火葬墓と共通し、葬制は異なるものの、墓所の空間的な位置や構造に対する意識は共通していた可能性が考えられる。また、c伸展葬での埋葬は、後述する中世土葬墓での埋葬姿勢と大きく異なり、古代では伸展葬での埋葬が慣習であり、中世の段階で屈葬が新たに導入されたと考えられよう。

さらに、上述したように、本地域の火葬墓では、発掘調査例においても、同一墓域内に同時期の土葬墓が検出された墳墓は皆無である。生野本町遺跡古墓と筆の山南麓火葬墓群は、直線距離でわずか700mしか離れておらず、若干の時期差は認めるものの、墓域を共有することはない。氏族が異なるのか、階層や性別、年齢等により区分されていたのか、その要因は明らか



第167図 石組墓の変遷

ではないが、おそらく火葬墓と土葬墓の墓域を共有する慣習・ 葬制は、本地域にはなかった可能性が高い。あるいは、火葬か 土葬かの葬制の選択にかかわらず、むしろ火葬墓において既述 したように、緩やかなまとまりは指摘できても、一つの尾根を 限って墓域を共有するといった例は認められないことから、埋 葬後の墳墓は顧みられることはなく、個別埋葬毎に新たに葬地 が決められていたというのが実情なのであろう。

火葬と土葬という葬制の選択について、小林義孝は『日本霊異記』に載せられた説話より、「死者の保持する宗教的イデオロギーや信仰の問題とは無縁のところで決められ」、「仏教の信仰の有無のみの問題によって土葬と火葬が対立しているのではなく、その選択の基準は、後の世に伝わらなかった習俗など未だ検出していない要素が多くあった」可能性を指摘(小林1998)する。

古代土葬墓は火葬墓のような骨蔵器を伴わず、さらに遺跡を 形成せず単独で埋葬された場合、その調査率が火葬墓と比べて 著しく低くなることは容易に想像され、現状での土葬墓に対す る火葬墓の比重の著しい格差は、実態を反映していない可能性 が高い。土葬を選択した人々が、本地域においてもまだ多くい たことは間違いないだろう。

一方で、地方における10世紀以前の火葬墓の被葬者の大半は、 火葬を選択した郡司であったことは既述した。古代火葬墓が大 きく衰退する10世紀を境に、それ以前と以後の土葬墓の被葬 者像もまた、大きく異なっていた可能性が考えられる。

10 屋敷墓の出現

12世紀における画期のもう一つの要素に、屋敷墓の成立があげられる。中世段階の土葬墓は、ほぼ屋敷墓として営まれ、既述した火葬墓のような屋敷地外での単独墓はごく少数例に限られ (株11)、集団墓は形成されない可能性が高い。この点で、本地域での共同墓地の成立は、勝田の指摘(勝田 1993)する時期より、大きく遅れる可能性が高い。

その屋敷墓の成立は、香川県下川津遺跡 ST III 11、ST III 12、ST III 22、徳島県古町遺跡 ST3001 を嚆矢として、12世紀前半に遡る。下川津遺跡では、いずれも伸展葬した成人女性の頭部と足部を、それぞれ完形の土師器甕に挿入して埋葬されており、詳細の不明な古町遺跡例も同様な埋葬方法であったと考えられる。地域を違えて類似した埋葬がなされている点は興味深く、両遺跡間で葬法に関する情報が共有されていたことが想像される。上記遺跡以外に、類似した葬法は管見に乏しく、その系譜関係は明らかにしがたい。使用する器種の共通性からは、古代の合わせ口土器棺葬にその系譜が求められる可能性が高く、屋敷墓という新たな葬法の導入に際して、古代以来の伸展葬や土器棺葬という、伝統的な埋葬法がやや強引に採用された可能性を想定したい。

その後屋敷墓は、12世紀後半~13世紀前葉には11遺跡に拡大し、以後14世紀にかけて盛行する。12世紀後半以降の屋

敷墓は、主に木棺墓であったとみられる。香川県西末則遺跡 STj01 のように、鉄釘を使用しない木棺墓例もあり、棺痕跡や 鉄釘の出土が認められない土壙墓の多数が、その墓壙平面が比 較的整った矩形を呈し、底面が概ね平坦であることからも、木 棺墓である可能性は高いと判断される。

こうした木棺の採用に伴い、埋葬姿勢も伸展葬から屈葬主体 へと大きく変化する。人骨が良好に遺存し、埋葬姿勢が判明し た39体のうち、屈葬は36体(92%)に及ぶ。宗教的な要因も 当然考えられるが、それと共に運搬等の理由から、大きな寝棺 の使用を避けた可能性もあろう。墓壙長軸長は、最も短い0.8 mから、最も長い香川県空港跡地遺跡 STf02 の約 2.7 mまで幅 がある。また、墓壙長約2.0mの香川県花池尻中遺跡ST01で 屈葬が採用されている反面、同約1.7mの下川津遺跡ST Ⅲ13 では伸展葬であるなど、調査精度等課題もあり断定はできない が、埋葬姿勢は墓壙規模と必ずしも相関しない可能性がある。 一方、古代的な伸展葬も極めて少数ではあるが継続し、その墓 擴長は当然 1.7 m以上である。なお、鎌倉時代の『吉事次第』 では、「ナカサ六尺三寸」の木製の棺に伸展姿勢で納棺され、 火葬に付されたことが記される。土葬とは異なるため、直接比 較できないが、伸展葬の場合は概ね長さ1.8m前後の棺が用意 されたと考えられよう。

また、埋葬姿勢は、上述した屈葬とともに、北頭位で西向き 例が多く認められる。これは釈迦の入滅の際の故事を背景とし た思想であり、当然仏教との関連が想定される。鎌倉仏教の聖 や沙弥、民間仏教者たちによる布教の影響も考えられよう。

11 中世墓の副葬品

本地域では、中世のとくに土葬墓において、副葬品が顕在化する。古代の火葬墓にも、副葬品がないわけではないが、第 $10\cdot15\cdot16$ 表に示したように、一般に火葬墓への副葬行為は低調である

佐藤弘夫は、『日本霊異記』の作者景戒自身の夢の説話(下巻三八話)の分析から、「死は、肉体から魂が分離する現象と捉えられている。肉体から抜け出した霊魂は、生前と変わることのない意識と記憶を保有し続けている。人間の個性と人格は、肉体にではなく霊魂の方に帰属する要素だった」とする重要な指摘を行った(佐藤 2008)。

『日本霊異記』には、古代の人々の死と遺体に対する観念の、多くのテキストが掲載されている。讃岐国鵜垂郡の布敷臣衣女は、閻羅王に「骸を失ひて依りどころ无し」と愁訴する(中巻第二五話)。ここでは、佐藤の指摘とともに、霊魂が遺体から遊離しても、その遺体が保全されてさえいれば、再び生き返ることができ、しかもそれは自分の肉体である必要はないという観念の存在をみることができる(小林 1998)。霊魂が遊離した遺体は、蘇生や霊魂の安寧のためにも守護や保全を必要としたのである。

遊離した霊魂は、既述したように、遺体の埋葬後は、墓上の

遺跡名	所在地	遺構名	鏡種	面径 (cm)	鏡の年代	伴出遺物	遺構の性格	遺構の年代	状態	備考	報告書
誉水中筋遺跡	香川県東かがわ市營水	ST01	桜花双鳥鏡	11.3	平安後期	白磁碗・壺	土壙墓	12 世紀	完鏡		本書
高松城跡 (西の 丸町地区)	香川県高松市西の丸町	IX⊠ SXc24		11.1	平安後期?	瓦器碗·瀬戸美濃系 陶器天目碗·同安窯 系青磁碗·石仏頭	土坑	16 世紀末~17 世紀初頭	完鏡	混入資料?	香川県教委 2003c
多肥松林遺跡	香川県高松市多肥上町	SK06	八稜鏡		平安中期	土師器鍋・管玉	土葬墓?	10~11世紀	破片		香川県教委 2016b
空港跡地遺跡	香川県高松市林町	SPb17	水辺双鳥鏡	9.6	平安後期		柱穴	12 世紀	完鏡		香川県教委 2007
中間西井坪遺跡	香川県高松市中間町	SP II 330		7.1	平安後期?		柱穴		破片	破片	香川県教委 1999
川北遺跡	香川県坂出市神谷町		六稜鏡 or 六花鏡	不明	平安中期	須恵器壺	火葬墓	11 世紀	完鏡	蔵骨器蓋に転用、 現存しない	
下川津遺跡	香川県坂出市川津町	ST Ⅲ 15	菊花双鳥鏡	10.8	平安後期	刀子状鉄器	土壙墓	中世	完鏡		香川県教委 1990b
快天山古墳	香川県丸亀市綾歌町		八稜鏡	8.3	平安中期	須恵器壺・土師質土 器皿	火葬墓	11 世紀	完鏡	火葬墓副葬品?	綾歌町教委 2004
岡の御堂古墳群	香川県綾歌郡綾川町滝宮	包含層	松樹双雀鏡	7.0	室町時代		火葬墓?	15~16世紀?	完鏡		綾南町教委 1977
龍川四条遺跡	香川県善通寺市原田町	SK35	不明	10.5	平安後期	龍泉窯系青磁碗片	土壙墓?	12 世紀	完鏡		香川県教委 1995a
中島田遺跡	徳島県徳島市中島田町	包含層	不明	9.1	平安後期			13~14世紀	破砕		徳島県教委 1996
観音寺遺跡	徳島県徳島市国府町	ST1004	八稜鏡		平安中期	土師器杯・軒平瓦	土壙墓?	13 世紀前後	完鏡		徳島県教委 2010
寺山遺跡	徳島県徳島市八万町寺山	SP1215	菊花双鳥鏡	8.7	平安後期		柱穴	13世紀?	完鏡		徳島県教委 2007
加茂野宮遺跡	徳島県三好郡三野町加茂 野宮	SK1095	菊花楓双鳥文鏡	8.8	平安後期		土壙墓?	13 世紀前後	完鏡		三野町教委 1997

第20表 和鏡出土遺跡一覧(経塚は除く)

樹や墓標に宿ると考えられていた。したがって殯により、遊離した霊魂が再び身体に戻り、蘇生することは期待されても、遊離する霊魂を強引に遺体に緊縛しようとした痕跡は認め難い。 死によって肉体から霊魂が遊離することを前提として、殯等の再生儀礼が準備され、そして、蘇生が不可能と判断された時点(註 12)で、埋葬が執り行われたと考えられる。

旱魃による飢饉や天皇や皇族達が罹患した重篤な病を、権力闘争の結果敗死した天皇や皇族の「祟り」として、使者を山陵に遣わして陵内の清掃や読経による供養がなされたことが、史料に散見される (註13)。また、聖武天皇は天平九年 (737) 十月二十日、長屋王の子女である安宿王等五人に、従四位下とする異例の叙位をおこなったが、寺崎康弘は、長屋王の祟りを鎮めるための政策的な可能性を指摘する (寺崎 1999)。こうした山陵での鎮魂や遺児への優遇策とは、容易に解決の困難な天変地異や政治主導者たちの災禍を、早良親王や長屋王といった誰もが納得しやすいキャストを配して、彼らの霊魂が悪霊と化してなされた祟りであるという巧みなストーリーをでっちあげ、彼らを神として祀り、また読経による供養によって慰撫する御霊会等として、案出された解決法にほかならない。この世を浮遊する悪霊もまた、墓所に宿るのである。

岩田重則は、「遺体埋葬地点上に設営されるタマガキ…などの墓上施設」は、「墓に近寄るこうした恐ろしげな者たちによって、…遺体埋葬地点が破壊され」、遺体が露出することを忌避したものであると考えた(岩田2006)。岩田の結論とは異なるが、こうした施設や、岩田が紹介する、死者を北枕に寝かせて刃物を抱かせ、枕飯が添えられる民俗例も、魂が遊離した後の遺体を守護するための工夫と考えることができる。

「刃物」や「枕飯」といったキーワードは、中世墓における 副葬品目とも共通する呪術的な器物である。火葬が普遍化する 中世後半期以前には、『日本霊異記』に再々取り上げられるよ うに、荼毘に付されてしまえば、霊魂は戻る場所が失われるの であり、遺骨を守護する必要性は低下する。肉体を保全したま ま埋葬した土葬であるからこそ、様々な器物により、その遺体 を護る必要があったと考えたい。

さて、本地域の中世墓における副葬品は、多様な内容を認め

ることができる(第12~14表)。これらは、和鏡、短刀、刀子、 陶磁器(舶載・国産)、土器、その他と大きく5種類に分類される。 この中で、和鏡と短刀はすべての種類の副葬品と、刀子等の鉄 製利器は陶磁器以下の副葬品と、陶磁器は土器と、それぞれ供 伴関係にある。また、第20表に示されるように、和鏡の副葬 は、包含層出土で15世紀代以降に下る香川県岡の御堂古墳群や、 土壙墓と断定が困難な徳島県加茂野宮遺跡例を含めても、本地 域では5例に限られる (駐14)。つまりは、和鏡や短刀の副葬を最 上位として、以下階層的な副葬品目の段階的な優劣関係が想定 される。最下位には、考古学的に副葬行為が確認できない墓が 位置付けられ、和鏡と短刀副葬を最上位に、以下刀子等の鉄製 利器を副葬するもの、陶磁器を副葬するもの、土器類を副葬す るもの、副葬品を確認できないものの、5つの階層に分類され

このうち、和鏡と短刀に代表される金属製利器には、既述した呪術的な意味が託されていたのであろう。川村は、「刀や戈は死霊が「凶癘魂」つまり邪霊とならないように鎮めるとともに、死霊に寄り憑く邪霊を退散させる祭祀具」と考える(川村2015)。陶磁器や土器には、枕飯と共通する用途が感じられるとともに、「灯をあまたともして邪霊を近づけぬように」する(西郷1999)ための燈明具として用いられた可能性も考えられる。副葬品に、被葬者の生前の嗜好品的なものが含まれている可能性は否定しないが、各墓に共通して副葬されるこれら品目には、いずれも遺体を守護する、呪術的な目的があったと考えられる。分類された階層は、基本的に被葬者の生前の経済・社会的位置を表現しているものと考えられるが、その差は最大でも和鏡や短刀、輸入磁器等の有無にとどまる。埋葬された被葬者の階層差は、さほど大きなものではなかったことが想像される。

副葬品は、遺体の保全を第一義とした呪具が選択され、陶磁器や土器類を除いて単数埋納を基本とする。また、副葬品にみられた格差は、墓の他の属性、例えば棺や槨等の埋葬施設の構造等と、相関関係にはない。比較的厚葬に分類される礫床を伴う土壙墓、香川県下川津遺跡 ST Ⅲ 09 に埋葬された 40 代後半の女性には、副葬品は供献されていなかった。埋葬施設の構造が総じて簡素なものであることからも、墓に階層性を表出させ

る意識は、既述した外表施設を除けば、本地域においては、それほど高いものではなかった可能性が高い。当時の本地域における墓の普遍的な機能の一つとして、視覚的な階層表現をあげることができるだろうし、それは古代の埋葬施設とは明らかに性格が異なるものである。靈の依代としての墓標の重視が、こうした外表施設の荘厳化をもたらしたものと理解したい。

12 中世墓の被葬者

では実際に、中世において、墓に埋葬された被葬者は、どのような階層の人物であったのか。それを探るための手掛かりとなる、被葬者の性別や年齢が判明した墓は、限定的である。現状では、土葬墓の19遺跡43墓から人骨が出土しており、ある程度の年齢や性別が判明した例は、9遺跡20墓に限られる。このなかで、徳島県大松遺跡SK1012の3~6歳児とされる例が最も若く、同古町遺跡ST2002の初老期男性までの年齢幅がみられるようである。小児埋葬例は、大松遺跡以外にはなく(駐15)、後述するような点からも、特殊な状況を想定した方がよいように思われる。その他の資料からは、十代後半以降の埋葬が一般的である。

また、男女の性差による偏りは、やや男性が優位のようにも見受けられるが、資料が限られる現状では断定はできないだろう。上述した副葬品と性との関係も、短刀や刀子が男性に副葬される傾向が高いといった点までしか指摘できそうにない。地域を拡げると、12世紀後半~13世紀代とされる愛媛県平田七反地遺跡2号土壙墓と3号土壙墓で、女性遺体に伴い六花鏡と和鏡それぞれ1面が副葬されており(愛媛県教育委員会2000)、銅鏡が女性に副葬された例が確認される。

当時の平均寿命についての定見は持たないが、出土例から判断して、十代後半以上なら性差を問わず、埋葬の対象となりえたと思われる。既述したように、造墓が家産の継承を前提とするのであるなら、被葬者は一定の継承すべき家産を所有しており、自らの判断でその処分が可能な年齢であったことが想像される。それは同時に、『令』巻第四 戸令第八に、「不課。謂。…男年十六以下。」とあるような、課税対象となる階層でもあったと考えられる。また、平安時代における貴族の元服の年齢が15~16歳とされる(服藤1991)ことも参考となろう。

橘田は、前期屋敷墓の被葬者として、屋敷地の建物規模より「百姓層」を想定し、屋敷墓の成立について、彼らが「「屋敷」創設の主体者(所謂「家父長」)であった蓋然性は高」く、「「屋敷」の中に墓を作り、祖先(「屋敷」創設者)祭祀を行うことによって、「屋敷」相続の正統性つまり「屋敷」所有の強化を」図ろうとした(橘田 1991)ことに求めた。さらに「百姓層」について、文献史料より「名主層」を想定する。

勝田は、地頭など在地領主クラスの「屋敷付属の墓所」の史料を紹介し、また「発掘されている屋敷墓の多くはその下の名主百姓身分のもの」とする(勝田1988)。勝田がなぜ、屋敷墓の発掘例を名主百姓身分のものと考えたのか、その根拠は明示

されていない。しかし、屋敷墓の被葬者について、橘田と同様に名主百姓身分という、具体的な社会的位置を明示した点は重要である。上述した副葬品にみられる格差は、名主層内部での経済的格差に起因する可能性が考えられる。

次に、上記した成人層以外の小児は、死に際してどのような扱いをされていたのであろうか。圭室諦成は、鎌倉時代、神祇伯白川仲資が娘を亡くした際の日記に、「七歳までに死亡した場合は、葬式も仏事もおこなうべきでないこと、遺骸は袋にいれて山野にすてるのが通例」であったとの記述を紹介し、幼児の埋葬は、「人間の形成を、七歳ぐらいとして、それ以前は容易に生まれかわることができる」と考えられたため、避けられたことを指摘している(圭室 1963)。また、『律』巻第一名例律に、「九十以上、七歳以下。雖」有一死罪」。不」加」刑。」とあり、七歳以下の幼児の死に対しては、かなり古い段階から、特別な意識が払われていた可能性がある。

こうした子供の遺体に対する特別な扱いは、岩田重則により近年まで普遍的に見られたことが明らかにされている(岩田 2006)。本地域においても、7世紀後半とされる川津一ノ又遺跡 ST05 と既述した大松遺跡以外に、現状で小児埋葬は確認されていない。

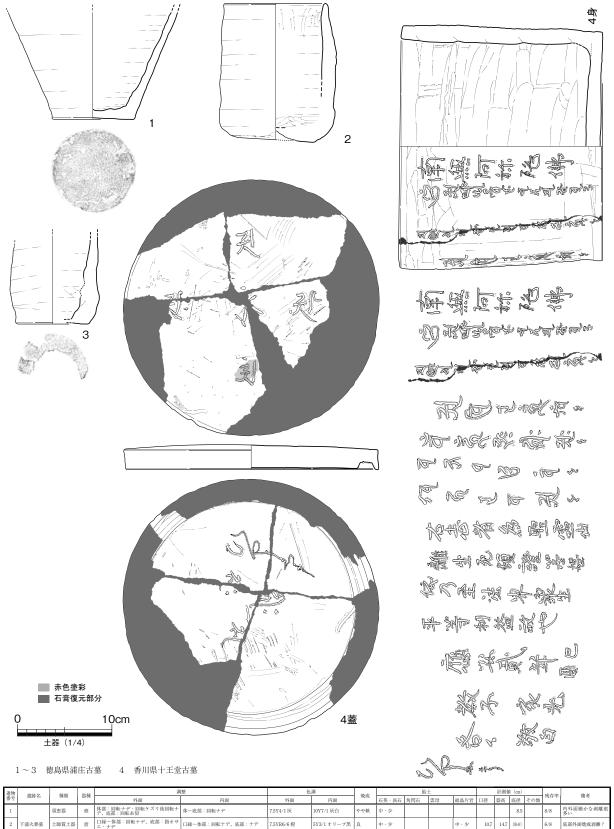
乳幼児の死亡率の高い前近代社会において、子供は大人とは 異なる存在として認識されていたと考えられる。

13 中世後半期の墓所のゆくえ

12~13世紀にかけて盛行した屋敷墓は、14世紀代には大きく衰退する。屋敷墓自体は、徳島県黒谷川宮ノ前遺跡 SK1048、同日吉~金清遺跡 ST1001 等の例より、16世紀代まで細々と継続して造墓されていたことは確認できる。しかし、多くの屋敷地において、墓所は屋敷地の外へ移動したことは間違いない。

墓所の移動とともに、火葬墓が急増してくるのも、当該期の様相として指摘できる。既述したように、墳墓外表施設は小型化し、それと連動して、墓標となる五輪塔等の石塔も小型化する。骨蔵器は、土師質土器甕などの転用器の使用は、現状で14世紀代まで確認される。14世紀中葉には、香川県十王堂墓例(駐16)にみられるように円筒形の専用器が出現し、以後小型化や粗製化しつつ16世紀にかけて継続して使用される(第167・168図)。こうした専用骨蔵器の盛行は、火葬の増加と墓域の集約化が強く影響していると考える。葬地の移動として大きく顕在化した変化は、墓制や付帯施設等の変化をも促して構造化し、それは14世紀後半代を大きな画期として進行したようだ(ほぼ)。

徳島県神宮寺遺跡や同上喜来遺跡等では、中世火葬墓に隣接して、寺院の存在が推定されている。調査例は必ずしも多くはないが、中世後半期の葬地は、境内墓地へと収斂していったことが想像される。それは、鎌倉末期以降禅・律・念仏系の遁世僧たちが、直接葬送に携わるようになり、そうした活動を通じて、地方においても教線を拡大していったことが背景として考えられる。



第 168 図 中世火葬墓骨蔵器実測図

東用骨蔵器 13世紀 14世紀 15世紀 16世紀 16世紀

第 169 図 中世火葬墓骨蔵器の変遷案

香川・岡の御堂

石塔を樹立した火葬墓の展開は、こうした仏教教団の動向と 無縁ではないであろう。五輪塔や火葬に込められた仏教上の意 味を、被葬者たちがどの程度理解していたかは不明ながら、火 葬墓の増加は、阿弥陀信仰や弥勒信仰といった仏教思想の庶民 層への広がりを暗示していよう。なお、本地域では、五輪塔と 板碑の分布に、一部に重複はあるものの、明瞭な分布域の相違 が認められる(大川 2013)。こうした五輪塔と板碑選択の背景 に、板碑に対する阿弥陀信仰、五輪塔に対する弥勒信仰といっ た、信仰上の相違が存在していた可能性も想定できるのかもし れない。

14 火葬関連遺構について

近年の調査の進展とともに、火化遺構等の火葬に関係する遺構の調査例も増えてきた。既述したように、小稿では荼毘に付した後拾骨され、埋葬されたと判断しうる遺構を火葬墓として検討する。しかし、焼骨を納めた容器が有機質のものであった場合、拾骨の有無を認識することに困難が予想される。この場合、骨片をはじめとした炭化物や遺物等の出土状況や、土層の詳細な観察が必要となるが、必ずしも良好な調査例に恵まれているとはいえない。

また、火化後の灰や焼骨を片付けた、いわゆる「火葬灰埋納土壙」(小林 1992) の存在も想定しなければならない。したがっ

て、炭化物や骨片が出土した遺構について、火葬に 伴うどのレベルの遺構なのか、判断には慎重な検討 や観察が必要とされる。

小稿では、骨蔵器が伴わず人骨の出土した遺構で、 遺構内に被熱痕の認められるものを火化遺構(森本 1991)、それが認められないものを火葬灰埋納土壙と する。また方形周溝遺構で、内部に溝と整った位置 関係にある建物遺構が確認されず、雨落ち溝等の建 物周溝と明らかに異なる規模の周溝遺構を火葬塚(岡 田・吉野 1979) として、以下検討することとしたい。 まず、火葬塚と考えられる遺構には、本遺跡 SD36 を含め、香川県下で4遺跡5例(第19表)が報告さ れている。いずれも、古代から中世の方形周溝遺構で、 京都市京大理学部遺跡 SX1 (京都大学埋蔵文化財調 査研究センター 1979) や、長岡京市西陣町遺跡(長 岡京市埋蔵文化財センター1985)等の例から、火葬 塚の可能性を想定する。これらは、同時期の屋敷地 に近接する例(誉水中筋、西末則)と、近接地に屋 敷地が想定されない例(上川井、川西北・原、北代西) の両者があり、選地に明確な規則性は伺えない。し かし火葬塚のみが単独で存在していた場合、調査が 実施される可能性は屋敷地に近接する場合より低く、 ^{徳島・山田古墳群A} 実数は後者の方が多数であった可能性はある。規模 は各遺構により差異が認められるが、溝を矩形に巡 らせ、辺3~6mの方形のマウンドを形成すること

で共通する。溝で区画されたマウンド内には、いずれも後世の 削平のため遺構は確認されていないが、周溝掘削土による低墳 丘を有していたことが想像され、その上面には、本遺跡でみら れるような石塔が造立されていた可能性が考えられる。時期は、 北代西遺跡例が10世紀代と最も古く、詳細な時期が不明の上 川井遺跡例を除いて、12世紀後半から13世紀前葉にややまと まる。当該期は、既述した火葬墓における方形基壇の導入期に 重なる点は重要であろう。

次に、火化遺構と考えられる遺構は、管見に触れたもので 13 遺跡 14 例が、同様に火葬灰埋納土壙と考えられる遺構は、4 遺跡 10 例がそれぞれ報告されている(第 17・18 表)。上記以外にも、炭化物と共に骨片が出土した遺構は報告されているが、調査内容から積極的に遺構の性格を評価することが困難なため、除外した。いずれも有機質の蔵骨器を用いた火葬墓が含まれる可能性はあるが、報告からそれを判断することはできなかった。また、後者については、本来火化遺構とすべきだが、何らかの要因で被熱の有無が確認できず、火葬灰埋納土壙としたものが含まれている可能性がある。

こうした火葬関連遺構について、表中に平面形態の分類(楢崎 2007)を示した。タイプ I の長方形土坑は、12 世紀後半~13 世紀には出現し、16 世紀まで認められ、本地域で主体となる。タイプ I には、床面に礫敷を伴うものと、素掘りのものとがあ

營水中筋遺跡(香川県教育委員会 2017年)

り、前者は基本的に火化遺構と考えられ、後者は火葬灰埋納土 擴をそのうちに含む。タイプ Π は、徳島県上喜来遺跡 SF1001 及び同円通寺遺跡 ST001 下焼土壙例がある。タイプ Π は、タイプ Π に溝状の張出部の付設されたもので、焚口の可能性が指摘されている。焚口だとすれば、タイプ Π は火化遺構に限定されよう。なお、タイプ Π は、遺構面が大きく削平された場合、張出部が削奪されてしまう可能性があり、タイプ Π には本来タイプ Π であったものが含まれる可能性は高いと考えられる。タイプ Π 、タイプ Π は本地域では認められず、タイプ Π が徳島県神宮寺遺跡や同花園遺跡に認められ、いずれも $15 \sim 16$ 世紀に限定される。被熱痕跡の確認ができないため、用途は不詳だが、逆に明瞭な被熱痕跡が認められなかった可能性があり、火葬灰埋納土壙の可能性が高いとも考えられる。

さて、これら火葬関連遺構については、同一遺跡内に火葬墓が営まれているもの(大木塚、上喜来、神宮寺、山田古墳群A)と、火葬墓が検出されていないものとがある。調査区の設定の問題もあり、今少し調査例の蓄積を必要とはするが、後者については、荼毘所と埋葬地が異なる可能性がある。大木塚遺跡や円通寺遺跡では、火葬墓直下に火化遺構が検出され、葬地への強い拘りが認められる。こうした例を嚆矢として、上喜来遺跡や神宮寺遺跡等より、集団墓地化する中世後半期には、荼毘所と火葬墓が近接して営まれる傾向にあることは確かであろう。

15 さいごに

以上、雑多な論を展開し、ややまとまりに欠ける内容となった。本遺跡で検出された土葬墓ST01については、上述のとおり、本地域の土葬墓のなかでは最上位の階層に属し、被葬者も女性の可能性が考えられるものと評価される。また、火化遺構については、中世後半期の集団墓地内にそれが取り込まれる以前の資料を追加することができた。火葬塚についても、周溝内より石塔が出土し、資料の乏しかった本地域の同遺構について、具体的な内容が明らかとなった点は大きな成果であろう。しかし、土葬墓ST01と火葬関連遺構SK71・SD36との関係については、考えをまとめるには至らなかった。今後の課題としたい。

第1章以降、たびたび指摘してきた与田寺との関係についても、具体的な内容を明らかにするまでには至っていない。さらに、遺跡として調査された資料のみからのアプローチであり、現存する中世石塔については、埋葬施設の構造などが不明なため、検討からは除外した。当時の墓制を考察するには、両者をともに扱うことで全体像がより明確になることは了知している。また、石塔の問題とも関係して、仏教々団の本地域での動向との関係についても検討不足は否めない。

以上のように、多くの課題を残すこととなったが、これまで 断片的にしか取り上げることのなかった本地域の古代から中世 の墓制について、通史的に概観して、種々の問題点を指摘する ことができたものと考える。小稿が批判的に検証され、今後本 地域の当該期の墓制研究が深まることを祈念したい。

補註

- 1 火葬や土葬は、水葬や風葬よりも費用がかかり、古代から中世に おいては、上位階層の葬法とされる(水藤 1991・勝田 1987)。した がって小稿での検討は、当時の特定階層の葬墓観念に対する考察と ならざるをえない。
- 2 大橋育順は、徳島県吉野川流域の10遺跡から検出された、弥生時代後期から中世にかけての長方形土坑1,000基以上について分析を行った(大橋2006)。結論から示せば、これら長方形土坑すべてを「副葬品のない庶民の墓」と指摘するのであるが、大橋が提示する根拠のみからは、これら土坑が墓であることを肯定も否定もできず、評価は定まらないと考える。むしろ、他の地域や遺跡にはみられない比較的長期に継続するこうした特殊な様相を、遺跡や地域のなかで、立地や他の遺構との関係等を指標としつつ、先入観にとらわれずに、正しく評価することがまず必要であろう。そうした歴史的な位置付けを欠くならば、「有機物ばかりを分別して廃棄していた」特殊な土坑群という解釈を、排することもできないように思われるのだが。
- 3 佐藤は、滝本古墓や深谷庵山古墓における、小型の櫃形石製容器を、「全国の事例では概ね火葬骨を納めていること」から、「火葬骨蔵器」と考える。確かに両石製容器は、小林義孝や海邊博史が指摘する河内を中心に分布するⅢ類の石櫃(小林・海邊 2000)に近似する。しかし、讃岐の2例は、いずれも横穴式石室内に石製容器を埋置している点で畿内の諸例とは異なり、また規格も畿内のそれが身の長軸長0.3~0.6 mなのに対して、讃岐の2例は同0.9~1.2 mとやや大きい。さらに、類似した石製容器に、徳島県樋殿谷古墓の改葬墓例(鳴門市1976)があり、同じ火山石製で大きさも長軸長0.85 mと近似する。したがって、「火葬骨蔵器」と断定することはできず、確実な類例が出土するまで、火葬墓としての検討は控えることとしたい。なお、平安時代の改葬墓例は文献にも記載があり(笠井2002)、樋殿谷古墓の改葬墓例は、こうした中央貴族の葬制を模倣した可能性が考えられる。
- 4 讃岐山脈南麓には多数の火葬墓群が営まれており、そのうち磯尾、 東山、山田古墳群B、菖蒲谷西山Bの各古墓等を神宅古墓群、西谷、 山王子、吹越神社の各古墓を御所古墓群と、それぞれ称することと し、筆の山南麓古墓群や火上山南麓古墓群を含め、特定氏族による 墓域の占有状況をそこに見出したい。
- 5 本地域においても、例えば大内郡の凡直春宗や寒川郡の讃岐公永 成、阿野郡の綾公姑継等、京に貫附した郡司層は数多く記録されて いる。
- 6 坂出市川北古墓、同金山三ツ松古墓、同松山茶山古墓、高松市福家古墓(蔵本 2005) があり、そのほかに坂出市鼓ケ岡文庫所蔵須恵器壺(蔵本 2010) や高松市香南小学校所蔵須恵器壺(香川県 1987)、綾川町所蔵須恵器壺(香川県 1987)もその可能性がある。なお、川北古墓、金山三ツ松古墓、松山茶山古墓出土の各骨蔵器の実測図の作成と本書への掲載に際して、坂出市教育委員会のご高配を賜った。ここに記して感謝いたします。
- 7 基壇上面にわざわざ遠隔地の石材を使用する意図は不明だが、墳

丘上面の装飾的効果のほかに、あるいは徳島県吉野川流域のお塚古 墳古墓等の被葬者集団との関係も想定される。

- 8 当該期の墓標として、石川県野々江本江寺遺跡から出土した木製 卒塔婆がある(石川県教育委員会 2011)。本地域でも13世紀後半 と考えられる五輪塔や板碑に先行して、こうした木製卒塔婆が墳墓 に立てられていた可能性は高いと考える。なお、本地域では、香川 県奥白方南原遺跡において15世紀後半代以降の井戸より、木製卒 塔婆1点が出土している(香川県教育委員会 2008)。
- 9 以下では、石積基壇としてきた呼称を「石積墓」に統一する。しかし、石積墓の各部の名称として「基壇」という呼称は使用することとする。
- 10 ①は一基単独で造られるもの。②は二基連接するもの。③は複数 基連接するもの。④は長方形区画をあとから一基ずつに区切るもの。 ⑤は長方形区画内の区切りがなくなるもの。とされる。
- 11 例えば香川県末則古墳中世墳墓例がある。末則古墳中世墳墓は、 西末則遺跡の東側丘陵上に中期古墳の墳丘を一部利用して構築され た墳墓で、長軸約10 m、短軸約4.5 mの方形の墳丘を有する。埋葬 施設は2基検出され、いずれも上面に凝灰岩製地輪と石組を伴う。 第2主体は石組下で検出された土壙墓で、鉄釘の出土より木棺墓と される。副葬品が出土しておらず、墓壙埋土中の出土土器より鎌倉 時代の可能性が指摘されている。西末則遺跡の中世屋敷地群と時期 的に重なり、屋敷墓ではなく、隣接する丘陵上に単独で構築されて いる点は、古代墳墓の立地と共通しよう。屋敷地内部の屋敷墓と の関係が気になるが、副葬品の内容は劣るものの石塔を伴い、その 被葬者は西末則遺跡周辺の開発の創始者等であった可能性も考えら れよう。
- 12 田中久夫は、「葬送が行われるまでの期間は魂呼などの資料によって蘇牛を待つ期間であった」ことを指摘する(田中1967)。
- 13 例えば『日本紀略』延暦十一年 (792) 六月十日条や、同書大同 四年 (809) 七月三日条などがある。
- 14 和鏡の面径は $7.0 \sim 11.3 {\rm cm}$ と幅があり、そのうち土壙墓出土資料に限れば、 $10 \sim 11 {\rm cm}$ にほぼまとまり、大型鏡が副葬される。柱穴出土資料等の祭祀鏡よりも面径は大きく、記載してはいないが、経塚出土鏡群と一致し、その点でも和鏡を副葬した階層が、有力層であることを示していよう。
- 15 報告書では中世後半期の埋葬の可能性を指摘するが、放射性炭素 年代測定の分析成果以外に根拠に乏しい。しかも海洋リザーバ効果 の影響により、他の中世墓については、考古学的な成果と調和した 分析値は得られておらず、結果として、本墳墓の分析値についても 信頼性に欠ける。周辺遺構の時期を考慮すれば、近世に下る可能性 も皆無とはいえず、良好な資料の追加を待って、年代的位置付けに ついては再考したい。
- 16 本骨蔵器の実測及び掲載に際して、東京国立博物館白井克也・河 野正訓の各氏には、特別なご高配を頂戴した。ここに記して感謝申 し上げます。また、本骨蔵器については、別稿において詳細な検討 を行う予定である。
- 17 石尾和仁は、村落遺跡の検討から15世紀代の画期を想定する(石

尾 2010) が、14世紀後半代にはそうした動きは顕在化していたと考えられる。

引用・参考文献

石尾和仁 2010「阿波における中世墓の展開」『中世集落景観と生活文化 - 阿波からのまなざし- J. 和泉書院

井之口章次 1979「葬法の種類」『葬送墓制研究集成第 1 巻 葬法』,名著出版

磐下徹 2013「郡司任用制度の一考察 -郡司・郡司層と天皇-」『関東学園大学紀要』 第21 集、関東学園大学

岩田重則 2006 『「お墓」の誕生 - 死者祭祀の民俗誌』岩波新書 1054, 岩波書店

岩橋孝「三豊郡高瀬町上高瀬発見の骨壺」『瀬戸内海歴史民俗資料館だより』 第19号, 瀬戸内海歴史民俗資料館

大川沙織 2013「中世阿波における花崗岩製石造物の受容とその背景」『御影石と中世の 流通 石材識別と石造物の形態・分布』、高志書院

大橋育順 2006「吉野川流域の長方形土坑について」『真朱』 第6号、 劇徳鳥県埋蔵文化 財センター

大山真充 1988「古代」『飯山町誌』、飯山町

岡田保良・吉野治雄 1979 「考察」『京都大学構内遺跡調査研究年報』昭和 53 年度, 京 都大学理蔵文化財研究センター

小田裕樹 2011「墓構造の比較からみた古代火葬墓の造営背景 - 畿内と北部九州を対象として-」『日本考古学』第 32 号,日本考古学協会

笠井純-2002「改葬序説 - 文献史料を通して見た奈良・平安時代葬法の一斑-」『金 沢大学文化財学研究』3・4、金沢大学埋蔵文化財調査センター

勝田至 1987 「中世民衆の葬制と死穢-特に死体遺棄について-」『史林』 70巻 3 号, 史 学研究会

勝田至 1988「中世の屋敷墓」『史林』 71 巻 3 号, 史学研究会

勝田至 1993「文献から見た中世の共同墓地」『帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム 報告集 中世社会と墳墓』、名著出版

川村邦光 2015 『弔いの文化史』 中公新書 2334, 中央公論新社

橘田正徳 1991「屋敷墓試論」『中近世土器の基礎的研究』 Ⅲ,日本中世土器研究会

蔵本晋司2005「中世の考古学」『さぬき国分寺町誌』、国分寺町

蔵本晋司 2010 「関連調査の成果」『香川県埋蔵文化財センター年報』平成 21 年度, 香 川県埋蔵文化財センター

小林義孝 1992「灰を納めた土壙」 『究班 - 埋蔵文化財研究会 15 周年記念論文集 - 』, 埋蔵文化財研究会

小林義孝 1997「葬送儀礼における銭貨 (1)」『歴史民俗学』第7号,批評社

小林義孝 1998「丙の年の人の故に焼き失わず」『歴史民俗学』第 12 号、批評社

小林義孝 1999「古代の個人墓と集団墓地 - 河内土師の里古墓の検討から - 」『瓦衣千年 森郁夫先生還暦記念論文集』

小林義孝 2009「火葬導入事情をめぐる覚書」『ヒストリア』第 213 号,大阪歴史学会

小林義孝・海邉博史 2000「古代火葬墓の典型的形態」『太子町立竹内街道歴史資料館館 報』第6号,太子町立竹内街道歴史資料館

西郷信綱 1999 『古代人と死 大地・葬り・魂・王権』, 平凡社

坂上康俊 1985「負名体制の成立」『史学雑誌』第 94 編第 2 号,史学会

狭川真一 1998「古代火葬墓の造営とその背景」『古文化談叢』第 41 集,九州古文化研究会

佐藤弘夫 2008『死者のゆくえ』, 岩田書院

佐藤竜馬 1989「善通寺市域出土の骨蔵器」『香川史学』第 18 号,香川歴史学会

佐藤竜馬 1993 「讃岐における古代の火葬墓」 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 研究紀要 I 』、 側香川県埋蔵文化財調査センター

佐藤竜馬 2003 「古代の遺構配置について - 生野本町遺跡との関係-」 [県道岡田善通 寺線道路環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 生野南口遺跡], 香川県教育 委員会

水藤真 1991 『中世の葬送・墓制 石塔を造立すること』,吉川弘文館

鈴木景二 1994「都鄙間交通と在地秩序 - 奈良・平安初期の仏教を素材として-」『日本史研究』 379 号,日本史研究会

高野政昭 1997「古代火葬墓の一形態について - 天理市西山火葬墓群を中心として-」 『宗教と考古学』,勉誠社

高橋学 1992「高松平野の地形環境 - 弘福寺領山田郡田図比定地付近の微地形環境を中心に-」『讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』,高松市教育委員会

田中久夫 1967「平安時代の貴族の葬制 - 特に十一世紀を中心として-」『近畿民俗』 43 号、近畿民俗学会

田中久夫 1994「文献にあらわれた墓地 - 平安時代の京都を中心として - 」 『氏神信仰 と祖先祭祀』,名著出版

圭室諦成 1963『葬式仏教』,大法輪閣

寺田貞次 1938「筆山発見の骨壺」『史蹟名勝天然記念物調査報告』第9, 香川県

寺田貞次 1939「上高瀬村発見の古銭」『史蹟名勝天然記念物調査報告』第 10,香川県

寺田貞次 1941「山内村発見骨壺」『史蹟名勝天然記念物調査報告』第 12,香川県

楢崎修一郎 2007「火葬人骨と考古学」『墓と葬送の中世』,高志書院

丹生谷哲一1974「山城国紀伊郡石原荘の形成をめぐって --円性所領成立の一要因 -」「歴史研究」12, 大阪教育大学歴史学研究室

畠井浩 2004「律令国家の喪葬制度」『古墳から奈良時代墳墓へ』,大阪府立近つ飛鳥博 物館

林泰治 1999「秋月城跡・阿波安国寺跡発掘調査報告」『勝瑞城シンポジウム報告資料』, 藍住町

平野博之1957「平安初期における国司郡司の関係について」『史淵』72, 九州大学大学

院人文科学研究院

藤澤典彦 2007「中世における火葬受容の背景」『墓と葬送の中世』, 高志書院

服藤早苗 1989「墓地祭祀と女性」『女性と仏教』第三巻,平凡社

服藤早苗 1991 『家成立史の研究 -祖先祭祀・女・子ども』、校倉書房

服藤早苗 1993「平安貴族層における墓参の成立 - 墓参より見た家の成立過程-」『家 族と墓』、早稲田大学出版部

服藤早苗 2003「男子の成長と儀礼」『生育儀礼の歴史と文化』, 森話社

藤森栄一1941「奈良時代の火葬墓 - 蔵骨器の形態学的研究 - 」『古代文化』第12巻 第3号 古代学協会

| 松尾側次 2011 | 7葬式仏教の誕生 中世の仏教革命』、平凡社 森本徹 1991 「火葬墓と火葬遺構 - 群集墳周辺にて検出される「焼土坑」の検討 - 」 『大 阪文化財研究』第2号、(財大阪文化財センター

渡部明夫 2005「天平勝宝以前の讃岐国分寺」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要 I 』, 香川 恒 埋蔵 文 化 財 ヤンター

報告書等

綾歌町教育委員会 2004『快天山古墳発掘調査報告書』

石井町 1991 『石井町史』 上巻

石川県教育委員会 2011 『県営ほ場整備事業 (農業法人育成型) 野々江地区に係る埋蔵 文化財発掘調査報告書 野々江本江寺遺跡』

大野原町教育委員会 1992『平岡遺跡群発掘調査報告書』

海部町教育委員会 2006 『海部小学校体育館・校舎建設に伴う発掘調査報告書 芝遺跡』 香川県 1987『香川県史』第 13巻 資料編考古

香川県教育委員会 1976『香川県埋蔵文化財調査報告 昭和 51 年度』

香川県教育委員会 1981『西村遺跡Ⅱ -国道 32 号綾南バイパス建設に伴う埋蔵文化財 発掘調杏-|

香川県教育委員会 1982『西村遺跡Ⅲ - 国道 32 号綾南バイパス建設に伴う埋蔵文化財 発掘調査-|

香川県教育委員会 1990a 『香川県埋蔵文化財調査年報 平成元年度』

香川県教育委員会他 1990b 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告WI 下川津遺 跡

香川県教育委員会他 1990 『四国構断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第8 冊 延命遺跡」

香川県教育委員会 1993 『牛野本町遺跡発掘調査報告書』

香川県教育委員会19942 『旧練兵場遺跡 -平成5年度国立善通寺病院内発掘調查報告

香川県教育委員会他 1994h 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 14 冊 川津中塚遺跡1

香川県教育委員会他 1995a 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 15 冊 龍川四条遺跡」

香川県教育委員会他 1995b 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 前 田東・中村遺跡』

香川県教育委員会他1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第24 冊 郡家田代遺跡」

香川県教育委員会他 1997a『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 28 冊 国分寺六ツ日古墳|

香川県教育委員会 1997b『中小河川大東川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川 津一ノ又遺跡』 香川県教育委員会他 1999『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 32

冊 中間西井坪遺跡Ⅱ」 香川県教育委員会他 2000a 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 35

冊 川西北·原遺跡」 香川県教育委員会 2000b 『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 空

港跡地遺跡Ⅳ| 香川県教育委員会他 2002a 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 44 冊 迯田石垣遺跡」

香川県教育委員会 2002b『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

第2冊 西打遺跡Ⅱ」 香川県教育委員会 2002c 『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊 空

港跡地遺跡V」

香川県教育委員会 2003a 『埋蔵文化財試掘調査報告 X VI 香川県内遺跡発掘調査』 香川県教育委員会 2003b 『県道多度津丸亀線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

中東遺跡|

香川県教育委員会 2003c 『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 高松城跡 (西の丸地区) Ⅲ』

香川県教育委員会他 2004a 『一般国道 32 号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調 杏報告第1冊 買田岡下清跡|

香川県教育委員会他 20046 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第48 冊 大山遺跡|

香川県教育委員会他 2004c 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第50 冊 善門池西遺跡』

香川県教育委員会他 2004d 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第51 冊 三殿出口遺跡1

香川県教育委員会 2004e 『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 浜ノ町遺跡』

香川県教育委員会 2005 『西末則遺跡 I 香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告 第1冊』

香川県教育委員会 2007 『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊 空

港跡地遺跡IX』

香川県教育委員会他 2008a『一般国道 11 号坂出丸亀バイパス建設に伴う埋蔵文化財発 掘調查報告第1冊 永井北遺跡|

香川県教育委員会他 2008b 『一般国道 32 号綾歌バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調 查報告第2冊 池下遺跡』

香川県教育委員会 2008c 『県道丸亀多度津線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 奥白方南原遺跡』

香川県教育委員会 2012 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3 冊 西末則遺跡Ⅲ1

香川県教育委員会 2014a 『県道千疋高松線道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 上新開塚|

香川県教育委員会 2014b 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 4冊 西末則遺跡Ⅳ」

香川県教育委員会 2015 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 5冊 西末則遺跡 V』

香川県教育委員会他 2016a『国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発 掘調查報告第1冊 仲戸遺跡・仲戸東遺跡』

香川県教育委員会 2016b 『高松土木事務所新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥松

京都大学埋蔵文化財研究センター 1979 『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和 53 年度』 | 財愛媛県埋蔵文化財調査センター 1994 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告Ⅷ - 丹原町編 - 』

| 脚愛媛県埋蔵文化財調査センター 2000 『一般国道 196 号松山北条バイパス埋蔵文化財 調査報告書Ⅱ 道ケ谷古墳・池の奥遺跡・平田七反地遺跡』

(財高知県埋蔵文化財センター 2001『具同中山遺跡群Ⅳ 県道中村下ノ加江返線緊急地 方道路整備事業に伴う発掘調査報告書』

坂出市教育委員会 2000『坂出市内遺跡発掘調査報告書 平成 11 年度国庫補助事業報告 書」

さぬき市教育委員会 2007『さぬき市内遺跡発掘調査報告書 平成 18 年度国庫補助事業 報告書

さぬき市教育委員会 2009 『岩崎山古墳群・龍王山古墳 平成 20 年度国庫補助事業埋蔵 文化財発掘調査報告書』

志度町教育委員会 2002『大型商業店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 花池尻 中遺跡」

高松市教育委員会 1989 『久米池南遺跡 発掘調査報告書』

高松市教育委員会1999『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書第1冊 川南・西遺跡』

高松市教育委員会 2000 『市道林町 47 号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宮西・一角遺跡|

高松市教育委員会 2001 『高松港頭地区再闡発閱連事業に伴う埋蔵文化財発掘調查報告 書 鬼無藤井潰跡| 高松市教育委員会 2003 『史跡天然記念物屋島 - 史跡天然記念物屋島基礎調査事業調

杏報告書 Ⅰ - Ⅰ

高松市教育委員会 2004 『保存整備・市道新田町 61 号線道路改良に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告書 久本古墳』

高松市教育委員会 2015『相作馬塚』

仲南町教育委員会 1980『尾ノ背寺跡発掘調査概要 (Ⅰ)』

同志社大学文学部文化学科 1971「香川県綾南町十瓶山北麓窯跡調査報告」『若狭・近江・ 讃岐・阿波における古代生産遺跡の調査』

徳島県教育委員会 1990『県営名東町団地建て替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 書 名東遺跡 (天神地区)』

徳島県教育委員会 1993『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 2 前 田遺跡

徳島県教育委員会 1994a 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 8 古 城潰跡|

徳島県教育委員会 1994b 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 9 黒 谷川宮ノ前遺跡』

徳島県教育委員会 1994c『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 10 菖 蒲谷西山B遺跡・山田古墳群A』

徳島県教育委員会 1994d『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 11 神宮寺遺跡』

徳島県教育委員会 1995a 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 12 日 吉~金清遺跡」

徳島県教育委員会 1995b 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 13 試掘調査総括ほか』

徳島県教育委員会 1996『中島田遺跡Ⅱ -都市計画道路常三島中島田線改良工事に伴 う埋蔵文化財発掘調査報告書-』

徳島県教育委員会 1999 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 14 田 上遺跡Ⅰ・Ⅱ・ⅢⅠ

徳島県教育委員会 2000。『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 15 円 涌寺清跡|

徳島県教育委員会 2000b 『阿波池田公共職業安定所新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 報告書 マチ遺跡|

徳島県教育委員会 2001 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 22 花 関書跡

徳島県教育委員会 2002a 『一般県道板野川島線住宅宅地関連公共施設整備促進事業関連 埋蔵文化財発掘調査報告 古町遺跡」

徳島県教育委員会 2002b『徳島県埋蔵文化財センター年報』 Vol.13

徳島県教育委員会 2003a 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 23 丸 山滑跡|

- 徳島県教育委員会 2003b 『中島田遺跡 II -都市計画道路常三島中島田線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 徳島県教育委員会 2004 『県道宮川内牛島停車場線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告 町口遺跡』
- 徳島県教育委員会 2005a『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 29 お 塚古墳・山田遺跡 (Ⅱ)・馬路遺跡ほか』
- 徳島県教育委員会 2005b 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 31 大柿遺跡Ⅲ』
- 徳島県教育委員会 2005c 『緊急地方道路整備事業 県道出口太刀野線 に伴う埋蔵文化 財発掘調査報告書 中庄東遺跡』
- 德島県教育委員会 2007『広域基幹河川改修(園瀬川)事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 寺山遺跡』
- 徳島県教育委員会 2010 『一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調 査 観音寺遺跡Ⅲ』
- 徳島県教育委員会 2015『四国横断自動車道(徳島〜鳴門)建設に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告 大松遺跡』
- 徳島市教育委員会 2003『徳島市文化財調査概要 13』
- 土成町史編纂委員会 1975『土成町史』上巻
- 豊浜町教育委員会1985『大木塚遺跡調査概報』
- 長尾町教育委員会 1997 『工業用地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 八坂墳 墓群・北山八坂古墳』
- 長岡京市埋蔵文化財センター 1985『長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第2集』
- 鳴門市史編纂委員会 1976『鳴門市史』上巻
- 東かがわ市教育委員会 2006 『民間土地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 神 越 5 号墳』
- 満濃町教育委員会 1991 『安造田東 3 号墳発掘調査報告書』
- 三野町教育委員会 1997 『四国電力株式会社三野変電所新設工事に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告書 加茂宮遺跡』
- 綾南町教育委員会 1977『岡の御堂古墳群調査概報』

図版出典

- 第 161 ~ 166·168 図 筆者作図
- 第 167 図 高松市教育委員会 2003、徳島県教育委員会 1994a、徳島県教育委員会 1994 c、徳島県教育委員会 1994d、徳島県教育委員会 1995 b、徳島県教育委員会 2005a、豊浜町教育委員会 1985より一部改変・3月用

建物番号	調査区	建物種	建物種類		主軸方位		梁間		桁行	床面積	備考
SB01	5区	南北棟側柱建物		東列 西列	N 9.87° E	北列南列	2間 (4.61 m)	東列西列	1間 (2.0 m) 以上	9.2㎡以上	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深(m)	ĺ		出土	:遺物		備考
SP011	楕円	0.49×0.43		8.33	0.15	なし					
SP015	楕円	0.48×0.36		8.40	0.13	なし					
SP006	略円	0.43×0.41		8.39	0.12	なし					
SP014	楕円	0.44×0.38		8.33	0.15	弥生土	器、自磁碗等3				

建物番号	調査区	建物租	建物種類		主軸方位		梁間		桁	行		床面積	備考
SB02	6 h 🗸	南北棟側柱建物		東列	N 24.95° E	北列	2間 (3.71 m)	東列	1間((2.48 m)	以上	9.20㎡以上	
3102	0012	用机煤阀性矩构		西列		西列		西列				9.2011115.1.	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)	出土遺物						備考	
SP100	略円	0.48×0.47		8.95	0.13	なし							
SP102	略円	0.44×0.42		8.48	0.55	須恵器	杯、土師質土器皿・	杯等8					
SP086	略円	0.46×0.43		8.57	0.41	土師質	土器皿・杯等 24						
SP093	楕円	0.64×0.40		8.90	0.15	土師質	土器皿・杯等 11						

建物番号	調杏区	建物種			主軸方位		梁間		桁行	床面積	備考	
足物曲り			5.794	北列	ユーキ叫 / J 立	東列	木門	北列	111111	//下四1页	- ω· ω·	
SB03	8·9·10	東西棟側柱建物			N	. , . , .	0 HH (0 =0)		0.00	23.84m²		
				南列	N 76.461° W	西列	2間 (3.70 m)	南列	3間 (6.44 m)			
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高								備考	
SP192	楕円	0.64×0.55		8.50	0.51	須恵器	、土師質土器皿・杯	・碗等	17			
SP195	楕円	0.54×0.50		8.63	0.48	土師質	土器皿・杯等8					
SP197	楕円	0.33×0.47		8.60	0.54	土師質	土器杯等7、焼土塊					
SP323	略円	0.46×0.42		8.83	0.40	須恵器	、土師質土器、瓦器	等8				
SP237	楕円	0.43×0.37		8.60	0.48	土師質	土器等5					
SP239	楕円	0.47×0.41		8.50	0.60	弥生土						
SP217	略円	0.37×0.36		8.55	0.52	須恵器						
SP204	略円	0.56×0.54		8.57	0.49	0.49 土師質土器 5						

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間		桁行	床面積	備考
SB04	8·10区	東西棟側柱建物			N 87.88° W N 87.221° W	東列 西列	2間 (3.68 m) 2間 (3.61 m)	北列南列	3間 (6.17 m) 3間 (5.91 m)	22.01 m²	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)			出土	.遺物		備考
SP228	不整方	0.58×0.50		8.55	0.51	弥生土	:器3、須恵器2、土	師質土	器 1		
SP251	楕円	0.79×0.75		8.50	0.45	弥生土	:器3、サヌカイト剥	片1			
SP249	楕円	0.57×0.48		8.40	0.61	弥生土	:器8、須恵器杯等2	、土師	質土器皿等2		
SP255	楕円	0.78×0.45		8.55	0.46	弥生土	:器、土師器甕、土師	質土器	杯等 7		
SP385	楕円	0.48×0.39		8.43	0.55	土師質	土器杯等 4				
SP437	不定	0.97 × 0.81		8.50	0.51	弥生土 2、焼	:器 11、土師器甕 1 、 土塊 1	須恵器	2、土師質土器皿等	18、瓦器碗等	
SP257	楕円	0.71×0.63		8.52	0.45	弥生土	:器6、土師質土器杯	1、棒	状土錘 1		
SP262	楕円	0.76×0.63		8.60	0.39	弥生土	:器2、土師質土器Ⅲ	等3			
SP231	略円	0.94×0.92		8.51	0.45	弥生土	器、土師質土器 14、	棒状土	錘 1		
SP229	略円	0.63×0.62		8.60	0.40	須恵器	杯1、土師質土器2				

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		粱	と間			桁行		床面積	備考
SB05	10区	南北棟側柱建物		東列	N 0.893° W	北列	2間	(4.12 m)	東列	3間	(6.93 m)	以上	28.55㎡以上	
3003	10 12	用机浆则任廷彻		西列	N 1.348° E	南列			西列				20.5511124.1.	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高						出土	遺物				備考
SP181	楕円	0.66×0.50					:器 2							
SP180	楕円	0.38×0.40		8.44 0.53			(土器 1	、弥生土器4						
SP271	略円	0.34×0.31		8.52	0.19	なし								
SP275	楕円	0.56×0.41		8.43	0.57	弥生土	:器 4							
SP279	楕円	0.53×0.41		8.51	0.48	なし								
SP285	楕円	0.57×0.48		8.45	0.56	土器2	;							
SP185	円	0.33×0.33		8.47	0.52	土師質	(土器等	≨2						
SP183	楕円	0.36×0.33		8.45	0.52	土器2								-

77.47.45.17	com -t- I	24141.44	, sterri		N. 41. 1.71.		. See	7 1111	_		// /	4	tile -br
建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位			や間		- 1	桁 行	床面積	備考
SB06	0.10 ♂	東西棟側柱建物		北列	N 75.503° W	東列	2間	(4.23 m)	北列	5間	(10.76 m)	45 57 m²	東・南・西面庇
3000	0·10 12	米四休則任廷初		南列	N 75.499° W	西列	1間	(4.23 m)	南列	5間	(10.77 m)	43.37111	来 用 四回此
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)				出土	遺物			備考
SP264	略円	0.32×0.31						焼土塊					
SP265	不定	0.61×0.48		8.65	0.43	弥生土	器高杯	下等 6					
SP260	不整方	0.43×0.30		8.65	0.38	なし							
SP476	不定	0.43×0.30		8.67	0.53	焼土塊	多						
SP480	楕円	0.49×0.28		8.80	0.39	土器3							
SP481	不定	0.49×0.40		8.80	0.46	須恵器	、土師	₽質土器皿等 19	 焼土 	塊多			
SP482	不整方	0.49×0.37		8.80	0.48	須恵器	、土師	7質土器杯・碗	等 13				
SP509	楕円	0.48×0.40		8.72	0.58	8 土師質土器皿・杯、瓦器等7							
SP534	略円	0.35×0.32		8.73	0.30	焼土塊多							

第21表 掘立柱建物属性表(1)

SP536	楕円	0.39×0.28	8.74	0.52	土師質土器 2 、焼土多
SP537	楕円	0.56×0.49	8.56	0.56	土師質土器皿・杯・碗、瓦器等 11、焼土塊多
SP314	楕円	0.47×0.39	8.68	0.59	なし
SP302	楕円	0.33×0.29	8.61	0.55	弥生土器、土師質土器皿等8、焼土塊、鉄滓2
SP292	楕円	0.40×0.37	8.68	0.46	土器、須恵器、瓦器等4
SP483	楕円	0.37×0.32	8.95	0.33	なし
SP510	楕円	0.33×0.28	8.86	0.42	土器5
SP565	楕円	0.45×0.31	8.86	0.41	土師質土器、備前焼等5、焼土塊多
SP555	楕円	0.48×0.35	8.79	0.41	土師質土器皿、棒状土錘等9、焼土塊多、鉄滓?1
SP540	楕円	0.29×0.26	8.72	0.36	なし
SP315	略円	0.37×0.36	8.79	0.44	土師質土器、瓦器碗等2
SP303	略円	0.26×0.25	8.66	0.51	弥生土器 1
SP293	不整方	0.42×0.36	8.69	0.45	弥生土器、土師質土器皿·杯等9、焼土塊、鉄滓1
SP287	楕円	0.37×0.31	8.60	0.46	弥生土器、須恵器4、鉄釘1

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		j	梁間		1	行行	床面積	備考
SB07	Q.10 I₹	東西棟側柱建物		北列	N 80.481° W	東列	2間	(5.52 m)	北列	4間	(9.90 m)	54.60m²	
3007	0.10 12	未四年則任廷初		南列	N 79.852° W	西列			南列			34.00111	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)				出土	遺物			備考
SP269	円?	0.33×0.14		8.80	0.23				な	L			
SP484	楕円	0.33×0.24		8.95	0.24	土師質	[土器]	□1、焼土塊1					
SP487	楕円	0.36×0.28		8.89	0.35	土師質	[土器]	Ⅲ、瓦器等 10、	焼土塊	多			
SP494	楕円	0.44×0.24		8.82	0.44	須恵器	、土部	师質土器皿等 5	、鉄滓	? 1			
SP502	略円	0.29×0.26		8.98	0.29	土器1							
SP515	楕円	0.45×0.35		9.26	0.02	なし							
SP568	略円	0.30×0.28		8.88	0.37	土師質	土器:	1					
SP562	略円	0.30×0.28		8.74	0.49	9 土師質土器皿等 6							
SP557	楕円	0.28×0.23		8.80	0.34	土師質	土器:	1					
SP302	楕円	0.34×0.28		8.61	0.55	0.55 土器 2							

建物番号	調査区	建物種	建物種類		主軸方位		梁間		桁	行	床面積	備考
SB08	9.10 ☑	東西棟側柱建物		北列	N 80.25° W	東列	2間 (5.02 m)	北列	5間	(12.24 m)	61.48m²	表面底
3D06	0.10 🖂			南列	N 80.25° W	西列	1間 (5.02 m)	南列	5間	(12.24 m)	01.48111	用山北
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)			出土	遺物			備考
SP291	略円	0.44×0.43		8.52	0.62	弥生土	:器、土師質土器等 10					
SP301	楕円	0.39×0.35		8.61	0.54	弥生土	:器、須恵器、土師質:	上器皿	・杯等	20		
SP312	楕円	0.69×0.50		8.55	0.38	弥生土	:器、須恵器、土師質:	上器皿、	瓦質:	土器等 11		
SP524	楕円	0.53×0.48		8.66	0.29	土師質	土器杯、瓦質土器火	本等 8				
SP525	楕円	0.47×0.43		8.58	0.71	土師質	土器皿・杯等 11					
SP512	略円	0.27×0.26		9.00	0.26	土師質	[土器皿等 2					
SP532	楕円	0.64×0.40		8.62	0.63	土師質	土器杯、瓦器等 10					
SP586	略円	0.28×0.26		8.57	0.69	土師質	[土器皿等 10					SB10 と共有
SP580	楕円	0.46×0.38		8.67	0.53	土師質	[土器皿・杯等 8					
SP573	楕円	0.49×0.43		8.86	0.34	土師質	土器7					
SP319	楕円	0.40×0.30		8.79	0.20	土器1						
SP305	楕円	0.68×0.56		8.44	0.71	弥生土	:器、須恵器杯、土師!	質土器1	Ⅲ・杯≦	等 6		
SP297	楕円	0.48×0.37		8.55	0.48	弥生土	:器、土師質土器杯等	10、鉄	滓 1			
SP587	楕円	0.35×0.29		8.78	0.45	土師質	[土器皿、瓦器等 6					
SP581	楕円	0.35×0.29	•	8.77	0.45	須恵器	、土師質土器皿等9					
SP574	楕円	0.41×0.33		8.65	0.56	土器5						
SP548	楕円	0.46×0.41		8.75	0.42	土師質	土器碗等 5					
SP307	楕円	0.43×0.40		8.64	0.50	弥生土	器、土師質土器皿・	不、瓦智	器碗等	15、焼土塊		

建物番号	調杏区	建物種	插		主軸方位		ž	公 間		*	行行	床面積	備考
ZEIO III V	Had THT E-7	XLW II	1,555		N74.162° W	東列		(3.06 m)	北列		(4.60 m)	//чш/ж	Ç. und
SB09	10 区	東西棟側柱建物				. , . , .		, ,				14.55m²	
				用列	N74.541° W	西列	I間	(3.10 m)			(4.85 m)		
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深(m)				出土	遺物			備考
SP290	楕円	0.37×0.23											
SP301	略円	0.39×0.37		8.61	0.54	弥生土	器、多	頁恵器、土師質.	土器皿	・杯等	20		
SP313	楕円	0.41×0.34		8.70	0.40	弥生土	.器 1						
SP315	略円	0.37×0.36		8.80	0.43	弥生土	器、:	上師質土器皿等	7				
SP316	楕円	0.40×0.32		8.84	0.34 弥生土器 1								
SP298	略円	0.28×0.27		8.79	0.33	0.33 弥生土器、須恵器杯、土師質土器皿、瓦器碗等 25							
SP294	楕円	0.31×0.27											

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		穿	於間		桁行		床面積	備考
SB10	8 🗵	東西棟側柱建物		北列	N 89.817° W	東列	2間	(3.52 m)	北列	2間 (3.74	m)	1259.5	SK55 より後出
3110		米四休則任廷初		南列	N 87.395° W	西列	2間	(3.69 m)	南列	2間 (3.79	m)	13.36111	31333 より後田
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)	出土遺物						備考	
SP545	楕円	0.44×0.34		8.99	0.27	なし							
SP558	楕円	0.57×0.43		8.71	0.29	土師質	土器Ⅱ	Ⅱ等 5					
SP579	楕円	0.61×0.35		8.71	0.39	土師質土器皿等3							
SP582	楕円	0.40×0.35		8.55	0.53	3 土師器竈、土師質土器杯、黒色土器碗等 6							

第22表 掘立柱建物属性表(2)

營水中筋遺跡(香川県教育委員会 2017年)

SP577	略円	0.35×0.33	8.89	0.15	土器2	
SP554	楕円	0.34×0.27	8.88	0.29	土師質土器杯等 6	
SP549	楕円	0.45×0.42	8.53	0.67	土師質土器等 6	
SP317	楕円	0.38×0.29	8.92	0.15	土師質土器、黒色土器等3	

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間		,	桁行	床面積	備考
SB11	8 🗵	南北棟側柱建物	1	東列		北列	1間 (2.84 m)	東列			13.93m²	
SDII	012	用机床则任廷彻		西列	N 12.992° E	南列		西列	2間	(4.91 m)	13.93111	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)			出土	遺物			備考
SP462	楕円	0.56×0.42		8.68	0.61	須恵器	、土師質土器皿等 13	、焼土	塊多			
SP516	不定	0.69×0.56		8.75	0.55	土師質	土器皿・杯等8					
SP531	楕円	$0.39+ \times 0.37$		8.79	0.25	土師質	土器杯、瓦器等4					
SP519	楕円	0.47×0.40		8.84	0.47	黒色土	器等3					

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位	梁間		桁行	床面積	備考
SB12	11 区	東西棟側柱建物		北列	N 79.022° W	東列 1 間 (.3.36 m)	北列	4間 (8.21)	27.90	四面庇
SB1Z	11 12	東四保側仕建物		南列	N 79.35° W	西列 1間 (.3.40 m)	南列	4間 (8.24)	27.80m	四国比
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)		出土	:遺物		備考
SP593	略円	0.28×0.26		8.83	0.36	須恵器、土師質土器5				
SP601	楕円	0.32×0.22		9.15	0.33	須恵器、土師質土土器	皿、瓦器等	7		
SP658	楕円	0.28×0.24		9.28	0.31	土師質土器1				
SP631	略円	0.23×0.20		9.44	0.16	土師質土器1				
SP616	楕円	0.28×0.25		9.08	0.45	土師質土器杯等3				
SP607	略円	0.43×0.40		8.95	0.55	土師質土器皿・杯等 6				
SP598	楕円	0.31×0.25		9.00	0.42	土師質土器皿・杯等5				
SP600	楕円	0.41×0.37		8.91	0.55	土師質土器皿・杯、瓦	器等 22			
SP602	不定	0.53×0.45		8.79	0.70	土師質土器杯・足釜等	12			
SP620	不整方	0.55×0.43		8.88	0.60	須恵器、土師質土器皿	・杯等 17、	鉄滓1		
SP621	楕円	0.48×0.31		8.89	0.44	土師質土器 4				
SP653	不整方	0.37×0.36		9.01	0.37	土師質土器皿、瓦器等	4			
SP657	楕円	0.44×0.29		9.00	0.57	土師質土器皿・杯等 9				
SP630	楕円	0.52×0.32		9.26	0.34	土師質土器皿等2				
SP626	円	0.30×0.30		9.26	0.25					
SP606	楕円	0.45×0.40		9.02		須恵器、土師質土器皿		10		
SP603	不整方	0.52×0.45		9.01	0.46		器等 15			
SP618	楕円	0.21×0.17		9.46		なし				
SP622	楕円	0.44×0.35		9.20	0.31	土師質土器杯等 10				
SP628	楕円	0.37×0.32		9.38	0.24					
SP629	不整方	0.52×0.38		9.45	0.13					
SP624	楕円	0.47×0.40		9.33	0.21	土師質土器、同安窯系	青磁碗等 6			

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間		1	桁行	床面積	備考
SB13	11 区	東西棟側柱建物	2	北列	N 75.737° W	東列		北列	1間	(2.80 m) 以上	10.83㎡以上	
SB13	11 12	宋四宋側仕廷初	· ·	南列	N 75.725° W	西列	2間 (3.92 m)	南列	1間	(2.72 m) 以上	10.83m以上	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)			出土	遺物			備考
SP641	不定	0.57×0.33		8.96	0.59	土師質	土器皿・杯等3					
SP643	略円	0.33×0.32		9.21	0.25	土師質	土器杯等 7					
SP655	略円	0.29×0.26		9.09	0.32	土師質	土器 6					
SP654	楕円	0.30×0.24		9.06	0.49	土師質	土器皿等3					
SP645	不定	0.46×0.35		9.02	0.51	土師質	土器杯・足釜等 12					

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間	j		桁行	床面積	備考
SB14	11 区	東西棟側柱建物	2	北列	N 82.196° W	東列			北列	1 間(1.50 m)以上	5.28㎡以上	
3014	11 12.	米西林朗任廷初		南列		西列	2間(3.	.52 m)	南列		J.2011125.1.	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)				出土	遺物		備考
SP649	楕円	0.34×0.27		9.19	0.34	土師質	土器皿1					
SP650	略円	0.31×0.28		9.09	0.39	土師質	土器皿等	≨2				
SP656	楕円	0.34×0.20		9.28	0.31	土器1						
SP652	楕円	0.34×0.26		9.02	0.39	土師質	土器2					

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間		桁行	床面積	備考
SB15	11区	東西棟側柱建物		北列南列	N 68.466° W	東列 西列	1間 (2.00 m) 1間 (2.13 m)	北列 南列	2間 (4.02 m) 2間 (3.91 m)	8.20m²	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)			出土	遺物		備考
SP608	楕円	0.24×0.20		9.26	0.25	なし					
SP614	略円	0.21×0.19		9.42	0.13	なし					
SP635	楕円	0.16×0.12		9.37	0.18	なし					
SP637	略円	0.19×0.17		9.41	0.13	土師質	土器足釜等4				
SP636	不定	0.26×0.20		9.38	0.07	なし					
SP611	楕円	0.20×0.16		9.33	0.17	なし			·		·

第23表 掘立柱建物属性表(3)

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間			桁行	床面積	備考
SB16	1区	東西棟床束建物		北列		東列	2間 (3.42	2 m)	北列		28.08m²	
SDIO	1 1/2	米四保水水建物		南列	N 83.364° W	西列			南列	4間 (8.20 m)	26.06111	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)				出土	遺物		備考
SP674	楕円	0.36×0.31		9.34	0.57	土師質	土器杯等:	3、サヌカー	イト剥り	† 1		
SP675	楕円	0.40×0.35		9.52	0.39	土器4						
SP695	楕円	0.35×0.32		9.49	0.57	土師質	[土器 5					
SP698	楕円	0.56×0.45		9.52	0.49	弥生土	:器、土師質	質土器皿・柞	不・碗	·鉢?瓦器碗等 19		
SP702	略円	0.30×0.28		9.66	0.25	なし						
SP703	不定	0.78×0.44		9.53	0.63	土師質	[土器、瓦器	器等 14				
SP700	楕円	0.52×0.48		9.57	0.48	土師質	[土器、瓦器	器等 5				
SP686	楕円	0.39×0.34		9.40	0.60	土師質	土器、黒色	色土器等3				
SP679	楕円	0.55×0.47		9.25	0.74	須恵器	、土師質:	土器皿、黒色	色土器	碗等 14		
SP678	楕円	0.47×0.43		9.44	0.55	なし						
SP677	略円	0.34×0.30		9.86	0.11	なし						
SP685	略円	0.30×0.27		9.56	0.43	土師質	[土器 1					
SP699	略円	0.23×0.20		9.76	0.10	なし						

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間			桁行	床面積	備考
SB17	1区	南北棟側柱建物		東列	N 0.429° W	北列	2間 (2.84 r	n)	東列	3間 (4.00 m)	11.37 m²	
		用机煤则红建物		西列		南列			南列		11.37111	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)				出土	遺物		備考
SP710	楕円	0.39×0.34		9.70	0.32	土師質	土器杯等7					
SP706	略円	0.31×0.30		9.71	0.27	土器3						
SP707	楕円	0.34×0.31		9.86	0.27	土師質	土器皿1					
SP709	略円	0.36×0.34		9.48	0.66	土師質	土器7					
SP712	楕円	0.29×0.24		9.44	0.71	須恵器	、土師質土器	景、瓦器 3	3			
SP713	楕円	0.26×0.21		9.86	0.14	須恵器	1					
SP714	不定	0.46×0.31		9.67	0.48	土師質	土器碗等 7					

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間			1	桁行		床面積	備考
SB18	1区	南北棟側柱建物	2	東列	N 2.61° E	北列	2間 (4.69 m))	東列	1間	(2.46 m)	以上	11.55㎡以上	
SDIO	1 1 1	用北宋則仕建初	:	西列		南列			南列				11.55III155.L.	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)				出土	遺物				備考
SP720	楕円	0.42×0.36		9.66	0.49	土師質	土器5							
SP723	楕円	0.18×0.12		9.94	0.17	なし								
SP726	略円	0.36×0.35		9.80	0.31	土師質	土器杯、瓦器	等 14						
SP734	楕円	0.48×0.35		9.55	0.57	土師質	土器、黒色土	器碗、	瓦器等。	5				

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間		桁行	床面積	備考
SB19	4区	東西棟側柱建物		北列	N 84.589° W	東列		北列	2間 (6.73 m)	37.64m²	
SDIF	4 12	来四宋则任廷初		南列		西列	1間 (5.59 m)	南列		37.04111	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)			出土	遺物		備考
SP780	楕円	0.46×0.41		9.80	0.30	土師質	土器4				
SP772	楕円	0.73×0.64		10.01	0.23	土師質	土器皿・杯等 5				
SP770	楕円	0.49×0.39		9.88	0.24	土師質	土器皿等 2				
SP773	不定	0.64×0.40		9.66	0.56	土師質	土器、瓦器等4、叮	石?1			
SP777	楕円	0.46×0.35		9.94	0.20	須恵器	等 4				

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間		桁行	床面積	備考
SB20	2区	南北棟側柱建物		東列	N 7.728° E	北列	2間 (4.03 m)	東列	2間 (4.62 m) 以上	18.58㎡以上	
3D20		用北保則住建物		西列		南列		西列		16.36111124.1.	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深 (m)			出出	造物		備考
SP842	略円	0.27×0.24		9.85	0.33	須恵器	1				
SP839	略円	0.43×0.40		9.98	0.43	土師質	土器、瓦器碗等5	;			
SP840	略円	0.39×0.36		9.80	0.59	土師質	土器、瓦器等7				
SP841	略円	0.42×0.40		9.75	0.61	土師質	土器 6				
SP848	楕円	0.48×0.40		9.81	0.51	土器、	瓦器碗等5			•	
SP850	円	0.33×0.33		9.58	0.61	土師質	土器杯2				

建物番号	調査区	建物種	類		主軸方位		梁間		村	行行		床面積	備考
SB21	2区	南北棟側柱建物			N 6.284° E	北列	2間 (4.51 m)	東列	1間	(2.52 m)	以上	11.36㎡以上	
ODZI		THE IN DATE OF		西列		南列		西列				11.001112	
柱穴番号	平面形	規模(m)	底面標高	(m)	残存深(m)			出土	遺物				備考
SP849	楕円	0.27×0.23		10.11	0.24	土器1							
SP857	楕円	0.38×0.25		10.02	0.14	なし							
SP859	楕円	0.34×0.29		10.08	0.29	土師質	土器 2						
SP869	楕円	0.40×0.34		10.08	0.24	土器1							

第24表 掘立柱建物属性表(4)

第25表 土器観察表(1)

Column C	極重	図版	遺構名	層位	種類	器標			色調		焼成				-		100		残存率	備考
Column C		単与					\neg	内面	外面	内面		石英·長石	_		_	-	\rightarrow	その街		
Column C			3R01		縄文土器	樵账		Ρ.			良好	⊕ ₩						7	8 米謝	
1989 1987	23		3R01		縄文土器	滋账		口縁:マメツ			やや敷	± ₩						7	据	
Column C	65	SI	3R01		縄文土器	燃		口緣~頭			良好	± •						1	無米 8/	
State Stat	4		3R01		縄文土器	淡蘇	体部:二枚貝条痕・マメツ、底部:ナデ	体~底部			良好	± ₩					5.8		8	
19 19 19 19 19 19 19 19	ro	S	3R01		弥生土器	崇	口縁:ヨコナデ、体部:ナデ? マメッ	口緑~体			良好	滑・中						7	8米 郷	
2019 1944-139 1949-1947 1949-1948 1949-1948 1949-1949 1949-194	9		3R01		弥生土器	崇		口縁~体部:マメツ			良好	井・浜				18.9		1	編米 8 /	
2000 2014-126 19 1016-2017-2-7-7 1016-2017-2-7-7 201	7		3R01		弥生土器	影	口縁:ヨコナデ、体部:ヘラ描 沈線9以上	#:ヨコナデ?			良好	+· ÷				23.0		1/	8 米 線	
2801 1944年	8	SI	3R01		弥生土器	影		口縁~体部:マメツ			やや敷	± ₩				23.4		1/	8	
Section Sect	6	S	3R01		弥生土器	膨					良好	祖・田						8		
SSOI	10	S	3R01		弥生土器	捌	口縁:ヨコナデ・凹線5・円形 浮文、頸部:ヨコナデ	口線~凱			良好	祖· 祖·						7	8米 8/	
Sun	Ξ	S	3R01		弥生土器	広口遺	口縁:ヨコナデ・ヘラ描斜線文	三十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二		П	良好	単・単		П		H	Н	1/	8 米謝	
Supplement S	12	S	3R01		弥生土器	搿		口縁:ハケ後ヨコナデ、頸部: ヨコハケ			良好	÷ ÷				14.0		/2	 &	
Sun	13	S	3R01		弥生土器	御		部:ヨコナデ・			良好	祖・中				13.0		7	8	
Simple	14	S	3R01		弥生土器	御	口縁:ヨコナデ・凹線1、頸部: ハケ後ヨコナデ	口縁~頸部:ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色		良好	+· ÷				13.1		/2	8	
Second	15	S	3R01		弥生土器	御		#:ヨコナデ・マ	_		良好	井・浜				16.8		1	8	
SROIN	16	S	3R01		弥生土器	铜	口縁:ヨコナデ、頸部:タテハケ後ナデ	□ (後 カデデ (を カデデ	7.5YR7/4 にぶい橙色		良好	出・中				18.0		1/	8	
Seo 2.50 3.60	17	S	3R01	四上	弥生土器	広口壺	口縁:ヨコナデ・凹線1条	口縁:ヨコナデ			良好	ボ・中		細·班		20.8		1/		東川下流域産
SNOI 上面路	18	S	3R01		弥生土器	膨		□縁~頸部:ヨコナデ・マメ ッ			良好	祖・田				20:0		7		
SROI 上級 株土	19	S	3R01		計量器	皗	,	部:ヨコナデ?マ :指オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙色		やや軟	± •				16.2		7	無米 8/	
SROI 上勝 株生土路 株	20	SI	3R01		弥生土器	膨		口縁~頸部:ヨコナデ・指オ サエ・マメツ	2.5YR6/6橙色		やや軟	弾・ 中				19.8		/2		
SROI 上級 89年出版 685 487 74 74 74 74 74 14 14 1	21	ίζ	3R01		弥生土器	御	口線: ヨコナデ・凹線4	-	-		良好	報・熊			無·少	18.9		V		波搬入
SROI 株式 株式 株式 株式 株式 株式 株式	22	S	3R01	壓	弥生土器	根原果	口線:ヨコナデ、頸部:タテハ ケ	日本:甘田・田田・日本			良好	出・中		要· 令		10.0		8		東川下流域産土器
SRO1 除止土器 強	23	IS	3R01		弥生土器	桕		: 指オサエ			良好	選・中		期· ・ ・ ・ ・ ・			4.2			
SROI 映生土器	24	SI	3R01		弥生土器	御	マメツ、底部:	体~底部:ハケ			良好	祖・中					4.1			
SRO1 海生土器 株 体部:オキリエ、底部: 体 心底部: オキリエ 7.57 K7/4 にぶい徳色 10 YR2/1 点にい砂色 14	25	SI	3R01		弥生土器	御	_	体~底部:ケズリ	10YR7/2 にぶい黄橙色		良好	± •					4.6			
SRO 下層 海生土器 25 日線: 指オサエ・ナディ体 10 10 10 10 10 10 10 1	26	IS	3R01		弥生土器	繊	体部:ミガキ・指オサエ、底部: ナデ?	体~底部:ミガキ・指オサエ			良好	⊕ . ⊕					5.2		- 8,	
SRO1 下層 海生土器	27	IS	3R01		弥生土器	崇	ナデ、体~底 ガキ	ロ縁:ナ 後ナデ・	10YR6/3 にぶい黄橙色		良好	弾・ 中					(1.3	3/	- 8,	
SRO1	82	S	3R01	阳	弥生土器	影	ナデ・マメッ	口縁~頸部:ヨコナデ?マメッ			良好	÷ .				12.9		1	編米8/	
SR01 下勝 歩生上器 速 口線~顕第: ヨコナデ・マメ D級~顕都: ヨコナデ・マメ DWE5/6 明赤褐色 良好 中・歩 細・歩 細・少 136 1/8	59	SI	3R01		弥生土器	影	١.	口縁~頸部:ヨコナデ?マメッ			やや軟	· 中				14.8		7	8	
SR01 現生土器	30	S	3R01	四上	弥生土器	影		#:ヨコナデ			良好	⊕ .÷	祖・中	番·今		13.6		7		東川下流域産
SR01 株生土器	31	IS	3R01		弥生土器	影		口縁~頸部:ヨコナデ、体部: 指オサエ・ナデ			良好	祖・中		番·今		14.0		7		東川下流域産
SR01 弥生土器 題 口線~頭部:ヨコナデ、体部: 日本・ナデ後ケズリ? 10VR5/3 にぶい質報告 10VR5/3 にぶい置 10VR5/3 にぶい 置 10VR5/3 にぶい置	32	S	3R01		弥生土器	影		口線~頸 指オサエ	7.5YR6/4 にぶい橙色		良好	第 . 今	· With	無·今		12.6		7		東川下流域産
SR01 効生上器	33	IS	3R01		弥生土器	影	口線~類部: ヨコナデ、体部: ハケ	口線~頸 指オサエ	10YR5/3 にぶい黄褐色		良好	親・熊		組・斯		24.8		2/2		東川下流域産
	34	S	3R01		弥生土器	影	口線:ヨコナデ・凹線1条、体 部:ハケ	口線: H サイ・ナ	7.5YR6/4 にぶい橙色		良好	÷. ⊕		報· 持		16.0		7		東川下流域産

過物品	を 図 中 記	遺構名	層位	種類	器種	羅!!!	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	色調		焼成	7 7 m . m . 1		日	-	1 H	值 (cm)	2.0.04	備考
	_				1	が国・オキキ・コントル 体	· ·	T	\neg		□ ¥ . ¥□	HMH	\top	格間内石		成年		
35	Ś	SR01		弥生土器	影	口縁・指オサム・ヨゴアア、14 部:タタキ後ナデ	ロ核・コゴアケ・ケケ、体部・指オサエ・ナデ	2.5Y6/3 にぶい黄色	al	良好	中·联				13.4		1/8	
36	ts	SR01		弥生土器	影	マメツ		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	やや軟	中・少				16.7		1/8 未端	
37	ś	SR01		弥生土器	影		口線:ヨコナデ、体部:ケズリ? 後ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	⊕				14.6		1/8	
38	Si	SR01		弥生土器	影	口線:ヨコナデ、頸~体部:ミガキ・マメツ	口縁:ハケ、頸~体部:ケズ リ後指オサエ・ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	掛・中				12.8		1/8	
39	Sk	SR01		弥生土器	影		口線~頸部:マメツ、体部:ハケ後指オサエ・ナデ・マメツ	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	やや敷	±				17.8		1/8	
40	Sk	SR01		弥生土器	影	□繰:タタキ後ヨコナデ、体部: タタキ後ナデ	口縁:ヨコハケ、体部:ハケ 後指オサエ・ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	士 治						1/8	
41	Sk	SR01	四十	弥生土器	影		口縁~頸部:ヨコナデ·マメツ、 体部:指オサエ・マメッ	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	中・少				17.8		1/8	
42	Sk	SR01		弥生土器	影		口縁:ハケ、体部:ケズリ	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	- ⊕				19.3		1/8	
43	Sk	SR01		上部器	影		口縁:ヨコハケ後ヨコナデ、体 部:ケズリ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	乗・乗				15.5		2/8	
44	Sk	SR01		弥生土器	影	口縁:ヨコナデ・指オサエ・ナ デ、頸部~体部:タタキ後ナデ	口縁~頸部: ヨコナデ・ナデ、 体部:指オサエ・ナデ	5YR7/4 に ぷい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良好	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				33.6		1/8 未満	
45	Sk	SR01		弥生土器	櫥			10YR7/3 にぶい黄橙色	2.5Y7/3 浅黄色	良好	± •					8.4	8/2	
46	Sk	SR01		弥生土器	前杯	杯上半:ヨコナデ、杯下半:ケ ズリ後ミガキ	杯上半:ヨコナデ、杯下半:ヨ コナデ後ミガキ?	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	中・今	番 参	無· 令				1/8 未端	香東川下流域産
47	Sk	SR01		弥生土器	前杯	杯部上半:ヨコナデ、杯部下半: ケズリ	杯部:ヨコナデ	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	⊕	器・ 持	無· 令		21.8		1/8	香東川下流域産
48	Sk	SR01		弥生土器	前杯	杯上半部:マメツ、杯下半部: ケズリ・マメツ	杯部:マメツ	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	祖・田				26.8		1/8 米端	
49	Sk	SR01		弥生土器	前杯	杯上半部:ヨコナデ・刺突文、 杯下半部:マメッ	杯部:マメツ	7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	やや敷	⊕ •÷				36.6		1/8	
20	Sk	SR01	聖上	弥生土器	前杯		杯部:ミ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	± ₩						1/8 未端	
51	42 SR	SR01		弥生土器	声	杯部:ハケ?マメツ、脚部:ハケ・マメツ	杯部:マメツ、脚部:シボリ目・ ナデ・マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙色 10YR7/2 にぶい黄橙色		良好	中						破片	
52	Sir	SR01	座上	弥生土器	高杯	脚部:ミガキ・穿孔2孔・マメ ツ	脚部:シボリ目・マメツ	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	⊕ . ⊕						破片	
53	SF	SR01		上節器	高杯	1 1	脚部:シボリ目・マメツ	5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	やや軟	無·少					8.6	3/8	
54	ry.	SR01		弥生土器	祁	脚柱部:ハケ・マメツ、脚裾部: マメツ	脚柱部:シボリ目・マメツ、脚 裾部:マメッ	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	井・浜					10.4	1/8	
22	Sk	SR01		弥生土器	台付鉢	口縁~体部:ヨコナデ?マメツ· 凹線3	□緑~体部:∃コナデ?マメ ッ	25Y8/3 淡黄色	2.5Y7/2灰黄色	良好	± ₩						1/8 未端	
26	Sk	SR01	陛上	弥生土器	台付鉢	脚部:ヨコナデ・四線1条・矩 形透孔2・マメツ	脚部:ケズリ・マメツ	25Y8/3淡黄色	2.5Y8/2灰白色	良好	選 ※					10.8	2/8	外面赤色顔料塗彩
22	Sk	SR01		弥生土器	台付鉢	脚部:ヨコナデ・凹線1条・矩 形透孔3・マメツ	脚部:ケズリ・マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	良好	ф· ф				13.0		1/8	
28	Sk	SR01	聖	弥生土器	台付鉢	脚部:ミガキ・ヨコナデ・凹線 1条・マメツ	脚部:ケズリ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	井・珠					12.6	1/8 未満	
29	ιχί	SR01		弥生土器	紶		口縁~体部:ナデ?マメツ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	中・洪				12.5		2/8	
09	Ś	SR01	聖	弥生土器	樵	体部:ハケ後タタキ、底部:ナ デ?マメツ	体~底部:ハケ・マメツ	5YR7/6橙色	5YR5/6 明赤褐色	良好	出・					2.0	8/8	
61	Sir	SR01	严	弥生土器	*2	体部:タタキ後指オサエ・ナデ、 底部:ナデ	体~底部:ハケ・指オサエ	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色	良好	単・中					3.6	8/8	
62	ts.	SR01		弥生土器	益	× 2.	体~底部:ハケ	2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	良好	単・中					3.8	8/8	
63	SF	SR01	严	弥生土器	榈	体部:指オサエ後ケズリ・マメ ツ、底部:マメッ	体~底部:ハケ	7.5YR7/4 にぶい橙色	5Y4/1 灰色	良好	単・多					4.1	8/9	
64	42 SR	SR01		弥生土器	樵	口線~体部:タタキ後板ナデ・ナデ・マメツ、底部:ナデ・マメン	口縁~底部:ハケ後指オサエ・ ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	N4/ 灰色	良好	⊕ %				11.5 5.8	28	8/2	
9	Ś	SR01		弥生土器	樵		□緑~体部:板ナデ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぷい橙色	良好	中· 小				11.2		1/8	
99	Ŕ	SR01		弥生土器	微	体部: 板ナデ・ナデ、底部: ナ デ	体~底部:ハケ・ナデ・マメ ツ	10YR7/4 にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色		良好	中・					3.7	8/8	
29	42 SR	SR01	上層	弥生土器	祵	体部:板ナデ・マメツ、底部: マメツ	体~底部:ハケ後指オサエ・ナ デ・マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR6/2 灰黄褐色		良好	選・ 選					5.4	8/8	

第27表 土器観察表(3)

10 10 10 10 10 10 10 10	遺物 図版番号 番号	版 遺構名	屋位	種類	器種	黎 腱	4.000	色調	W. William	焼成	7 # . # 7	胎士	拉掛	計七日報	計測値	置 (cm)	みの独	編券
10.00 10.0			+	弥生土器	為	コナゼ・	P3 B P3 B P3 B P3 B P4 B P4 P4 B P4 P4	7.5YR6/4 にぶい橙色		良好	中・洋	122	1	-	-	16X1±	ᅳ	
1970 1971 1972		Capor	<u>I</u>	35.45. 1.80	177	ナデ 4441.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.	後にガキ午は、サナ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	A self con and to outside		4,427	1 4					· C	i g	
1993 1994		SR01	聖上	弥生上都	中行第	体部:ナデ、脚台部:指オサエ・ ナデ	体部:ミガキ・ナデ・マメツ、 脚台部:指オサエ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい電色		良好	州 -					6.1	8/8	
2003 198 Section 2.8		SR01		弥生土器	台付鋒		: ハケ・マメツ、	10YR7/4にぶい黄橙色		良好	弾・中					3.6	8/8	
Supplementary Fig. Supplementary Suppl		SR01	严	弥生土器	底部有孔餘		体部:ハケ	10YR7/4にぶい黄橙色 1		良好	ф·+					0	F) (#	
Supplement State of Market State of Market		SR01	壓上	弥生土器	相	恭	体~底部:ハケ・ナデ			良好	中・英		番· 令			3.9	2/8	
Success Success		SR01		弥生土器	底部名 孔鉢	体~底部:タタキ後ナデ・穿孔	体~底部:板ナデ			良好	出・出						(A	
State Stat		SR01	型上	弥生土器	底部有孔餘	体部:タタキ後一部ナデ、底部: ナデ・穿孔	体~底部:ナデ			良好	⊕ 					2.6	3/8	
1989 1984		SR01		弥生土器	底部 孔鉢	体~底部:タタキ・マメツ・穿 孔	体~底部:板ナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色 j		良好	⊕ •⁄						ほ密	
19 19 19 19 19 19 19 19		SR01		弥生土器	捌	顕部:ヨコナデ、体部:ハケ後 ナデ	類部:指オサエ・ナデ、体部: ケズリ			良好	祖・						破片	
19 19 19 19 19 19 19 19	45			弥生土器	棋	2	口縁~底部:ケズリ?後ナデ			良好	サ・珠					2	3/8	ミニチュア土器
(2. 887)				弥生土器	繊	ナデ、体~底	口縁~底部:指オサエ・ナデ			良好	井・珠						8/2	ミニチュア土器
1982 1982 1982 1982 1982 1992 1997	45			弥生土器	御	体~底部:指	頸部:ハケ後ナデ、体~底部: 指オサエ・ナデ			良好	4.4					2.5	8/8	ミニチュア土器
SNOI 上級 (Act 26) (Act 24)	45			弥生土器	益	口縁:ヨコナデ、体部:ハケ後 ナデ、底部:ナデ・小円孔穿孔	口縁:ヨコナデ、体~底部:ナ デ	10YR6/3 にぶい黄橙色]		良好	報・除					3.8	(A.	底部焼成前穿孔
Sept		SR01	壓円	弥生土器	合付鉢	脚台部:指オサエ・ナデ		_		良好	単・単					5.2	8/8	
San		SR01		弥生土器	器額中期	脚台部:指オサエ・ナデ	体部:ナデ?マメツ、脚台部: 指オサエ・ナデ			良好	中・様					4.4	1/8 未満	
SNO A	\perp	SR01		上師器	画口語	口縁~頸部:ミガキ	验		$\overline{}$	良好	中・単		組・旅		13.3		2/8	
Secondary 上面部	42			弥生土器	問		口縁~頸部:ヨコナデ、体部: 指オサエ・ナデ			良好	粗·斯				15.8	Ö	(孔 径)	口縁端部に小円孔穿孔
SRO1		SR01		十部器	皗		口縁~頸部:ハケ後ナデ	10YR7/4 にぷい黄橙色		良好	⊕ *⁄				14.2		1/8	
SROI		SR01		十一部器	膨	口線: ハケ後ヨコナデ・凹線2、 顕部: ヨコナデ	口線~顕部: ヨコハケ後ョコ ナデ	10YR6/3 にぷい黄橙色		良好	± · ⊕		番· 今		20.8		2/8	口綠部外面媒付着
SRO1 上層 連の	Ш	SR01		上師器	影	口繰:ヨコナデ	口縁:ヨコナデ			良好	中・小				14.6		1/8 未満	
SRO1		SR01		弥生土器	崇	口縁~顕部:ヨコナデ、体部: ハケ後ヨコナデ	口縁~頸部:ヨコナデ、体部: ハケ後指オサエ・ナデ			良好	単・中				17.6		1/8 米謝	
SRO1 上層 上幅		SR01	四二	出	崇	口縁~頸部:ヨコナデ、体部: ナナメハケ	口縁~頸部:ヨコナデ、体部: 指オサエ後板ナデ			やや軟	中・珠				18.1		2/8	
SRO1 上蹄 上蹄 上蹄 上蹄 上蹄 上蹄 上蹄 上		SR01	聖	出	影	口縁~類部:ヨコナデ、体~底部:指オサエ後板ナデ・ハケ・ナデ	口縁:ヨコナデ、頸部:指オサ エ・ナデ、体~底部:ケズリ	7.5YR8/3 浅黄橙色		良好	中· 联						2/8	体部外面媒付着
SRO1	Ш	SR01		上師器	影		口縁~頸部:ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	にぶい橙色	良好		無·少			17.7		1/8 未満	
SR01		SR01		十郎器	影		口縁~頸部:ヨコナデ、体部: 指オサエ・ナデ	5YR6/4 にぶい橙色		良好	単・中		番 ・今		17.4		1/8 米瑞	
SROI		SR01	屋子	出	一一一一	口縁~頸部:ヨコナデ、体部: ハケ	□線~顕部:ハケ後ヨコナデ、 体部:指オサエ・ナデ後ケズ リ	10YR6/4にぶい黄橙色		良好	中・珠		雅 · 抖				2/8	体部外面媒付着
SROI		SR01		上部器	劉	体部:タタキ後ハケ、底部:ハ ケ後ナデ	体部:ケズリ、底部:ケズリ 後指オサエ・ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐色 1		良好		÷	報· 報·				8/8	体部外面·底部内面煤付着
SRO1		SR01		十二年報	影	□線~顕部:ハケ後ョコナデ、 体部:ハケ後ナデ・マメツ	口縁~顕都:ハケ後ョコナデ、 体部:指オサエ・ケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙色		良好	出・出				16.1		1/8	体部下半外面媒付着
SRO1	Ш	SR01	壓口	・報題・	膨	体部:タテハケ、底部:ナデ	体~底部:ケズリ後ナデ		$\overline{}$	やや軟	粗·多					10.3	8/2	
SRO1	\perp	SR01		十二世	本 1				\neg	良好	果 : 今				14.7		1/8 米謝	
SR01 上層 上層 本部 P中部: ヨコハケ後ヨコナデ P下半部: ヨコハケ後ヨコナデマスメッ Pr上半部: ヨコハケ後ヨナデ PT・報告: ココナデマスメッ PT・報告: ココナデマスメッ PT・報告: ココナデマスメッ PT・報告: ココナデ PT・報告: ココナデ PT・報告: ココナデ PT・基本・アイル・報告: ココナデ PT・基本・アイル・第一年 PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・ココナデ PT・ア・コンド	\perp	SR01	T	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	阿拉		作品:ハク・ココナナ杯部:ハケ後ナデ	1)	3)	良好	∯ ÷ • ⊕				14.6		2/8	
42 SR01 上層 上順器 添杯 脚柱部: 指オサエ・ヨコナデ 助場部: ヨコナデ コナデ ストラマスツ、脚柱部: 体部: スオキマスツ、脚柱部: 体部: マメツ、脚柱部: 体部: マメツ、脚柱部: 体部: フォン、脚柱部: 水部 マメン、脚柱部: 水部 マメン、脚柱部: 水部 フォン、脚柱部: 水部 フォン・ボール 大型 フェアン・ボール シャール シャール シャール シャール シャール シャール シャール シャ	_	SR01		十部器	前杯		: ヨコハケ後ナデ、	7.5YR7/4 にぶい橙色		良好	⊕ -÷				17.1		1/8	
SR01 土師器 高杯 管部:ミガキ?マメッ、脚柱部:シボ 5YR7/6 機色 5YR7/6 機色 8YR7/6 機色	_			十一部器	高杯		: ケズリ、脚裾部:	7.5YR7/3 にぶい橙色		良好	± . ⊕					9.2	4/8	
		SR01		十部器	高杯		杯部:マメツ、脚柱部:シボ リ目・ナデ	5YR7/6 橙色		やや軟	番・今						破片	

第28表 土器観察表(4)

遺物	図	· · · · · ·	少国	雅類	器籍	調整	佐	色調	16)	往拳		平場			計測値	(cm)	時在率	福彩
要争		T LEES		146.791	100	Ш	内面	外面	内面	No. of	石英・長石	角閃石	雲母 結晶片岩	片岩 口径	器部	底径 その他	_	G. gud
104	42	SR01		上師器	高杯	脚柱部:メントリ、脚裾部:ヨ コナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中・小					9.4	3/8	
105		SR01		上哥瑞	前杯	脚柱部:ナデ・ヨコナデ、脚裾 部:ヨコナデ・マメツ	脚柱部:ケズリ、脚裾部:ヨ コナデ	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	良好	押・珠						破片	
106	155	SR01		十 記 記	柯	杯部:ヨコナデ?マメツ、脚柱 部:ハケ後ナデ、脚裾部:ヨコ ナデ	杯部:マメツ、脚柱部:シボリ目、脚裾部:ヨコナデ?マ メツ	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	÷ . ⊕						破片	
107	155	SR01		弥生土器	存	杯部:ナデ?マメツ、脚柱部: 板ナデ・指オサエ・ナデ、脚裾 部:ナデ	杯部:マメツ、脚柱部:ケズリ、 脚裾部:ョコナデ?マメツ	2.5YR6/6 橙色	2.5YR6/6 橙色	良好	掛・					11.2	8/8	
108		SR01		上師器	小型丸 底土器	口縁~顕都:ヨコナデ・マメツ、 体部:指オサエ・ナデ・マメツ	口縁~頸部:ヨコナデ・マメツ、 体部:指オサエ・ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	祖・中			10.4			1/8	
109		SR01		須恵器	杯蓋	口縁~天井部:回転ナデ	口縁~天井部:回転ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良好	無·少			13.8			1/8 未満	
110		SR01		須恵器	杯蓋		口縁~天井部:回転ナデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良好	中·少			11.0			1/8	
111	- SS	SR01		須恵器	杯身		口縁~体部:回転ナデ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	良好	無· 今						2/8	
112		SR01		須恵器	杯身		口縁~底部:回転ナデ·沈線 1	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良好	⊕ ⊕. ⊕			12.0			2/8	
113		SR01		須恵器	杯身	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ケズリ	口縁~底部:回転ナデ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	良好	⊕ . □			12.7			1/8	
114		SR01		須恵器	标身		口縁~底部:回転ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良好	細·少			14.8			1/8 未満	
115		SR01		須恵器	膨	口縁:回転ナデ・沈線1・刺突 文、頸部:回転ナデ	口縁~頸部:回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/3 浅黄色	良好	⊕ ••			15.8			1/8	
116		SR01		須恵器	御	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	25GY6/1 オリープ灰色	N6/ 灰色	良好	中・少			8.4			1/8	
117		SR01		須恵器	影	口線~頸部:回転ナデ・凹線1、 体部:タタキ後カキメ	口縁~頸部:回転ナデ、体部 同心円当て具痕	5Y7/1 灰白色	5Y8/2 灰白色	良好	中·少			22.8			2/8	
145		SB01(SP014)		白盤	溪	口祿~体部:施釉	口縁~体部:施袖・沈線1	7.5Y8/1灰白色(胎)	7.5Y6/2 灰オリーブ色 (釉)	良好				18.0			1/8 未端 中	中国製
146		SB02 (SP093)		上師質上器	茶	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	番・今					8.3	1/8	
147		SB03(SP192)		上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り	口縁~底部:回転ナデ	5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	良好	乗・今			7.0	1.05	9:9	1/8	
148		SB03(SP192)		上師質土器	杯		口縁~体部:回転ナデ	5YR7/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	細・熊			12.9			1/8 未満	
149		SB03(SP192)		土師質土器	杯		体~底部:回転ナデ?マメツ	5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	やや軟	中・並					7.8	2/8	
150		SB03(SP195)		土師質土器	苯	体部:マメツ、底部:回転ヘラ 切り・マメッ	体~底部:回転ナデ	10YR8/2 灰白色	10YR7/1 灰白色	良好	期· 联					0.6	1/8 米謝	
156		SB04(SP255)		須恵器	林		底部:回転ナデ?マメツ	25Y8/4 淡黄色	25Y8/4淡黄色	不良	無·少					8.3	8/2	
157	SE	SB04 (SP385)		土師質土器	苯	口縁~体部:回転ナデ?マメツ、 底部:回転ヘラ切り?マメツ	口縁~底部:回転ナデ?マメ ツ	2.5Y6/2灰黄色	25Y7/1灰白色	やや軟	無· 少			12.6	4.1	6.7	2/8	
158	. ≅	SB04(SP437)		岩器	影	口縁~頸部:ヨコハケ後ョコナ デ、体部:タテハケ	口線~顕部:ヨコハケ後ヨコナデ、 ナデ、体部:ヨコハケ後板ナデ・ ナデ	· 10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	小	暴	**	18.8			1/8 体	体部内外面媒付着
159	SE	SB04(SP255)		十節器	影	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ後ハケ	口縁:ハケ後ヨコナデ、体部 ヨコ・ナナメハケ	: 5YR6/4にぶい橙色	5YR6/4にぶい橙色	良好	⊕ • •			20.8			1/8	
162	SE	SB06(SP480)		土部質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	中 · 小			0:9	6:0	6.0	1/8	
163		SB06(SP555)		\Box	▤.		底部:回転ナデ	-	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	中・小					6.0	1/8	
164		SB06(SP481)			斧 ‡	口緣~体部:回転ナデ 体部:回転糸		橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色 10xxpo/4 津井総な	良好	÷ ⊕ +			12.2		40	1.8 米線	
CQ1		SB06(SP480)		出版が出場	ź	40.0 2	体~底部:凹転ナア	101 K8/3 浅黄恒巴	101K8/4 沒與恒巴	及好	÷. ±					8.4	1/8米部	
166		SB06(SP480)			林	<	体~底部:回転ナデ・ナデ		10YR8/4 浅黄橙色	良好	中·少					8.2	2/8	
167		SB06(SP537)		\neg	茶育		底部:回転ナデ 広部: 回計 * 1:0 - 1:3		10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	÷ ÷					82	1/8	
007		SDOG(SP293)		上町河上部	É À		広即・回転) / : 、	101K//3 12-207 東福巴	1011//2 にかい 東位に 2508/0 ※帯体	14 TA	A ← .			10.1	000	0.7	1,0	
GOT		BUB(SF357)		\neg	É	- 1			2.518/5 深東巴	RST	4.9	+		12.4	20	8.0	1/8	
170		SB06(SP537)		上師質土器	苯	口縁~体部:回転ナデ、底部: ナデ?マメツ	□ 線 ~ 底部: 回転ナデ・マンツ	10YR7/4 にぶい黄橙色	2.5Y7/3 浅黄色	良好	祖· 世			12.2	3.8	8.6	1/8	
186		SB07(SP494)		上師質土器	Ħ	: 回転ナデ、底部: 回転へり後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	中・今			6.5	1.1	5.9	1/8	
187	SE	SB08·SB09(SP301)		土師質土器	妆	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	中·少			12.2			1/8 未満	

道物 図版 寿号 寿号	道構名	耐 位	価親	tid ////	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田				No.	⊢	H	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	_	H		-
		1 4 4 5	\top		三年の発生の発生の対象を		9/FI	MM Marian	44.47	4 中 中 中 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	和	新聞万名	世世 数日	日 版任	んの旬	
1	SB08(SP381)	量	工師第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	≡	(根部:回転へつ切り:マメックは、正式・回転・回転・した)	長部: 回転ナア・ナア			良好	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				8./	1/8	
189	SB08(SP580)	上部	上師質土器	女	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?マメッ	体~底部:回転ナデ	7.5YR7/6 橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	無·今				8.2	1/8	
190	SB08(SP305)	上師.	土師質土器	杯	底部:回転ヘラ切り後ナデ	底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	2.5Y7/2 灰黄色	良好	弾・中				92	1/8	
191	SB08(SP525)	温温	上師質土器	杯	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	良好	中・少				8.5	2/8	
192	SB08(SP580)	上部	上師質土器 4	林	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	- 小中			11.8	2.9 8.5	1/8 未端	框
193 43	3 SB08(SP297)	十二	上節質上器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	料・中			12.5	3.8 8.6	2/8	
194 43	3 SB08(SP297)	出置	十四個土路	妆	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	瀬・中			12.2	3.7 9.2	8/1	外面媒付着
195	SB08(SP548)	出		妆	口縁~体部:ナデ・マメツ、底部:高台貼付後ナデ	口縁~底部:ナデ・マメツ	5Y6/6 橙色	5Y6/6 橙色	良好	中・小			17.8	5.6 8.1	2/8	へう記号
196 43	3 SB08(SP524)	瓦質土器		風炉	□緑~体部:ナデ・穿孔	口縁端:ケズリ、口縁~体部: ハケ	N6/ 灰色	5Y6/1 灰色	良好	中・少			26.0		1/8 未満	青 奈良火鉢
200	SB10(SP558)	十二		林	底部:回転ヘラ切り?マメツ	ナデ		\Box	良好	細·並	無 少			9.2	1/8	
201	SB10(SP554)	上部	蛇	女	口緣~体部:回転ナデ	口綠~体部	_	い黄橙色	良好	粗·除			13.6		1/8	
202	SB10(SP582)	黑色土器		潔	体部:ミガキ、底部:高台貼付後ナデ	体~底部:ミガキ	10YR7/4にぷい黄橙色	10YR2/1 黑色	良好	± . ↓				7.5	2/8	
203	SB11(SP516)	出	П	茶	口縁~体部:回転ナデ	: 回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	П	良好	中·今			13.8			
204	SB11(SP516)	出量	上師質土器	女	底部:回転ヘラ切り?マメツ	- 11			良好	墨·今				8:0	1/8	
202	SB12(SP602)	出	上節質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ・マメツ	□線~体部:回転ナデ・マメック	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	祖· · 珠			12.2		1/8	
206	SB12(SP626)	出		本 1	底部:回転ヘラ切り?マメツ			7.5YR7/6橙色	良好	中· 中·				9:9		框
702	SB12(SP657)	료 1년 H +	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	£ \$	低部:回転ヘフ切り後ナア 体部:回転ナデ、底部:回転へ	(根部:回転ナア 体→廃継:回転ナルット ***	10 Y K6/ 2 外页检巴 25V7 / 3 法非免	7.53 K//4 にぶい恒田 10XD8 // 油井整布	良好 由 标					27 84	3/8	
	(000 10)			. [う切り後ナデ 序記: 回転へう切り後ナデ・マ		1		3 !	\ 3			+			
607	SB12(SP607)	료 H	H 電気 H 蝦	ź	, x	展帯:マメツ	10YK//4 にあい寅億世	101K//4 にふい寅億世	良好	· 日				9.6	8/1	
210	SB12(SP602)	上島	上師質土器	足絵	口線~鍔部: ヨコハケ後ョコナ デ・ナデ	口縁:ヨコナデ、体部:ハケ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕ •					1/8 未満	框
212	SB13(SP645)	上節	上師質土器	林	口縁~体部:回転ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	無·少			12.8		1/8	外面媒付着
213	SB13(SP643)	出	上師質上器	林	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	÷. ⊕				7.9	1/8	
214	SB13(SP645)	出	上部質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	中・小			11.4	3.1 8.6	2/8	
215 43	3 SB13(SP643)	上師	土師質土器	林	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後ナデ	□緑~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	祖・中			11.2	3.7 9.3	4/8	
216	SB13(SP643)	上師	土師質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/3 にぶい着色	良好	滑・中			11.6	3.1 7.8	4/8	
217	SB13(SP645)	上師	土師質土器	尼談	口縁~鍔部:ヨコナデ、体部: 指オサエ・ナデ	口線: ヨコナデ、体部: 板ナ デ	5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	良好	淵・中					1/8 未満	青 体部外面媒付着
218	SB15(SP637)	上部	上師質土器 人	足影	口縁~鍔部:ヨコナデ、体部: ハケ後指オサエ・ナデ	口縁~体部:ハケ・ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	掛・中			24.7		1/8 未満	框
219	SB16(SP679)	上野	土師質土器	卒	口縁~体部:回転ナデ?マメツ	口線~体部:回転ナデ?マメ ッ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	秦	ф· н			11.9		1/8	
220	SB16(SP698)	出	上師質土器	茶	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	出・出				8.2	1/8	外面一部媒付着
221	SB16(SP698)	瓦器		湿	底部;高台貼付後ナデ	底部:マメツ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	良好	果.今				4.8	1/8	和泉型
222	SB16(SP698)	上節		逐	底部:高台貼付後ナデ・マメツ	底部:マメツ		10YR8/2 灰白色	良好	題・少				9.9		
223	SB17(SP714)	出		杯	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	却	10YR8/3 浅黄橙色	良好	細·少			13.9			框
226	SB17(SP714) SB18(SP734)	出土	上四個上部 十四個上路	% ≡	成部: 高台貼付後ナデ?マメッロ線: 回転ナデ・マメッ	底部:マメツ 口縁:回転ナデ	10YR8/2 水日色 10YR7/3 にぶい苗橋色	10YR8/3 浅黄竜色 10YR7/3 にぶい 苗樽色	良好	第 条 令 是			8.1	5.2	1/8 米鵬	和医
227	SB18(SP726)	十二		茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へう切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	_		良好	中・少			12.3	3.2 6.4	1/8	
228	SB18(SP734)	十二	上師質土器	茶	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	一条 一条				8.0	1/8	
529	SB19(SP770)	十二	十部領土器	Ħ	口線:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	期· 下			8.2	1.8 6.1	1/8 未謝	框
230		i		•												

第30表 土器観察表(6)

遺物	図版 造機名	名屋位	種類	= 12	器標	羅鼬		色調	A	海路		船上				計測値 (c	(cm)	時存率	a	
争		1		+	\neg		内面	外面	内里		石英·長石	角閃石	中半	結晶片岩	四径端	昭司原	底径 その他	_		
232	SB20(SP839)	(6	瓦器	濹			#: マメツ	N4/ 灰色	N5/ 灰色	良好	無· 少				14.8			1/8	和泉型	
233	SP090		上師質土器	=		口縁:回転ナデ、底部:回転へ [ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	⊕ ÷.				9.9	1.0	6.0	1/8		
234	SP090		上師質土器	<u></u>		口線:回転ナデ、底部:回転へ [ラ切り	#: 回転ナデ・マメ	25Y4/2 暗灰黄色	25Y4/2 暗灰黄色	良好	出・中				6.4	11	5.8	8/2		
235	SP289		上師質土器	<u></u>		口線:回転ナデ、底部:回転へ D ラ切り後ナデ	8: 回転ナデ・マメ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	親· 報				9:9	1.0	5.6	1/8		
236	SP284		上師質上器	=		口線:回転ナデ・マメツ、底部: [] 回転ヘラ切り後ナデ	口線~底部:回転ナデ?マメッ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	± ŵ	OH:	雅 ·		9.9	1.1	5.9	1/8		
237	SP427		上師質上器	=		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕ -÷				6.7	1.2	6.0	1/8		
238	43 SP256		上師質上器	=		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	湖・中				6.2	1.1	5.7	8/8		
239	SP490		上師質上器	=			口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕ . ⊕				5.8	0.7	5.6	8/2		
240	SP216		上師質上器	=		口線:回転ナデ、底部:回転へ [ラ切り?後ナデ	口縁~底部:回転ナデ?マメッ	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	湖・中				6.3	6.0	6.1	1/8		
241	SP151		上師質土器	=		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	選・課				7.3	8.0	7.0	1/8		
242	SP335		土師質土器				口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕. ⊕				7.2	6:0	9:9	8/2		
243	SP276		土師質土器	E		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	良好	題·少				7.8	6:0	0:9	1/8		
244	SP597		上師質土器	=			口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/6 橙色	良好	料・中	off:	第・今		8.0	1.2	8.9	1/8		
245	SP207		上節質土器	=		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR7/4 にぷい橙色	7.5YR6/6 橙色	良好	÷ ÷						9:9	1/8	内面・破断面に媒付着	集付着
246	SP059		土師質土器	Ħ			?マメツ			良好	中・少				0.6	1.5	6.1	1/8		
247	SP067		上師質土器	华		口縁:回転ナデ		卸	7.5YR6/4にぶい橙色	良好	中・少				11.8	\parallel		1/8		
248	SP256		上師質上器	*		□縁~体部:回転ナデ?マメツ □	口線~体部:回転ナデ?マメ ツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	湖· 東				11.7			1/8 未満	SE SE	
249	SP439		土師質土器				口縁~体部:回転ナデ			良好	中・少				11.4			1/8 未満	SE SE	
220	SP282		上師質上器	·			底部:回転ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	良好	出・出				1		82	1/8		
251	SP529		上師質上器	茶		下く	体~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	橙色	良好	∜ ±						8.4	1/8		
252	SP256		上師質土器	· 杜			底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	単・単					H	8.4	1/8		
253	SP415		上節質土器	**		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部: 回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	± ∻						8.3	1/8		
254	SP289		上師質土器	茶		底部:回転ヘラ切り後板状圧痕・ ナデ	底部:回転ナデ?マメツ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	⊕ -÷						8.6	2/8		
255	SP090		上師質土器	苯		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	湖・中						9.7	1/8		
256	SP428		土師質土器	平		底部:回転ヘラ切り後ナデ	底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中・少						8.9	1/8		
257	SP470		土師質土器	本		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ	体~底部: 回転ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	垂·今						8.2	1/8		
258	SP490		土師質土器	本		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体~底部:回転ナデ・マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕ . ⊕						8.5	3/8		
259	SP276		土師質土器	芹		体部:回転ナデ?マメツ、底部: 4 回転ヘラ切り?マメツ	体~底部:回転ナデ?マメツ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	やや軟	出・						8.2	1/8 未端	350	
360	SP061		上節質土器	茶			体~底部:回転ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	※ 中						8:0	1/8		
261	SP216		上師質土器	茶		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	÷. ⊕						7.0	1/8		
292	SP187		上師質土器	茶			体~底部:回転ナデ?マメツ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	湖・中						8.3	1/8		
263	SP391		上師質土器	茶		口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り?後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	⊕ . ⊕				12.2	3.1	7.1	4/8	口綠部歪顕著	
264	SP588		上師質土器	*		口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕ . ⊕				11.2	3.4	7.8	2/8		
265	SP518		上師質上器	*		口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	⊕ -÷				12.2	3.3	9.1	3/8		
366	SP453		土師質土器	芹		口縁~体部:回転ナデ、底部: I 回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	湖· 縣	off:	番・今		11.4	3.7	8.4	8/2	内外面一部媒付着	ám
1	-	-		-			***	# ((-		_	

10線~底部: 回版ナデ・ナデ 57 RB・6 機位 7 km 7	5YR6/6 橙色 10YR8/4 浅黄橙色	良好	口兴,攻口	HM4	な は 日本	稲頭片石 口	世に				
· × ×		良好		╀		L		4	しろり	+	
· × ×			H ⊕				12.7	3.4 8.6	4/8		
* *		良好	単・中				12.0	3.4 7.5	2/8	内外面媒付着	ধ
~	2.5Y8/3 淡黄色	良好	弾・中				12.0	3.9 8.4	8/8	内外面煤付着	树着
× 1	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	料・中				11.8	3.3 8.2	4/8		
	10YR8/4 浅黄橙色	良好	岩				12.6	3.9 9.6	2/8		
	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	沿 ·				12.2	3.5 8.4	8/8		
10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	中・旅				H	9.9	2/8		
回転ナデ?マメツ 10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	期· 联				8.2		8/8		
7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR4/1 褐灰色	良好	中・小					9.9	1/8		
口縁~体部:ミガキ・マメツ N5/ 灰色	7.5Y3/1 オリーブ黒色	良好	ン 少			-	15.0		1/8 未満	清和泉型	
口縁~体部:ナデ後ミガキ、底 部:平行暗文	N5/ 灰色	良好	· · · ·				14.3	4.9 5.0	2/8	和泉型	
5Y6/1 灰色	2.5Y7/1 灰白色	良好	無·少					4.4	2/8	和泉型	
N5/ 灰色	5Y7/1灰白色	良好	中・少					4.4	2/8	和泉型	
N7/灰白色(胎)	10Y7/2 灰白色 (釉)	良好						4.9	8/2	同安窯系	w#
N3/ 暗灰色	N3/ 暗灰色	良好	中·少				16.4		1/8		
N6/ 灰色	N7/ 灰白色	良好	- ⊕					12.8		握	
N6/ 灰色	N6/ 灰色	良好	植·少					6.5	1/8	東播系	
7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	中・少				7.7		1/8 未	据	
10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	無·少				7.8	9.9	1/8		
・ナデ 7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	対・中				7.5	1.4 5.4	2/8		
2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	良好	⊕ · □				8.2	1.1 6.6	1/8		
10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	- □				8.3	1.4 7.0	1/8		
・ナデ 10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	中				8.5	1.5 6.4	4/8		
10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや軟	要· 今				9.1	1.6 7.0	2/8		
7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色 」	良好	細・熊				11.7		1/8 米	据	
*?マメ 25Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色	良好	無·今				9.11		1/8 未	握	
7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	栗·今				12.6		1/8米	態	
10YR7/4にぶい黄橙色 75VR7/4じぶい磐色	10YR7/4 にぶい黄橙色 7 5VR7/4 にぶい磐布	良好自好	4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				13.2		1/8米	据 頻	
The state of the s		D-47	\ \				2	9		2	
7.5 YK7/4 にあい恒也		良好	· 基 · 4		+			07			
		10000000000000000000000000000000000000	- ÷ - ±					82			
		自任	∜ · ⊞				+	76			
		良好	岩				13.6	9.6			
7.5YR7/6 橙色	7.5YR6/4 に ぶい橙色	良好	料・出				15.4	3.4 10.1	2/8	内外面・	内外面・破断面に媒付着
・ナデ 7.5YR7/4 にぶい着色	5YR7/4 にぶい橙色	やや軟	4.中				14.4		8/9		
		N6 K色 N7 K自色 N6 K自 N6 K自 N6 K色 127 K6 4 にぶい着色 127 K6 4 にぶい着色 127 K6 4 にぶい着色 127 K6 4 にぶい着色 127 K7 3 にぶい着色 127 K7 4 にぶい着色 127 K7 3 にぶい着色 107 K7 4 にぶい着色 125 K7 4 にぶい場色 125 K7 4 にぶい場合 125 K7 4 にぶいる 125 K7 4 にぶんる 1	N6 K色 N7 K日色 N6 K色 N6 K色 125V K6 4 にぶい器色 125Y R6 4 にぶい器色 125Y R6 4 にぶい器色 125Y R7 4 にぶい器色 125Y R7 4 にぶい器色 125Y R7 4 にぶい器色 10Y R7 3 にぶい 保色 125Y R7 4 にぶい器色 125Y R6 4 にぶい器色 125Y R7 4 にぶい器色 125Y R6 4 にぶい器色 125Y R7 4 にぶい器	N6 K色 N7 K 白色 良好 N6 K 色 N6 K 色	N6 K色 N7 K 白色 良好 N6 K 色 N6 K 色	N6 K色 N7 K6 色	N6. 灰色 N7. 灰白色 良好 中・少 N6. 灰色 10Y R7 は 1. ボンド R6. 4 によい整色 15Y R6.4 によい整色 15Y R7.3 によい敷色 良好 中・少 15Y R6.4 によい敷色 15Y R7.3 によい敷色 15Y R7.4 によい敷色 15Y R8.5 紫色色 15Y R7.4 によい敷色 15Y R8.5 紫色色 15Y R7.4 によい粉色 15Y R7.4 によい粉色 15Y R8.4 によい粉色 15Y R7.4 によい粉色 15Y	N6/所色 N6/所色 良好 中・少 777 N6/所色 良好 申・少 777 12YR73にぶい機色 75YR64にぶい機色 良好 申・少 777 12YR73にぶい機色 75YR74にぶい機色 良好 申・少 775 12SYS/1 歳水砂砂色 125Y1/3 歳水砂砂色 良好 中・少 775 12SYS/1 歳水砂砂色 125Y1/3 歳水砂砂 125Y1/3 歳水砂 82 10YR73に赤い紫砂色 10YR73に赤い紫砂色 125Y 1119 10YR73に赤い紫砂色 125Y 125Y1/3 歳水砂 1119 10YR73に赤い紫砂色 125Y1/3 歳水砂 1119 1126 10YR74に赤い紫砂色 125Y1/3 歳水砂 1149 1133 12SYR74に赤い紫砂色 125Y1/3 歳水砂 125Y1/3 歳水砂 1126 12SYR74に赤い紫色 125Y1/3 は水砂 125Y1/3 は水砂 1126 12SYR74に赤い紫色 125Y1/3 は水砂 1126 1126 12SYR74に赤い紫色 125Y1/3 は水砂 1126 1126 12SYR74に赤い紫色 125Y1/3 は水砂 1126 1126 12SYR74に赤い紫色 125Y1/3 は水砂 125Y1/3 は水砂 125Y1/3 は水砂	N6 K色 N6 K色 良好 中・少 77 N6 K色 AV K色 良好 相・少 77 12YR73 にぶい機色 AV Kら A・少 78 12YR73 にぶい機色 AV K A・少 78 12YR73 にぶい機色 AV K A・か 78 12YR73 にぶい機管 AV K A・か 82 10YR73 にぶい機管 A・か 82 1.1 10YR74 にぶい機管 A・か B・か 1.1 10YR74 にぶい機管 A・か B・か 1.2 10YR74 にぶい機管 A・か B・か 1.2 10YR74 にぶい機管 A・か B・か 1.2	N6/K色 N7/K白色 良好 中・少 128 N6/K色 N6/K色 良好 中・少 65 727YB47にぶい複色 184 4・少 77 66 727YB73にぶい複色 184 中・少 77 66 727YB74にぶい複色 184 中・少 75 14 54 2575/1第灰色 2575/1第灰色 184 中・少 82 11 66 10YR73にぶい複色 184 中・少 83 14 70 10YR82度白 10YR83 洗炭積色 2577/3 洗炭積色 2577/3 洗炭積色 2577/3 洗炭積色 2577/3 洗炭 11 64 10YR82月によい複色 125YR74にぶい複色 184 4・少 91 16 70 755YR74にぶい複色 185 4・少 112 75 75YR74にぶい複色 186 4・少 112 75 75YR74にぶい複色 187 4・少 113 76 75YR74にぶい複色 187 4・少 133 76 75YR74にぶい複色 186 4・少 75 75 75YR74にぶい複色 187 4・少 75 75 75YR74にぶい複色 187 4・少 75 76 75YR74にぶい複色 187 4・少 75 75 75YR74にぶい複色	N6/氏色 N6/氏色 良好 中・少 128 128 は 128 N6/氏色 N6/氏色 良好 中・少 65 178 128YR64にぶい修色 18年 中・少 77 65 178 10VR7.3 にぶい修色 18年 中・少 77 18米端 10VR7.3 にぶい修色 18年 中・少 75 14 54 28 10VR7.3 にぶい嫁色 18年 中・少 75 14 54 28 10VR7.3 にぶい嫁色 18年 中・少 82 11 66 1/8 10VR7.3 にぶい嫁色 18年 神・少 82 11 66 1/8 10VR7.4 にぶい修色 18年

表 十器額密表 (8		$\overline{}$
32 表 十器観察表 (
32 表 十器観察表 ((Υ
32 表 十器額率	•	^
32 表 十器額率	`	_
32 表 十器額率		
32 表 十器額率		. 14
32 表 十器額率	ł	IK
32 表 十器観	÷	
32 表 十器観	1	첿
十 % %	Ē	т-
十 % %	ŭ	ш
十 % %	-	7
十 % %	- 5	v.
30 半	-	1
30 半		L
33		т
33		
32		
32		. 14
33	1	W
33	- 1	ıΓ
	(٠,
	(Υ
揺		
彻	ŀ	nΙ
	3	ш
	`	-

44.00	器類	外面	内面	外面	内面	NEW	石英·長石	角閃石	##	結晶片岩	口径器高	底径	その他	JH 45
土師質土器	湿	口縁~体部:回転ナデ・マメツ	□ は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	やや敷	第 . 今				14.2		1/8 未満	
上師質土器	潔	底部:高台貼付後ナデ・マメツ		2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	やや軟	無·少					5.3	8/2	
上師質土器	湿	脚部:回転ナデ	脚部:回転ナデ	い橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	無·少					7.2	8/2	
須恵器	湿	口縁~体部:回転ナデ・マメツ	口綠~体部		-D1	やや軟	中・少				14.8		1/8未満	
瓦器	溪	底部:高台貼付後ナデロ海・コートラーケが・ボール	底部:ナデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良好	無·令					3.9	3/8	和泉型
瓦器	湿	口縁:ココナア、体部:指オザエ・ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	N4/ 灰色	N4/ 灰色	良好	無·今				14.4		2/8	和泉型
瓦器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ後ミガキ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	10YR7/4にぶい黄橙色	10Y3/1 オリーブ黒色	良好	中・旅				14.6		8/2	和泉型
中級	Ħ	体部:上半施釉・下半化粧土、 底部:ケズリ	体~底部: 施釉	2.5Y8/2 灰白色(胎)	2.5Y6/6 明黄褐色 (釉)	良好						2.9	3/8	中国·広東系?
2 日本	湿	体部:施釉	体部: 施袖·片彫蓮華文?	10Y8/1 灰白色(胎)	5GY6/1オリーブ灰色 (釉)	良好							破片	龍泉窯系
須恵器	井口鉄	本 口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	N6/ 灰色		良好	中.今						1/8 未満	東播系
協	部	体部:施釉	体部:施釉	N8/ 灰白色 (胎)	2.5GY8/1灰白色(釉)	良好							1/8	中国製
上師質土器	棒		口縁~体部:ハケ後回転ナデ? ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	中・少				31.8		1/8 未満	口縁部内面に煤付着
土師質土器	足器	口線~鍔部:ヨコナデ、体部: 指オサエ・ナデ	口縁~体部:板ナデ・ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	莱· 中				30.3		1/8 未満	
須恵器	影	h	ロ~顕部:回転ナデ、体部:あて具後ヨコナデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良好	植·今				20.6		2/8	
上師質土器	Ħ	底部:回転ヘラ切り後ナデ?	底部:マメ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	細·少					6.3	1/8	
土師質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	小・ 由				12.0 3.7	8.7	1/8	内外面の一部に媒付着
土師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へラ切り後ナデ?マメッ	口線~底部:回転ナデ・マメ ツ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	⊕ ⊕.					6.2	1/8	
上師質上器	华	口綠~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	中· 小				14.8		1/8 未満	
土師質土器	茶	口線~体部:回転ナデ・指オサエ、底部:回転ヘラ切り?後板 状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ?マメ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	· 小				142 3.0	9.6	1/8	
瓦器	婉	底部:高台貼付後ナデ	底部:マメツ	7.5Y4/1 灰色	2.5Y7/3 浅黄色	良好	中・少					4.9	1/8 未満	和泉型
瓦器	Ħ	口縁:ヨコナデ、底部:指オサ エ・ナデ?マメツ	口縁~底部:マメツ	5Y4/1灰色	5Y4/1 灰色	良好	金.令				8.2		1/8 未満	和泉型
土師質土器	足簽	脚部:ナデ		10YR6/4 にぶい黄橙色		良好	単・中						破片	
上師質土器	林	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:マメツ	2.5YR6/6 橙色	2.5Y5/1 黄灰色	良好	弾・中					8.1	1/8	
上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	良好	掛・中				6.5 1.0	6.1	3/8	
土師質土器	妆	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR5/1 褐灰色	良好	中・旅				12.9		1/8 未満	
土師質土器	本	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・マメツ	体~底部:マメツ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/1 褐灰色	良好	⊕ -÷					8.2	1/8	
上師器	榈		□緑~頸部:ヨコナデ、体部: ケズリ、底部:ケズリ後指オ サエ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	2.5Y6/2 灰黄色	良好	掛・				9.4 13.3		8/8	
須恵器	捆	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ	体~底部:回転ナデ	7.5Y5/1 灰色	N6/ 灰色	良好	祖・					10.7	3/8	
土師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	単・中				6.3 1.0	5.5	8/9	
上節質上器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ	□縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	掛・中				11.4 3.3	82	8/8	
上師質上器	林	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?マメツ	体~底部:マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	⊕ . □					9.4	2/8	
上師質土器	关	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体~底部:回転ナデ・マメツ	7.5YR7/3 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	親· 联					8.2	1/8	
土節質土器	湿	口縁~体部:回転ナデ後ミガキ	口縁~体部:ナデ・ミガキ? マメツ	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	÷.				16.9		1/8 未満	
土師質土器	邂	体部:マメツ、底部:高台貼付 後ナデ	体~底部:マメツ	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良好	小 中					5.5	1/8 未満	
瓦器	邂	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:マメツ	2.5Y4/1 黄灰色	2.5Y4/1 黄灰色	良好					14.8		1/8	和泉型
6III -4- II RII	2000													

第33表 土器観察表(9)

需券																										- 半彩											
残存率 他	1/8	1/8 未満	1/8	1/8	1/8	1/8 未満	1/8	1/8 未謝	1/8	1/8 未満	3/8	1/8	1/8 未謝	1/8 未満	1/8			1/8 未満 中国製	1/8 未満 東播系	8/8	3/8	3/8	3/8	1/8	1/8 未謝	2/8 内外面赤彩	8/2	1/8	2/8	1/8	1/8	1/8 米謝	1/8 未満	藤国中 8/8	1/8	1/8	1/8
(cm) 底径 その他	9.2		7.2		7.0	8.8	8.2	7.2			8.5	8.6	9.2	82	4.7	9.9			10.2	8.9	6.2	8.2	8.3		6.8	p.1	6.4		8.2	0.6	10.2			4.3			8.4
おいます。	-							6.0			3.2	3.2			H					1.4	1.0					2.5								2.4	Н		
四	12.1	12.9		10.9				7.4	11.0	12.8	12.2	14.0						15.4		8.2	8.2			13.3		13.8		13.0						4.9	8.6	10.6	10.8
結晶片岩																																					
中部																																番· 参	番· 参				
加工 角閃石																																714	75.		П		
石英·長石		祖· 中	弾· 中	中・旅	中・珠	単・単	中・少	番・今	薬・ 中	瀬・中	⊕ · □	出・出	⊕ - ⊕	中・洪	· 中· 令:	展 5	· 星		細·菲	⊕	⊕ · ⊕	単・単	⊕ •	無·少	祖・	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	番 令	無· 少	± . ⊕	中·少	小 中	盤・今	- √ + +		井・珠	中・少	±.∳
焼成	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好		良好	£9.7	良好	良好	良好	良好	良好	良好			かか製造な	*	良好		良好		良好	良好	良好	良好	良好	良好
				4114		$\overline{}$								114				(報)	100			4114		1112	and,			細		4117	4114				$\overline{}$	1112	
内面	10YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	5YR7/6 橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2.5Y7/2 灰黄色	10YR8/2 灰白色	10YR6/3 にぶい黄橙色 ************************************		10Y8/1 灰白色 (2.5Y6/1 黄灰色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	5YR8/4 淡橙色	10YR8/2 灰白色	25Y8/3淡寅巴 7.5YR7/4にぶい精色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR6/6 明黄褐/	7.5YR8/6 浅黄橙色	2.5Y3/1 黑褐色	7.5YR6/6 橙色	7.5Y3/1 オリーブ黒色	7.5YR5/4 にぶい褐色	10GY8/1 明緑灰色 (釉)	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/6 黄橙色	7.5YR6/3 にぶい褐色
103 003 003 003 003 003 003 003 003 003	管色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	5YR7/6 橙色	-	10YR6/4 にぶい黄檀色		N8/ 灰白色 (胎)	2.5Y6/1 黄灰色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR8/4 浅黄橙色		#I	25Y1/3浅寅也 7.5YR7/4にぶい格色		10YR6/6 明黄褐色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	体 7.5YR5/4 にぶい褐色	N8/ 灰白色(胎)	7.5YR7/6 橙色	10YR8/6 黄橙色	* 7.5YR6/4 にぶい橙色
四回	口縁~底部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ	口縁~体部:マメツ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	底部:回転ナデ	体~底部:ヨコナデ?	口縁~底部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	口縁~底部:回転ナデ・マメッ	口縁~底部:回転ナデ	体~底部:回転ナデ	体~底部:回転ナデ?マメツ		(根部:マメッ) (1) (2) (3) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (8) (7) (8) (口様~冷即・ナナ仮ミルナ	口綠~体部:施釉	体~底部:回転ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ	口縁:回転ナデ?マメツ	底部:板ナデ	展部: *ガキ!マメツ 口線~底部: 回転ナデ	杯部:回転ナデ・ナデ、脚部 回転ナデ	口縁:回転ナデ・マメツ	体~底部:回転ナデ	底部:ミガキ		口縁: 沈線 1、体部: ナデ後 ミガキ	口縁:ヨコハケ後ヨコナデ、作 部:ヨコナデ	口縁~底部:施釉	口縁:回転ナデ		□縁~底部:回転ナデ?マ.ッ
- 一 一 一	ナデ、底部:	1	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ			口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ		口縁:回転ナデ、体部:回転ナ デ・指オサエ	口縁~体部:回転ナデ、底部: [] 回転へう切り後ナデ		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ		底部: 高台貼付後ナデ・マメツ ルロ線: ヨコナデ、体部: 指オサ 「	エ・ナデ		体部:タタキ後回転ナデ、底部: 糸切り	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ			(点部: 高台昭付後ナア)(口縁~体部: 回転ナデ、底部: [コナ・ーニッグ、・		口線:回転ナデ・マメツ	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ			口縁:ヨコナデ?マメツ、体部: [板ナデ?後ミガキ	□緑~頸部:タテハケ後ヨコナ □ デ	口線・受部: 回転ナデ・霧胎、 体部: 施袖、底部: 露胎・刻印		口線:回転ナデ	□縁:回転ナデ?底部:ナデ? □
器種	林	本	林	妆	Ħ	茶	Ħ	Ħ	杯	林	茶	茶	茶	茶	溪	W 1	266	潔	片口鉢	Ħ	Ħ	林	茶	Ħ	湿	\$ ≡	神	I	茶	総	皗	潔	影	4	E	Ħ	Ħ
種類	土師質土器	上師質土器	土師質土器	上師器	土師質土器	上師質土器	上師器	土部質土器	土師質土器	土師質土器	上師質土器	上節質土器	上師質土器	上師質土器	上節質土器	黑色土部	九部	口器	須恵器	上師質土器	土師質土器	上師質土器	上師質土器	土師質土器	上師質上器	計 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記	須恵器	上師質土器	上師質土器	黑色土器	土師質土器	黑色土器	土師質	青白磁	上師質土器	上師質土器	上節質土器
層位																										# # H											
遺構名	SK27	SK27	SK27	SK28	SK33	SK33	SK33	SK34	SK34	SK34	SK34	SK34	SK34	SK36	SK36	SK48	SN48	SK48	SK48	SK49	SK49	SK53	SK53	SK55	SK55	SK55 SK55	SK55	SK56	SK56	SK56	SK56	SK56	SK56	SK59	SK60	SK60	SK60
図舎	iS.	SS	S	SS	S	Š	S	isi	S	S.	iš.	SS	iš	SS.	S	o c		43 SI	Š	43 SI	S	SS	SS.	S	S	43 82	43 SI	N.	Š	Si	S	Š	S	44 SI	S	Š	S
宣布	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	373	374	88	389	330	391	394	395	396	397	398	336	401	402	404	405	406	407	408	409	412	413	414	415

$\overline{}$
<u>1</u>
\Box
十器観察表
#
34
無

過物	図版	图位	稚類	報	羅鼬	報	色調	ind	御敷		品土	l i		計測値	(cm)	時在率	企
						内面	外面	内面		石英·長石	角閃石	報告報	報晶片器 1	口径 器高	底径 そ6	その他	
417	SK60		上師質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: ナデ	□縁~底部:回転ナデ?マメ ツ	10YR8/4 浅黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	無·今				11.5	9.5	1/8	
418	SK60		上部質土器	茶	□縁~体部:回転ナデ・マメツ、 底部:マメッ	口縁~底部:回転ナデ?マメ ッ	7.5YR7/6 橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	無·少				14.0		2/8	
419	SK60		黑色土器	潔	口縁~体部:マメツ	縁~体部:マメツ	25Y3/2 黒褐色	5Y3/1 オリーブ黒色	良好	無· 少				18.0		1/8	
\vdash			黑色土器	潔	底部:高台貼付後ナデ	底部:マメツ	-	2.5Y4/1 黄灰色	良好	無·少					9:9	8/8	
_	44 SK60		灰釉陶器	墨	底部:高台贴付後ナデ 口婦・同時 ナデ 底部・同時へ	展部: 回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	果·少					0.6	1/8	
422	SK62		上師質上器	Ħ	ロ終・回転ファ、底即・回転で ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	乗・今				7.0 1.1	6.2	2/8	
423	SK62		上節器	御	体~底部:ナデ	体~底部:指オサエ・ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	無·少					6.1	8/2	
424	SK62		十節器	小型 底 出器	, 口縁: ハケ後ョコナデ、体部: ハケ後ナデ	□縁:ヨコハケ後ナデ、体部: 指オサエ・ナデ	7.5YR7/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	無·今				7.4		8//2	
425	SK62		計部器	小型丸 库十器	. 口縁:ハケ後ョコナデ、体部: ハケ後ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	無·少				7.0		4/8	
426	SK64		上師質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	無·少				12.4		1/8	
427	SK64		土師質土器	女	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	サ・鉄				12.2		1/8	
428	SK64		十 部 質 十 器	存存	口縁~体部:回転ナデ 口縁~体部:回転ナデ	□線~体部:回転ナデ□線~体熱:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい着色 7.5YR7/4 にぶい着色	7.5YR7/4 にぶい橙色 7.5YR7/4 にぶい榕色	良好自好	サ ・ ・ ・ ・	ole:	無 · 対		12.3		8/1	
430	SK64		上部質土器	: ¥	口縁~体部:回転ナデ、底部:回転・一下。(終土)	口線~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	985			7:21	8.4	1/8 米謝	
431	SK64		上節質上器	茶	日転ペラ切り:後アア 口線~体部:回転ナデ	口線~底部:回転ナデ	10YR8/6 黄橙色	10YR8/6 黄橙色	良好	令· —				12.2		5/8	
432	SK64		上節質上器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部:回転へら切り。後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	良好	出・出				12.0	0.6	2/8	
433	SK64		上師質土器	茶	口線~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	7.5YR8/4浅黄橙色	7.5YR8/4浅黄橙色	良好	無· 少				12.9		1/8	
434	SK64		上師質土器	斧	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	無·今					2.9	1/8	
435	SK64		土師質土器	苯	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	無·少					9:9	1/8	
436	SK64		土師質土器	并	底部:回転ヘラ切り後ナデ・マ メッ	底部:回転ナデ・マメツ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR5/1褐灰色	良好	要·令					8.3	1/8 未満	
437	44 SK64		土師質土器	斧		口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	⊕				9.9 2.4	7.0	8/2	
438	SK64		上師質土器	斧	口縁~体部:回転ナデ、底部: 口縁~底部:回転ナデ・ナデ 回転へラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	湖・中				11.8 3.3	8.4	2/8	
439	44 SK64		上師質上器	斧	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へう切り後ナデ		10YR8/4 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	湖· 斯				11.9 3.0	8.5	8/8	焼け歪み顕著
440	SK64		上節質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	湖・中	Olf	番・今		12.4 3.1	9.8	3/8	
441	SK64		上師質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	良好	湖・中				12.2 2.8	8.4	5/8	
442	SK64		上節質土器	斧	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	湖・中				12.6 3.1	8.2	3/8	
443	44 SK64		上師質上器	斧	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へう切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	期· 斯				12.1 3.0	8.4	4/8	体~底部内面の一部に媒 付着
444	SK64		上野質土器	湿	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ?マメ ツ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	番·今				15.4		2/8	
445	SK66		上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	良好	番· 少				7.6 1.3	5.0	1/8	
446	SK66		土師質土器	Ħ	底部:回転ヘラ切り後ナデ	底部:回転ナデ・マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぷい黄橙色	良好	小・中					52	2/8	
447	SK66		十四個十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四十四		口縁:回転ナデ度割・回転へも加り後ナデ	口縁:回転ナデル部・回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色 10XD7/9 にごい 華盛年	10YR7/4 にぶい黄橙色 10VD7/9 にごい華馨を	良好	# - 			+	10.4	0	1/8	
449	SK66		五	1 1		デ後ミガキ		5Y6/1 灰色	良好	祖 今				9.6	CC	1/8米	和泉型
450	SK66		十年四十二	菜	コ・ノノ 二部 一体 一口 第一体 第二回 第一体 第二回 第一体 第二回 第一件		10VR6/3 じざい帯熔布	10VR6/3 にぶい帯絡色	担申	小 · 田			+	11.9		8/6	
451	SK66		上節質上器	±	口線~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	- 果 - 今				911		2/8	
452	SK66		土師質土器	7年1	口縁~体部:回転ナデ		$\overline{}$	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	弾·中				11.9		1/8 未満	
453	SK66 SK66		十 智 河 十 郡 十 智 頌 十 郡	体 体	口縁~体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り後ナデ	口縁~体部:回転ナデ 底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色 10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	H H H H H		+	+	12.5	7.7	2/8	
455	SK66		上部質土器	茶	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	祖・中					8:0	1/8	
456	SK66		上師質土器	斧	ケガンス// 体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	ф· н	T		H		8.2	1/8	
					190718611			1				1					

第35表 土器観察表 (11)

457 44				外面	内面	外面	内面	/AC/AZ	石英・長石	角閃石	会部	結晶片岩	口径	超過	底径 その他		
L	SK66	土師質土器	斧	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	中・少				112	3,3	6.4	2/8	内面下半黒色化
458	SK66	上節質上器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ	口縁 ~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	乗・今				11.7	3.6	8.5	1/8	
459 44	SK66	上師質土器	苯	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後板状圧痕・ナデ	口線~底部:回転ナデ・ナデ 5	5YR8/4 淡橙色	5YR8/4 淡橙色	良好	∜ · □				11.8	3.6	8.2	8/2	
460	SK66	上町器	御		□線~顕部:ヨコハケ後ョコ ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	掛・中				10.8			8/2	
461	SK66	上部器	那杯	杯部:ヨコナデ・指オサエ・ナ デ・マメツ	杯部:ヨコナデ・マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕				19.4			1/8未端	
463	SK68	上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ 7	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	♦ · □				5.8	1.0	5.4	1/8	
464	SK68	上師質土器	Ħ		口縁~底部:回転ナデ・ナデ 7	7.5YR7/6 橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	掛・中				6.4	1.0	5.8	1/8 未端	
465	SK68	上師質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ 7	7.5YR7/4 にぶい橙色	5YR7/6 橙色	良好	掛・中				6.1	1.1	0.9	1/8	
466	SK68	上師質上器	Ħ		体~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	♦				6.5	1.1	6.2	8/2	
467	SK68	上節質上器	Ħ		口縁~底部:回転ナデ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	良好	第 少				7.1	1.1	5.4	1/8 未端	
468	SK68	上節質上器	Ħ	口線:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	♦				7.7	1.3	6.8	1/8	
469	SK68	上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ 1	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	⊕				8.4	1.2	7.4	1/8 米鵬	
470	SK68	上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕	口縁~底部:回転ナデ・ナデ 2	2.5Y8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	⊕ . □				7.6	1.5	7.3	8/8	
44	SK68	上節質土器	Ħ		口縁~底部:回転ナデ・ナデ 1	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	掛・中				6.5	1.0	5.6	8/8	
44	SK68	上師質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ 1	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕ ⊕.⊕				6.8	1.5	0.9	8/8	
	SK68	土師質土器	Ш	-	口縁:回転ナデ 1		10YR8/3 浅黄橙色	良好	中・小				10.2			1/8 未満	
	SK68	上師質土器	妆					良好	中・小				9.6			1/8 未消	
	SK68	十二年 第一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	# #	□黎~体部:回転ナデ□海~休戦・回転・デ	□黎~体部:回転ナデ□□ね~体部・回転ナデ□□ね~体部・回柜ナデ□□	10VR6/4 にぶい黄橙色 10VR7/3 に こい 帯橙色	10VR6/3 にぶい黄檀色 10VR7/3 に まい書磬布	良好自标	報・分・出・3				19.9			5/8	
	SK68	十百萬十路	- 华		I 和 / デ 回転ナデ	-		良好	中・今・申				12.1			1/8	
	SK68	土師質土器	林	底部:回転ヘラ切り後板状圧痕・) ナデ	底部:回転ナデ・ナデ・マメ ツ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	不・ 聯						8.7	2/8	外面煤付着
	SK68	上師質土器	苯	体部:回転ナデ、底部:回転へラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ 7	7.5YR7/4 に ぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	⊕ ⊕.⊕						8.4	2/8	
480	SK68	土節質土器	*		底部:回転ナデ 1	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	中・少						8.0	1/8	
	SK68	土師質土器	斧	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ 7	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	÷. ⊕						8.1	1/8	
	SK68	土師質土器	本		体~底部:回転ナデ・ナデ 1	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	ず・中						8.5	2/8	
	SK68	土師質土器	茶	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ 1	10YR4/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	小 中						8.2	8/2	外面媒付着
Ц	SK68	上師質土器	华		: 回転ナデ	-		良好	無·少				13.2			1/8	
1	SK68 SK68	上師質上器上師質上器	床 床	□緑~体部:回転ナデ □緑~体部:回転ナデ	□ は	10YR7/4 にぶい黄橙色 7.5YR7/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好良好	今 令 中 中				12.0			1/8	内外面媒付着
	SK68	上師質土器	茶	/、底部:	マメツ	營色		良好	中						7.7	1/8	
	SK68	上節質上器	斧	: 回転 >	体~底部:回転ナデ 7	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	祖・中						9.6	1/8	
	SK68	上師質土器	茶	体部:マメツ、底部:回転ヘラ切り後板状圧痕・ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	岩・						8.1	4/8	内外面一部媒付着
	SK68	上師質土器	妆	-	底部:回転ナデ・ナデ 2	2.5Y5/1 黄灰色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	· 中						8.4	8/2	
	SK68	土師質土器	苯	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	良好	出・						6.8	3/8	内面一部に媒付着
	SK68	上節質土器	苯	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	本・中						8.0	1/8	
493	SK68	上師實上器	茶	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ 1	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	中・少		番・今				8.4	4/8	

第36表 土器観察表 (12)

器標			内面級・休憩・同時・デップ	外面	内面	焼页	石英・長石	胎士 角閃石	維	結晶片岩	11. 計劃值 21. 計劃值	值 (cm) 底径	その他	残存率	備参
一一	196	アマオツ	山稼~冷部・凹板 アア : マ × ツ	10YR7/4 にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	番·今				14.6		1/8		
中	1000	口線~体部:回転ナデコ第~体部・回転ナデ	口縁~体部:回転ナデロ線~体部・回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色 2 9 EVG / 5 E # 44.	2.5Y8/3 淡黄色 10VD8/2 油井器会	良好自在	4 代				13.0		2/8		内外面の一部に媒付着な指数を
本でで	変形り	148 - 14日 · 日本ノ/ 体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	□0% - 1字即・旦恥ノ/ 体~底部:回転ナデ・ナデ	、黄橙色	黄橙色	良好	十 中				0717	8.0	1/8		H/K 13 /H
本で方	Sin 153	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄色 2.5Y7/2 C.5Y7/2 C	25Y7/3 浅黄色	良好	当・中					8.4	1/8	8	
廃土		底部:回転へラ切り後板状圧痕・ ナデ	底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/3にぶい黄橙色 2	2.5Y8/3 淡黄色	良好	⊕ · ⊕					8.6	8/8	~	
一直		口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	⊕ . ⊕				12.4	3.5 9.3	2/8	8	
		%	口縁~底部:回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	良好	ф· +				12.7	3.8 8.6	1/4	1/8 米瑞	
一回		口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	⊕ · □				12.2	3.8 8.8	3/8		内面媒付着?
一回		%	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	弾・中				12.0	3.8 8.4	3/8	8	
Īē		口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/2にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	中· 张				12.3 3	3.7 7.6	2/8		外面媒付着
斑		底部:高台貼付後ナデ?マメツ	底部:マメツ	5Y5/1灰色	5Y5/1 灰色	良好	細·少					3.6	2/8		和泉型
Ĩ		口綠:施釉	口綠:施釉	(器)		良好							1/3		中国製
		口綠部:插釉口湯~休然:插串	口縁部:口禿げ 口縁~体郷・整軸	N8/灰白色 (胎)	10Y8/1 灰白色(釉)	良好自任					15.0		1/8	熊	中国製
Î		□縁~体部:施袖・編進弁文	口線~体部:施袖	1色 (胎)	(III)	良好					16.8		2 2	無米	龍泉窯系
*		体部:ケズリ・露胎	体部:施袖·沈線	N7/ 灰白書 (胎)	7.5Y6/2 灰オリーブ色 (釉)	良好							7.7		同安窯系
口兩		口縁~体部:ヨコナデ?マメツ、 底部:ナデ?マメツ	口線~底部: ヨコナデ・板ナ デ?	2.5YR6/8 橙色		良好	#· #				11.5	3.0 6.8	1/8		
体で		体部:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り?マメツ	体~底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	7.5Y4/1 灰色	良好	番.今					7.0	2/8		
斑		底部:高台貼付後ナデ?マメツ	底部:回転ナデ?マメツ			やや軟	無·少					10.0	7.7	1/8 未満	
*		体部:施釉・回転ナデ	体部:施釉	10YR7/2 にぶい黄橙色 (胎)	10Y6/2オリープ灰色 (釉)	良好	番·今						72	1/8 未満 古	古瀬戸・梁徽
日報		口縁: ヨコナデ・凹線1、体部: 指オサエ・ナデ	口縁~体部:板ナデ・指オサ エ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	中· 联				35.7		17.	1/8 未満 口	口綠端面,內面,破断面 に媒付着
Ĕ		口縁~頸部:指オサエ・ナデ	口縁:板ナデ・ナデ	25Y6/2 灰黄色	2.5Y4/1 黄灰色	良好	中・珠						1/3	1/8 未満 外	外面媒付着
当下		口縁~頸部:指オサエ・ヨコナ デ、体部:板ナデ・ナデ	口縁:ヨコナデ、体部:板ナデ・ ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	弾・中				29.3		2/8		外面媒付着
足釜 研		口縁~鍔部:ヨコナデ、体部: 板ナデ?	口縁~体部:指オサエ・ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	薬・中						174	1/8 未満 体	体部外面媒付着
足釜品品			口禄~体部	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色	良好	薬・中						1/4	1/8 未満 体	体部外面媒付着
足絲品品			口線: ヨコナデ、体部: 板ナデ・ ナデ	10YR6/2灰黄褐色	10YR7/2にぶい黄橙色	良好	祖・中				20.0		1/8		鍔~体部媒付着
協		口縁~鍔部:ヨコナデ、体部: 指オサエ・ナデ	口線: ヨコナデ、体部: 板ナ デ	5YR6/4 にぶい橙色	5YR7/6 橙色	良好	出・中				22.5		2/8		等·体部外面媒付着
路		口縁~鍔部:ヨコナデ、体部: 指オサエ・ナデ・板ナデ、底部: ナデ後格子タタキ、脚部:ナデ	口縁:ヨコナデ、体~底部:板 ナデ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	祖 · 中				22.7		8/9		鍔・体・底・脚部外面媒 付着
П		口縁~頸部:回転ナデ	口綠~頸衫	N8/ 灰白色	N7/ 灰白色	良好	中・小				30.0		1/3	1/8 未満	
□ H		口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁ヨコナデ、体部:ケズリ 後ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	当・中		無· 少		15.8		77	1/8 未満 体	体部外面煤付着
福体ン		体部:ナデ、底部:ナデ?マメッ	体~底部:板ナデ・ナデ後卸 目	10YR5/2 灰黄褐色	10YR8/2 灰白色	良好	中・英					14.2	2/8		破断面~內外面媒付着
福鉢原口		口縁~体部:回転ナデ・ナデ、 底部:ナデ?	口縁~底部:回転ナデ後卸目	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	猟・薬				26.7 11.8	.8 14.0	2/8		備前绕
ÜΥ		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	- 小・映				7.3 1	1.2 5.6	1/8	8	
体で	4J	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体~底部:回転ナデ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	良好	ф· +					8.2	2/8	8	
底		底部:高台貼付後ナデ	底部:ナデ後平行暗文	2.5Y4/2 暗灰黄色	2.5Y4/1 黄灰色	良好	第・今					46	1/8		和泉型

瓦器			内面	関型	1								- July 10-1	
瓦器	1			》/4周	内面		石英·長石	角閃石	報由制	結晶片岩 1	口径 器高	底径	その句	
	Z	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後平行暗文	10Y6/1 灰色	10Y5/1 灰色	良好	番・今					3.5	8/2	和泉型
上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	⊕ -÷				8.1 1.2	5.2	3/8	
上節質上器	Ħ		口縁:回転ナデ	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	良好	期· 能				9.2		1/8	
上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	5YR66/4 にぶい橙色	良好	猟・熊				8.3 1.3	3 7.0	1/8 未贈	
白磁	Ħ		口縁~底部:施釉、見込:十 字花文?	5U8/2 灰白色 (胎)	10GY8/1 明緑灰色 (釉)	良好					8.3 1.7	3.5	8/8	中国黎
施釉陶器	糊	天井部: 施釉、口線: 回転ケズ リ・露胎		5Y7/1灰白色 (胎)	10Y7/1灰白色(釉)	良好					2.3 1.0	1.35	8/8	古瀬戸
施釉陶器	4	口縁~体部: 施釉、底部: 回転 ケズリ・露胎	口緣~底部:施釉	5Y7/1灰白色 (胎)	10Y8/1灰白色(釉)	良好					1.9 3.6	5 2.6	8/8	口瀬口
上師質土器	女	、ラ切り後ナデ	丘ナデ		že	良好	細・莊					7.0	8/2	
日 :	Ħ i	体部:施袖、底部:露胎 口縁:ヨコナデ・ナデ、頸部:	響 : 結 水			良好	÷						後上 共	広東系?
34年上韓				あい質色	/東但	以 计	H !	Ì			14.9		1/8 米線	
aa 金 日	影	_	ヘラ沈潔		\neg	良好	乗・分		+		15.2		1/8 米龍	
上師質土器	湿	体部: *ガキ・マメツ、成時: 高台貼付・マメツ	体~底部:ミガキ	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	盤·今	wit:	番・今			7.1	1/8	
土師質土器	妆	口縁~体部:回転ナデ	П	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	中·少				14.3		1/8 未満	
瓦器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	îh		7.5Y4/1 灰色	良好	± - ⊕				15.6		1/8 未満	和泉型
上師質土器	Ħ	口線: 回転ナデ、底部: 回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ? マメ ッ		10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	± -÷				7.8 1.5	9:9	8/8	
瓦器	瘙	底部:高台貼付後ナデ		7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR5/1 褐灰色	良好	無·少					4.5	2/8	和泉型
土師質土器	Ħ					良好	細·少						1/8 未満	外面焼成剥離?
土師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:ナデ?		7.5YR4/3 にぶい褐色	7.5YR4/3 にぶい褐色	良好	無·少				7.9	6.4	1/8 未満	
瓦器	潔	□緑:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:ミガキ	N3/ 暗灰色	N3/暗灰色	良好	番· 今				14.4		1/8 未識	和泉型
計量器	影	口線:タテハケ後ヨコナデ、体 部:ナデ	口縁: ヨコナデ? 体部: ヨコ 板ナデ	2.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	単・単				31.2		1/8 未識	体部内外面媒付着
上師質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?マメツ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	やや軟	番·今				7.8 1.2	5.4	1/8	
上師賃上器	Ħ			10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	± -∻				8.0	6.4	2/8	
上師賃上器	Ħ		口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	番・今				7.8 1.2	2.8	3/8	口縁部内面に媒付着
上師質上器	Ħ		口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	番· 今·				7.9 1.3	9 6.5	2/8	
上師質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	番·今				8.8	8 6.4	1/8	
土師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	盤·少				9.0	7.2	2/8	
上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	盤·少				7.9	8.9	8/2	
上師質土器	Ħ		口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	細・少	- VE	単・少		7.4 1.3	5.9	8/8	
上師質上器	Ħ			7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	良好	番·今				7.6 1.6	9:9	8/8	
土師質土器	杯	_	口縁~体部:回転ナデ	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	無・・少				13.4		1/8	
土師質土器	妆		回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中・少				15.4		1/8 未満	
 土師質土器	本	底部	回転ナデ、底部:		橙色	良好	番·少				13.6	10.2	2/8	
上師館上器十二年年十二年	存在		回転ナデ		10YR8/4 浅黄橙色 75VDe /6 法基龄在	良好	⊕ ⊕ ÷			\parallel	14.0		1/8 米謝	
上部質土器			15% FPB: ロセン/ ロ緑~体部: 回転ナデ、底部: ナデ		10YR8/4 浅黄橙色	良好	+ +				13.1		1/8 %gm	
上師賃土器	斧	口線: 回転ナデ、体部: 指オサエ・ナデ、底部: 回転ヘラ切り?	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	± 	ope	· · ·		13.6		3/8	
	上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器 上師質上器		株 第 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 日 </td <td>新</td> <td>解 口線・客部・固能ナディ 体部:指す中 口線・2 本部・コーナディ 体部:ナティン 変数性</td> <td>解 日報・存部:回転ナデ 日報・存都:回転ナデ 107R6/3 L. A. い 変数色 107R6/4 技術を整色 107R8/4 技術を整色 107R8/4 技術を色色 107R8/4 技術を</td> <td>解 日報・存前:回転ナデ 日報・存前:回転ナデ 107R6/3 にぶい。資産色 107R6/4 に対した 12年 12年 12年 12年 12年 12年 12年 12年 12年 12年</td> <td>## 1 日後・本部: 1 日後・ 本部: 1 日 本・ チャア・ 本部: 1 日後・ 本部: 1 日後・ 本部: 1 日 本・ 本部: 1 日</td> <td>解 1 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 1</td> <td>解 1 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 1</td> <td>解 1 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 1</td> <td>称 1 日本</td> <td>## 118 ** CHR ** ARE ** ARE</td> <td>## 1 日曜・・・・</td>	新	解 口線・客部・固能ナディ 体部:指す中 口線・2 本部・コーナディ 体部:ナティン 変数性	解 日報・存部:回転ナデ 日報・存都:回転ナデ 107R6/3 L. A. い 変数色 107R6/4 技術を整色 107R8/4 技術を整色 107R8/4 技術を色色 107R8/4 技術を	解 日報・存前:回転ナデ 日報・存前:回転ナデ 107R6/3 にぶい。資産色 107R6/4 に対した 12年	## 1 日後・本部: 1 日後・ 本部: 1 日 本・ チャア・ 本部: 1 日後・ 本部: 1 日後・ 本部: 1 日 本・ 本部: 1 日	解 1 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 1	解 1 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 1	解 1 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 18 - 1	称 1 日本	## 118 ** CHR ** ARE	## 1 日曜・・・・

1982 1982		図版	遺構名 層位	種類	器				色調	施政		胎士	- 1	\rightarrow	ŀ	搵	残存率	備老
1970 1971-1979	_			4	4	外面	内面	外面	内面		石英·長石	角閃石	非由	結晶片岩	口径器	底径	その他	:
Simple S	88	SE01		上節質土器		: 回表	体~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	番.					8.9	1/8 未満	
1980 1985 1986	68	SE01		上師質土器			トデ後ミガキ	10YR7/4にぶい黄橙色		やや軟	番・今				6.2		1/8 未満	
State Stat	8	SE01		瓦器	湿		底部:ナデ後平行暗文	5Y5/1 灰色	5Y5/1灰色	良好	番・					4.0	3/8	和泉型
Supplement No. 20. Supplement No. 20.	91	SE01		瓦器	潔		体部:ナデ後ミガキ、底部:ナ デ後平行暗文		N3/ 暗灰色	良好	無·少					4.8	2/8	和泉型
Supplement Control C	26	SE01		瓦器	潔		体部:ナデ後ミガキ、底部:ナ デ後格子状暗文	2.5Y8/3 淡黄色	5Y7/2 灰白色	やや軟	± - -					5.4	2/8	和泉型?
State Marke Mark	93	SE01		須恵器	潔		口縁:回転ナデ、体~底部:札 ナデ後放射状?ミガキ		5Y7/1灰白色	やや軟	中 ・少						1/8	十瓶山周辺窯産
1982 2015	46	SE01		瓦器	潔	-	□縁~体部:ナデ後ミガキ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良好	番· 少				14.8		1/8 未謝	和泉型
1982 200	32	SE01		瓦器	湿		口縁~体部:ナデ後ミガキ	N3/ 暗灰色	(報)	良好	番・今				14.0		1/8 未満	和泉型
1987 1982 1982 1982 1982 1992	96	SE01		瓦器	溪		□縁∼体部:ナデ後ミガキ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良好	番・夕				15.0		1/8 未謝	和泉型
SEON	22	SE01		瓦器	湿					良好	番· 今						3/8	和泉型
2500 14.00	8	SE01		須恵器	뉴	体部:回転ナデ、底部:糸切り	体~底部:回転ナデ		N6/ 灰色	良好	中・张					10.0	1/8 未満	東播系
Suppose 1488	- 66	SE01		干卸器	影	口縁~頸部:指オサエ・ヨコナ デ、体部:ヨコ板ナデ・ナデ	口縁:ヨコナデ、体部:指オ サエ後ヨコ板ナデ・ナデ		10YR4/1 褐灰色	良好	出・				34.4		1/8 未謝	
SEON	0	SE01		土師質土器		□縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ後タテハケ後ナデ	口線: ヨコナデ、体部ヨコバケ			良好	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				37.0		1/8 未満	体部内面媒付着
SEOI		SE01		土師質土器				10YR8/3 浅黄橙色		良好	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						破片	
SEOD	2	SE01		土師質土器	П	脚部:指オサエ・ナデ	体部:ナデ	5YR6/6橙色		良好	単・単						破片	
5201	83	SE01		弥生土器	恒	口縁:ヨコナデ、頸部:タテハ ケ	口縁:ヨコナデ、頸部:ヨコ ナナメハケ後指オサエ・ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色		良好	出・出				14.0		2/8	
6 S201 土地路 株一本銀店・フを検討す事エ・方 株工をおこコンクを発すす。	#	SE01		上師器	高杯	杯部:ヨコナデ	杯部:ヨコナデ	25Y7/3 浅黄色		良好	中・小				14.1		1/8	
SPOID	22			上師器	細	· +		7.5YR6/4 にぶい橙色		良好	中·並						破片	鍔部~体部内面媒付着
SPO1	25	SF01		上師質土器			第:回転ナデ・マ		7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	盤·少				14.9		1/8 未満	
SFOID	01	SF01		上師質土器				7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	やや軟	± .÷					7:0	1/8 未満	
SPOI	Ξ	SF01		上師質上器	П		l I	7.5YR8/6 浅黄橙色		かや軟	無·少					7.9	1/8	
SPOII	77	SF01		上師質土器				7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	± -∻					7.5	3/8	内面媒付着
SFOI	13	SF01		上師質土器				10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	弾・中					7.7	1/8	
SFO1	4	SF01		上師質土器		-		10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	⊕					8.5	1/8	
SFOI	2	SF01		土師質土器			口縁~底部:回転ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色		良好	中・少						1/8	
SFOZ 土崎質士器 III 口縁: 回極十子、 係部: 三極十子、 依部: 三極十十四十十四十十四十十十四十十四十十四十十四十十四十十四十十四十十四十十四十十	9	SF01		上師器		杯部:ヨコナデ・マメツ	杯部:ヨコナデ・マメツ	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	良好	粗·菲				14.6		2/8	
ST01		SF02	1	上節質上器	\neg	_	口縁:回転ナデ	5YR7/6 橙色		良好	т. Ф.				8.8		1/8 未満	
STO1	8	ST01		上師質上器		$\overline{}$	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/2 灰白色		良好	÷ ⊕				7.8	5.9	1/8	
STO1 上節質上器 杯 口線:配布子子、体部:指才中 口線~体部:指才中 1/8 日達 1/8 1/8 STO1 上節質上器 杯 口線一体部:回転子子 「25YR5.2 K褐色 15YR6.3 L S.v Nde 良好 細・少 137 1.8 未満 STO1 上節質上器 杯 回帳一本部:回転子子、底部:回転子子、底部:回転子子子 10YR8.4 浅黄橙色 良好 申・少 細・少 137 3.9 6.5 4/8 STO1 有品 小遊 工廠・海町・水部:衛舶・瀬 1線~体部:施舶・無文 7.5 Y7.1 灰白色(糖) 7.5 Y7.2 灰白色(糖) 良好 申・少 細・少 137 3.9 6.5 4/8 STO1 青色 小遊 上節質上離・ 大部:添舶・無文 18 7.5 Y7.1 灰白色(糖) 7.5 Y7.2 灰白色(糖) 1.6 4.6 1.8	6]	ST01		上師質土器			□縁~体部:ヨコナデ、ナデ	10YR8/4 浅黄橙色		良好	⊕ -÷				13.6		1/8 未謝	
STO1	20	ST01		土師質土器			口縁~体部:指オサエ・ナデ			良好	中· 少·				142		1/8	
ST01 上節度生器 杯 回應人分配に施伸・選集 企業 上節度上器 杯 日本	121	ST01		上師質土器	П		口縁~体部:回転ナデ	7.5YR5/2 灰褐色	細	良好	悪・今				13.0		1/8 未贈	内面煤?付着
STO1 有白磁 小強 大、成部: %無、体部: %無、体部: %無 2578.71 灰白色(糖) 7577.2 灰白色(釉) 良好 48 4.1 3.4 8/8 8/8 STO1 青盛 杯 二條一体部: %無、本衛: 添輔、体部: 添輔、作部: 添輔、作品: 添輔、作品: 添輔、作品: 添輔・作品: 添輔・作品: 添輔・作品: 添輔・作品: 添輔・作品: 添輔 7527.71 灰白色(糖) 7527.2 灰白色(釉) 良好 14.9 14.9 17.8 未満 STO1 香盛 施 口線・株市: 添輔、作品: 添輔、作品: 添輔・作品: 添輔・作品: 添輔・作品: 添輔 大部 1528.7.2 灰白色(釉) 良好 16.0 1.08 未満	52	ST01		上師質土器			口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色		良好	中・少		番·今				4/8	
STO1 青盤 杯 口線一体部:結軸・無文 7.577.71 灰白色(胎) 7.577.71 灰白色(胎) 5.577.71 灰白色(胎) 14.9 1.4.9 1.7.8 未満 STO1 青盤 碗 口線:輸布、体部:結軸、文字線目 大方V8.71 灰白色(胎) 点好 1.6.0 1.7.8 未満	53	ST01		市口級	也	口線:露胎、体部:施釉·蓮華 文、底部:露胎	口綠:露胎、体~底部:施釉	(帰)		良好							8/8	中国教
ST01 青盛 施 口線:輪花:施軸、体部:施軸、体部:施輪・片彫り雲 7.527.72 灰白色(釉) 良好 良好 15.0 16.0 17.8 未満	24	ST01		青巖	妆		口縁~体部:施袖・無文	7.5Y7/1 灰白色 (胎)	色	良好					14.9		1/8 未満	
	52	ST01		青磁	溪		□縁~体部:施釉・片彫り雲 文? 櫛目	7.5Y8/1 灰白色 (胎)	(報)	良好					16.0		1/8 未満	龍泉窯系

十瓶山周辺窯産 奈良火鉾 和泉型 東播系 1/8 未満 8 8/1 8 8/1 8 2/8 1/8 7,8 7/8 8/8 8/2 4/8 7,8 7/8 4/8 1/8 3/8 8/9 8 8.2 62 8.4 8.2 7.7 8.2 5.6 6.1 6.4 6.9 8.5 8.9 8.3 8.4 7.3 82 7.4 7.8 82 8.1 7.8 8.5 1.05 超 12.8 11.8 口径 6.1 6.8 6.8 11.7 中部 角閃石 単・単 無・宗 単・単 中・宗 · 小 かか軟 かや軟 かや軟 やや軟 かや軟 良好 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/2 にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/2 にぶい黄橙色 10YR7/3にぶい黄橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色 .5YR7/3にぶい橙色 (報) 5YR7/4にぶい橙色 7.5YR8/3浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 7.5YR8/4 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 .0YR8/3 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 10YR8/4 浅黄橙色 2.5Y5/2 暗灰黄色 10YR8/2 灰白色 2.5Y7/2 灰黄色 2.5Y7/2 灰黄色 .5Y7/1 灰白色 2.5Y8/2 灰白色 灰色 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/2 にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色 7.5YR7/3 にぶい橙色 (場 7.5YR8/3浅黄橙色 7.5YR8/4 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 (聖 10YR8/3 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 10YR8/3 浅黄橙色 2.5Y8/1 灰白色 2.5Y8/2 灰白色 2.5Y6/2 灰黄色 2.5Y7/3 浅黄色 5Y7/1 灰白色 3Y8/1 灰白色 5YR7/6橙色 5Y6/1灰色 N2/黑色 N6/ 灰色 □縁部:ケズリ、体部:板ナデ ハケ 口縁~底部:回転ナデ・マン 体~底部:回転ナデ?マメツ 体~底部:回転ナデ・マメツ 口縁~底部:回転ナデ?マ、 体~底部:回転ナデ・マメツ 体~底部:回転ナデ?マメツ 体~底部:回転ナデ?マメツ 体~底部:回転ナデ・ナデ ナナ 口縁~底部:回転ナデ・ 底部:回転ナデ?マメツ 底部:回転ナデ?マメツ 口縁~底部:回転ナデ 回転ナデ 花文 回転ナデ 体~底部:回転ナデ・ マメツ 体~底部:回転ナデ 体~底部:回転ナデ □縁~体部:マメツ 体~底部:マメツ 体~底部:マメツ 体~底部:マメツ 体~底部:マメツ 体~底部:マメツ 体~底部:マメツ 口縁~底部: 底部:マメツ 口緣~底部: □縁~底部: 口線~底部: □緑~底部: 口緣一底部 体部:回転ナデ?マメツ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ?マメッ 体部:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後板状圧痕 口線~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後ナデ 口線~体部:回転ナデ?マメツ、 底部:回転へラ切り?マメツ 回売く 口縁:回転ナデ?マメツ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ?マメツ く海回 体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ 口縁~体部:回転ナデ?マメツ、 底部:回転ヘラ切り? 底部:回転ヘラ 底部:回転へラ切り後板状圧痕・ ナデ 体部:回転ナデ?マメツ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ 体部:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ 体部: 回転ナデ・マメツ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ? マメツ 底部:回転ヘラ切り?マメツ 回転ヘラ切り後ナデ? 口縁:ヨコナデ・花文押捺、 部:板ナデ・ナデ 体部:回転ナデ、底部:回 ラ切り後ナデ 体部:回転ナデ?マメツ、度 回転ヘラ切り?マメツ、 体部:回転ナデ、底部: E ラ切り後ナデ 体部:回転ナデ、底部: E ラ切り?後ナデ 体部:指オサエ・ナデ、 高台貼付後ナデ 口縁:回転ナデ、底部: ラ切り後ナデ 口縁:回転ナデ、底部: ラ切り後ナデ?マメツ 体部:回転ナデ、底部: ラ切り後板状圧痕・ナデ 口縁: 回転ナデ、底部: ラ切り後ナデ 体~高台: 施釉、 『 ケズリ・露胎 体部:マメツ、原 切り後板状圧痕? 火幹 湿 茶 湿 湿 茶 关 茶 * 湿 Ħ Ħ Ħ Ħ 茶 茶 茶 * 茶 * 长 长 长 幺 幺 长 长 长 长 幺 上師質土器 上師質土器 上師質土器 上師質土器 :師質土器 上師質土器 土師質土器 上師質土器 土師質土器 土師質土器 上師質土器 上師質土器 土師質土器 上師質土器 上師質土器 上師質土器 土師質土器 土師質土器 上師質土器 上師質土器 土師質土器 上師質土器 上師質土器 士師質土器 瓦質土器 瓦器 位额 8D09 SD08 SD08 SD08 SD08 SD10 SD10 SD10SD10 SD12 SD12SD12SK04 SD12 SK04 SD12 SD12 SD12 SD12SK04 SD12 SD11 SD11 SD11 SK04 SK04 SK04 SK04 SD11 SK04 SD11 SDII 國 學 岩 44 45 646 642 649 650 651 652 979 633 634 635 636 637 638 623 640 641 643 644 648 653 654 655 929 657 929 629 099 661 662 663 664 999 999

土器観察表

表

-236-

(16)	
Ŧ	
$\overline{}$	
1.14	
米	
섻	
哭韜壑	
仲	
31	
+	
- 1	
lıls	
₩	
40	
揺	
,,,,,	

	_	_	1					\neg		_		_	1	_	_				1	l										T					兄祭:
備参				和泉型	中国製	同安窯系	広東系?		備前焼	奈良火鉢	体部外面媒付着体部下半内外面媒付着				和泉型									口縁部の一部に煤付着							内外面媒付着		備前焼		
残存率	1/8	3/8	1/8	1/8	1/8 未満	1/8	破片	1/8 未満	掘米	破片	3/8 指	破片	1/8 未満	1/8	1/8	1/8 未満	8/9	1/8 未満	1/8	1/8	1/8	1/8	1/8	8/8	8/2	2/8	1/8	2/8	2/8	1/8	4/8	4/8	1/8 未満	4/8	2/8
その他		- m	-	-		1	Ø	1	1	82	2 - 03	4	1	1	1		9	-	1	-	-	1	1	00	7	22	-	ıc	- 2	1	4	4	1	4	D.
(CIII) 底径	8.3	8.2	8.6	5.8									7.3	8.4	4.8	2.8			5.6	2.8		7.6	5.9	6.8	6.2	7.5	8.2	8.3	82	6.4	8.6	8.3		8.2	8.2
器型型	-				2	oć.					× 3		8.3 1.1				13.2		6.1 1.05	6.1 1.1	2			7.2 1.7	6.6 1.1					.6 2.8	.7 3.8	12.0 3.6			
1. 岩田	-				16.2	15.8					15.8	+							9	9	12.2			7	9					11.6	11.7	12			
F 結晶片岩											_	4	Δ																						
2 計量	-											番	番・少																			無・承・			
角閃	-																																		
石英·長石	番・今・	÷ ÷	÷	番・少				無・少	掛・中	<u>+</u> .	★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★	⊕	当・	無·今	雅·今	± ••	÷ ⊹	中 ・	要· 多·	÷.	中・小	÷ .⊹	÷.	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	半・中	単・中	· 中	サ・ボー	母· 日	単・	÷	小 中	÷.	中・栄	半・日
焼成	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好 良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	兼	やや軟	やや軟	やや軟	やや軟	やや敷	良好	良好	良好	良好	14日
五田	#1	7.5YR7/4 にぶい橙色	2.5Y6/2 灰黄色	2.578/2 灰白色	· (乗	10Y5/2オリープ灰色 (釉)	(乗	N7/ 灰白色			10YR8/3 浅黄粒色 7.5YR6/3 にぶい褐色	:81		5YR7/6橙色	5Y4/1 灰色	10YR4/1 褐灰色	5YR7/6橙色	2.5Y6/2 灰黄色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	7.5YR5/1 褐灰色	2.5Y7/2 灰黄色	75VB6/A17 美以整色
外面	御	25Y7/6 橙色	2.5Y8/2 灰白色	N5/ 灰色	7.5Y8/1 灰白色(胎)	7.5Y8/1 灰白色 (胎)	25Y8/2灰白色(胎)	N7/ 灰白色	色		10YR8/3 浅黄橙色 7.5YR6/3 にぶい褐色	tH1	10YR6/3 にぶい黄橙色	5YR7/6 橙色	5Y8/2 灰白色	7.5YR5/6 明褐色	5YR7/4にぶい橙色	7.5Y4/1灰色	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	2.5YR6/6 橙色	7.5YR8/2 灰白色	5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	7.5YR6/1 褐灰色	2.5Y7/2 灰黄色	7 FVP6/41- 213 整色
HE K	口縁~底部:回転ナデ	体~底部:回転ナデ・マメツ	体~底部:回転ナデ・マメツ	体~底部:マメツ	口綠~体部:施釉	口緣~体部:施釉	体~底部:施釉	底部:卸目	口縁~頸部:回転ナデ	体部: ヨコハケ後ナデ 口線: ココナデ 体部: 拓ナデ・	ナデ ロ縁:ヨコナデ、体部:板ナデ・) / 体部:板ナデ	口縁~底部:回転ナデ	体~底部:マメツ	底部:マメツ	底部:マメツ	杯部:ヨコナデ・マメツ	受部:回転ナデ・ナデ	口縁~底部:回転ナデ	口縁~底部:回転ナデ	口緑~体部:マメツ		口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	口縁~底部:回転ナデ?マメッ	体~底部:回転ナデ?マメツ	底部:回転ナデ?マメツ	体~底部:回転ナデ?マメツ	体~底部:回転ナデ?マメツ	口縁~底部:回転ナデ?マメ ツ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	口縁~頸部:回転ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ	: 回転ナデ・マメッ
外面	口縁~体部:回転ナゲ、底部:回転くっせるペナナ	自転、スクリンタンノ 体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ?マメッ	体部:マメツ、底部:高台貼付 後ナデ?マメツ	口綠~体部:施釉	口緣~体部:施釉	体部: 施釉、底部: 露胎・回転 ナデ	底部:糸切り	口縁~頸部:回転ナデ・ナデ	1)	脚部:ナデ 口縁~鍔部:ヨコナデ、体部: ガ・デ・		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体部:回転ナデ・マメツ、底部: 回転へう切り後ナデ?マメツ	底部:高台貼付後ナデ	底部:高台貼付後ナデ	杯部:ヨコナデ・指オサエ・ナ デ	受部:回転ナデ後沈線·鋸歯女? 波状文	口線:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後ナデ	口線:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後ナデ	口縁~体部:回転ナデ?マメツ 口縁~体部:マメツ	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後ナデ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁:回転ナデ?マメツ、底部: 回転ヘラ切り?マメツ	体部:回転ナデ?マメツ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ?マメツ	底部:回転ヘラ切り後ナデ?マメッ	体部:回転ナデ?マメツ、底部: 回転ヘラ切り後ナデ?マメツ	体部:回転ナデ?マメツ、底部: 回転へラ切り後ナデ?マメツ	口縁~体部:回転ナデ?マメツ、口縁~底部:回転ナデ?マ底部:回転ナデ?マ底部:回転ヘラ切り?マメツ ツ	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後ナデ	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へう切り後ナデ	口縁~頸部:回転ナデ・自然釉 口縁~頸部:回転ナデ	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体部:回転ナデ、底部:回転へ 体~座部
器種	茶	斧	茶	湿	邃	湿	湿	御圃	崇	茶	足 足	足幾	Ħ	苯	濹	溪	克本	品	Ħ	Ħ	妆	茶	Ħ	Ħ	Ħ	茶	茶	茶	茶	茶	斧	本	鬃	茶	茶
種類	上師質土器	上師質土器	上節質上器	瓦器	口級	福祉	日際	瀬戸	焼締陶器	瓦質土器	十	三師質土器	上師質土器	土師質土器	瓦器	黒色土器	上節器	須恵器	上節質上器	上師質上器	土師質土器	上師質上器	上師質土器	上師質土器	上師質土器	上師質土器	上師質土器	上師質土器	七節質土器	上節質上器	上部質上器	土師質土器	克維陶器	土師質土器	中部超十四
國位	+	1 +1	<u> </u> +	屋	Ш	細	坦	樂	換	N.	H H	1+1	+	+	国	毗	Ħ	景	+	+	H	Ħ	#	#	#	#	#	+	+	+	+	#	遊	#	+
遺構名	SD12	SD11	SK04	SD11	SK04	SK04	SD11	SK04	SK04	SK04	SK04 SD12	SD12	SD14	SD14	SD14	SD14	SD14	SD14	SD16	SD16	SD16	SD16	SD18	SD18	SD18	SD18	SD18	SD18	SD18	SD18	SD18	SD18	SD18	SD20	0643
等 等						44			45	4														46	46										
40000000000000000000000000000000000000	899	699	029	671	672	673	674	675	929	677	679	089	684	685	989	289	889	689	692	693	694	695	969	269	869	669	700	701	702	703	704	705	902	708	200

第41表 土器観察表 (17)

	過構名層位	2 種類		器種	羅贈 上:		色調		焼成		41		-	(cm)	現存率	備考
- 1		-	1	T		内面		万面	4	石英・長石 角閃石	部	雑晶片岩 [四径 器里		かの街:	
91	SD20	上野河上							かや軟	H H					1/8	
Ω I	SD24	上節質土器	出器		成型・団体が	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	やや軟	中· 净			7.2 1.1	9.9	2/8	
12	SD24	上師質土器	十器杯		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	中·並				7.4	1/8 未満	
H	SD24	上師質土器	十器 杯		底部:回転へ	体~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	- 小- 中				8.2	1/8	
1 13	SD29	上師質上器	中部本			口縁~底部:回転ナデ	5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	良好	要· 争			12.6 3.9	6.8	2/8	
12	SD29	上師質土器	中部本		体部:回転ナデ・マメツ、底部: マメツ	体~底部:マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	5Y7/1 灰白色	やや軟	要· 争				8.2	1/8	
1 13	SD29	黒色土器	贈		□縁∼体部:ミガキ	□緑~体部:ヨコナデ・ミガ キ	2.5YR5/6 明赤褐色	N3/ 暗灰色	良好	番·今			20.3		1/8 未満	口縁部外面赤彩・東北系
15	SD29	弥生土器	林路		口縁~底部:指オサエ・ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	掛・井	選· 多		6.6 4.0		8/2	
121	SD29	須恵器			口縁~頸部:回転ナデ	口縁~頸部:回転ナデ	-	N6/ 灰色	良好	無·少			6.9		1/8	
H	SD30	上師質土器	十器		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	番· 今				8.5	1/8 未満	
H	SD30	上節質土器	十器 杯		体部:回転ナデ、底部:回転ペラ切り?後ナデ	体~底部:回転ナデ・マメツ	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	良好	乗・今				82	1/8	
12	SD31	上師質土器	出器十		底部:回転へ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	中			6.4 1.1	5.8	1/8	
1 13	SD31	上師質土器	出			口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	÷ . ⊕			6.0 1.1	5.6	8/8	
1 13	SD31	上節質土器	器十		口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り?後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	乗・今			9.5	6.1	1/8	
1 73	SD31	上師質上器	十器 本			口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好				11.7 3.1	8.1	1/8	
12	SD31	上師賃上器	十器本			口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/6 黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	やや軟	中			11.8 3.8	8:0	8/8	
1 13	SD31	上師質土器	十器 枚			口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 に ぷい橙色	7.5YR8/6浅黄橙色	良好	中· 令·			11.4 3.4	8.8	2/8	体部外面下半~底部煤付 着
1 13	SD31	上師質上器	中器本		口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転ヘラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR8/6浅黄橙色	7.5YR8/6浅黄橙色	やや軟	今 - 中			11.6 3.4	7.9	2/8	
1 🚊	SD31	上師質土器	十器本		口縁~体部:回転ナデ	口線~体部:回転ナデ?マメ ツ	2.5Y6/2灰黄色	2.5Y6/2灰黄色	良好	番·今			12.2		1/8 未満	
1915	SD31	上師貸上器十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	出 # # # # # # # # # # # # # # # # # # #		口縁~体部:回転ナデコ級~体熱・回転ナデ	口縁~体部:回転ナデロ線~体部・回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色 10VB6/3 に まい書盤布	10YR6/4 にぶい黄橙色 10VR6/3 にぶい黄橙色	良好自好	中 - - - - -			12.0		1/8 未識	
11 🗩	SD31	上師質十器			: 回転 >	: 回転ナデ・ナデ			良好	4 湖				7.2	8/2	
1 2	SD31	上師質上器	- 24		: 回報 ヘ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	型· 少				8.3	1/8	
1 13	SD31	上師質上器	十器本		く端回:始	体~底部:回転ナデ?マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	やや軟	令 · 由				8.2	1/8	
1 13	SD31	上師質土器	十器杯		: 回転 /	体~底部:回転ナデ・ナデ	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良好	今 - 栗				8.5	5/8	
12	SD31	上師質上器	中 報 本		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ・マメツ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	中・今				8.2	1/8	
12	SD31	上節質土器	十 器 本		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ・ナデ	2.5Y7/2 灰黄色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	中 ·中				7.8	3/8	
1 13	SD31	瓦器	潔			口縁~底部:ナデ後ミガキ・平 行暗文	5Y7/1 灰白色	5Y6/1灰色	やや軟	小			15.0 4.8	43	2/8	和泉型
1 13	SD31	上師賃上器		服器		ナデ、体~底部:板・マメッ	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	やや軟	一 一 子 ・ 子			26.2		2/8	鍔部・体下半~底部媒付着
1 2	SD31	上師質土器		日 総 国 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田		□縁:ヨコナデ、体~底部:指 オサエ・ナデ・板ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	料・中			23.0		8/8	鍔部~底部外面媒付着
ΙÐ	SD31	上師賃上器	器器			口縁:ヨコナデ、体部:ナデ? マメツ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	良好	親・課	報・報		39.0		1/8	外面媒付着
1 13	SD31	瓦質土器		火蜂	口縁:ナデ、体部:板ナデ後ナ デ	口縁端面:ケズリ後ナデ、体部: ナデ	5Y6/1灰色	5Y6/1 灰色	良好	中·张			20.9		1/8 未満	奈良火鉾
1 13	SD31	須恵器	桕		底部:回転ケズリ後ナデ、底部: 点台貼付徐ナデ	体~底部:回転ナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良好	中・少				8.0	2/8	

遺物 図版	遺構名	層位 種類		器種	羅麗.		色調		施政		44	l i	\vdash	計測値	(cm)	- 残存率	備考
		+	1		外面	内面	外面	内面		石英·長石	角閃石	雲母 結晶片岩	h 出 品	超	底径 その他	- 1	
749	SD32	上節質上器	十器		□	口縁~底部:回転ナデ	2.5YR6/8 橙色	2.5YR6/6 橙色	良好	中· 联			12.5	ığ.		1/8	
750	SD32	上師質土器	十器 枚		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	体~底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	井・珠					7.5	3/8	
751	SD32	黒色土器	認			底部:板ナデ・マメツ	10YR6/6 明黄褐色	2.5Y7/2 灰黄色	やや軟	中·少						1/8 未満	
752	SD32	黒色土器	器		体部:ミガキ?マメツ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR5/1 褐灰色	良好	÷. ⊕					6.4	1/8 米謝	
753	SD32	黑色土器	器		体部:マメツ、底部:高台貼付 後ナデ?マメツ	体~底部:板ナデ後ミガキ	10YR7/4 にぶい黄橙色 !	5Y4/1 灰色	やや軟	⊕ . □					7.2	4/8	
754	SD32	上節器	劉		□縁~頸部:ヨコナデ・凹線1・ □ マメッ	口縁:ヨコナデ・マメツ、体部: マメツ	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	中・联	暴	4	22.4	4		2/8	
755	SD32	上節器		□総 □線~9 体部:	□縁~鍔部:ヨコナデ?マメツ、□ 体部:タテハケ	ハケ後ナデ、体部: ツ	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	井・珠	垂 令					1/8 未満	
756	SD32	上節器		羽釜 口縁~鍔部:		口縁~体部:ヨコナデ・ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR5/2 灰褐色	良好	± %	無·少 無	無·參	22.1			1/8 未満	
757	SD32	平 銀	變		-		7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	± · %	粟	無·今				破斤	内面煤付着
764	SD38	上師質土器	出置		口線:回転ナデ、底部:回転へ ロ ラ切り・マメッ	□線~底部:回転ナデ・マメ ツ	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	当・中			7.	7.2 1.0	5.9	1/8	
765	SD38	上師質土器	日間		口縁:回転ナデ、底部:回転へ Cラ切り後ナデ		2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	良好	⊕ .÷			8.	8.2 1.1	6.5	1/8	
992	SD38	上師質上器	出		口縁:回転ナデ、底部:ナデ	口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	10YR7/2にぶい黄橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	⊕			86	8.2	2.9	1/8	
792	SD38	上師質土器	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	ф· -			7.	7.8 1.1	6.4	1/8	
892	SD38	上師質上器	器出			口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	⊕			8.2	1.1	9.9	1/8	
692	SD38	上部質上器	器出		_	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	⊕ . □			7.	7.9 1.2	6.1	4/8	
2770	SD38	上節質上器	出		: 回転へ	口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4にぶい橙色	良好	4.4			80	8.2 1.3	8.9	1/8	
771	SD38	上部質上器	出器十			口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	÷ . ⊕			∞	8.7 1.1	6.9	4/8 FA	内外面媒付着
772	SD38	上師質上器	日間			口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	良好	⊕			8.4	1.1	9.9	4/8	
773	SD38	上師質上器	日間		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	票· 今			80	8.3 1.0	7.5	1/8 未満	
774	SD38	上師質土器	日間			~	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/4にぶい橙色	良好	± ₩			8.8	1.3	6.5	1/8	
775	SD38	上節質上器	出		く単回	口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	5YR6/4にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや敷	⊕ . □			80	8.6 1.4	9.9	4/8	
922	SD38	土師質土器	日間				10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	良好	中・少			7.	7.8 1.4	6.1	1/8	
777	SD38	上師質土器	日間		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ロ ラ切り後ナデ・マメツ	口縁~底部:回転ナデ?マメ ツ	5YR7/4にぶい橙色	5YR7/4にぶい橙色	良好	祖・中			8.2	1.4	9.9	1/8	
778	SD38	上師質土器	日間		口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	期· ド			9,	9.8 1.5	6.2	1/8	
62.2	SD38	上師質土器		脚台部 台付皿 回転へ、 デ			7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	出					6.5	8/2	
780	SD38	上師質土器	出		口縁:回転ナデ?マメツ、底部: 口 回転ヘラ切り?マメツ	□緑~底部:回転ナデ?マメ ッ	7.5YR7/6 橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	举	井・井			10.3	13 22	7.4	1/8 米謝	
781	SD38	上節質上器	日間			П	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	やや軟	中·少			10.9	6.	6.8	1/8	
782	SD38	上師質土器	七器女			□縁~体部:回転ナデ・マメ ッ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	かや軟	⊕ . ⊕			12.9	6,		1/8	
783	SD38	上師質土器	十器 本		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ・マメツ	体~底部:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	やや敷	掛・中					6.4	1/8	
784	SD38	土師質土器	七器本		英部: 回転へ	体~底部:回転ナデ・ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	∜ · #			.9	9.9		2/8	
785	SD38	上師質土器	土器 杯		体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	- ◆・+					8.2	1/8 内	内外面媒付着
982	SD38	上師質土器	土器 杯		体部: 回転ナデ・マメツ、底部: 回転へラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ?マメツ	7.5YR7/2 明褐灰色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	中・小					6:8	1/8	
787	SD38	土師質土器	土器 杯		体部:回転ナデ、底部:回転へ 4ラ切り後ナデ・マメツ	体~底部:回転ナデ?マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 に ぶい橙色	良好	中・小	\dashv		\dashv		8.1	8/2	

第43表 土器観察表 (19)

	T HJ.			1711	7,	7	1	7		_	1017	- - -	1	_	7	7				Т													Т				Т	一	_
编卷																	在地産								十瓶山周辺窯産		和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	和泉型	名 名 成 数
残存率	8/1	1/8	4/8		2/8	1/8 米謝	1/8 朱鴻	1/8	8/1	8/7	1/8	,	2/8	2/8	5/8	1/8	8/8	2/8	8/8	2/8	2/8	1/8	1/8	8/9	2/8	17.8	1/8	1/8	1/8 未満	1/8	1/8	1/8	1/8 未満	1/8 未満	2/8	2/8	1/8	8/2	0/3/6
(CIII) 库径 //	_	110	9.4		9.5		1	4.4	0.0	4.C	89		6.1	8.9	6.1	6.9	6.5	6.5	6.2	62	7.2	6.5	6.8	6.8	8.9											5.0	4.0	5.0	3.0
対対	+	er;	32				1	\dagger		t		\dagger		1		1				T				5.7						1.5						Н		T	
2	1	146	148			14.9	152																	15.2		7.8	82	8,5	8.6	9:0	13.0	14.8	14.6	16.9	14.8			1	
発用日本																																							
中市	1	**						†		t		t		+			♦				消															Н		\dagger	t
4円石	+	暴					+										· 無				暴		料													Н	Н	+	+
\vdash	+							+		+		+		+			暴						暴														\vdash	+	+
万萬・馬刀	. 景	÷	· 日· · · · · · · · · · · · · · · · · ·		±	無・少	羅.	⊕ ±	* * + \$	展 日 日 日	- 集		⊕ •	中.少	⊕ ! ⊕ !	無・今	±	番・今	· 日	⊕	期 ・ 注	中 少	⊕ .÷	± .÷	無・今	± -÷	番・今	番・今	番・少	中 ・	中 ・	中 ・少	無	中· 小	⊕	中 ・	果。	報 日	ま.
烷成	自好	自好	良好		良好	軟	良好	かや製	及び	イン版	14.27		良好	良好	美	良好	良好	やや軟	良好	良好	良好	良好	良好	良好	やや軟	良好	やや軟	良好	良好	良好	良好	やや軟	良好	良好	良好	やや軟	良好	原好 由在	及好 自好
			组				\neg	\neg																								- ブ黒色						_	
内面	7.5YR7/4 にぶい精色	7.5YR4/4 にぶい結色	10YR7/4 にぷい 黄橙色		2.5Y8/2 灰白色	7.5YR8/3 浅黄橙色	5YR6/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色 5.rxs の F かん	2.518/2]火日巴	101 KS/3 採用他 10VD8/9 压白条	25YR6/8 精色		7.5YR5/4 にぶい褐色	2.5Y4/1 黄灰色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR3/1 黒褐色	2.5Y5/2 暗灰黄色	5Y4/1 灰色	2.5Y4/1 黄灰色	5YR4/1 灰色	5Y4/1 灰色	N3/ 暗灰色	25Y3/1黒褐色	25Y3/2黒褐色	5Y8/1 灰白色	N5/ 灰色	5Y5/1灰色	25Y6/1 黄灰色	N4/ 灰色	N3/暗灰色	7.5Y5/1 灰色	7.5Y3/1 # 1) - 1	5Y6/1 灰色	2.5Y7/2 灰黄色	5Y7/1灰白色	N4/ 灰色	75/1 灰色	N5/ 灰色 10VP7/3 に だい帯総布	101K//3 にあい。 95V7/9 店事年
W.面	い精色					御			. 458.22	T	1	Т	褐色			5YR6/4 にぷい橙色 10	10YR7/4 にぶい黄橙色 2.				10YR5/3 にぶい黄褐色 57		10YR5/3 にぶい黄褐色 2.			Z			Z			ーブ黒色						N6/ 灰色 10VP7/21- 213 華緑年 10	
	7.5YR7/4	* 75YR4/4	10YR7/6 明黄褐色		2.5Y8/2 灰白色	7.5YR8/3 浅黄橙	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	2.518/2 灰田巴	10VD9/2 压白色	25YR6/8 橙色			7.5YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	-	₹ 10YR7/4	10YR8/4 浅黄橙色	ガ 5YR6/4 にぷい橙色	7.5YR6/6橙色	10YR5/3	10YR8/3 浅黄橙色	10YR5/3	7.5Y2/1黑色	25Y8/1灰白色	N5/ 灰色	5Y5/1 灰色	2.5Y6/1 黄灰色	N4/ 灰色	N3/暗灰色	7.5Y5/1 灰色	7.5Y3/1 # U	5Y6/1灰色	2.5Y7/2 灰黄色	5Y6/1 灰色	N4/ 灰色	2.5Y8/1 灰白色	N6/ 灰色	2577/2 反番色
120	口転ナデッマメツ	部:回転ナデ・マ	転ナデ・ナデ		ナデ・マメツ	メツ	マメツ			37		・お子供の後田介	7: 後十1	+		1	: 板ナデ?後平行	4	:板ナデ後平行ミ	マメツ		ガキ	ガキ・マメツ	ナデ後ミガキ	マメツ	転ナデ	v. x	デ後ミガキ	, ×	デ後ミガキ	デ後ミガキ	デ後ミガキ	デ後ミガキ	デ後ミガキ	デ後ミガキ		X	施状ミガキ 行用す	口面入行雨か
内面	体~底部:回腔	602	ツ 口縁~底部: 回転ナデ・ナデ		体~底部:回転ナデ	口縁~体部:マメツ	口縁:ミガキ?マメツ	原等・マメツ	対明・イメン	気号・ペケン 内部・ルナ・フィン	(を)	1 年 - 長 世 - 千		体~底部:ミガキ	展部:マメツ	底部:ミガキ	体~底部:板ナガキ	体~底部:ミガキ	体~底部:板ナ キ	底部:ミガキ・マメツ	底部:ミガキ	底部:ナデ後ミガキ	底部:ナデ後ミガキ	は報: ヨコナデ、体部:指オサエ・ナデ後ミガキ、底部:高台 口縁~底部:板ナデ後ミガキ監付後ナデ	底部:ミガキ・マメ	口縁~底部:回転ナデ	口縁~底部:マメツ	口縁~底部:ナデ後ミガ	口縁~底部:マメツ	口縁~底部:ナデ後ミガ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	□緑~体部:ナデ後ミガキ	□縁~体部:ナデ後ミガキ	□緑~体部:ナデ後ミガキ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	底部:マメツ	底部:格子状暗文	原部:ナデ後្な原状:ガキ 高部・ナデ後以行時か	成部・1700年11幅入 底部:ナデ後平行暗文
		底部:	成部:	ナナイ								· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	- KKIII - 1	ナデ?		マメッ	底部:		5台貼付	Y		計析・		指24年 3:高合	マメッ														
从面	, 底部:	北ナデ、	後ナデー語にナデ、	と枚状圧派・フィッ	シナデ	(メン)		がナデ	「核ナナ	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	※後ミガキ	強作・なった。	× ×	4、底部	ナマメッ	後ナデ・	シマメツ	こうナデ、	底部:高	後ナデ	りのり後ま	ζリ後高t	ト後ヨコナ	、体部に	後ナデ?	"、底部:	"、 原部:	"、 原部:	, 底部:	, 底部:	" 体部:	'、体部:	, 体部:	7、体部:	*、体部:	後ナデ	検ナデ	後ナナー※ナル	(後十子
150	体部:回転ナデ、底部:回転へ	フ切り校ナテロ転ナデ、底部:	回転へラ切り?後ナデ 口縁~体部:回転ナデ、底部: ロボュニアン(がボルアボ・デー	トプロリカ	Fire・ロセング・ベイン ベルド・ 回転へう切り後ナデ	口縁~体部:マメ	口線:マメツ	底部:高台貼付後ナディ数・ すん こっちょう	戦争・周四階四級アナア デュー・サイド サイド コード	利用・国口智力・ペクン は対・中心単年・1~。	体部:回転ナデ後ミガキ・マメ 体部:回転ナデ後ミガキ・マメ	5部: 配作	冷部・凹転ファ;マグノ、広囲・高台貼付後ナデ	体部:ヨコミガキ、底部:ナデ	底部:高台貼付・マメツ	底部:高台貼付後ナデ・マメツ	体部:回転ナデ?マメツ、底部: 高台貼付後ナデ	体部:指オサエ?ナデ、底部 高台貼付後ナデ	体部:マメツ、底部:高台貼付 後ナデ	底部:高台貼付後ナデ	底部:回転ヘラ切り後高台貼付 後ナデ	底部:回転ケズリ後高台貼付 ナデ	底部:高台貼付後ヨコナデ	ョコナテ -デ後ミカ :ナデ	底部:高台貼付後ナデ?マメツ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り?後ナデ	口縁:ヨコナデ、底部:指オサ エ・ナデ	口縁:ヨコナデ、底部:指オサ エ・ナデ	口縁:ヨコナデ、底部:指オサ エ・ナデ	口縁:ヨコナデ、底部:指オサ エ・ナデ	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁:ヨコナデ、体部:ミガキ	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ後ミガキ	底部:高台貼付後ナデ	底部:高台貼付後ナデ	展部:高台點付後ナデ 底部:宣台駐付後ナデ	底部: 画口知11极77 底部: 画台點付後十7
	4 年 1	787	国 国	回転く	一回を	□響∽	··· (禁	世 計	はいませ	(代明)	本部	7、原	自今時	大部:	所 :	座部:	有部:1	本部 : 自己語	体部: 後十子	底部:	底部: 後ナデ	海ナボル	底部:	ロー は 子・ナ 語付後	海	口線: ラ切り	ロ 日 ・ ナ・	ロ 日 ・ ナ・	ロ ト ナ・ナ	T 本・十	口線:	ロ () () ()		ロ ト・ナ	口線:	底部:	所部	祖 祖	項 强
帮	苓					\neg	\neg	\top	14 N			\neg	\neg	E :	翠;	湿	潔	潔	溪	湿	搖	潔	潔	潔	潔	Ħ	Ħ	Ħ	Ħ	Ħ	湿	溪	湿	溪	湿	潔	福丰	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	18 18
種類	十二	器十二二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	上節質上器		上師質土器	上節質土器	上節質上器	上野賀十郡	日間質用館	上野河上部十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		上節質土器	黑色土器	黒色土器	黒色土器	黑色土器	黑色土器	黒色土器	黑色土器	黒色土器	黒色土器	黒色土器	黒色土器	須恵器	瓦質土器	瓦器	瓦器	瓦器	瓦器	瓦器	瓦器	瓦器	瓦器	瓦器	瓦器	瓦器	内部部	瓦器
回										1																							Ĺ					1	
遺構名			, ,		×	× ×	<u>~</u>			0 ~			8		_∞ .	×	oc .	oc.	8	8	or.	8	8	80	8	8	8	æ	on.	80	80	8	8	8	on.	8	80,		0 8
乗 る で	SD38	SD38	SD38	+	SD38	SD38	SD38	SD38	SD3S	SD30	SD38		SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	45 SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	45 SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38	SD38
新 市 市 市 市		280	06/	+	791	792	793	794	26/	707	862	+	799	008	801	802	803	804	805	908	807	808	608	810	811 4	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	928
_	-	_		_	_	-	_	_	_	_		_		_			_														_						_	_	_

(50)
土器観察表
44 表
無

通物区	図版	国位 種類	器標	羅館	器	色調	A	往歩		胎土				計測值 (c	(cm)	瑞在率	垂
		4		外面	内面	外面	内面		石英·長石	角閃石	報母	結晶片岩	口径	器高原	底径 その他	_	
827	SD38	瓦器	潔	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後平行暗文	2.5Y5/1 黄灰色	2.574/1 黄灰色	良好	番·今						4.3	8/2	和泉型
828	SD38	瓦器	潔		底部:ナデ後格子状暗文?	N4/ 灰色	N5/ 灰色	良好	期·少						4.5	8/2	和泉型
628	SD38	瓦器	潔	底部:高台貼付後ナデ		7.5Y3/1 オリーブ黒色 7	7.5Y3/1 オリーブ黒色	良好	盤・少				-		4.1	1/8 未満	和泉型
830	SD38	瓦器	潔	底部:高台貼付後ナデ	底部:ナデ後平行暗文	2.5Y7/2 灰黄色	5Y5/1 灰色	やや軟	中・小						5.2	8/8	和泉型
831	SD38	瓦器	濹	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後平行暗文	5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	良好	雅·今						4.8	8/2	和泉型
832	SD38	瓦器	潔	底部:高台貼付後ナデ	底部:格子状暗文・マメツ	2.5Y7/2 灰黄色	N5/ 灰色	良好	無·少				H		5.2	8/2	和泉型
833	SD38	瓦器	潔	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:平行暗文	5Y4/1 灰色	2.5Y8/2 灰白色	良好	番・今						5.1	1/8	和泉型
834	SD38	瓦器	湿		体~底部:マメツ	5Y5/1灰色	5Y5/1灰色	やや敷	⊕ .						5.0	8/8	和泉型
835	SD38	瓦器	潔		体~底部:ナデ後ミガキ・格 子状暗文?	5Y6/1灰色	7.5Y7/1 灰白色	良好	番. 少						4.8	1/8	和泉型
836	SD38	白巖	蒸		: 施釉	5Y8/2 灰白色 (胎)	10Y8/1 灰白色(胎)	良好					15.8			1/8	中国製
837 4	45 SD38	撥和	溪	口禄~体部:施釉	口緣~体部:施釉·片彫蓮華 文	5Y7/1灰白色(胎)	2.5GY6/3オリープ灰色 (釉)	良好								1/8 未消	龍泉窯系
838	SD38	撥上	湿	口綠~体部:施釉・輪花	口縁~体部:施釉・分割線	N8/ 灰白色 (胎)	2.5GY6/1オリープ灰色 (釉)	良好					15.9			1/8	龍泉窯系
628	SD38	海岸	潔	体部: 施釉、高台端~内:ケズ リ・露胎	体~底部: 施釉、見込: 目跡	N7/ 灰白色	25GY6/1オリープ灰色 (釉)	良好							8.2	8/2	越州窯系・被熱?
840 4	45 SD38	須恵器	片口鉢	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	N5/ 灰色		良好	中・小				H			1/8 未満	東播系
841	SD38	上師質土器	憲	口線:タテハケ後ヨコナデ、体 部:タテハケ	□緑:ヨコハケ、体部:ヨコ ハケ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	置·今	期· 能						1/8 未満	外面媒付着
842	SD38	上師質土器	p 足能?			7.5YR6/3 にぶい褐色		良好	単・単				Н			破片	
844	SD38	須恵器	榈	口縁~頸部:格子タタキ後回転 ナデ	口縁~頸部:回転ナデ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	良好	ф· ф				25.6			1/8	十瓶山周辺窯産
845	SD38	弥生土器	御	顕部:ヨコナデ・マメツ・突帯 上下に刺梁文	類部:指オサエ・ナデ?マメッ	5YR6/8 橙色	5YR6/6 橙色	良好	母							1/8	
846	SD38	弥生土器	影	底部:指オサエ・ナデ	底部:指オサエ・ナデ	5YR6/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	+ ※						5.2	8/8	
847	SD38	弥生土器	御	体部: タテハケ・マメツ、底面: ナデ? マメツ	体~底部:マメツ	7.5YR6/6 橙色	10YR7/6 明黄褐色	良好	量 多						7.1	2/8	
848	SD38	須恵器	杯蓋	口縁:回転ナデ	口縁:回転ナデ	2.5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	良好	無·少				11.6			1/8	
849	SD38	須恵器	茶	口縁~体部:回転ナデ、底面: 回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良好	番・今				8.4	3.1	5.2	8/2	
820	SD38	須恵器	妆	口縁~体部:回転ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y7/1 灰白色	良好	無·少				14.8			1/8	外面火橡
851	SD38	須恵器	茶		口縁~底部:回転ナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良好	⊕						9.2	1/8	内外面火滯
852	SD38	須恵器	茶		底部:回転ナデ・マメツ	5Y7/1灰白色	5Y7/1 灰白色	良好	ф· +						12.2	1/8 未満	
853	SD38	須恵器	Ħ	体部:回転ナデ、底面:回転へ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良好	⊕.						6.6	1/8	内外面火棉
854	SD38	須恵器	Ħ		口線~底部:回転ナデ・マメ ツ	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	秦	番・今						13.1	1/8	
855	SD38	須恵器	间	頸部:回転ナデ	П		色	良好	親·熊							破片	
826	SD38	干部器	斧		メッ	5YR6/6 橙色	_	良好	無· 少				14.6			1/8	
857	SD38	上節器	潔		底部:回転ナデ?マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	やや軟	⊕						6.3	1/8	
828	SD38	干邮器	影	□縁:指オサエ・ヨコナデ、体 部:タテハケ	口縁: ヨコハケ、体部: 板ナ デ	5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	± ₩							1/8 未満	
829	SD38	上師器	影	□緑~体部:指オサエ・ヨコナ デ	口縁: ヨコナデ、体部: 板ナ デ	25YR4/3 にぶい赤褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	良好	⊕ %	71.5	期· 排					1/8未満	
098	SD38	上部器	影	口線:ハケ後ヨコナデ、体部: タテハケ	口縁:ヨコハケ後ョコナデ、体 部:板ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	5YR5/4にぷい赤褐色	良好	中・洪							1/8 未満	
861	SD38	上師器	影	口繰:ハケ後ヨコナデ、体部: ハケ後ナデ		5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	良好	中・洪	79.5	量· 令		26.6			2/8	外面媒付着
862	SD38	十部器	誤	口縁:指オサエ・ヨコナデ、鍔 部:ヨコナデ	口縁:板ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色 7	7.5YR6/4 にぷい橙色	良好	母・				23.6			1/8 未謝	
863	SD38	器量升	器		口縁:指オサエ・ヨコナデ、体 部:板ナデ	ə	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	善 必				24.2			1/8 未端	内面媒付着
891	SD39	土師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ・マメツ	四帳ナデ、底部: 回転へ 口縁 ~ 底部: 回転ナデ・マメ 10YR8/4 浅黄橙色 ラ切り後ナデ・マメッ		10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	母				7.4	1.0	6.2	1/8	
			-								1						

第 45 表 土器観察表 (21)

遺物図	図版	超位	維粗	岩雅	難	松	色	色調	华榖		平場		_	計測値	(cm)	路在漆	4
		1	PK-WI.	4		内面	外面	内面	NANA	石英・長石 角	角閃石 雲母	母 結晶片岩	岩口径	器	底径 その他	_	C. au
892	SD39		上師質土器	Ħ	□	口縁~底部:回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良好	中・今			7.8	1.4	0.9	1/8	
893	SD39		上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	題· 今			7.8	1.4	5.9	8/8	
894 4	46 SD39		上師質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	ф· ф			8.4	1.4	5.8	8/9	
895	SD39		上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	5YR7/4 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良好	ф· +			8.65	1.25	6.9	4/8	
968	SD39		上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	ф· ф			8.3	1.4	6.3	1/8 未満	
268	SD39		上師質上器	目	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	ф· +			7.8	1.5	5.2	8/9	
868	SD39		上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ?マメッ	口縁~底部:回転ナデ?マメッ	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	良好	±- 			8.4		9.9	1/8	
668	SD39		上節質土器	Ħ	口線:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	良好	ф· -			7.6	1.65	4.6	2/8	
006	SD39		上節質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	無· 少			8.4	1.5	8.9	1/8 未満	
901	SD39		上節質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	細·少		番・多	8.5	1.5	6.8	4/8	
506	SD39		土師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	中・少			8.6	1.2	6.4	8/2	
903	SD39		土師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	中・少			8.8	1.2	6.5	1/8	
904	SD39		上節質上器	目	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	無· 今			8.8	11	7.2	1/8	
902	SD39		上部質土器	Ħ		□縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	5YR7/6 橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	やや軟	ф· ф			8.7		8.9	1/8	
906	SD39		土師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・マメ ツ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	良好	Ф. ф			9.5		7.0	1/8	
206	SD39		上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良好	中・珠			8.8	1.3	6.4	1/8	
806	SD39		上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ・マメツ、底部: 回転へラ切り後板状圧痕	口縁~底部:回転ナデ?マメッ	7.5YR8/8 黄橙色	7.5YR8/8 黄橙色	良好	猫・・遊			8.8	1.7	6.2	2/8	底部焼成前小円孔穿孔
606	SD39		上師質土器	妆		口縁:回転ナデ	7.5YR7/3にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	無・少			13.8			1/8 未満	
910	SD39		土師質土器	林	口縁~体部:回転ナデ・マメツ、 底部:回転ヘラ切り?後ナデ	口縁~底部:回転ナデ?マメ ツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	敒	ф· ф			13.8	2.6	10.1	1/8	
911	SD39		土師質土器	妆	口縁~体部:回転ナデ、底部: 回転へラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや軟	中・小			14.0	2.9	10.0	4/8	
912	SD39		上師質土器	斧	口線:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	中· 少			14.8	2.5	10.0	1/8 未満	
913	SD39		土師質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色	良好	中・少			13.6			1/8 未満	
914	SD39		上師質上器 +館瘤+器	床 芹	口縁~底部:回転ナデコ緑~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデロ繰~体部:回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙色 25V8/2 原白色	10YR8/4 浅黄橙 25V8/2 原白色	良好自好	中 中 今 米			13.6			1/8 未謝	
916	SD39		上師質土器	: 华	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	中・中			14.6			1/8 未満	
917	SD39		土師質土器	苯	口縁~体部:回転ナデ・マメツ	口縁~体部:回転ナデ・マメッ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	良好	出・			14.8			1/8未満	
816	SD39		上師實上器	斧	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ・マメッ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	やや敷	中· 珠			14.3			1/8	
919	SD39		土師質土器	妆	口縁~体部:回転ナデ	1::1	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	良好	中. 少			15.6			1/8未満	
920	SD39 SD39		上師質上器上師貸上器	床 床	口縁~体部:回転ナデ 口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ 口縁~体部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好良好	乗・今 今・			14.8			1/8 米謝	
922	SD39		上師質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ・マメツ	口縁~体部:回転ナデ・マメッ	7.5YR7/3 にぶい橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	やや軟	中・採			15.2			1/8 未満	
923	SD39		上師質土器	茶	口線~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	5YR6/3 にぶい橙色	5YR6/3 にぶい橙色	良好	中·今	<u> </u>		14.8			1/8 未満	
924	SD39		上師質土器	失:	口縁:回転ナデ・マメツ	口縁:回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	やや軟	ボ・中			15.4			2/8	
925	SD39		上師質上器	产产	□線:回転ナデ・マメッ□%: 4が:回転エッ	口縁:回転ナデ 口簿: ケ約:回転キジ	10YR8/3 浅黄橙色 10YP6/9 1- 2013 李松在	10YR8/3 浅黄橙色 10YP6/9 压幸福金	かや 敷った	今 令 ÷			15.2			1/8 朱鏞	
026	SD39		上	É LÉ	体部:回転ナデ、底部:回転へ	口塚「平即・回転)/ 休~麻漑・回岸・デ	101 KO/3 L-38 · 1 加型 C 22 · 2 · 2 · 2 · 2 · 2 · 2 · 2 · 2 ·	10YP8// 海費燈	及びか事	★ 4			10.3		6.2	0/8	
9	603			: 12	ラ切り後ナデ □線~体部:回転ナデ、底部:	. 8	10VD9/4 崇耕藜 4	10VD9/4 法排標	74 7 7 年	4 % - E			140	90	i o	0 0	底部に小円孔を焼成前穿
076	STOCK OF THE STOCK		一下時代十二世	Ė	回転ヘラ切り後板状圧痕・ナデ	1486	10 1 Nov 1 (2,597) IN C.	10 1 Nov = 126 PR TE	Jews 1	≓ E	-	$\frac{1}{2}$	TT4		O'O	o ò	孔 する

(00)
十器網密表
46 害
細

	版	国位	新術	光報	羅羅	***	色調	H	台灣		胎土			計測値	重 (cm)	強	瑞左率	静水
番号 番号			N. H			内面	外面	内面	K.	石英·長石	角閃石	能母	結晶片岩	口径 器高	底径・そ	その他		
676	SD39		土師質土器	潔	体部:回転ナデ?底部:回転へ ラ切り後板状圧痕	体~底部:回転ナデ?マメツ	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	報· 持					4.9	8/8		
080	SD39		土師質土器	湿	底部:高台貼付後ナデ	底部:ミガキ?マメツ	10YR7/2にぶい黄橙色 1	10YR8/3 浅黄橙色	良好	弾・中					6.5	2/8		
931	SD39		上師質土器	\neg	・スメッ	底部:ミガキ?マメツ	,黄橙色		やや軟	報・説					5.4	3/8	1	
332	SD39		上野質土器		1	底部:ミガキ?マメツ		2.5Y8/2 灰田色	やや軟	乗・今				 	2.8	1/8		
933	SD39		土師質土器	影	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:平行ミガキ	7.5YR7/4 にぶい橙色 7	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	細·少					5.4	1/8		
934	SD39		開 課 計 選 計	湿湿	体部:マメツ、底部:高台貼付・ マメツ	体~底部:マメツ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	やや教	出・中					6.4	1/8		
935	SD39		上師質土器	潔	体部:ナデ・指オサエ?マメツ、 底部:高台貼付後ナデ	体~底部:ミガキ?マメツ	2.578/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	やや軟	親·联					62	2/8		
936	SD39		上師質土器	湿	体部:回転ナデ、底部:高台貼 付後ナデ	体~底部:ナデ・ミガキ?マメツ	10YR6/2 灰黄褐色	5YR7/4 にぶい橙色	良好	+					5.3	1/8		
937	SD39		上師質土器	溪		口縁~体部:ミガキ・マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙色 1	10YR8/2 灰白色	やや寮	# -				14.2		1/8	1/8 未満	
828	SD39		上師質土器	潔	口縁~体部:マメツ、底部:高 台貼付・マメツ	口縁~底部:マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙色	25Y8/2 灰白色	秦	番.				15.6 4.9	5.8	3/8		
686	SD39		黑色土器	湿		口縁:ミガキ	2.5Y7/2 灰黄色	N4/ 灰色	やや軟	題·少				14.8		1/8	1/8 未満	
940	SD39		黒色土器	濹	体部:ミガキ、底部:高台貼付 後ナデ	体~底部:ナデ後ミガキ	2.5Y6/2 灰黄色	10Y3/1 オリーブ黒色	良好	中·少					8.9	1/8		
941	SD39		黑色土器	溪		底部:平行ミガキ	10YR8/2 灰白色	N4/ 灰色	良好	中·少					5.4	2/8		
942	SD39		須恵器	溪	口縁:回転ナデ、体部:指オサ エ・ナデ後ミガキ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良好	番・				14.3		1/8	1/8 米端 十	十瓶山周辺窯産
943	SD39		須恵器	潔		底部:板ナデ後放射状ミガキ	N7/ 灰白色 1	N7/ 灰白色	良好	ф·					6.4	2/8		十瓶山周辺窯
944	SD39		須恵器	潔	体部:回転ナデ・マメツ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ハケ後ミガキ?マメツ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	兼	盤・今					5.7	8/8		十瓶山周辺窯産
945	SD39		須恵器	潔	,	体~底部:ミガキ?マメツ	2.5Y8/1 灰白色	25Y8/1 灰白色	良好	番・今					6.2	2/8		十瓶山周辺窯産
946	SD39		瓦器	Ħ		口縁~底部:ヨコナデ・ナデ 後ミガキ・格子状暗文	N4/ 灰色	N4/ 灰色	良好	番・夕・				8.9 1.4		2/8		和泉型
947	SD39		瓦器	目	口縁:ヨコナデ、底部:指オサ エ・ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良好	番・今				9.8 2.3		2/8		和泉型
948 46	6 SD39		瓦器	潔	底部:高台貼付後ナデ	底部:ナデ後ミガキ・平行暗 文	N5/1 杯色	N5/1 灰色	良好	無 少					4.4	1/8		和泉型
949	SD39		瓦器	溪	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後ミガキ・格 子状暗文	5Y5/1灰色	5Y6/1灰色	良好	番· 今					4.6	2/8		和泉型
920	SD39		瓦器	溪	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後ミガキ・平 行暗文	5Y6/1灰色	5Y6/1灰色	良好	雅· 今					4.8	1/8		和泉型
951	SD39		瓦器	濹	・ナデ、底部:	体~底部:ナデ後ミガキ・平 行暗文	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良好	番· 夕					46	2/8		和泉型
952	SD39		瓦器	湿	ナデ、底部:	体~底部:ナデ後ミガキ・平 行暗文	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良好	番· 今					4.1	2/8		和泉型
953	SD39		瓦器	瀑	ナナ	底部:ナデ後ミガキ・格子状暗文	25Y7/2 灰黄色	5Y5/1 灰色	やや軟	番.					46	2/8		和泉型
954	SD 39		瓦器	溪	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後ミガキ・格 子状暗文?マメツ	N4/ 灰色	N4/ 灰色	やや軟	番· 少					44	4/8		和泉型
922	SD39		瓦器	潔		体~底部:ナデ後格子状暗文	N4/ 灰色	N4/ 灰色	良好	盤·今					4.6	2/8		和泉型
926	SD39		瓦器	溪	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ミガキ・マメツ	7.5Y4/1 灰色	7.5Y4/1 灰色	やや軟	無· 少					5.4	1/8		和泉型
957	SD39		瓦器	潔	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後ミガキ・格 子状暗文	5Y7/1 灰白色	5Y5/1 灰色	良好	番· 令					5.1	1/8		和泉型
828	SD39		瓦器	潔	口線:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口線~体部:ヨコナデ後ミガ キ	7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良好	番· 令				13.4		1/8:	1/8 未満 和身	和泉型
626	SD39		瓦器	潔	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	□縁~体部:ナデ後ミガキ・マ メツ	N4/ 灰色 1	N4/ 灰色	良好	± -÷				13.8		1/8		和泉型
096	SD39		瓦器	潔	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ・マメツ	□緑~体部:ナデ後ミガキ? マメツ	N4/ 灰色 1	N4/ 灰色	やや軟	祖· 中				14.8		1/8	1/8 未満 和身	和泉型
1961	SD39		瓦器	溪		□縁∼体部:ナデ後ミガキ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良好	無· 少				14.1		1/8	1/8 未満 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和	和泉型
362	SD39		瓦器	潔	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ?マメツ	□縁~底部:マメツ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	やや軟	期・ド				13.8		1/8		
963	SD39		瓦器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ 口線~体部:ヨコナデ後ミガ エ・ナデ	□縁~体部:ヨコナデ後ミガ キ	7.5Y4/1 灰色	7.5Y4/1 灰色	良好	番・今				15.6		1/8	1/8 未満 和泉型	泉型
				-		1	1	1 1 1				1						

第 47 表 土器観察表 (23)

# 864 か を 364 か か か	!						i		体政		WH.					7X+-34	
24					外面	内面	外面	内面		石英·長石	角閃石	報由部	結晶片岩 口	口径 器高	底径 その他	-	
14	SD39	r4	瓦器	湿	口禄:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	N5/ 灰色	5Y7/1 灰白色	良好	無· 今			•	14.8		1/8 未満	和泉型
_	SD39	rq.	瓦器	潔	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	□緑~体部:ナデ後ミガキ? マメツ	2.5Y7/2 灰黄色	5Y5/1 灰色	良好	番・今				15.1		1/8	和泉型
996	SD39	rq	瓦器	湿		口縁~体部:ヨコナデ後ミガ キ	7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良好	華.今				15.9		1/8 未満	和泉型
296	SD39	rq.	瓦器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良好	番・今				15.8		1/8 未満	和泉型
896	SD39	r4.	瓦器	湿		口縁~体部:ナデ後ミガキ	7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良好	乗・今				14.9		1/8 未満	和泉型
696	SD39	14	瓦器	湿	口禄:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	□緑~体部:ナデ後ミガキ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良好	乗・今				15.4		1/8 未満	和泉型
026	SD39	HA	瓦器	溪	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ・平 行暗文	5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	良好	無·今				15.8		1/8	和泉型
97.1	SD39	rq	瓦器	潔	口繰:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ・マメツ	口縁~体部:ナデ後ミガキ・マ メツ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	やや敷	♦ .				15.2		1/8	和泉型
972	SD39	144	瓦器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ・平 行暗文	N6/ 灰色	N5/ 灰色	良好	乗・今				15.8		1/8 未満	和泉型
973	SD39	rq.	瓦器	潔	体部:指オサエ・ナデ後ミガキ、 底部:高台點付後ナデ	体∼底部:ミガキ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	良好	番·今					6.2	3/8	
974	SD39	r4	瓦器	溪	口縁:ヨコナデ、体部:指オサエ・ ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	口縁~底部:ナデ後ミガキ	2.5Y3/1 黒褐色	2.5Y4/1 黄灰色	やや軟	番・今				15.0 4.4	3.3	3/8	和泉型
975	SD39	r4.	瓦器	湿	□繰:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ・マメツ、底部:高台 □線~底 貼付後ナデ・マメツ	部:マメツ	2.5Y8/2灰白色	25Y8/2灰白色	茶	無・少				16.8 4.7	9.9	3/8	
926	SD39	7	瓦器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサエ・ ナデ、底部:高台貼付後ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ、底 部:直線状暗文	5Y4/1 灰色	5Y4/1 灰色	良好	中·少				15.0 5.2	3.9	2/8	和泉型、底部焼成前小円 孔穿孔
977 46	SD39	-4	瓦器	潔	口縁:ヨコナデ、体部:指オサエ・ ナデ、底部:高台貼付後ナデ	口縁~底部:ナデ後ミガキ・格 子状暗文	10Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	良好	中・今				14.2 4.7	3.7	8/8	和泉型
978 46	SD39	ш	白酸	Ħ		口縁:施釉	10Y8/1 灰白色 (胎)	7.5Y7/2 灰白色 (釉)	良好					6.6		1/8 未満	中国製
626	SD39	ш	山縣	Ħ	口線~体部:指袖、口線緒:輪右	口線~体部: 施釉、体部: 白堆線	7.5Y8/1灰白色(胎)	2.5GY8/1 灰白色 (釉)	良好					11.2		1/8 米瑞	中国製
086	SD39	ш	白巖	潔	口緣:施釉		7.5Y7/1 灰白色(胎)	7.5Y7/2 灰白色(釉)	良好							1/8 未満	中国製
186	SD39		白盤	潔		口縁:施釉	(服)	(乗)	良好							1/8 未満	
786	SD39		口器	湿	口緣:施釉	口縁:施釉			良好			+	+		1	1/8 朱鴻	中国級
983	SD39	ш	白磁	潔	Ħ	体~底部:施釉・環状釉剥ぎ	10Y8/1 灰白色 (胎)	7.5Y7/2灰白色(釉)	良好						6.5	1/8	中国製
984	SD39	- 11	上節質上器	蹇	口線:指オサエ・ヨコナデ、体 部:板ナデ・ナデ	口縁:ヨコハケ後ヨコナデ、体 部:板ナデ・ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR6/4にぶい黄色	良好	掛・中						1/8 米謝	外面媒付着
982	SD39		土師質土器	足総		7	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	- 並 - 中						破片	
986	SD39	74	瓦質土器	益	□繰:ヨコナデ・マメツ、体部: 指オサエ・ナデ?マメツ	口線:ヨコナデ、体部:板ナデ? マメツ	5Y5/1 灰色	2.5Y7/1 灰白色	やや軟	÷ ÷						1/8 米端	
286	SD39	111.	須恵器	井口線	口縁~体部:回転ナデ	8:回転ナデ	N5/灰色	N5/ 灰色	良好	中・少						1/8 未満	東播系
886	SD39	1	瓦質土器	樵	口縁:回転ナデ·凹線1条、体部: 回転ケズリ後回転ナデ・ナデ	口縁:回転ナデ、体部:回転 ナデ後ハケ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	良好	ン 一 子				20.2		8/2	
686	SD39	74	瓦質土器	樵	体部:板ナデ?マメツ:底部: マメツ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	かや 東	中					13.4	7.8	
066	SD39		干部器	影	口縁:ヨコナデ、体部:ハケ	口線:ハケ後ヨコナデ、体部:ハケハケ	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	母・母	報	番· 少		32.8		1/8 米謝	
166	SD39	17	土師質土器	緩		口縁~体部:ハケ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	掛・中				33.2		1/8 未謝	内外面煤付着
266	SD39		上節質土器	緩	口縁~体部:ハケ後指オサエ・ ナデ	口縁~体部:ハケ	10YR7/4 にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色		良好	乗・今				27.6		1/8 未満	外面媒付着
993	SD39	П	上師質土器	瘍		口縁:ヨコナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	中・小	審	親·熊		33.4		1/8 未満	
994	SD39	п	上師質土器	火蘇?	体部;ハケ後指オサエ・ナデ、 底部:板ナデ・ナデ	体~底部:ハケ後ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	単・中	乘	無 少			34.8	1/8 未端	
995	SD39	ntis.	弥生土器	御	・マメツ	口縁:ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	弾・中				18.3		1/8 未満	
966	SD39	ruš	弥生土器	影		口縁:ヨコナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや軟	海· 中						1/8 未満	
266	SD39	77	須恵器	杯蓋	口縁:回転ナデ、天井:回転ケズリ	口縁~天井:回転ナデ	5Y5/1 灰色	5Y6/1 灰色	良好	無・少				14.6		1/8 未満	
866	SD39	n	上師器	丼	口線:ヨコナデ、体部:指オサエ後ミガキ?	□緑~体部:ヨコナデ・ミガ キ?	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良好	無・少				15.9		1/8	内外面赤色塗彩?

第48表 土器観察表 (24)

番 別 号 中	遺構名	四位	種類	器		内面	外面	内面	396.10%	石英・長石	角閃石	華 特	結晶片岩	口径 器高	底径	その他では	D. BE	\Box
닏	SD39		上師器	細	体~底部:指オサエ・ナデ、鍔部: ナデ、底端面:板状圧痕・ナデ	体~底部:指オサエ・ナデ	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	⊕ ••						後片		
	SD41		上師質土器	Ħ	口線:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4にぷい黄橙色 1	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	番・今				7.8	1.4 6	6.3 1/8		
	SD41		土師質土器	Ħ		口縁:回転ナデ	ぶい黄橙色	ぶい黄橙色	良好	無·少				9.4			-	
	SD41 SD42	. , 11	瓦器 土師質土器	選 目	底部:高台貼付後ナデ 口縁:回転ナデ・マメツ	底部:ナデ後平行暗文 口縁:回転ナデ・マメツ	N3/ 暗灰色 10XR8/3 浅黄橙色 1	N3/ 暗灰色 10YR8/3 浅黄橙色	良好やや軟	番 番・今・今・				7.7	ro.	5.0 1/8 2/8	和泉型	
	SD42		上師質土器	Ħ	回転く	口縁~底部:回転ナデ・マハ ツ	争	御	良好	番·今				8.8	9	6.8 17.8		
	SD42		上節質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・マンツ	10YR7/3にぶい黄橙色 1	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	場・				8.8	1.5	6.4 1/8 未満	袒	
	SD42	-	上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ?マメツ、底部: 回転ヘラ切り?マメツ	口縁~底部:回転ナデ?マッツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	やや軟	中・民				8.5	1.3 6	6.1 1/8		
	SD42		上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色 2	2.5Y8/3 淡黄色	良好	番・今・				8.8	1.4	6.8 2/8		
	SD42		上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙	良好	五·今				8.8	1.4 6	6.5 1/8		
	SD42		上節質上器	Ħ	口線:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	番・今				9.8	1.0	6.4 1/8		
	SD42		上節質上器	Ħ		□縁~底部:回転ナデ・マ/ ゾ	7.5YR7/6 橙色 7	7.5YR7/6 橙色	良好	中・策				8.8	1.0	6.5 2/8		
	SD42		上節質上器	Ħ	口線:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後ナデ?	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色]	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	番·今				63	1.1	7.3 17.8		
	SD42		上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	2.5YR7/6 橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良好	出・中				10.4	1.3 7	7.4 1/8		
	SD42		上節質上器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転ヘ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/4にぶい黄橙色]	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	報· 除				10.4	1.5 7	7.1 1/8 未満	框	
	SD42		上師質土器	湿	口線:回転ナデ、体部:指オサエ?ナデ	口縁:回転ナデ?体部:マハッ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	やや軟	番・今				14.2		1/8 未満	框	
	SD42		上師質土器	湿	口縁:回転ナデ、体部:指オサエ?ナデ	口縁~体部:回転ナデ?ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	番·今				15.7		1/8		
	SD42	- 1	上師質土器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	7.5YR7/4にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	± . ⊕				13.8		1/8		
	SD42		上師質土器	溪	底部:高台貼付後ナデ	底部:ミガキ	7.5YR7/3 にぶい橙色 2	2.5Y4/1 黄灰色	良好	中・少					r.C	5.3 8/8		
77 1	SD42		上節質上器	湿	底部:高台貼付・マメツ	底部:マメツ	5YR7/6 橙色	5YR7/6橙色	華	雅·今					ro	0 1/8		
- 12	SD42	. 7	瓦器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ後ミガキ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良好	無· 少				14.9		1/8 未満	- 新和泉型	
	SD42		瓦器	溪	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ後ミガキ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良好	細·少				14.4		1/8	和泉型	
1 77	SD42	.,	瓦器	潔	口線:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ・マメツ	口縁~体部:ナデ後ミガキ・マメツ	5Y5/1 灰色	5Y8/1灰白色	良好	番·今				15.4		1/8	和泉型	
	SD42		瓦器	邃	口縁: ヨコナデ・マメツ、体部: 指オサエ・マメツ	口縁~体部:マメツ	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	やや軟	無· 少				14.8		1/8	和泉型	
1 77	SD42		瓦器	湿	4	口縁~体部:ナデ後ミガキ・マ メツ	5Y5/1灰色	5Y5/1灰色	やや軟	番·今				16.3		1/8 未満	南和泉型	
	SD42		瓦器	湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサエ・ナデ、底部:高台貼付後ナデ	口縁~底部:ミガキ・格子状 暗文・マメツ	5Y4/1灰色	5Y4/1 灰色	やや軟	番·今				14.8	3.95	4.4 17.8	和泉型	
	SD42		瓦器	湿	口線:ヨコナデ、体部:指オサエ・ ナデ、底部:高台貼付後ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ、底 部:平行暗文	N4/ 灰色	N4/ 灰色	良好	⊕ · ⊕				14.6	4.3 5	5.0 1/8	和泉型	
	SD42	176	瓦器	潔		口縁~体部:ナデ後ミガキ、底部:格子状暗文	N5/ 灰色	5Y8/1灰白色	良好	盤・少				14.8	5.2 4	4.6 2/8	和泉型	
	SD42	Ī	白巖	潔		底部:施釉·沈線一条	7.5Y7/1 灰白色 (胎) 1	(乗)	良好					H	9	6.4 8/8	中国製	
	SD42	N-m	青磁	潔	口綠~体部:施釉	口緣~底部:施釉	10Y6/1灰色(胎)	5Y4/2 灰オリーブ色 (釉)	良好							1/8 未満	同安窯系	
	SD42	-	操	小家	体部: 施袖・櫛目文・下端露胎・ ケズリ、高台:ケズリ・露胎	体~底部: 施釉, 花文	5Y7/1灰白色(胎) 7	7.5Y5/3 灰オリーブ色 (釉)	良好							破片	同安窯系	
	SD42		十二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	景線	口線~鍔部:ヨコナデ、体部: 指オサエ・ナデ	口縁~体部:ヨコナデ・ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	粗・・旅						1/8 未謝	框	
	SD42		上師質土器	杰		口縁~体部:板ナデ?マメツ	2.5YR6/6 橙色 2	2.5YR6/6 橙色	兼	組・ボ		H		19.1		1/8 未満	框	П
	SD42	**	上節器	幮	口縁~頸部:回転ナデ、体部: ハケ後ナデ・回転ケズリ、底部: 指オサエ・ナデ	□縁~頸部:回転ナデ、体部 ナデ?底部:指オサエ・ナデ	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6 橙色	やや敷	· 拼				(9.1)	11.0	12.0		
	SD44	ľ	L. Assessed L. D.D.															•

第49表 土器観察表 (25)

遺物図	図版	1	Self-alore	ggs ata	羅龍	*61	色調		4 1		41			計測値((cm)	Apr. 492	并
		\dashv	\neg	nr 7.85	囲	I I	П	Н	7	石英・長石 角閃石	金融	結晶片岩	ш	器高原	底径 その他		C- III
1021	SD44	Ŧ		Ħ		口縁:回転ナデ	3色	绝		中・少			8.6			1/8	
1052	SD44	귀	上節質上器	Ħ		口縁:回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色 良好		中·少			8.6			1/8	
1053	SD44	Ħ	上師質土器 1	Ħ	口縁:回転ナデ、底面:回転へ ラ切り後ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色 良好		⊕ -÷			8.6	1.45	7.3	8/2	
1054	SD44	Ħ	土師質土器	Ħ	体部:回転ナデ、底面:マメツ	体~底部:回転ナデ?マメツ	争	争		中・少					8.9	1/8	
1055	SD44	Ħ	上師質土器	Ħ	: 糸切り	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色 良好		題·參					5.8	2/8	
1056	SD44	#	上師質土器	*	口縁:回転ナデ、底面:回転へ	口縁~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色 良好		⊕ · ⊕						1/8 米謝	
1057	SD44	Ħ	上師質土器	杯		口縁:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色 良好		中・少	無·少		12.6			1/8	
1058	SD44	Ŧ	П	杯	口縁:回転ナデ?マメツ	口縁:回転ナデ?マメツ	_			無· 少			12.4			1/8 未満	
1059	SD44	Ŧ		杯	口縁:回転ナデ?マメッ	口縁:回転ナデ?マメツ		管色		網·少			14.5			1/8 未満	
1060	SD44	Ŧ	上師質土器	华	\rightarrow	底部:回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色 良好		中·联					8.1	1/8	
1001	SD44	#	上節質土器	本	体部:回転ナデ・マメツ、底面: 回転へラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ?マメツ	7.5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色 軟	<u>a-</u>	中· 少					7.8	8/2	
1062	SD44	#	上部質土器	杯	体部:回転ナデ、底部:ナデ? マメッ	体~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色 良好		番·今					8.0	1/8	
1063	SD44	1	上師質土器	林	体部:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り?後板状圧痕	体~底部:回転ナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色 やや軟		第·今					7.4	1/8	
1064	SD44	1	土師質土器	林		体~底部:回転ナデ・マメツ	2.5Y6/2 灰黄色	7.5YR7/4 にぶい橙色 良好		出・中					6.3	4/8	
1065	SD44	Ħ	上師質土器	本		口縁~底部:回転ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色 良好		少.中					9.5	2/8	
1066	SD44	H	上節質土器	杯	体部:回転ナデ、底部:回転へ	体~底部:回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色 良好		要. 令					7.4	1/8	
1067	SD44	+	\top		ノツリ・女子ナーに総・回作ナデッフェッ	口部・フェッ	、带蹄布	、井路布		#:						那什 8/1	
1008	SD44	1 4	\top	36 150		二黎・ベイノ 二物・回席ナデ・フォッ		\neg	*	祖:祖			14.8			1/8 %(iii	
1069	SD44	1 1	\top	3 湿		原第:マメッ	黄橙色	黄橙色		4 料			01.7	+	4.8	1/8	
1070	SD44	Ħ	上師質土器	湿	底部:回転ヘラ切り後高台貼付・	底部:マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色 良好		中. 少					0.9	1/8	
1071	SD44	Ŧ	上師質土器	彩	底部:マメツ	底部:マメツ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2灰白色 軟	崇	無·少					6.7	1/8	
1072	SD44	#	土師質土器	婉	底部:回転ヘラ切り?後高台貼 底部:平行ミガキ・マメツ付・ナデ	底部:平行ミガキ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色 良好		弾・中					5.6	8/8	
1073	SD44	荆	上節質上器	影	体部:回転ナデ?底部:高台貼 付後ヨコナデ	体~底部:板ナデ・ナデ	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色 良好		湖· 場·					5.1	2/8	
1074	SD44	Ŧ	上師質土器	邃	底部:回転ヘラ切り後高台貼付・ パナデ	底部:平行ミガキ	2.5Y6/2灰黄色	25Y5/1黄灰色 良好		班・班					9.9	3/8	
1075	SD44	置	黒色土器	湿	底部:高台貼付後ナデ	底部:ミガキ	2.5Y4/1 黄灰色	2.5Y4/1 黄灰色 良好		中・今					6.4	1/8	B類
9201	SD44	(道)	須恵器	墨	口線:回転ナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:ミガキ	5Y7/1灰白色	5Y7/1灰白色 良好		少.中			17.3			1/8 未満	西村産
1077	SD44	獲	須恵器	潔	底部:高台貼付後ナデ・マメツ	底部:板ナデ?マメツ	25Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色 軟		細・旅					2.0	1/8	西村産
1078	SD44	須	須恵器	湿	体部:回転ナデ後ミガキ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:板ナデ後ミガキ	5Y7/1灰白色	10YR8/2 灰白色 良好		少.中					2.0	8/2	西村産
1079	SD44	瓦器		湿	口縁~体部:指オサエ・ナデ後 ミガキ	口縁~体部:ミガキ?マメツ	N5/ 灰色	N5/ 灰色 やそ	やや軟	乗・今			15.5			1/8 未満	和泉型
1080	SD44	瓦器		湿	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ L エ・ナデ	ž ž	N4/ 灰色	N4/灰色 やキ	やや軟	無· 今			15.8			1/8未満	和泉型
1081	SD44	瓦器		溪		口縁~体部:ナデ後ミガキ・平 行暗文	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色 良好		ン 悪・少			15.9			1/8 未謝	和泉型
1082	SD44	瓦器		毫	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ Lエ・ナデ	41-	N5/ 灰色	N5/ 灰色 良好		少. 中			14.8			1/8	權業型
1083	SD44	瓦器				底部:ミガキ?マメツ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色 良好		ф· ф					4.6	3/8	和泉型
1084	SD44	瓦器		湿	後ナデ	ナデ後格子状暗文			並	無·今					4.9		和泉型
1085	SD44	万器 出		湿岩		: : ガキ・マメツ				第 9 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				+	4.4		和泉型
9801	SD44	K K		36		ミガキナデ後平行階文・マメ				多 :				+	4.6		和泉型
1087	SD44	瓦器		毫	底部:高台貼付後ナデ	ノ・メーニョン・ノ			峚	悪・今 ・				+	4.6	8/2	和泉型
1088	SD44	瓦器		驱		底部:ナデ後ミガキ・平行暗 文	2.5Y4/1 黄灰色	2.5Y4/1 黄灰色 良好		細・珠					4.7	1/8	和泉型
1089	SD44	瓦器		邂	体部:指オサエ後ミガキ?マメ ツ、底部:高台貼付後ナデ	体~底部:マメツ	N5/ 灰色	578/1 灰白色 やそ	やや軟	乗・少					5.9	1/8	和泉型
1090	SD44	瓦器		湿	体部:指オサエ・ナデ・マメツ、 底部:高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後ミガキ・格 子状暗文・マメツ	25Y4/2 暗灰黄色	2.5Y5/1 黄灰色 軟	п.	中·	L				5.1	1/8	和泉型
1																	

(90)
十器額容表
年20米

通物 図	図版 遺構名	層位	種類	器標	羅鯧			色調	焼成		l ⊦			-	迴上		残存率	備考	
		Ţ			外画	内面	外画	1		石英·長石	角閃石	中半	結晶片岩	一条	報画・展	底径その他			
1001	SD44			濹	: 施釉	口縁:施釉		(乗)	良好					1		-	1/8 未満	中国黎	
1092	SD44			逐		口緑:施釉	7.5Y8/1 灰白色 (胎)		良好					14.8			1/8 未満	中国黎	
1093	SD44			溪		口祿:施釉	N8/ 灰白色 (胎)	<u></u>	良好					17.3			1/8未満	中国黎	
1094	SD44	J		潔		口縁:施釉	N8/ 灰白色(胎)		良好					15.5			1/8 未端	中国黎	
1095	SD44		白癜	溪		口縁:施釉	N8/ 灰白色 (胎)	7.5Y7/2 灰白色(釉)	良好					16.0	+		1/8	中国毅	
1096	SD44		日輟	潔	高台: 回転ケスリ後一部簡相、 高台内: 回転ケズリ・螺胎	底部:施釉	2.5Y8/1 灰白色(胎)	2.5Y7/2 灰黄色 (釉)	良好							5.9	3/8	中国黎	
1097	SD44		撥车	Ħ		口縁:施釉、底部:露胎	7.5Y7/1 灰白色	5Y6/2 灰オリーブ色 (軸)	良好					10.3			1/8	中国黎	
1	200			į		19 94 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	A STATE OF THE PARTY OF THE PAR	プ色						9	+	+	1	14	
1098	SD44			墨	影選弁文?	口祿~体部:施粕)						16.6			1/8 米鴻	中国総	
1099	SD44			湿	·櫛目文	体部:施釉・花文・点描文	N8/ 灰白色 (胎)	(乗)	良好					1		$\frac{1}{1}$	破片	中国製	
1100	SD44		國器			口禄:施釉	5YR4/2 灰褐色	2.5Y5/4 黄褐色	良好								1/8 未満	中国製褐釉陶	
1101	SD44		青白畷	令	口縁~受部:露胎、体部:施釉・ 連弁文、底面:露胎・ナデ?	口緣~底部:施釉	N8/ 灰白色 (胎)	10GY7/1 明緑灰色 (釉)	良好							42	8/2	中国級	
1102 4	45 SD44		瓦質土器	沿線		口縁~底部:ナデ?マメツ	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	やや軟	湯・暴							破片		
1103	SD44		土師質土器	緩		口縁:ヨコナデ・ナデ、体部: 板ナデ?	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	出							1/8 未満	外面媒付着	
1104 4	46 SD44		上節質土器	緩	口縁:指オサエ後ヨコナデ、体部:板ナデ?後ナデ	1ナデ、体部:板ナデ・	2.5Y4/1 黄灰色	10YR6/4にぶい黄色	良好	中		第 令		26.7			3/8	内外面媒付着	
1105	SD44		上師質上器	火鉢?	ナデ		7.5YR5/3にぶい褐色		良好	井・珠							破片		
1106	SD44		土師質土器	火鉢?	脚部:指オサエ・ナデ		7.5YR5/3 にぶい褐色		良好	中・法							破片		
1107	SD44		土師質土器	足釜	脚部:指オサエ・ナデ	底部:板ナデ?マメツ	10YR8/3 浅黄橙色		良好	中・東							破片		
1108	SD44		點	簡			10YR8/4 浅黄橙色	浅黄橙色	やや軟	4						9.3	2/8		
6011	SD44		T	* 2	, ×	体~底部:ナデ?マメツ □2: デ , ; ;	N5/ 灰色		かな数	H +				+	+	19.1	据 4 9 7		
0111	SD44		Ĉ#	4	口線:ナケパマメツ 口部 ・ 口部 ・ 口部	□数: 板ナア・ナア□ 24 24 15 15 16 16 17 17 17 18 18 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	Nb/ 水岜		かか製	<u></u>				+	+	+	1/8 米第		
1111	SD44		須恵器	繊		ロ	2.5Y7/1灰白色	25Y7/1灰白色	良好	果·今							1/8 未消		
1112	SD44		須恵器	御	顕部:回転ナデ、体部:格子タ タキ	頸~体部:回転ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良好	÷ ÷							1/8 未銷	十瓶山周辺窯産	
1113	SD44		須恵器	杯蓋	口縁:回転ナデ	口縁:回転ナデ	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2 灰白色	良好	中· 小				10.8			1/8		
1114	SD44		須恵器	杯身	_	口縁~体部:回転ナデ	5Y8/1灰白色	5Y8/1灰白色	やや軟	無·少				13.0			1/8		
1115	SD44		上師器	妆	口線~体部:ヨコナデ、底部: マメツ	口縁~底部:ヨコナデ	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	雅· 今				12.8	3.2	10.2	1/8	内面赤彩	
1116	SD44		須恵器	御		体~底部:回転ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良好	⊕						9.6	1/8		
1117 4	45 SD44		須恵器	盤		体部:回転ナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良好	・ 果							1/8		
1128	SD45		上節質土器	潔		底部:マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや軟	要. 净						5.1	8/2		
1129	SD45		瓦器	潔		底部:マメツ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	華	中・珠						4.8	1/8	地方産?	
1130	SD49		上節質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底面:回転へ ラ切り	口縁~底部:回転ナデ後ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	良好	÷.				8.2	1.4	8.9	8/8		
1131	SD50		上部質土器	湿	口縁~体部:回転ナデ後ミガキ	口縁~体部:回転ナデ後ミガ キ	5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良好	東. 今							1/8 未満		
1132 4	47 SD50		瓦器	婉		口縁:回転ナデ後ミガキ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良好	細·少				15.3			1/8未満		
1133	SD51		弥生土器	櫥	体部:板ナデ・マメツ、底部: ナデ?マメツ	体~底部:指オサエ・ナデ・板 ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	良好	· 排						5.4	8/8		
1134	SD52		弥生土器	影	口線~頸部:ヨコナデ、体部: タタキ・ハケ後ナデ?マメツ	口線: ヨコナデ、体部: ハケ 後ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	♦				14.2			1/8		
1135	SD52		十二	影	口縁~頸部:ヨコナデ	1ナデ、頸部:指オ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色	良好	井・井				17.5			1/8 米灣		
1136	SD52		弥生土器	益	ナデ	体~底部:板ナデ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	♦						3.6	8/8		
1137	SD53		弥生土器	影	体部:ミガキ・マメツ、底部: マメツ	体~底部:ケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙色	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	⊕	組・能	一条				6.4	1/8	香東川下流域産	
1138	SD54			湿			2.5Y8/2 灰白色		良好	乗・今・		П		H	H	4.8	1/8	和泉型	
1139	SD57		\neg	湿			N5/ 灰色		良好	乗・						5.1	1/8	和泉型	
1140	SD68		上節質上器	Ħ	口縁・凹靶ノノ、 &即・凹靴・ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/3 にぶい 黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	· 录 ·				7.8	1.3	8.9	4/8		

第51表 土器観察表 (27)

遺物 図版 番号 番号	図版 遺構名 番号	層位	種類	器種		松田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	(色調	10000000000000000000000000000000000000	焼成	7# - 12	服工	15年	# 11 11	計画 200	逦一	4 #	残存率	備考
1	$\overline{}$	\downarrow		\top	回指入	NE P				Δ×. ×α	AMM	Т	福田八 在	Tip.	X)	での1個	t	
	SD68		上師質土器	=		口縁~底部:回転ナデ・ナデ	10YR7/4にぶい黄橙色 1	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	無·少				8.1	1.5 6.6	8/8	8	
1	SD68		瓦器	濹	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後輪状ミガキ	5Y6/1灰色 5	5Y6/1灰色	良好	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					3.7	3/8		和泉型
47	7 SX01		上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ・ナデ	7.5YR7/6 橙色 7	7.5YR7/6 橙色	良好	母				10.5	2.0 7.1	8/8	8	
1	SX01		上節質土器	并		体~底部:回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色 1	10YR8/4 浅黄橙色	良好	無· 少·					7.4	1/8		
1	SX01		上師質土器	*	口線:回転ナデ	口縁:回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色 1	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	雅・今				13.4		1/2	1/8 米謝	
П	SX01		土師質土器	茶	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色 1	10YR8/3 浅黄橙色	良好	中・小			П	12.8		1/3	1/8 未満	
	SX01		土師質土器	# ?	体部:マメツ、底部:回転ヘラ 切り・マメツ	体~底部:マメツ	2.5Y8/2 灰白色 2	25Y8/2 灰白色	やや敷	÷.					4.6	2/8	∞	
1	SX01		上節質土器	毕		体~底部:回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	良好	ф· ф.					6.8	1/8		
1	SX01		上節質土器	潔	体部:回転ナデ、底部:高台貼 44条ナデ	体~底部:回転ナデ?マメツ	10YR5/2 灰黄褐色 7	7.5YR5/2 灰褐色	良好	♦ · ⊕					5.3	2/8		内外面媒付着?
	SX01		須恵器	潔		口縁~体部:ハケ・ナデ	2.5Y8/2 灰白色 2	2.5Y8/2 灰白色	やや軟	中・今	İ		T	14.4		2/8		十瓶山周辺窯
	SX01		瓦器	影	底部:高台貼付後ナデ	底部: 格子状暗文	N3/ 暗灰色 7	7.5Y4/1 灰色	良好	細·少					4.4	2/8		和泉型
	SX01		对器	Ħ	口縁:ヨコナデ、底部:指オサ エ・ナデ	口縁~底部:マメツ	N4/ 灰色	N5/ 灰色	良好	票·今				8.5			1/8 米端	和泉型
1	SX01		上師質土器	益	口縁:ヨコナデ・沈線1条、体 部:指オサエ・ナデ?	口縁~体部:マメツ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	番・多						2	1/8 米蒲	
1	SX01		上師質土器	癌		口縁~頸部:ヨコナデ、体部: 板ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中						12	1/8 未満 夕	外面媒付着
1	SX01		土師質土器	癌	口縁:ハケ後指オサエ・ヨコナ デ、頸部:ハケ後ナデ	口縁~頸部:ヨコハケ	10YR4/3 にぶい黄褐色 1	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	母・湯		番 ※				Z	1/8 米謝	
1	SX01		土師質土器	足器		体部:板ナデ	10YR7/1 灰白色 1	10YR8/2 灰白色	良好	± ※	- NE	盤· 少			L	破片	士	
ı	SX01		土師質土器	日袋	・ 脚部:指オサエ・ナデ	体部:ヨコハケ	10YR6/3 にぶい黄橙色 7	7.5YR8/3 浅黄橙色	良好	・・・・						破	破片	
- 13			焼締陶器	影	体部:ナデ後押印文・自然釉	転ナデニ・1000円		10YR5/2 灰黄褐色	良好	相·斯				007		()		常滑焼
유	5X01		20 日 日	目だ	口縁:ヨコナデ:体部:マメッ	□縁・ヨゴナナ : ベメツ □縁~体部:マメツ	5YR6/6精色	51 K5/6 明亦物巴 57 R6/6 稽色	良好	臣 - 今				140		2 2	1/8 米謝	
1	SX01		週 単 記 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	: #		体~底部:回転ナデ		5Y6/1灰色	かや軟	· 令 ·					7.5		振光 8/1	
	SX03		中国椰十路			然:回帳十子	5年	10VR7/3 にぶい昔稽色	自好	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				98	12 73			
- 1	CONS		田一大田田十二日	\top	ラ切り後ナデロ4:04:04:04:04:04:04:04:04:04:04:04:04:04			10VD7/9 (2 %) 李载你	24 1	\ \			1				1/0 中條	
-1	SAUS		出版計画		ロ様・回覧ナナ 体部: 回覧ナデ - 研約: 回覧へ			101 K1/3 にかい異位に	K !	± .				14.4			E X	
	SX03		上師質土器		1	体~底部:回転ナデ		10YR8/3 浅黄橙色	良好	⊕ .⊕					7.8		∞	
П	SX03		土師質土器	-	底部:糸切り後ナデ		^橙色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	単・単					9.1		\Box	
- 1	SX03		須恵器	潔		第:板ナデ	2.5Y8/2 灰白色 2	2.5Y8/2 灰白色	やや軟	中・少				16.2		7	1/8 未満 十	十瓶山周辺窯産
	SX03		瓦器	潔		□緑~体部:ナデ後ミガキ・マ メツ	N4/灰色	N4/ 灰色	良好	中・中				14.6		1/1	1/8 未満 和	和泉型
	SX03		瓦器	潔	口縁:ヨコナデ、体部:指オサ エ・ナデ	口縁~体部:ナデ後ミガキ	5Y4/1 灰色 5	5Y4/1 灰色	良好	番・今				14.8		1/8		和泉型
1	SX03		瓦器	潔	体部:指オサエ・ナデ、底部: 高台貼付後ナデ	体~底部:ナデ後輪状ミガキ	25Y7/2 灰黄色 2	2.5Y7/2 灰黄色	良好	ф. ф.					5.1	1/8		和泉型
1	SX03		瓦器	潔	底部:高台貼付後ナデ	底部:ナデ後平行暗文	N5/ 灰色 N	N5/ 灰色	良好	無·少					4.9	1/8		和泉型
	SX03		瓦質土器	恭	□緑~体部:指オサエ・ナデ? マメツ	口縁:ヨコナデ?体部:板ナデ?マメツ	5Y5/1灰色 5	5Y5/1 灰色	やや軟	世				50.9		2/8	∞	
	SX03		上師質土器	瘍	口線:指オサエ後ヨコナデ、体 部:指オサエ後板ナデ・ナデ、 底部:格子タタキ後板ナデ	口線:ヨコナデ、体部:板ナデ・ハクリ	7.5YR7/4 にぶい橙色 7	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	乗・乗				35.4		1/1	1/8 未満 体	体部外面媒付着
ı	SX04		須恵器	杯身	受部:回転ナデ、底部:回転ナ デ・回転ケズリ	受部~底部:回転ナデ	5Y7/2灰白色 5	5Y7/2 灰白色	良好	◆・中				12.4		1/8	8	
ıl	SD27		須恵器	片口鉢		口縁~体部:回転ナデ	7.5Y6/1 灰色 7	7.5Y6/1 灰色	良好	中・小						1/3	1/8 未満 東	東播系
			上師質土器	Ħ	口縁:回転ナデ、底部:回転へ ラ切り後板状圧痕・ナデ	口縁~底部:回転ナデ	10YR7/4にぶい黄橙色 1	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	÷. ÷.				8.0	1.3 6.1	2/8		
1			須恵器	船	脚部:回転ナデ・沈線2条・波 状文		5Y4/1灰色 2	2.5Y6/2 灰黄色	良好	乗・今						1/1	1/8 米謝	
			上節質上器	茶	口縁~体部:回転ナデ?マメツ	口縁~体部:回転ナデ?マメッ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	やや軟	⊕				12.1		1/1	1/8 未満	
			黑色土器	湿	底部:高台貼付後ナデ	底部:板ナデ後ミガキ?マメ ツ	2.5Y4/1 黄灰色	2.5Y7/2 灰黄色	良好	÷.					5.4	1/8		
1						#	100 - # 11	品等 (02)										

第52表 土器観察表 (28)

1985 1985	海物 四条	図版 遺構名 番号	層位種類	器種	组	調整中中	色調	加	焼成	7. 第二年	胎士	44年) H H H B H	計測値	(cm)	70年	残存率	備考
Marche March			B 7 88 89 7	1	五 八 八 十 八 二 二 二 二	Eナデ後ミガキ?マ			29 (2	Į.	╀	-	-	+-	\neg		#5.4	
March Marc	7811		上部 演 上部	\neg	口線:回転ナブ				良好	乗・分			-	6.4		1/8	海米	
18.00 18.0	1183		黑色土器	潔	口線:回転ナデ・マメツ			10YR6/1 褐灰色	やや軟	中・少			-	5.2		1/8	8 朱鴻	
1989 1988 1988 1988 1988 1988 1989	1184		土師質土器		口線:回転ナデ、体部:指オサ ユ	□縁∼体部:ミガキ			良好	番・今・						1/8	無米8	
	1185		須恵器	Ħ	口縁:回転ナデ				良好	無·少			-1	5.3		1/8	8 朱端	
Contribution Cont	1186	包含層等	上節器	那杯		杯部:マメツ			良好	無·今			1	2.2		2/8	~	
	1187	包含層等	須恵器	矣	体部:回転ナデ、底部:回転~ ラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ			良好	± -÷					8.0	1/8	無米 8	
1998年	1188	包含層等	上師賞土器		体部:回転ナデ、底部:回転ペラ切り後ナデ	体~底部:回転ナデ			良好	ф· -					7.2	1/8	~	
	1189	包含層等	上師質土器		底部:高台貼付後ナデ?マメツ	底部:マ			良好	細·莊					9.6	1/8	~	
19 日本の後後 19 日本のを後 19 日本の後後 19 日本の後後を使きままままままままままままままままままままままままままままままままままま			黑色土器	潔	口縁~体部:マメツ、底部: 台貼付後ナデ?	口縁~底部:ナデ?後ミガキ			良好	⊕ •÷						2/8	~	
	_		施釉陶器	皗	体部:施釉	体部:回転ナデ・露胎	钿	(器)	良好	番· 令·						後	dr	
(1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2		\top	縄文土器	総	\top		a		良好	+ %		+				1/8	無米 8	
20条9			縄文土器	淡珠		口縁~体部:ナデ?マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙色 1		良好	+ ※ ・						1/8	※米	
20.60 日本			弥生土器	崇	口線:ヨコナデ・凹線4、頸部 ヨコナデ・マメツ	口縁~劉部:ヨコナデ・マメッ	10YR7/3 にぶい黄橙色 1		良好	ф· +				9.2		1/8		緣部外面赤彩
1982年 19	1195	包含層等	弥生土器	高杯		杯部上半:ヨコナデ、杯部:下 半:マメツ			良好	中・旅			_ m	2.6		1/8	8 米鶏	
20.600	1196	包含層等	弥生土器	恭	口線~体部:板ナデ・ナデ・ メツ、底部:ナデ?マメツ	口縁~底部:ナデ・指オサエ			良好	中・参			1			3/8	~	
2.68 2.68 2.68 2.69	1197	包含層等	土師質土器		۵.		10YR7/4 にぶい黄橙色		良好	中・少						破户	dr.	
4. 2 公子 2 公	1198	包含層等	須恵器	뀨		口縁~体部:回転ナデ			良好	中・少						1/8	-	播系
公会を始後 日本語 (1887)	1199	包含層等	瓦器	Ħ	口線:ヨコナデ、底部:指オキ エ・ナデ	口縁:ナデ後ミガキ、底部:ナ デ後平行暗文			良好	無· 令·						1/8		泉型
協会報等 日曜、編集 日曜、海県 日曜、海県			瓦器	Ħ	口縁:ヨコナデ、底部:指オキエ・ナデ	口縁~底部:ナデ後ミガキ・格 子状暗文			良好	番. 令						2/8		泉型
40 日	1201	包含層等	中級	潔	口縁:施釉	口綠:施釉	(器)	(乗)	良好			H	1	4.5		1/8		国製
20会報等 白部	1202		一種	Ħ	体部:回転ナデ・露胎、底部 糸切り・露胎	: 施釉			良好						3.2	2/8		国徽
(公務等) 白経 (AR)	1203	包含層等	白磁	潔	口禄~体部:施釉		(開)	(報)	良好							1/8		国製
4. 古の子が	1204		日輟	邃	口縁~体部:施釉				良好				1	6.4		1/8		国製
包含物等 日配 No. Factors Table (No. 1) ASSTANCE (No. 1)	1205	\neg	遊り	逐 ;	口緣~体部:施袖	沈徽1条			良好	+	+	+		5.9		178	- 1	軍
位所勝等 白曜 96 44-56 10-5	1206	10分配 华		3 3	□ 後: 衛権 4 「保治・ 厄門 ケンニ 解写	五	(E)	5Y8/2 灰田色 (着) 7EV7 / 3 压凸条 (焊)	良好		+	+	+	5.9		1,8		国 国
位を勝等 白磁 碗 体部一統件: 結構・充利・源約 NSV 反白色(術) 5578.7 以下白色(術) 以好 公子 258 3.8 3.8 47 包含粉等 白磁 碗 指標 商品・大利・源約 1287/3 後換色(術) 1078.7 以下白色(物) 良好 6 6 5 8 3.8 3.8 包含粉等 白磁 碗 口標・格面・施輸 口標・施輸 1078.7 以下白色(物) 1078.7 以下白色(物) 1047 6 6 7 <td>1208</td> <td>20 00 00 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44</td> <td></td> <td>3 3</td> <td>本~低即・回転/クリ、路加 体~高台:回転ケズリ・霧胎</td> <td>· 加袖、化縣 1 米 · 柏軸· 沈徽</td> <td></td> <td>(SI 1/2 灰百色 (袖) 25Y7/2 灰黄色 (釉)</td> <td>良好</td> <td></td> <td></td> <td>+</td> <td></td> <td></td> <td>99</td> <td>3/8</td> <td></td> <td>展</td>	1208	20 00 00 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44		3 3	本~低即・回転/クリ、路加 体~高台:回転ケズリ・霧胎	· 加袖、化縣 1 米 · 柏軸· 沈徽		(SI 1/2 灰百色 (袖) 25Y7/2 灰黄色 (釉)	良好			+			99	3/8		展
40 包含陽等 白髭 翰森 格腊· 總難、 總性 海上 次則 大路 () () () () () () () () () (1209	包含層等	日輟	器	体部~高台:ケズリ・露胎	体~底部:施袖·沈線		5GY8/1 灰白色 (釉)	良好			H		H	6.2	3/8		国製
包含層等 白磁 級 口線一体部:結構 「578.7 R.P.B. E (備) 1078.1 R.P.B.E (M) 1077.2 R.P.B.E (M)	1210		撥口	潔	体部:施袖、高台:ケズリ・- 部施釉	体~底部: 施釉·沈線		10Y8/1 灰白色 (釉)	良好						5.8	3/8		国
包含廢學 白經 職 口線<本格部: 施輪 口線<本格部: 施輪 ToPYAN DK 白色 (協) GOYAN UP オリーブR (政) QK QK A A A A A A A L (B) A D A A A A D A A D A A D A A D A <td>1211</td> <td>包含層等</td> <td>日盛</td> <td>湿</td> <td>口綠~体部:施釉</td> <td>口綠~体部:施釉</td> <td>(帰)</td> <td>相)</td> <td>良好</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1/8</td> <td></td> <td>国製</td>	1211	包含層等	日盛	湿	口綠~体部:施釉	口綠~体部:施釉	(帰)	相)	良好							1/8		国製
包含廢學 白經 院 口線: 施桶 口線: 施桶 口線: 施桶 口線: 施桶 1.8 未満 1.8 未満 40 色廢學 施桶兩份 不明 口線: 短桶 「水子/A」 「水子/	1212	包含層等	福田	潔	口緣~体部:施釉		(器)	ープ医	良好							1/8		国黎
46 包含廢藥 磁輪胸隔 添明 不明 口線: 短期上 日本 (本) 1.8 未満 1.8 未満 47 包含廢藥 指白融 香子(新): 回板十子・霧胎、高白: 体~底部: 回板十子・霧胎 7.5 Y/A K 白色(指) 1.6 Y/S J 明線形色(指) 良好 8.8 1.8 未満 47 包含廢藥 青白磁 百.			白磁	蒸	П		灭白色 (胎)	(報)	良好							1/8		国製
包含層等 施輪陽器 強? 存本: □原本·子·業品、高台: (本 - 成部: □版本·子·業品、高台: (本 - 成部: □版本·子·業品、高台: (本 - 成部: □版本·子·業品、高台: (本 - 成部: □版本·子·業品、高台: (本 - 成部: □版本· 本 - 页 - 成部: □版本· 本 - 页 - 页 - 页 - 页 - 页 - 页 - 页 - 页 - 页 -		\neg	路線	人 思			こぶい橙色		良好							1/8		国黎
47 包含廢俸 青白經 合子 Li線: 施舶·端部露胎、天井: 口線: 施舶·適配子、天井: 5V8.1 灰白色(胎) 10CY8.1 明線版色(柏) 良体 10 1.8 1.8 2.8 包含廢俸 青醛 III 口線·体部: 施舶 日線·施柏 NV/ 灰白色(胎) (桶) 1.6 9.9 1.8 1.8 包含廢俸 青醛 III 日禄·施柏·施柏·施柏·施柏·施柏·加州·加州·加州·加州·加州·加州·加州·加州·加州·加州·加州·加州·加州·	1215	包含層等	施釉陶器	樹			7.5Y7/1 灰白色 (胎)		良好						8.8	1/8		国褐釉陶器
包含陽等 青盤 III Chiết hiệt hiệt Chiết hiệt hiệt (Tay 7A) Ri thê (th) (Tay 7A) Ri thê (th) (Tay 7A) Ri thê (th) (Tay 7A) A (th) <			青白輟	令	口線: 施袖·端部露胎、 施釉			(乗								2/8		国黎
包含層等 有磁 III 口線:婚輪 口線:婚輪 NT/形戶台(協) (清S/G/3 + 1) - 7 数色(操) QG P 1/8 1/8 包含層等 青磁 原 口線 - 体部:始輪・博自文 口線 - 体部:結輪・指文 7.577/月 灰白色(協) 所線(編) 以好 1/6 1/8 1/8 包含層等 青磁 碗 口線 - 体部:結軸 工線 - 体部:結軸 花線・作 1/8 1/8 1/8 1/8	1217	包含層等	青磁	目	口綠~体部:施釉		(帰)							0.2		1/8		安徽系
包含層等 青磁 III 体~底部: 施軸・勝目文 L級一体部: 施軸・地面文 NZ/灰白色(指) 明緑色(油) 良好 1.8 未満 1.8 未満 包含層等 青磁 商 口線~体部: 施軸・地目文 口線~体部: 施軸・沈文 7.577.71 灰白色(指) (輪) 1.6 1.78 包含層等 青磁 碗 口線~体部: 施軸 2.4 1.077.71 灰白色(指) (輪) (輪) 1.78 1.78 1.78	1218	包含層等	青盛	Ħ	口禄:施釉			ーブ黄色						6.6		1/8		泉窯系
2g 2g 2g 2g 2g 2g 2g 2g	1219	包含層等	撥集	Ħ	体~底部: 施釉	:施釉・櫛歯文	(器)		良好							1/8	П	泉窯系
2合層等 青盛 碗 口線~体部:施輪 沈線 花 10Y7/1灰白色 (胎) 7.5X6/3 オリーブ黄色 良好 1.48 1.78 1.88 1.78 1.88 1.78 1.88 1.78 1.48 1.78 1.78 1.78 1.78 1.48 1.78 1.78 1.78 1.78 1.78 1.78 1.78 1.7	1220	包含層樂	撥和	潔	口緣~体部:施釉·櫛目文	:施釉・花文	7.5Y7/1 灰白色 (胎)	ープ単色						9.9		1/8		安窯系
	1221	包含層等	撥和	潔	口緣~体部:施釉	8: 施釉·沈線·花	10Y7/1灰白色(胎)	- ブ黄色	良好					4.6		1/8		安窯系

華	Cr 8M	龍泉窯系	同安窯系	外面媒付着		東播系	古瀬戸天日碗	龍泉窯系	同安窯系	龍泉窯系	龍泉窯系	中国製	中国製											中国製	中国製	中国製	龍泉窯系	龍泉窯系	龍泉窯系	
瑞在冰		1/8未満	8/8	8/2	2/8	1/8 未満	1/8 未満	1/8	1/8 未満	1/8 未満	1/8 米瑞	1/8 未満	8/2	1/8	1/8	1/8 未満	2/8	破片	3/8	1/8	破片	2/8	1/8 未満	1/8 米謝	1/8 未満	1/8	1/8 米瑞	1/8 未満	1/8 米瑞	1/8 未満
	その他																			01			~			2				
(m) 專	底径		4.4					4.0												15.2			5.8			6.7				5.2
計測值	唇器	03		15.8	12.8		4.			15.4	15.2	14.9	3.0	9.61	16.8	15.4	15.1					8.1		15.4	16.8		10.6	8.6	15.6	
	岩 口径	16.0		15	12		12.4			15	- 11	14		16	91	151	15							15	16		01		15	
	結晶片岩																													
41	金金			番・今														細·少												
器士	角閃石																													
	石英·長石			料	Ą	Ą								W	4	捌	拼	並	4	张	Ą	Ą	÷.							
				中	中	中・小								中·多	中・中	雅·斯	班 中	中・薬	中 ・	弾・中	⊕	± .÷	暴							
世期	WENX.	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	かや軟	良好	やや軟	やや軟	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好
色調	内面	7.5Y6/3 オリーブ黄色 (釉)	10Y6/2オリーブ灰色 (釉)	10YR6/3 にぶい黄橙色	N6/ 灰色	N6/ 灰色	2.5Y3/2 黒褐色 (釉)	2.5GY5/1 オリーブ灰色 (釉)	7.5Y6/3 オリーブ黄色 (釉)	5Y6/3 オリーブ黄色 (釉)	5Y6/3オリーブ黄色 (釉)	5Y8/2 灰白色(釉)	2.5Y6/3 にぶい黄色 (釉)	5Y4/1 灰色	10YR8/3 浅黄橙色	7.5YR7/4にぶい橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR6/4にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2.5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	明緑色 (釉)	25GY7/1明オリーブ灰 色 (釉)	10Y7/1 灰白色 (釉)	10Y8/1 灰白色 (釉)	25GY7/2 明オリーブ灰 色 (釉)	5GY6/1オリーブ灰色	10Y5/2 オリーブ灰色 (釉)	明緑色 (釉)
鱼	外面	10Y7/1灰白色(胎)	5Y7/1 灰白色 (胎)	10YR6/3 にぶい黄橙色	1 N6/ 灰色	N6/ 灰色	5Y8/2 灰白色 (胎)	N8/ 灰白色 (胎)	5Y7/1 灰白色 (胎)	5Y7/1 灰白色 (胎)	5Y7/1 灰白色 (胎)	2.5Y8/2 灰白色 (胎)	8 N8/ 灰白色 (胎)	5Y4/1 灰色	7.5YR6/4にぶい橙色	- 7.5YR7/4にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	5YR7/6橙色	2.5Y6/6橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	N7/ 灰白色 (胎)	N8/ 灰白色 (胎)	2.5Y8/2灰白色 (胎)	N8/ 灰白色 (胎)	N8/ 灰白色(胎)	7.5Y8/1 灰白色(胎)	10Y8/1 灰白色 (胎)	1 N8/ 灰白色 (胎)
調整	内面	口線~体部:施釉·分割線·飛雲文	体~底部:施釉	口縁:ハケ後ョコナデ、体部: ケズリ	口縁~底部:回転ナデ・沈線 1	口縁~体部:回転ナデ	口綠~体部:施釉	口祿~底部:施釉	体部:施釉・花文・点描文	口綠~体部:施釉	口縁~体部:施袖・花文	口綠~体部:施釉	口縁~底部:回転ナデ・一部 施釉	口縁~体部:マメツ	口縁:ヨコナデ、頸部:板ナデ・ 指オサエ・ナデ	□縁~顕部:ハケ・板ナデ後 ヨコナデ	口縁~頸部:ハケ後ヨコナデ・ ナデ	杯部:マメツ	脚柱部:シボリ目後ケズリ、脚 裾部:マメツ	脚裾部:ナデ?マメツ	顕部:ヨコナデ、体~底部:指 オサエ・ナデ	□線~頸部:マメツ、体部:ナ デ	底部:施釉	口線~体部:施釉:沈線1	口綠~体部:施釉	体~底部:施袖·沈線	口緣~底部:施釉	口縁:施釉	口禄~体部:施袖·沈線1	体~底部:施釉、高台内:施 釉
龍	外面		体部:施袖・櫛目文、底部:露胎・ケズリ	口縁:ヨコナデ、体部:ハケ	口縁~底部上半:回転ナデ、底 部下半:回転ケズリ	口縁~体部:回転ナデ	口縁~体部:施釉・回転ナデ	口縁: 施釉、底部: 回転ケズリ・ 露胎	体部:施袖・櫛目文	口綠~体部:施釉	口禄~体部:施釉	口綠~体部:施釉		口縁:沈線2条、体部:マメツ	□縁~頸部:ヨコナデ・凹線2	口縁~顕都:ヨコナデ・タテハ ケ	口縁~頸部:ハケ後ヨコナデ	杯部:ナデ・マメツ	脚部:マメツ	脚裾部:ミガキ・マメツ	類~底部:ヨコナデ?マメツ	口縁~体部:マメツ	底部: 施釉・高台貼付後ケズ リ?、高台端: 露胎	口綠~体部:施釉・縦櫛目文	口縁~体部:施釉	体~底部:回転ケズリ・露胎	口縁~底部:施釉	口縁:施釉		体~高台:施釉、高台端:露胎
岩標	nr 12E	娫	碗	影	松身	片口鉢		Ш	99E	99E	溪	潔	亞	滋味	広口壺	影	影	高杯	司杯	高杯	小型丸 底土器	小型丸 底土器	溪	湿	湿	腕	Ħ	杯	婉	婉
新相	1H-AH	凝集	青磁	上節器	須恵器	須恵器	施釉陶器	青磁	青磁	青磁	海海	白磁	白磁	縄文土器	弥生土器	上部器	上部器	上師器	上前器	弥生土器	上町器	上町器	綠釉陶器	撥	日徽	白磁	強率	青磁	青磁	青磁
12			a:	- 1			,		9.5	9.5	a -			nE.		i i			- 1	.27					Ī		-			
版		包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等	包含層等

(53)
土器観察表
53 素
紙

	_				_				
備考			端部スラグ付着、土器発泡			端部スラグ付着、土器発泡	端部スラグ付着	外面黑化・発泡	
残存率		完存	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片
	重量	9.0	1.7	0.3	2.9	2.8	33	3.7	
(g .	(孔径			1.3			97	60	.0
]值 (cm	最大厚	0.	2.2		2.3	2.0			2.6
計測	最大幅	4.8	9.9	1.7	5.7	5.0	2.8	8.6	7.0
	現存長	4.5	5.9	3.9	5.5	4.3	3.5	11.1	
	金金				置·参				
124	角閃石								
	石英·長石	中・少	単・中	羅·今	± · %	中・参	瀬· 薬	粗·斯	中・参
七岁		良好	良好	やや軟	良好	良好	良好	良好	良好
鰡	内面	10YR8/2 灰白色	10YR7/4にぶい黄橙色		7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/6 明黄褐色	5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	5YR6/4 に ぶい橙色
导	里%	7.5YR8/3 浅黄橙色	5Y6/1 灰色	7.5YR8/4 浅黄橙色	2.5Y7/2 灰黄色	7.5Y5/1 灰色		10Y3/1 オリーブ黒色	5YR6/4 にぶい橙色
調整	内面	指オサエ・マメツ						ナデ?	
	外面	マメツ	ナナ	ナナ	ナデ	ナデ	ナデ?	ナデ?	ナナ
鉄品	6047年	土製紡錘車	地口	不明	加口	地口	羽口	地口	13日
型棒 砂塘	御海	弥生土器	フイゴ	不明土製品	フイゴ	フイゴ	フイゴ	フイゴ	フイゴ
4720	711111								
	国第4	SR01	SK68	SK68	SD31	SD31	SD33	SD38	SD42
i in the	- 는 전 전 전 전 전 	42	4			,,,		3	2
遺物	华,	88	529	530	745	746	761	843	1045

第54表 土製品観察表

1253 46

遺物	図版	遺構名	層位	器種	調整	色調	焼成		胎士	:			計測	値(cm・	g)		残存率	備考
番号	IZITIK	退得有	AR IV.	6計1里	p阿 35E	巴門	7,96,14%	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	現存長	長径	短径	孔径	重量		
160	47	SB04(SP231)		棒状土錘	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	中・並				3.9	1.5	1.4	0.45		欠損	
171		SB06(SP555)		棒状土錘	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	中・並				2.3	1.3	1.1	0.4		欠損	
531	47	SK68		棒状土錘	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中・並				3.1	1.6	1.4	0.45		欠損	
567	47	SK83		管状土錘	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	中・少				3.5	1.7		0.6		ほぽ完存	
681		SD12		棒状土錘	ナデ・マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	中・並	細・並	細·少		3.5	1.1	1.0	0.4		欠損	
690	47	SD14		棒状土錘	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	中・少				4.7	1.3	1.2	0.35		欠損	
707	47	SD18		棒状土錘	ナデ・マメツ	10YR8/2 灰白色	良好	中・多				4.1	1.4	1.05	0.4		欠損	
744	47	SD31		棒状土錘	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	中・並				5.1	1.4	1.2	0.5		欠損	
758		SD32		棒状土錘	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	中・少				4.2	1.3	1.2	0.35		欠損	
759	47	SD32		棒状土錘	ナデ	7.5YR6/6 橙色	良好	中・少				4.7	1.6	1.5	0.45		欠損	
864		SD38		棒状土錘	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	やや軟	中・少				3.3	1.1	0.9	0.35		欠損	
865	47	SD38		棒状土錘	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中・並				5.3	1.6	1.9	0.45		欠損	
866		SD38		管状土錘	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	細・少				3.5	1.15		0.32		ほぽ完存	
867	47	SD38		管状土錘	ナデ	2.5Y8/3 淡黄色	良好	細・少				5.1	1.2		0.35		欠損	
868		SD38		管状土錘	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	中・多				5.1	2.2		0.5		欠損	
869	47	SD38		管状土錘	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中・少				5.9	4.5		1.6		欠損	
1000	47	SD39		土錘	ナデ・マメツ	10YR8/6 黄橙色	やや軟	粗・少				5.1	1.3		0.3		ほぽ完存	
1001		SD39		棒状土錘	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中・並				3.5	2.3	1.6	0.7		欠損	
1002	47	SD39		棒状土錘	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	細・少				4.9	2.6	2.1	0.6		欠損	
1003	47	SD39		棒状土錘	ナデ	2.5Y5/1 黄灰色	良好	中・並				4.8	2.5	2.4	0.8		欠損	
1044	47	SD42		棒状土錘	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	中・並				3.8	1.4	1.3	0.4		欠損	
1118	47	SD44		土錘	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	中・並	細・少	細·少		5.0	1.6	1.5	0.4	13.31	欠損	
1119		SD44		土錘	ナデ	10YR4/1 褐灰色	良好	中・少				4.6	2.5	2.1	0.55	28.45	欠損	
1120	47	SD44		土錘	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	中・並				5.8	1.5	1.4	0.3	13.09	欠損	
1162		SX01		棒状土錘	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	細・並	細・少	細·少		3.8	1.2	1.2			両端欠損	
1224	47	包含層等		管状土錘	ナデ?マメツ	2.5Y7/2 灰黄色	良好	細·少				5.6	1.8		0.4		ほぽ完存	
1225	47	包含層等		管状土錘	ハケ?マメツ	N5/灰色	軟	細・少				6.4	4.3		1.7		欠損	瓦質
1226	47	包含層等		棒状土錘	ナデ・マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	細・並	細・少			6.6	1.6		0.35		欠損	
1227		包含層等		棒状土錘	ナデ	2.5Y7/3 浅黄色	良好	中・少				4.0	2.6	2.1	0.6		欠損	
1261		包含層等		棒状土錘	ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙色	良好	中・並				4.2	1.4	1.05	0.35		欠損	
1262	47	包含層等		棒状土錘	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	中・少				3.5	1.8	1.35	0.35		欠損	

第 55 表 土錘観察表

遺物	図版	遺構名	層位	種類	色調		焼成	胎土			計測値 (cm)					調整		残存率	Att: :12.
遺物番号			PET 11/2.		凸面	凹面	796774	石英・長石	角閃石	雲母	左周縁幅	文様区高	内区高	瓦当厚	その他	瓦当周縁	瓦当裏面	73.行-平 1用-5	加与
1243	47	包含層等		軒平瓦	5Y3/1 オリーブ黒色		瓦質 (良好)	中・並			0.95	2.7	1.7	1.85		ナデ	ナデ	破片	

第 56 表 軒平瓦観察表

遺物 番号	First Black	McAtt Zz	層位	種類	色	調	late e-P-	焼成 胎土				計測値	(cm)		調理	改	残存率	備考
番号	『物 図版 遺構名 音号 図版 遺構名		/BF15/.	俚粗	凸面 凹面		焼风	石英・長石	角閃石	雲母	現存長	幅	厚さ	その他	凸面	凹面	残仔半	加考
355	43	SK22		平瓦	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y7/2 灰黄色	やや軟	中・並					2.6		縄目タタキ	布目	破片	土師質
527	45	SK68		平瓦	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良好	粗・並					2.0		縄目タタキ	布目	破片	須恵質
528	45	SK68		平瓦	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	中·多					1.3		板ナデ	ナデ	破片	土師質
682		SD12		平瓦	5GY2/1 オリーブ黒色	5GY2/1 オリーブ黒色	良好	中・並					1.4		板ナデ	布目	破片	瓦質
870		SD38		平瓦	2.5Y7/4 灰黄色	10YR7/6 明黄褐色	やや軟	粗·並					1.9		タタキ?後板ナ デ	布目	破片	土師質
871		SD38		平瓦	2.5Y3/1 黒褐色	N4/ 灰色	良好	中·並					1.85		縦板ナデ	ナデ	破片	瓦質
872		SD38		平瓦	7.5Y5/1 灰色	10Y8/1 灰白色	軟	中・少					2.5		縄目タタキ・マ メツ	布目・マメツ	破片	須恵質
873		SD38		平瓦	2.5Y6/4 にぶい黄色	2.5Y6/6 明黄褐色	やや軟	粗·並					2.3		板ナデ	布目	破片	土師質
874	46	SD38		平瓦	N5/灰色	N6/ 灰色	やや軟	中・少					2.4		縄目タタキ	布目	破片	
875		SD38		丸瓦	5Y4/1 灰色	N4/ 灰色	やや軟	粗・少					1.5		マメツ	布目	破片	瓦質
1121	46	SD44		丸瓦	N5/ 灰色	N5/灰色	良好	粗・並					1.6		タタキ?後板ナ デ・ナデ	布目	破片	須恵質

第57表 平・丸瓦観察表

遺物	図版	遺構名	層位	器種	色調		胎土			計測値	備考		
番号	凶加	週悔名	層址	新俚		石英・長石	角閃石	雲母	現存長	最大幅	最大厚	木舞径	1開 号
180	42	SB06(SP534)		壁土	10YR7/6 明黄褐色	粗・多			8.5	8.5	4.6	1.3	紐痕あり
181		SB06(SP537)		壁土	10YR6/6 明黄褐色	粗・多			9.58	7.8	4.7	1.4	
182	42	SB06(SP476)		壁土	2.5Y7/4 浅黄色	粗·多			11.8	7.9	4.5	2.5	スサ多量
183	42	SB06(SP476)		壁土	2.5Y7/4 浅黄色	粗・多			11.8	11.9	11.5	2.3	紐痕あり
184	42	SB06(SP537)		壁土	10YR6/6 明黄褐色	粗・多			12.6	8.6	5.1	3.5	スサ多量
185	42	SB06(SP481)		壁土	10YR6/8 明黄褐色	粗・多			6.4	6.2	5.5	3.0	スサ多量

第 58 表 壁土観察表

遺物 番号	図版	遺構名	層位	器種		計測値	(cm · g)	材質	残存	備考		
番号	号 四版 题符句		PH IV.	加工生	現存長	現存長 最大幅 最大厚 その他 重量		重量	初貝	73/11	/m 15	
118	52	SR01	上層	石鏃	2.1	1.6	0.3			サヌカイト	完存	
119	52	SR01		打製石庖丁	5.8	3.5	0.6			珪質片岩	半折	
120	53	SR01		叩石	6.8	4.5	4.2			砂岩	完存	
172	52	SB06(SP482)		剥片	7.5	2.6	0.7			珪質片岩		
225	53	SB17(SP712)		砥石	7.6	3.1	1.8			流紋岩	上端欠損	
231	53	SB19(SP773)		砥石	11.8	8.8	3.0			砂岩	完存	被熱
284	53	SP638		台石	15.6	12.3	7.1			砂岩	破損	被熱
285	54	SP500		砥石	22.8	11.0	7.5			砂岩	ほぽ完存	
286		SP212		砥石	6.1	3.2	0.6			粘板岩?	完存	被熱
287	52	SP140		石鏃	2.2	1.6	0.35			サヌカイト	完存	

第59表 石器・石製品観察表(1)

營水中筋遺跡(香川県教育委員会 2017年)

遺物	図版	遺構名	層位	器種		計測値	(cm · g)		'	材質	残存	備考
番号	凶加	週得石	/HP 13/L	新生	現存長	最大幅	最大厚	その他	重量	利貝	73/17	1冊 45
288		SP497		剥片	1.4	2.4	0.5			チャート		
545		SK68		砥石	9.3	14.7	6.0			砂岩	破損	被熱
546	54	SK68		砥石	10.3	11.6	9.2			砂岩	破損	
547		SK68		砥石	9.0	7.1	6.7			砂岩	破損	被熱
606		SK72		石核	10.2	9.0	5.5			サヌカイト		
607		SK72		砥石	11.6	10.4	14.1			砂岩	破損	被熱
683	53	SD12		叩石	10.6	8.2	6.6			ランプロファイ ア	完存	
747		SD31		砥石	11.8	9.6	2.5			砂岩	破損	
748	54	SD31		砥石	14.2	10.6	6.1			砂岩	破損	被熱
762		SD36		石幢	15.5 (最大高)	27.2 (最大径)				角礫凝灰岩	一部欠損	
763		SD36		石幢	15.8 (最大高)	25.5 (最大径)				角礫凝灰岩	一部欠損	
876	52	SD38		石鏃	2.4	1.95	0.25			サヌカイト	完存	
877	52	SD38		石鏃	1.9	1.3	0.4			サヌカイト	一部折損	
878		SD38		砥石	7.2	6.0	4.0			砂岩	破片	
879	53	SD38		砥石	10.8		4.3		601.67	砂岩	下半折損	被熱
880	54	SD38		砥石	9.3	6.8	5.1			砂岩	破損	被熱
1004		SD39		火打石	2.65	1.6	1.4			チャート		
1005	53	SD39		砥石	8.8	5.3	2.4			砂岩	破片	被熱
1006	54	SD39		砥石	10.8	9.1	6.6			砂岩	破片	被熱
1007	54	SD39		砥石	10.2	9.6	6.2			砂岩	破片	
1046	52	SD42		石鏃	2.0	0.7	0.4			サヌカイト	折損	
1047	52	SD42		石核?	14.7	4.4	2.2			紅簾片岩		
1122		SD44		打製石庖丁	8.2	4.3	1.0			珪質片岩	破片	
1123	52	SD44		打製石庖丁	6.35	5.0	1.1		47.61	珪質片岩	砕片	
1124		SD44		火打石	7.6	5.6	4.6		205.66	石英	完存	
1125	54	SD44		砥石	9.2	11.3	9.9			砂岩	破片	被熱
1126		SD44		砥石	5.2	4.9	3.6			砂岩	破片	
1163		SX01		砥石	6.2	6.3	3.7			砂岩	破損	
1229	52	包含層等		石鏃	1.8	1.3	0.3			サヌカイト	先端折損	マメツ顕著
1230	52	包含層等		打製石包丁	3.9	3.5	0.9			サヌカイト	半折	
1231	53	包含層等		石鍋	4.4	4.2	1.7			滑石	破片	砥石転用か?
1242		包含層等		砥石	4.8	1.8	1.2			不明	上端折損	被熱

第60表 石器・石製品観察表(2)

報文		VII. 140. 6-				計測	則値(cm・g	g)			art ata	
番号	図版	遺構名	層位	器種	長径	短径	最大厚	孔径	重量	材質	残存	備考
122		SR01		有孔円盤	3.05	2.80	0.31	0.20		滑石	一部欠損	
123		SR01		有孔円盤	2.60	2.50	0.30	0.15		滑石	一部欠損	
124		SR01		有孔円盤?	1.33	0.72	0.27			滑石	破片	
125		SR01		白玉	0.40		0.22	0.15		滑石	完存	
126		SR01		白玉	0.45		0.25	0.16		滑石	完存	白色風化
127		SR01		白玉	0.39		0.09	0.16		滑石	完存	
128		SR01		白玉	0.36		0.11	0.15		滑石	完存	
129		SR01		白玉	0.40		0.13	0.15		滑石	完存	
130		SR01		白玉	0.37		0.14	0.14		滑石	完存	
131		SR01		白玉	0.41		0.18	0.15		滑石	完存	
132		SR01		白玉	0.39		0.18	0.16		滑石	完存	
133		SR01		白玉	0.38		0.16	0.11		滑石	完存	
134		SR01		白玉	0.40		0.25	0.15		滑石	完存	
135		SR01		臼玉	0.34		0.23	0.15		滑石	完存	
136		SR01		白玉	0.34		0.28	0.13		滑石	完存	
137		SR01		白玉	0.32		0.30	0.15		滑石	完存	
138		SR01		白玉	0.33		0.25	0.12		滑石	完存	
139		SR01		臼玉	0.42		0.30	0.15		滑石	完存	
140		SR01		白玉	0.47		0.22	0.16		滑石	完存	
141		SR01		白玉	0.47		0.31	0.12		滑石	完存	
142		SR01		白玉	0.43		0.35	0.15		滑石	完存	
143		SR01		白玉	0.46		0.34	0.15		滑石	完存	
144		SR01		臼玉	0.47		0.42	0.15		滑石	完存	
151		SB03(SP217)		白玉	0.35		0.28	0.10		滑石	完存	
152		SB03(SP217)		白玉	0.29		0.26	0.17		滑石	完存	
153		SB03(SP217)		白玉	0.38		0.20	0.10		滑石	完存	
154		SB03(SP217)		臼玉	0.38		0.29	0.15		滑石	完存	
155		SB03(SP217)		白玉	0.38		0.20	0.12		滑石	完存	
161		SB04(SP437)		有孔円盤	2.15	2.15	0.32	0.15		滑石	一部欠損	
375		SK44		白玉	0.41		0.31	0.15		滑石	完存	
376		SK44		白玉	0.45		0.19	0.14		滑石	完存	
377		SK44		臼玉	0.32		0.15	0.15		滑石	完存	
378		SK44		白玉	0.32		0.20	0.12		滑石	完存	
379		SK44		白玉	0.35		0.15	0.12		滑石	完存	
380		SK44		白玉	0.31		0.15	0.11		滑石	完存	
381		SK44		白玉	0.40		0.28	0.20		滑石	完存	
382		SK44		白玉	0.36		0.25	0.15		滑石	完存	
383		SK44		白玉	0.36		0.25	0.12		滑石	完存	
384		SK44		白玉	0.44		0.08	0.15		滑石	完存	
385		SK44		白玉	0.35		0.20	0.12		滑石	完存	
386		SK44		白玉	0.40		0.20	0.13		滑石	完存	

第61表 玉類観察表

ĺ	遺物番号	図版	遺構名	層位	器種		計測値 (cm)		樹種	木取り	残存	備考
- 1		因加	週1件石	/W IV.	66738	現存長	現存幅	最大厚				/m 15
- 1	632	51	ST01		曲物底板?	9.7	5.3	0.2	モミ属	板目	破片	

第62表 木製品観察表

遺物	図版	遺構名	層位	器種		計測値(cm·g)		材質	残存	備考
番号					現存長	最大幅	最大厚	重量		7戈什	湘杉
121	49	SR01	上層	鉄滓	7.2	5.2	2.8	97.94			
173	50	SB06(SP565)		鉄釘	4.5	0.8	0.6		鉄	下端折損	
174	50	SB06(SP476)		鉄釘	4.2	0.7	0.6		鉄	下端折損	
175	50	SB06(SP482)		鉄釘	5.0	0.9	0.7		鉄	下端折損	
176	50	SB06(SP481)		鉄釘	5.9	0.6	0.5		鉄	ほぼ完存	
177	50	SB06(SP287)		鉄釘	6.3	0.9	0.6		鉄	下端折損	
178		SB06(SP293)		鉄滓	3.1	2.7	2.1		鉄		
179	49	SB06 · SB07(SP302)		鉄滓	3.2	2.1	1.4	13.57	鉄		
197	50	SB08(SP525)		鉄釘	2.4	0.8	0.65		鉄	上下端折損	
198	50	SB08(SP297)		鉄釘	4.65	0.6	0.4		鉄	上下端折損	
199	50	SB08(SP524)		鉄釘	5.2	0.9	0.65		鉄	下端折損	
211	50	SB12(SP602)		不明	4.0	1.1	1.1		鉄	破片?	
289	50	SP507		鉄釘	3.0	0.9	0.6		鉄	下端折損	
290	50	SP594		鉄釘?	2.0	1.0	0.8		鉄	上下端折損	
291		SP236		鉄滓	3.6	2.7	1.7		鉄		
292	49	SP490		鉄滓	4.6	3.6	2.0		鉄		分析
293	49	SB08(SP248)		鉄滓	5.1	4.7	2.3		鉄		
294	49	SB08(SP248)		鉄滓	5.8	4.9	2.0	97.11			
295	49	SP544		鉄滓	7.7	5.0	2.6		鉄	1	n te
296	49	SP391		鉄滓	9.0	6.6	2.5	130.26	鉄	1	分析
330		SP668		鉄釘	4.2	0.4	0.4		鉄	上下端折損	+
331		SP687		鉄釘	6.6	1.0	0.4		鉄	ほぼ完存	
334		SK06		鉄滓	3.0	2.5	2.0		鉄		
356	50	SK22		鉄釘	4.3	1.1	0.7		鉄	下端折損	
357	51	SK22		鋤・鍬先	9.3	4.9	0.4		鉄	破片	
358	51	SK23		不明	2.65	1.8	1.0		鉄	破片	
372	51	SK34		不明	3.0	2.9	0.35		鉄	破片	
387	50	SK44		不明	1.4	1.15	0.4		鉄	下半折損	
392		SK48		鉄釘	2.4	0.7	0.4		鉄	上下端折損	
393	49	SK48		鉄滓	5.0	2.8	2.55		鉄		
403		SK66		鉄釘	2.9	1.4	0.5		鉄	下端折損	
410	50	SK56		鉄釘	5.3	0.6	0.6		鉄	上下端折損	
411	50	SK56		鉄釘	7.1	0.7	0.7		鉄	下端折損	
462	50	SK66		鉄釘	6.8	0.7	0.5		鉄	下端折損	
532		SK68		鉄釘	3.0	0.7	0.5		鉄	上下端折損	
533		SK68		鉄釘	2.7	0.9	0.5		鉄	上端折損	
534		SK68		鉄釘	2.1	0.6	0.3		鉄	下半折損	
535		SK68		鉄釘	2.2	0.4	0.3		鉄	上下端折損	
536		SK68		鉄釘	2.7	0.4	0.4		鉄	上下端折損	
537		SK68		鉄釘	3.2	0.4	0.4		鉄	上半折損	
538	50	SK68		鉄釘	4.2	0.55	0.6		鉄	下端折損	
539	50	SK68		鉄釘	4.5	0.5	0.5		鉄	下端折損	
540	50	SK68		鉄釘	5.5	0.7	0.6		鉄	下端折損	
541	50	SK68		鉄釘	5.8	0.8	0.7		鉄	下端折損	
542	50	SK68		鉄釘	7.2	0.7	0.55		鉄	上下端折損	
543	50	SK68		鉄釘	6.5	0.7	0.7		鉄	下端折損	
544		SK68		鉄滓	6.0	4.1	2.5	48.49	鉄		
608	50	SE01		鉄釘	4.6	0.5	0.4		鉄	頭部折損	
628	50	ST01		鎹	4.9	0.45	0.3		鉄	両端折損	2 本錆着
629	50	ST01		鎹	7.0	0.5	0.25		鉄	両端折損	
630	50	ST01		鉄鏃?	6.1	1.2	0.3		鉄	両端折損	
631	50	ST01		鎹	7.9	0.5	0.25		鉄	下端折損	
647	49	SD11		鉄滓	5.0	4.0	1.4		鉄		
691	49	SD14		鉄滓	9.2	6.0	3.2	154.71			椀形滓
719		SD29		鉄釘	3.8	1.2	0.5		鉄	両端折損	
760	49	SD32		鉄滓	9.9	7.4	2.6	215.36	鉄		分析
881		SD38		不明	3.6	0.6	0.3		鉄	上下端折損	
882		SD38		鉄釘	5.1	0.4	0.4		鉄	上下端折損	
883		SD38		不明	5.7	1.3	0.6		鉄	下端折損	径4mmの目釘孔穿孔
884		SD38		刀子?	3.3	1.1	0.3		鉄	破片	
885		SD38		容器蓋?	5.0	4.3	0.2		鉄	破片	径2mmの円孔穿孔
886		SD38		不明	2.5	2.5	0.6		鉄	破片	
887		SD38		不明	2.9	2.8	0.7		鉄	破片	
888		SD38		不明	2.8	0.8	0.6		鉄	端部折損	
889		SD38		刀子?	6.9	2.3	0.2		鉄	両端折損	
890	49	SD38		鉄滓	4.1	4.5	1.9		鉄		
1008	49	SD39		鉄滓	8.0	5.9	3.5	188.25	鉄	破片	椀形滓
.009	49	SD39		鉄滓	4.95	3.1	2.3		鉄		
010		SD39		鉄滓	2.9	2.9	1.6		鉄		
048		SD42		鉄滓	3.5	3.2	1.5		鉄		
049	49	SD42		鉄滓	10.3	7.6	2.9	277.79			椀形滓
127		SD44		刀子?	7.1	1.9	0.25		鉄	破片	
164	50	SX01		鑿?	5.7	1.1	0.5		鉄	上下端折損	
		包含層等		鉄釘	5.0	0.5	0.4		鉄	上下端折損	

第63表 金属器観察表

營水中筋遺跡(香川県教育委員会 2017年)

起士来早	ME	遺構名	層位	器種			計測値	(cm · g)	44 MF	残存	借·¥-		
報义番号	図版	退得有	PHY IN.		面径	内区径	紐径	緑高	紐高	重量	171 貝	73/11	VH 45
627	48	ST01		和鏡	11.3	7.7	1.3	0.8	0.6		銅	完形	紐に紐状の繊維残存

第64表 和鏡観察表

写真図版

図版 16 遺構写真



5区全景(東より)



5 区 SD10 · SD11 · SD12(南より)



5 区遺構検出状況 (南より)



7区全景(西より)



7区 SK08(東より)



7区 SK07 炭化物 出土状況(東より)

図版 18 遺構写真



7 区 SX01 土層断面 (西より)



6区全景(西より)



6区全景(南より)



6区全景(南より)



6区 SK12 遺物出土状況(北より)



6区 SK13 遺物出土状況(北より)

図版 20 遺構写真



6 区 SK15 遺物出土状況(東より)



6 区 SP068 遺物 出土状況(北東より)



6 区 SP090 遺物出土状況(西より)



9区全景(東より)



9区 SP187 遺物 出土状況(南西より)



9区 SD12 礫出土状況(南より)

図版 22 遺構写真



10区全景(東より)



10区全景(南より)



10 区 SP297 遺物出土状況(北より)



10区 SP256 遺物出土状況(南より)



10 区 SK46 全景 (南より)



10 区 SR01 臼玉出土状況(南より)

図版 24 遺構写真



8区1面全景(東より)



11区1面全景(東より)



8 区調査区南壁 土層断面(北西より)



11 区 SP340 遺物出土状況 (南より)



8 区 SP537 炭化物・焼土出土状況(南より)



8区 SP643 遺物出土状況(西より)



8区 SP588 遺物出土状況(南より)



11 区 SP518 遺物出土状況(東より)



11 区 SK60 全景(東より)



11 区 SK60 土層断面(南より)

図版 26 遺構写真



-266 -



左下: 同細部(西より) 右下: 同検出状況(東より)

図版 28 遺構写真











上左: 8区 SF02 全景(東より) 上右:同検出状況(西より) 中上:同土層断面(北東より)

中下:同細部(北より)

下: 同土層断面細部(西より)



8区 SK67 遺物出土状況(東より)



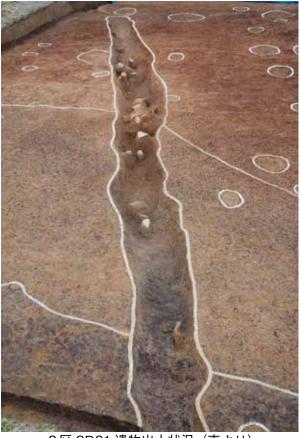
8区 SK67 全景(北より)



8区 SK65 遺物出土状況(北より)



8区 SD32 土層断面(北より)



8区 SD31 遺物出土状況(東より)

図版 30 遺構写真



3区全景(西より)



3区全景(南より)



3区遺構検出状況 (南より)



3区 SK71 全景 (南より)



3区 SK71 土層断面(南より)



3区 SK71 完掘状況(南より)



3区 SK71 掘り方断面(南より)



3区 SK71 石敷上面炭化物検出状況(南より)



3区 SK69 完掘状況(南より)



3区 SK69 検出状況(南より)

図版 32 遺構写真



3区SD36全景(西より)



3区SD36全景(東より)



3区 SD36 遺物出土状況(東より)



3区 SD39 ~ SD44 全景(西より)







3区 SD39・SD41・SD44 土層断面(西より)



3区 SD39 遺物出土状況(南より)



3区 SD42 肩部遺物出土状況(東より)

図版 34 遺構写真



1区全景(西より)



1区 SD49 遺物出土状況(南より)



1 区 SR01 土層断面(南より)



4区全景(東より)



4区 SP781 遺物出土状況(南より)



4区 SK81 土層断面(西より)

図版 36 遺構写真



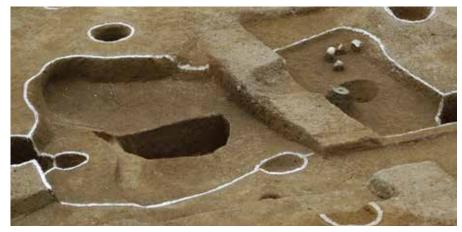
2区全景(北より)



2区全景(南より)



2区SX03全景(北より)



2区 ST01 全景(北より)



2区 ST01 検出状況 (北より)



2区 ST01 土層断面 (東より)



2区 ST01 副葬品 出土状況(西より)

図版 38 遺構写真



2区 SD68 遺物出土状況(西より)

2区 SE01 土層断面(東より)



遺跡遠景(南より)



東かがわ市立誉水小学校 児童の体験学習風景

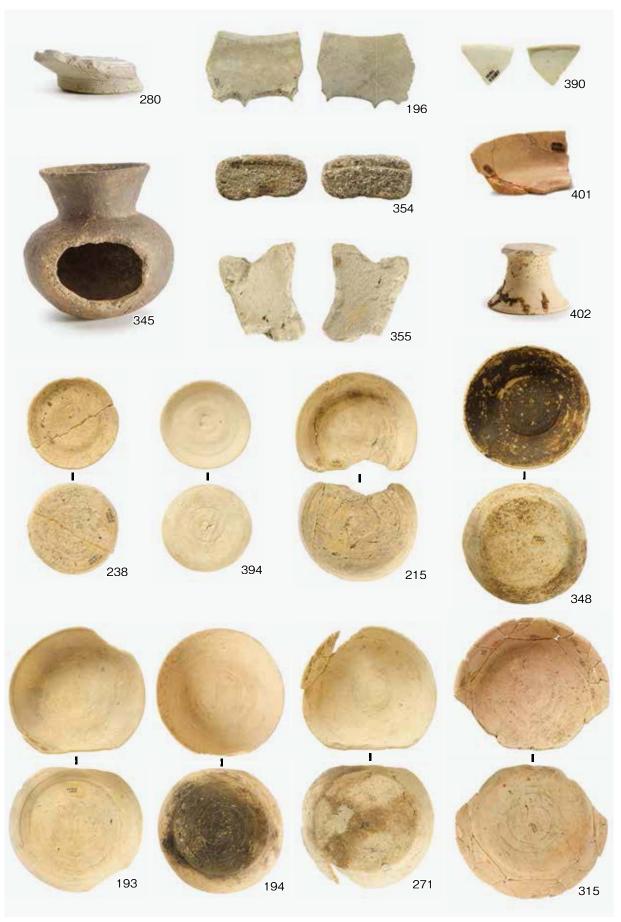


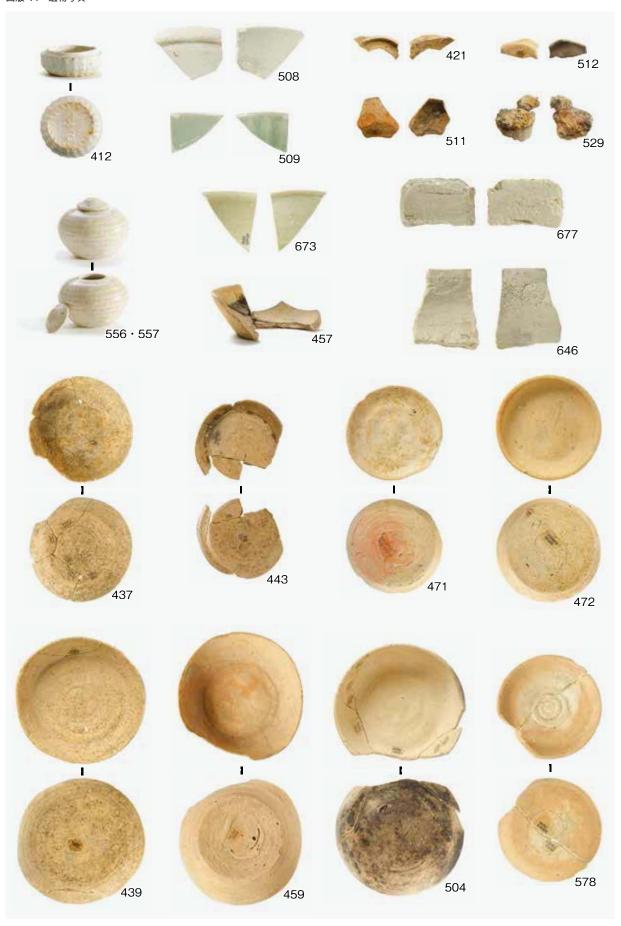
現地説明会風景









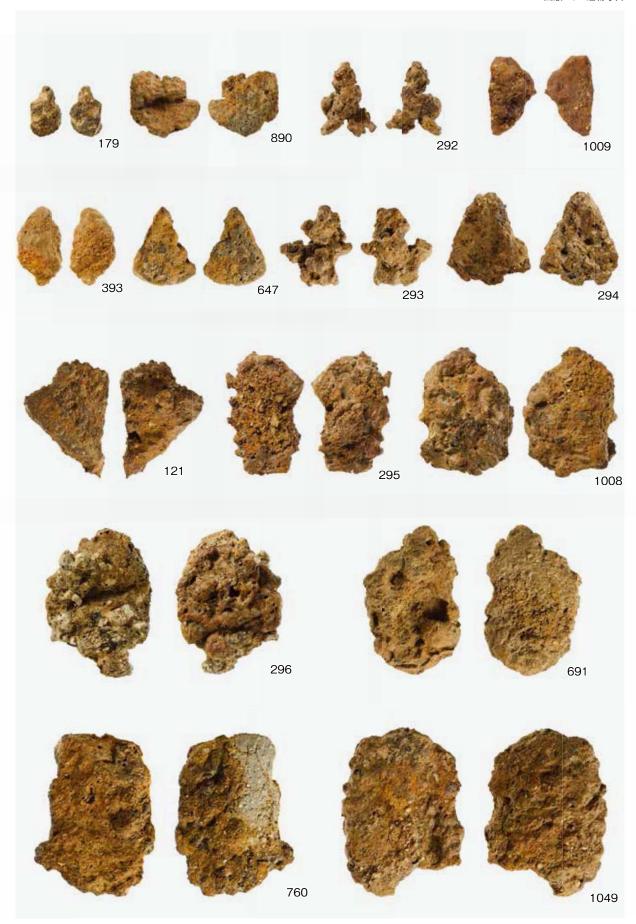




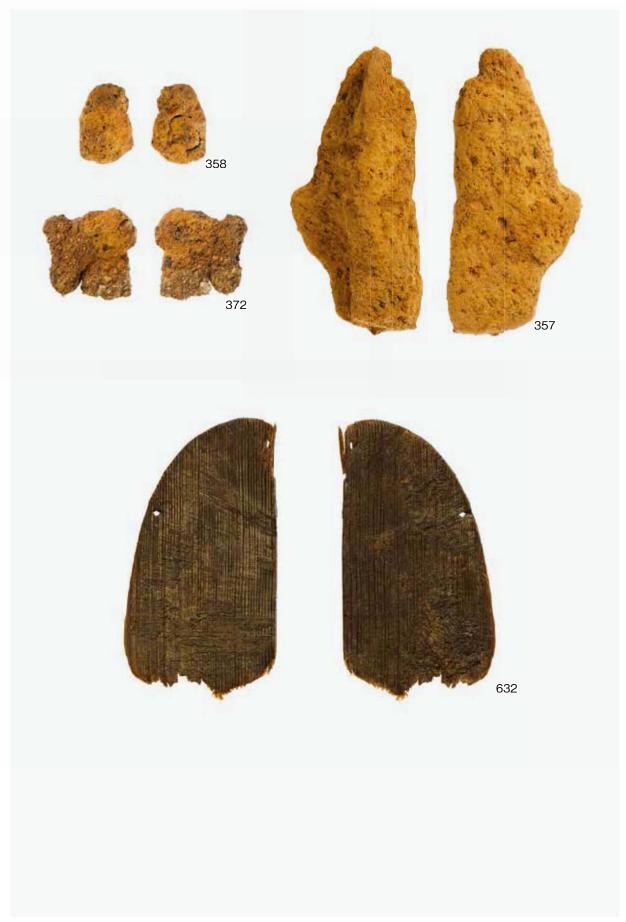


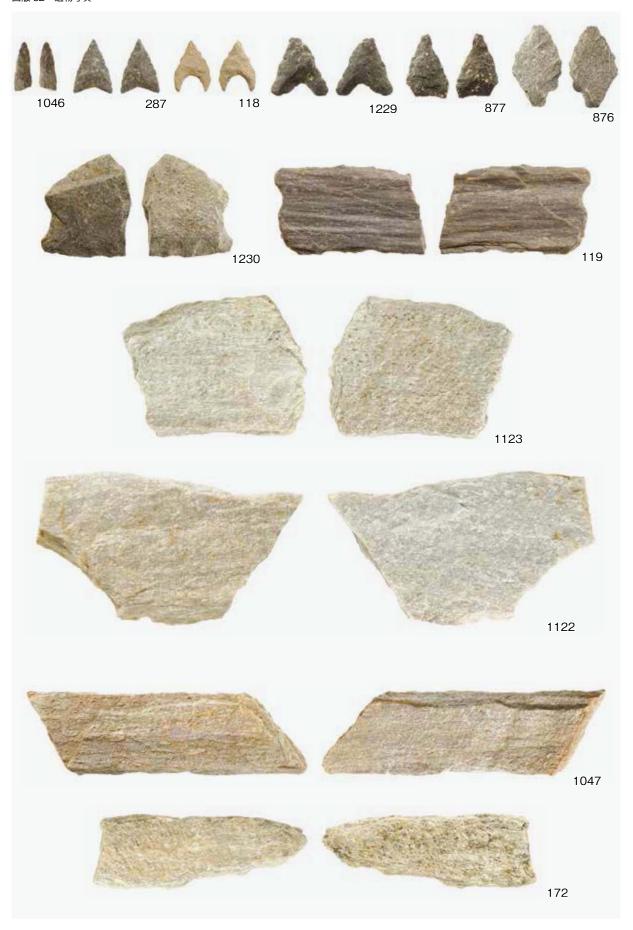


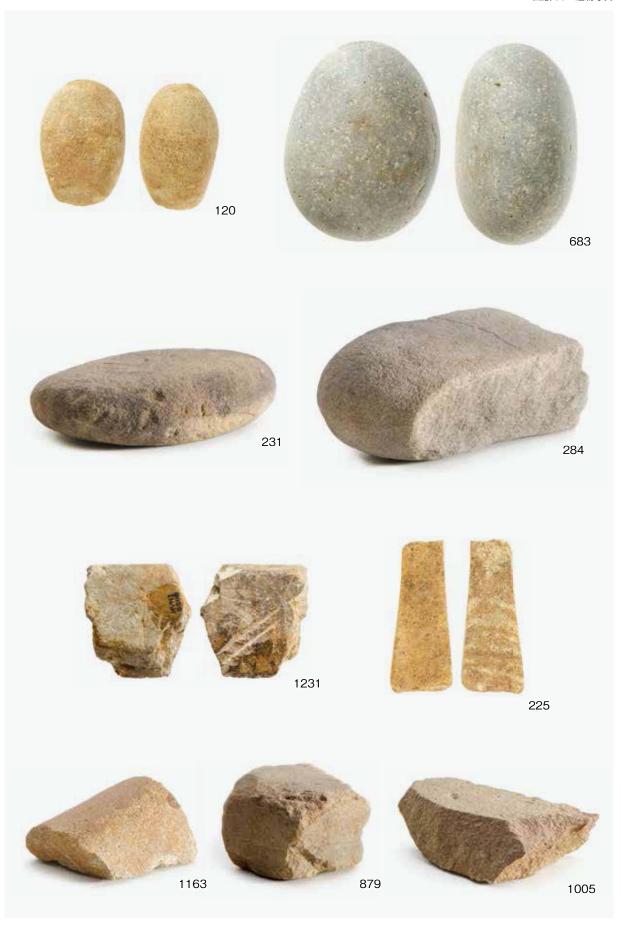














報告書抄録

ふりがな	よみずなかすじいせき											
書名	誉水中角	營水中筋遺跡										
副書名	国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告											
巻次	第2冊											
編著者名	蔵本晋司(編)、日鉄住金テクノロジー(株)、パリノ・サーヴェイ株式会社、平尾良光、株式会 社イビソク											
編集機関	香川県均	香川県埋蔵文化財センター										
所在地	〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 『EL. 0877-48-2191 Mail. maibun@pref.kagawa.lg.jp											
発行機関名	香川県	效育委員	会・国土交	通省四国地	也方整	備局						
発行年月日	2017 年	3月28日	1									
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	新 ²	がな生地	市町	-ド 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因			
メダザなかすじ 誉水中筋 いせき 遺跡	香り	^{bけん} 県 しなかすじ わ市中筋	37207		34° 24′ 49″	134° 32′ 45″	2008年9月1日~2009年3月31日	4,459m²	国道 11 号 大内白鳥バ イパス改築			
所収遺跡名	種別	主	な時代	主な遺	構		主な遺物	特記	事項			
營水中筋 遺跡	集落		弋/古墳時 弋/中世/	掘立柱建 土坑/土 /溝/自 川	壙墓	/須 器/ /灰	上器/弥生土器/石器 惠器/土師器/黒色土 上師質土器/緑釉陶器 油陶器/輸入磁器/滑 日玉/滑石製有孔円盤	中世屋敷墓かとともに和鏡	ら中国製磁器 1面が出土			
要約	I	12 世紀 墓や火化 の遺構る	から 14 世紀 と遺構と考	己にかけて えられる酸 。木棺墓か	継続し 終敷の いらは	ノた中 焼土り 、 中国	日河道より、滑石製有 世屋敷地では、多数の 亢、火葬塚の可能性の 国製磁器とともに和鏡	掘立柱建物と ある方形周溝	ともに、木棺 等の埋葬関係			

国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊

誉水中筋遺跡

2017年3月28日

編集 香川県埋蔵文化財センター

〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

Tel 0877-48-2191

E-Mail maibun@pref.kagawa.lg.jp

発行 香川県教育委員会・国土交通省四国地方整備局

印刷 ワールド印刷株式会社

